〈研究報告〉

Madhusūdana 著 Ācārārṇava
── 写本ならびに研究序説 ──

古 宇 田　亮　修

はじめに

インドにおける Dharmaśāstra の歴史において，11 世紀以降，後に Dharmanibandha と呼ばれるようになる，過去の Dharmaśāstra や Purāṇa を多数引用して再編集した文献が盛んに編纂されてきた。この Dharmanibandha の中でも，最も大部にして初期に属する文献である Lakṣmīdhara 著 Kṛtyakalpataru（12 世紀）については，1948 年以降，校訂 Text の出版が相次いでなされ[1]，時間はかかりつつも比較的順調に研究が進展してきたといえる。

しかし，筆者が先に公表した Gopāla 著 Kṛtyakāmadhenu の貝葉写本（[古宇田 2015, 2016]）の例を挙げるまでもなく，Dharmanibandha の一次資料については，今なお開拓の余地が大きい。筆者は，従来，サンスクリットに関する一次資料の収集を行なってきたが，その過程で入手したいくつかの写本類[2]のうち，紙写本としては比較的古い時代のもので，内容上も稀少性の高い Dharmanibandha 文献とみなされる当写本[3]のスキャン画像をここに公表し，インド文献史／宗教史の基盤構築に資することを意図するものである。

---

[1] ［Kṛtyakalpataru］，［Brick 2015］.

[2] 日本の古書店より入手した Kṛtyakāmadhenu は別として，当写本を含む筆者保有の写本類の大半は，Rajasthan 州 Jaipur 県より入手したものである.

[3] ［NCC.］や，Dharmaśāstra に関する最も網羅的な研究である［Kane HDh.］にも，Ācārārṇava の存在は言及されていない.

１．写本の材質，厚さ，大きさ，重量

当写本の材質は，紙である。葉数は全 86 葉であり，第 2 葉から第 87 葉までの葉番号がふられているので，冒頭の 1 葉を欠く。1 葉の厚さは，約 0.24mm である[4]。各葉は，2 枚の紙を貼り合わせて作成されているため，通常の紙写本より厚くなり，その結果耐久性も向上しているものと考えられる。

写本の大きさ（最大値）は，縦幅 10.5cm，横幅 26.1cm，積み上げた高さ約 2.3cm である。

また，本文 86 葉の重さは 332.5g であり，1 葉平均約 3.87g であった．

２．奥書と写本の年代・書写地

まず最初に，第 49 葉 3 行目の途中から書かれている奥書部分の翻刻，復元テクストならびに試訳を以下に記しておく。

〈凡　例〉

１．( )　　不明瞭な akṣara／akṣara 部分

２．+　　破損・摩滅した 1 akṣara

３．{{　}}　写本において削除されている akṣara／akṣara 部分

４．=　　１つの akṣara を語の区切りで分割する記号（複合語を除く）

５．（復元において）写本の読みを変更した箇所は，イタリックで示した．

６．（復元において）韻文部分は，字下げで示した．

７．（復元において）Sandhi の訂正や不要な子音の削除については，断らずに行なった[5]（翻刻併記のため）．

８．**(87v.10)** は，写本の「87 葉目，裏，10 行目」を意味する（r.: recto; v.: verso）．以下，行の変わり目では，括弧内の数字で示した．

〈翻　刻〉

(87v.10) ~ // iti dharmadharasarvvajñānujopādhyā**(11)**sūryadāsābhyāṃ saha

[4] 奥書のある最終葉における任意の 20 ヶ所を計測した平均値．

[5] 但し，本稿では，写本の表記をできるだけ生かしており，Sandhi の統一は図っていない．

madhusūdanaviracite tpācārārṇave paṃcamas=taraṃgaḥ samāptāḥ // // śubham astu sarvvajagataḥ // // saṃvat 1557 samaye (ā)**(12)**ṣāḍha vadi 5 bhaume dhamanāgrāme avasthītārāpatitasyātmajasuputradhaneśvaralikhitam idaṃ pustakaṃ // yādṛśaṃ pustakaṃ (dṛ) + **(13)** tādṛśaṃ likhitaṃ mayā / yaṃ yadi śuddham=aśuddhaṃ vā mama doṣo na dīyate // // kauśalyānayanenduṃ (rśa) daśarathahṛdayāraviṃdam=ā(tma)+**(14)**sītāmānasahaṃsaṃ rāmarājīva-locanaṃ vande // //

〈復元テクスト〉

~ iti dharmadharasarvajñānujopādhyāsūryadāsābhyāṃ saha madhusūdana-viracite[6] *ā*cārārṇave[7] pañcamas taraṃgaḥ samāptāḥ.

śubham astu sarvajagataḥ.

saṃvat 1557 samaye āṣāḍha vadi 5 bhaume dhamanāgrāme avasthītārā-patitasyātmajasuputradhaneśvaralikhitam idaṃ pustakam.

yādṛśaṃ pustakaṃ dṛ*ṣṭvā* tādṛśaṃ likhitaṃ mayā,

yadi śuddham aśuddhaṃ vā mama doṣo na dīyate.

kauśalyānayanenduṃ *ca*[8] daśarathahṛdayāravindam ātma*jaṃ*[9] sītāmānasa-haṃsaṃ rāmaṃ rājīvalocanaṃ vande.

〈試　訳〉

「以上で，正法（ダルマ）を保持するサルヴァジニャーヌジャ[10]・ウパーディヤー[11]と

---

[6] Skt の Sandhi 規則によれば，次に ā が来るため，˚viracita が正規形であるが，ここでは写本の伝承を生かした（8v.10, 24v.1, 39v.13, 76v.8, 87v.11 を参照）.

[7] 次節を参照.

[8] (rśa) Ms.は，文と文をつなぐ ca の誤写とみなした.

[9] ā(tma)+ Ms.からの再建.

[10]「一切知者の弟」の意. Skt. ‘jñā’のカナ表記については,「ジ」の小文字を用いて「ジニャー」と表記し，注意を促した．本来の日本語にはない表記であるが，「ジュニャー」と表記した場合に原語からあまりに離れて発音されてしまう可能性を憂慮したためである.

[11] upādhyā-は，語源上は upādhyāya-「教師，和尚」に由来する語であるが，ここでは固有名詞の一部に解した．upādhyā-という語形は，PW にも登録されていないが，当写本では，３回（24r.13, 39v.13, 87v.10）現れている．この語形を考える際には，Pāli 文献に，upajjhā-, upajjhāya-という語形が併存していることも何らかのヒントになるものと考えられる.

スーリヤダーサ[12]という両者と共に，マドゥスーダナが作った『行儀の海（アーチャーラ・アルナヴァ）』における，第五の章（タランガ）が完結した。

一切の生き物に栄光あれ。

1557 年，アーシャーダ月，黒分，５日目，火曜，ダマナー村において，アヴァスティー・ターラーパティタ[13]の息子であるスプトラ・ダネーシュヴァラ[14]によってこの本は書かれた。

私は，［元］本を見たままに書写した．たとえ［この本が］正しかろうとも，あるいは誤っていようとも，私に過失は帰せられない．

カウシャリヤー后[15]の目にとっての月であり，ダシャラタ王[16]の心臓（こころ）の蓮華（アラヴィンダ）にして息子であり，シーター姫にとってマーナサ湖《心》の白鳥（ハンサ）である，青蓮華（ラージーヴァ）の眼をもつラーマに敬礼する。

このうち，書写完成日とされる「1557 年，アーシャーダ月，黒分，５日目，火曜」は西暦のいずれに相当するであろうか。当写本はその書体からも西北インドの写本[17]と判断できるので，暦は Vikrama 暦で記載されている可能性が高いもの[18]と推定される。矢野道雄・伏見誠両氏の作成された Pancanga (version 3.14)[19]

---

[12]「太陽の僕」の意．

[13] avasthī-が固有名詞の一部であることは，髙橋健二氏（京都大学大学院）より御教示いただいた（第８回ヴェーダ文献研究会，2017 年 3 月 12 日）．ここに記して謝意を表するものである．尚，*World Heritage Encyclopedia*（http://self.gutenberg.org/articles/awasthi）によれば，awasthi は，北インドと西ネパールに分布するバラモン階級のあるサブ・カーストの名字であるとされる（2017 年 3 月 13 日閲覧）．尚，tārāpatita-は，「星から落ちた者」の意．

[14] ātmaja-「息子」と suputra-「良い息子」に意味の重複があるため，suputra-を固有名詞に解した．dhaneśvara-は「財産の自在者」の意．

[15] Daśaratha の 3 人の妻の一人で，Rāma の母．

[16] Rāma の父．

[17] 当写本は，Rajasthan 州 Jaipur 県より入手したため，その近辺で書写された可能性が高いものと推測される．ただし，それ以外の可能性も排除できない．

[18] 管見の限りでは，Jaipur 周辺の紙写本の暦表記は，Vikrama 暦のみか Vikrama 暦・Śaka 暦併記のいずれかであることが多い．Śaka 暦のみが記されている紙写本も稀にあるが，その場合は，「śake ～」と記載されていたと記憶する．すなわち，Jaipur 周辺の紙写本において単に「saṃvat ～」とあった場合，Vikrama 暦で記されている可能性が高い．

[19] https://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~yanom/pancanga/

を用いて，「Vikrama 暦・満年・Caitra 月始まり・満月終わり」の条件[20]で西暦に換算すると「西暦 1500 年 6 月 16 日，火曜」に相当することになる。

他方，「1557 年，アーシャーダ月，黒分，５日目，火曜」が Śaka 暦で記載されていたとすると，同じく Pancanga を用いることにより，「グレゴリオ暦 1635 年 6 月 5 日（ユリウス暦 1635 年 5 月 26 日），火曜」に相当することが解る[21]。

次に，当写本の書体から年代を推定したい。筆者は，「Vikrama 暦 1727 年，Śaka 暦 1592 年，パウシャ月，白分，1 日目，土曜」の奥書を有する Dharmaśāstra 系の写本（Bhaṭṭācārya 著 Aśaucatriṃśatślokī-bhāṣya[22]）を有しているので，その奥書部分を次頁に掲載する。上記の暦を Pancanga で調べると，「満年・Caitra 月始まり・満月終わり」の条件で，「グレゴリオ暦 1670 年 12 月 13 日（ユリウス暦 1670 年 12 月 3 日），土曜」に当たる。この Aśaucatriṃśatślokī-bhāṣya の書体は，Ācārārṇava 写本よりもさらに現代の Devanāgarī に近づいている様子が見てとれるであろう。また，Ācārārṇava 写本においては，ba の akṣara が特徴的（ma の四角形の中に点を有する形[23]）であり，その特徴が Triṃśatślokī-bhāṣya には見られない。さらに，Ācārārṇava 写本においては，ra の akṣara も特徴的である。これらの書体の差は，Ācārārṇava 写本と Aśaucatriṃśatślokī-bhāṣya 写本との年代差が 35 年ではなく，170 年であることを示唆しているものと考えられる[24]。

---

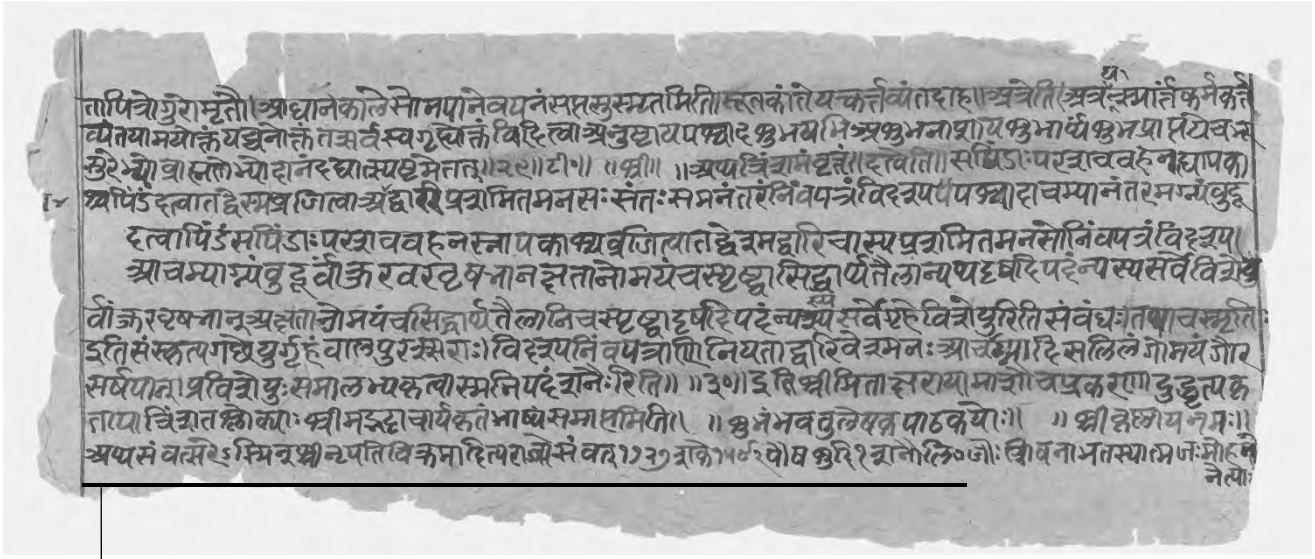
[20] 経度・緯度は Jaipur で換算した.

[21] 堀伸一郎氏（国際仏教学大学院大学附置国際仏教学研究所副所長）より御教示を得た. 同氏による種々の御教示に感謝の意を表したい.

[22] これは，Vijñāneśvara 著 Mitākṣarā（Yājñavalkyasmṛti の註釈）: Aścaucaprakaraṇa からの抜粋とそれに対する註釈で，同じく Jaipur 県より入手した．14 folio から成る.

[23] この文字については, Śatapathabrāhmaṇa の 1 写本（Lalchand Research Library, DAV College, Chandigarh, No. 116. http://www.dav.splrarebooks.com/collection/view/Shatapatha brahmanam-Kanda-13-1-3-Prapathaka）と比較されたい（2017 年 2 月 13 日閲覧）．この写本には書写年がないが，Ācārārṇava 写本より古風な書体に見える.

[24] 因みに, saṃvat 1664（おそらく Vikrama 暦）の奥書をもつ, Āgastyasaṃhitā 写本（Lalchand Research Library, DAV College, Chandigarh, No. 1694）も Internet で閲覧可能であるので比較されたい（http://www.dav.splrarebooks.com/collection/view/Agastyasamhita-Pancharatram）. 尚, この Web ページのデータでは，Creation date が 1564 V. S.となっているが，写本の読み誤りである（2017 年 2 月 13 日閲覧）.



Bhaṭṭācārya 著 Aśaucatriṃśatślokī-bhāṣya: folio 14 recto.（個人蔵）

atha saṃvatsare 'smin śrīnṛpativikramādityarājye saṃvat 1727 śake 1592 pauṣa śudi 1 śanau li˚

次に，Ācārārṇava 写本の奥書に記される「ダマナー村（dhamanāgrāma-）」とは，現代インドの何処に相当するのであろうか。これについても，堀伸一郎氏より御教示を頂戴したが，水島司氏（東京大学大学院人文社会系研究科教授）の作成になる Indian Place Finder[25]を用いて dhamana を検索すると，全インドで 12 件，Rajasthan 州で３件がヒットする．Rajasthan 州に存在する３件のうち，Jaipur 県の Dudu 地区というところに，Dhamana という名の村が存在する（北緯 26.644492 度，東経 75.404861 度）．この村は，2011 年の国勢調査によれば，人口 1,875 人である[26]．その他２件は，Chittaurgarh 県の Kapasan 地区と，Jalor 県の Sanchore 地区の村である（それぞれ人口 3,102 人[27]，3,854 人[28]）．ただし，書写地については，現時点ではこれ以上限定する手段を持ち合わせていないため，候補地を指摘するにとどめたい。

３．写本の題名について

当写本は，５つの章（taraṃga-）より成るため，各章の末尾に題名が記載されている。以下に，第５章の奥書は上に記したので，ここでは第１～４章の末尾にある章題部分の翻刻と試訳を記す。

第１章末尾(8v.10)：~ // iti śrīmadhusūdanaviracite tpācārārṇave deśāntaranirūpanādyācamanāntaṃ prathamas=taraṃgaḥ // ~

「以上が，聖マドゥスーダナが作った『行儀の海』における〈他地域の考察〉に始まり〈嗽（くちすす）ぎ〉に終わる第１の章である。」

第２章末尾(24r.13)：~ // ity u(24v.1)pādhyāsūryadāsadharmadharābhyāṃ sahitamadhusūdanaviracite ācārārṇave brahmacaryā{{jñā}}khyo dvitīyas=taraṃgaḥ // ~

「以上が，ウパーディヤーとスーリヤダーサという正法（ダルマ）を保持する両者と共にマドゥスーダナが作った『行儀の海』における〈勉学（ブラフマチャリヤー）〉という名の第

[25] http://india.csis.u-tokyo.ac.jp/（2016 年 10 月 10 日閲覧）.
[26] http://www.census2011.co.in/data/village/79843-dhamana-rajasthan.html（閲覧日同上）.
[27] http://www.census2011.co.in/data/village/100877-dhamana-rajasthan.html（閲覧日同上）.
[28] http://www.census2011.co.in/data/village/89702-dhamana-rajasthan.html（閲覧日同上）.

２の章である。」

第３章末尾(39v.13)：~ // iti dharmadharasarvvajñānujopādhyāsūryadāsābhyāṃ saha madhusūdanaviracite tpācārṇave gṛhasthākhyatṛtī(40r.1)yas=taraṃgaḥ // ~

「以上が，正法（ダルマ）を保持するサルヴァジニャーヌジャ・ウパーディヤーとスーリヤダーサという両者と共にマドゥスーダナが作った『行儀の海』における〈家長（グリハスタ）〉という名の第３の章である。」

第４章末尾(76v.8)：~ // iti dharmadharābhyāṃ sahitama(9)dhusūdanaviracite tpācārārṇave caturtthas=taraṃgaḥ // ~

「以上が，正法（ダルマ）を保持する両者と共にマドゥスーダナが作った『行儀の海』における第４の章である。」

この４例と，上に含めた第５章も含めれば，当写本の題名として，tpācārārṇava-が４回，ācārārṇava-が１回記されていることになる。tpācārārṇava-は，Skt.としては不可能な語形であるから，tpā は何らかの文字の誤記とみなされよう。Skt.として，文法的に可能かつ似た文字の候補としては，ā の他に，①tryā と②tyā が想定される。

①tryā→tpā の誤記を想定すると，元の語形は*tryācārārṇava-ということになる。「三つの行儀の海」とでも訳せるものであるが，tryācāra-「三つの行儀」という複合語が何を意味しているかは不明である。ācāra-の数は，実際，三つどころか膨大なものであるからこそ，arṇava-「海」という語が使われていると考えれば，*tryācārārṇava-は，題名としては不適切であろう。

次に②tyā→tpā の誤記を想定すると，*atyācārārṇava-という語の冒頭の a が Sandhi 規則により Avagraha となり（前に e が存在する為），その Avagraha が写本には記されなかった形と考えることも語形としては可能である。しかしながら，そう考えた場合の atyācāra-「過ぎた行儀，慇懃無礼」という語自体も主題として不自然である。

上記のことから，tpācārārṇava-という写本の表記は，ācārārṇava-という表記の（伝承段階で生じた）誤写とみなすべきであろう。筆者の推測が正しいとすれば，

この例を見ただけでも，当写本の筆記者がいかに内容を把握せずに書写しているかが解るであろう。

４．ācāra の意味

ācāra-という単語は，歴史的には，二大叙事詩（Mahābhārata, Rāmāyaṇa），Dharmasūtra，Manusmṛti において頻繁に使われるようになった語である。その代表的な用例として，ここでは，Manusmṛti 1. 108-109[29]を挙げておこう。

1. 108. ācāraḥ paramo dharmaḥ śrutyuktaḥ smārta eva ca,
tasmād asmin sadā yukto nityaṃ syād ātmavān dvijaḥ.

1. 109. ācārād vicyuto vipro na vedaphalam aśnute,
ācāreṇa tu saṃyuktaḥ saṃpūrṇaphalabhāk smṛtaḥ.

「天啓聖典（シュルティ）に説かれ，そしてまさに伝承聖典（スムリティ）に説かれた行儀（アーチャーラ）は最高の正法（ダルマ）である。それゆえ，自己を保持する再生者（ドヴィジャ）は，常に変わらずこれに専念すべきである。

行儀から堕落したバラモン（ヴィプラ）は，ヴェーダの果実を食べることはない。しかし，行儀に専念する者は，完熟した果実に与（あずか）ると伝承されている。」

このように，最高の dharma であると説かれる ācāra-は，「行儀（etiquette[30]），模範的行動，正しい振舞い方（proper conduct[31]）」の意味で用いられているので，ここではそのうち最も簡潔な「行儀」という訳語を採用した[32]。

---

[29] Text は，［Olivelle 2005］所収の Devanagari 版に従う．

[30] ［Bist 2004: 1］.

[31] ［Olivelle 1995: 126］.

[32] ācāra-は，Manusmṛti の和訳者によって「慣習法」（中野義照），「作法」（田辺繁子），「良俗」（渡瀬信之）と訳されている．［井狩弥介・渡瀬信之 2002］は，Yājñavalkyasmṛti の翻訳・解説において「行動の準則」，「よき作法」，「正しい行為」等と訳している．また，［Olivelle 2015: s.v. ācāra］では，“proper and normative practice constituting one of the sources of dharma”と解説する．

５．著者 Madhusūdana について

Ācārārṇava の著者 Madhusūdana について，現段階で判明していることは少ないが，以下に箇条書きで整理しておく。

① 奥書によれば，当写本の書写年は西暦 1500 年であるので，Ācārārṇava の執筆年の下限は，1500 年である。次に，年代の上限についてみると，本書引用中の文献により，ある程度の範囲に限定されよう。本書に３回[33]引用されている Hariharabhāṣya (ad Pāraskaragṛhyasūtra)の著者 Harihara は，［Kane HDh. I-2: 735-737］によると，1150～1250 年の間に活躍したとみなされている。また，本書に３回[34]引用されている Smṛtyarthasāra は，［Kane HDh. I-2: 727］によると，1150～1200 年の成立とされる。これらの事実から，当面の間，Ācārārṇava の執筆年の上限は 1150 年，下限は 1500 年に設定しておくのが穏当であろう[35]。

② 奥書によれば，Madhusūdana は，正法（ダルマ）の保持者である Sarvajñānujopādhyā と Sūryadāsa という両者と共に本書を執筆したとされる。両者は，Madhusūdana の教師にあたる人物であったと想像されるが，それ以外に現時点で判明している事実はない。

③ Viṣṇu/Kṛṣṇa の呼称である‘Madhusūdana’〈Madhu の殺戮者〉という固有名詞は，インドでは極めて一般的である。そのため，他文献の著者として多数の Madhusūdana が知られている[36]が，それら全てが当写本の Madhusūdana とは別人である可能性も考慮すべきである。

---

[33] 10r.7; 53v.10; 56r.4.

[34] 35v.12; 36r.14; 55v.1.

[35] 本書には，Ācāratilaka，Uddharaṇapaddhati，Divākarāhnikamata，Smṛtilīlā 等といった年代不詳の文献が引用されている．今後，それらの年代が確定されることで，上限がさらに限定されることが期待される．

[36] ［NCC. vol.18: 143-144］．［Kane HDh. I-2: 1202］には，Śrāddhadarpaṇa という著作を書いた Madhusūdana の存在も言及されるが，その詳細は述べられておらず，当写本の Madhusūdana との関係も現時点では不明である．

６．Ācārārṇava における引用・固有名詞索引（登場順）

Dharmanibandha とは，日本語で「(ダルマに関する）綱要書」とも訳されるように，主題に合せて過去の Dharmaśāstra や Purāṇa を多数引用し――場合によっては著者の註釈等を付加して――再編集した文献である。現時点では Ācārārṇava における引用の一々についての同定も完了していないが，今後の便宜のために，引用書の書名や著者名といった固有名詞類を写本の登場順に一覧表として次頁以降に掲げておくことにする。

Dharmanibandha には, Gopāla 著 Kṛtyakāmadhenu のように, 過去の Dharmaśāstra や Purāṇa の引用のみから成り，著者／編者のコメントがほとんど含まれないものもあるが，当写本は，他書の引用にくわえ，それに対する註釈が含まれている。但し，この註釈が著者／編者の独自性を有するものか，あるいは過去の註釈から抜粋したにすぎないものか, はたまたその中間的な性格のものなのか, 種々の可能性が考えられるが，現時点では不明である。

さらに，本書に引用される Mantra についても，今後，その出典を明らかにする作業を行なうべきであろう。

尚，聖仙の名前の前に Vṛddha-「古い，年上の」や Bṛhat-「長大な」が付されて言及される場合がある。[Monier s.v. vṛddha-] は,「その作品のより古い版に言及する場合に使われる」と述べる。確かに現存の Manusmṛti に存在しない文章が，Vṛddhamanu[37]の名で言及されることはあるが，その Vṛddhamanu が現存の Manusmṛti より古い起源をもつ証拠はない。[Lingat 1973: 106] によれば，９世紀初頭の註釈者 Viśvarūpa も，Vṛddhamanu, Vṛddhayājñavalkya に言及しているので，その当時には確かにそのような名の文献が存在していたのであろう。しかし，[Kane HDh. I-1: 349] が述べるように，Vṛddhamanu（67v.1）や Bṛhanmanu（77v.14），Vṛddhayājñavalkya（78r.9）という名で言及される文献の成立は，それぞれ Manusmṛti 本体や Yājñavalkyasmṛti 本体の成立より新しい時代に属すると考えるほうが妥当であろう。

---

[37] 本書や Kṛtyakāmadhenu のような Dharmanibandha では, smṛti で終わる書名を指す際に，smṛti は省略される．すなわち，本書で Viṣṇuḥ（nom.形）と書かれている場合，Viṣṇusmṛti を指す．他方，Viṣṇupurāṇa を指す場合は省略されず，かつ loc.形で現れる．

2r.1 Matsyapurāṇa
2r.12 Manu
2v.2 śruti
2v.4 Ratnamālā
2v.6 Gautama
2v.7 Vasiṣṭha
2v.8 Manu
2v.11 Pariśiṣṭa
3r.1 Saṃgrahakāra
3r.2 Devala
3r.6 Manu
3v.1 Yājñavalkya
3v.1 Manu
3v.4 Āpastamba
3v.4 Vāyupurāṇa
3v.5 Kātyāyana
3v.6 Yājñavalkya
3v.7 Brahmapurāṇa
3v.8 Manu
3v.12 Vasiṣṭha
4r.3 Manu
4r.5 Śātātapa
4r.6 Bṛhaspati
4r.8 Jamadagni
4r.10 Manu
4r.10 Gautama
4v.1 Yājñavalkya
4v.3 Manu
4v.5 Yajñavalkya
4v.6 Manu
4v.10 Āpastamba
4v.11 Yājñavalkya
4v.12 Vyāsa
5r.3 Yājñavalkya
5r.3 śruti
5r.4 Vasiṣṭha
5r.5 Manu
5r.6 Hārīta
5r.6 Yājñavalkya
5r.7 Manu
5r.8 Yājñavalkya
5r.9 smṛtyantara
5r.12 Manu
5r.13 Yājñavalkya
5v.5 Manu
5v.6 Viṣṇupurāṇa
5v.8 Pitāmaha
5v.9 Viṣṇu
5v.10 Aṅgiras
5v.13 Yājñavalkya
6r.1 Yama
6r.2 Devala
6r.3 Manu
6r.8 Viṣṇupurāṇa
6r.8 Bṛhaspati
6r.9 Hārīta
6r.10 Govindāhnika
6r.13 Pracetas
6v.1 Āpastamba
6v.1 Bharadvāja
(*Read* Bhāradvāja)
6v.2 Yamanajātaka
(*Read* Yavanajātaka)
6v.3 Yājñavalkya
6v.3 Dakṣa
6v.6 Śātātapa
6v.7 Viṣṇupurāṇa
6v.8 Viṣṇu
6v.10 Dakṣa
6v.10 Viṣṇupurāṇa
6v.12 Ādityapurāṇa
6v.13 Dakṣa
7r.1 Ādityapurāṇa
7r.2 Devala
7r.4 Manu
7r.7 Manu
7r.8 Baudhāyana
7r.9 Pārijāta
7r.11 Vṛddhaparāśara
7r.12 Pracetas
7r.12 Parāśara
7v.1 Āpastamba
7v.2 Yogīśvara
7v.3 Manu
7v.4 Dakṣa
7v.5 Bhāradvāja
7v.6 Dakṣa
7v.7 Yājñavalkya
7v.8 Paiṭhīnasi
7v.9 Yājñavalkya
7v.10 Mārkaṇḍeya
7v.11 Hārīta
7v.13 Hārīta
7v.13 Kātyāyana
8r.1 Mārkaṇḍeya
8r.2 Hārīta

8r.2 Govindāhnika
8r.3 Yama
8r.6 Yājñavalkya
8r.7 Baudhāyana
8r.8 Aṅgiras
8r.9 Bṛhaspati
8r.11 Sākhyāyana
(*Read* Śāṅkhāyana)
8r.13 Baudhāyana
8v.1 Āpastamba
8v.2 Viṣṇu
8v.3 Devala
8v.5 Pārijāta
8v.7 Sāṃkhyāyana
(*Read* Śāṅkhāyana)
8v.9 Viṣṇu
8v.13 Viṣṇu
8v.13 Kūrmapurāṇa
9r.1 Kātyāyana
9r.2 Viṣṇu
9r.3 Viṣṇu
9r.4 Garga
9r.5 Mārkaṇḍeya
9r.6 Kātyāyana
9r.6 Mahābhārata
9r.8 Yama
9r.9 Nārada
9r.11 Śaka
(*Read* Śaṅkha?)
9v.2 Kātyāyana
9v.6 Marīci
9v.7 Yājñavalkya
9v.8 Vārāhapurāṇa
(*Read* Varāhapurāṇa)
9v.9 Vyāsa
9v.10 Mārkaṇḍeya
9v.11 Yogīśvara
(= Yājñavalkya)
9v.12 Yogayājñavalkya
9v.13 Yājñavalkya
10r.1 Smṛtisaṃgraha
10r.1 Śaṅkha
10r.2 Kātyāyana
10r.7 Hariharabhāṣya
10r.11 Kāṇva
10r.12 Padmapurāṇa
10r.12 Parāśara
10r.14 Manu
10v.3 Manu
10v.6 Yājñavalkya
10v.10 Bhaviṣyapurāṇa
10v.11 Viṣṇupurāṇa
10v.12 Brahmapurāṇa
10v.13 Dakṣa
11r.2 Śaṅkha
11r.7 Yogayājñavalkya
11r.11 Yogayājñavalkya
11v.5 Jābāli
11v.6 Viṣṇu
11v.9 Matsyapurāṇādi
11v.10 Vāmanapurāṇa
11v.12 Govindāhnika
11v.13 Ācāratilaka
12r.1 Mārkaṇḍeya
12r.3 Brahmapurāṇa
12r.3 Parāśara
12r.4 Kāmadhenu
12r.5 Yājñavalkya
12r.10 Divākarāhnika
12v.5 Viṣṇupurāṇa
12v.7 Parāśara
12v.8 Vyāsa
12v.9 Manu
13r.1 Govindāhnika
13r.9 Pārijāta
13r.13 Taittirīyaśākhā
13v.1 Śaṅkha
13v.6 Vyāsa
13v.7 Brahmapurāṇa
13v.9 Brahmāṇḍapurāṇa
13v.14 Śātātapa
14r.1 Brahmapurāṇa
14r.2 Brahmāṇḍapurāṇa
14r.4 Vyāsa
14r.5 Saṃvarta
14r.6 Divākarāhnika
16r.1 Manu
16r.3 Yogayājñavalkya
16r.4 Brahmāṇḍapurāṇa
16r.6 Nārāyaṇa
16r.8 Divākaramata
16v.9 Yama
17v.4 Śaṅkha
17v.5 Divākarāhnika
17v.6 Pārijāte Vyāsa
17v.8 Kaśyapa

17v.10 purāṇa
17v.11 Kaśyapa
17v.12 Devala
17v.13 Vyāsa
18r.1 Kūrmapurāṇa
18r.3 Vyāsa
18r.4 Yogayājñavalkya
18r.7 Divākarāhnika-mata
19r.3 Pārijāte Manu
19r.4 Yogayājñavalkya
19r.7 Bṛhaspati
19r.10 Vasiṣṭha
19r.11 Brahmapurāṇa
19v.7 Dakṣa
19v.12 Divākarāhnika
21r.5 Pārijāta
21r.6 Pārijāta
21r.7 Yama
21r.8 Yājñavalkya
21r.13 Manu
21v.3 Śaunaka
21v.5 Gobhila
21v.5 Pārijāta
21v.11 Kātyāyana
21v.13 Garga
22r.1 Baudhāyana
22r.2 Bhaviṣyottara
22r.5 Vasiṣṭha
22r.7 Vyāsa
22r.8 Pariśiṣṭa
22r.9 smṛtyantara
22v.2 Yājñavalkya
22v.4 Manu
22v.6 Dakṣa
22v.6 Manu
22v.7 Yajñavalkya
22v.9 Pāṇinīyaśikṣā
22v.10 Parāśara
22v.12 Yama
22v.13 Manu
22v.13 Yājñavalkya
23r.1 Manu
23r.6 Uśanas
23r.6 Yājñavalkya
23r.13 Manu
23v.6 Devala
23v.10 Hārīta
23v.11 Yājñavalkya
24r.4 Yājñavalkya
24r.6 Nṛsiṃhapurāṇa (*Read* Narasiṃhapurāṇa)
24r.7 Pāraskara
24r.12 Saṃvarta
24v.2 Bṛhaspati
24v.2 Vasiṣṭha
24v.5 Viṣṇupurāṇa
24v.6 Gautama, Śaṅkha-Likhita
24v.7 Paiṭhīnasi
24v.8 Mārkaṇḍeya-purāṇa
24v.9 Hārīta
24v.10 Manu
24v.12 Manu
24v.13 Yājñavalkya
25r.1 Manu
25r.4 Śaṅkha
25r.4 Viṣṇu
25r.5 Devīpurāṇa
25r.6 Viṣṇu
25r.7 Yājñavalkya
25r.8 Mārkaṇḍeya-purāṇa
25r.10 Skanda
25r.11 Viṣṇu
25r.12 Manu
25v.1 Yama, Śātātapa, Vyāsa
25v.4 Bṛhaspati
25v.6 Vyāsa
25v.6 Mārkaṇḍeya-purāṇa
25v.9 Devala
25v.10 Manu
25v.13 Viṣṇu
25v.13 Viṣṇupurāṇa
26r.2 Vasiṣṭha
26r.3 Āpastamba
26r.9 Matsyapurāṇa
26v.3 Āpastamba
26v.6 Manu
26v.7 Kaśyapa
26v.8 Yājñavalkya
26v.10 Manu
26v.11 Manu

27v.2 Sumantu
27v.6 Manu
27v.8 Āpastamba
27v.9 Baudhāyana
27v.12 Baudhāyana
28r.1 Baudhāyana
28r.4 Yājñavalkya
28r.8 Vasiṣṭha
28r.11 Paiṭhīnasi
28r.13 Śaṅkha
28v.8 Vasiṣṭha
28v.10 Yājñavalkya
28v.12 Vyāsa
29r.1 Yājñavalkya
29r.2 Kātyāyana
29r.3 Nārada
29r.6 Manu
29r.8 Śaunaka
29r.9 Śaunakamata
29r.13 Manu
29v.3 Paiṭhīnasi
29v.4 Yājñavalkya
29v.6 Yājñavalkya
29v.7 Nārada
29v.13 Nārada
30r.2 Kātyāyana
30r.7 Manu
30r.9 Baudhāyana
30r.10 Viṣṇu
30r.11 Manu
30r.12 Yama
30v.1 Baudhāyana
30v.5 Saṃvarta
30v.6 Kaśyapa
30v.7 Yājñavalkya
30v.8 Nārada
31r.3 Vasiṣṭha
31r.5 Vasiṣṭha, Yama
31r.8 Nārada
31r.10 Manu
31r.11 Vasiṣṭha
31r.12 Nārada
31r.13 Kātyāyana
31v.1 Nārada
31v.2 Manu
31v.4 Manu
31v.5 Śātātapa
31v.6 Manu
31v.8 Yājñavalkya
31v.12 Manu
31v.14 Yājñavalkya
32r.5 Hārīta
32r.6 Hārīta
32r.8 Devala
32r.10 Manu
32r.12 Kaśyapa
32v.3 Nārada, Manu
32v.4 Manu
32v.5 Manu
32v.9 Vatsa
(*Read* Vyāsa)
32v.11 Yājñavalkya
32v.13 Varāha
33r.2 Rājamārtaṇḍa
33r.3 Ratnamālā
33r.5 Varāha
34r.10 Pāraskara
34r.11 Vyāsa
34r.12 Garga
34v2 Manu, Śātātapa
34v.3 Vasiṣṭha
34v.4 Chaṃdogapariśiṣṭa-kātyāyana
34v.10 Sumantu
34v.11 Vṛddhavasiṣṭha
34v.12 Hārīta
34v.13 Samantu
(*Read* Sumantu)
35r.3 Kātyāyana
35r.5 smṛtyantara
35r.12 Jyotiḥśāstra
35v.3 Manu
35v.4 Kātyāyāna
35v.8 Taittirīya-brāhmaṇa
35v.9 śruti
35v.10 smṛtyantara
35v.12 Smṛtyarthasāra
36r.2 Kātyāyana
36r.4 Baudhāyana
36r.9 Hārīta
36r.14 Smṛtyarthasāra
37r.1 Maṇḍanamiśra
37r.11 Sureśvara
37r.6 Maṇḍanamiśra
37v.2 Manu

37v.4	Yājñavalkya
37v.6	Devala
37v.8	Yājñavalkya
37v.10	Manu
37v.11	Yājñavalkya
37v.12	Manu
37v.13	Yājñavalkya
38r.1	Manu
38r.7	Manu
38r.9	Yājñavalkya
38r.10	Manu
38r.12	Skanda
38v.7	Yājñavalkya
38v.8	Śaṅkha
38v.11	Manu
39r.4	Hārīta
39r.6	Mahābhārata
39r.7	Paiṭhīnasi
39r.10	Uśanas
39r.10	Viṣṇu
39r.13	Hārīta
39r.14	Vyāsa
40r.1	Viṣṇu
40r.2	Manu
40r.3	Viṣṇupurāṇa
40r.5	Viṣṇu
40r.6	Uddharaṇa-paddhati
40r.7	Skandapurāṇa
40r.9	Vyāsa
40v.5	Vyāsa
40v.6	Hārīta
40v.7	Varāhapurāṇa
40v.9	Yājñavalkya
40v.10	Narasiṃhapurāṇa
41r.1	Yājñavalkya
41r.2	Aṣṭāṅgahṛdaya
41r.3	Viṣṇupurāṇa
41r.5	Nārada
41r.5	Mahābhārata
41r.7	Mārkaṇḍeya
41r.8	Nārada
41v.1	Bhāradvāja
41v.6	Manu
41v.8	Yājñavalkya
41v.10	Manu
41v.11	Devala
41v.13	Manu
42r.3	Manu
42r.6	Manu
42r.7	Vyāsa
42r.8	Nārada
42r.11	Manu
42r.12	Yama
42v.1	Hārīta
42v.3	Bṛhaspati
42v.4	Manu
42v.7	Yājñavalkya
42v.8	Manu
42v.9	Yājñavalkya
42v.9	Manu
42v.10	Hārīta
42v.11	Yājñavalkya
43r.1	Manu
43r.2	Arthaśāstra
43r.8	Brahmapurāṇa
43v.1	Manu
43v.6	Viṣṇu
43v.8	Vasiṣṭha
43v.9	Manu
44r.1	Nārada
44r.3	Manu
44r.10	Hārīta
44r.12	Yājñavalkya
44r.13	Yājñavalkya
44v.1	Bṛhaspati
44v.2	Manu
44v.3	Bṛhaspati
44v.4	Parāśara
44v.5	Gautama
44v.6	Yājñavalkya
44v.12	Manu
45r.6	Dakṣa
45r.9	Kātyāyana
45v.2	Chāndogapariśiṣṭa
45v.4	Kauśika
45v.5	Śaṅkha
45v.8	Hārīta
45v.12	Kauśika
46r.6	Vasiṣṭha
46r.7	Yogayājñavalkya
46r.9	Yogayājñavalkya
46r.11	Yogayājñavalkya
46v.12	Divākarāhnika
46v.7	Vasiṣṭha
47r.13	Divākarāhnika

47v.2 Narasiṃhapurāṇa
47v.3 Sankhāyanagṛhya
(*Read* Śāṅkhāyanagṛhya)
47v.4 Brahma-
dattabhāṣya
47v.4 Jābāli
47v.6 Baudhāyana
47v.7 Divākarāhnika
47v.13 Divākara
48v.7 Aṅgiras
48v.7 Yogayājñavalkya
48v.13 Yogayājñavalkya
49r.1 Devala
49r.3 Bharadvāja
(*Read* Bhāradvāja)
49r.4 Pārāśara
(*Read* Parāśara)
49r.5 Yogayājñavalkya
49r.6 Bharadvāja
(*Read* Bhāradvāja)
49r.7 Paiṭhīnasi
49r.8 Garga
49r.9 Paiṭhīnasi
49r.10 Mārkaṇḍeya
49v.3 Devala
49v.5 Bhaviṣyapurāṇa
49v.5 Brahmapurāṇa
49v.7 Devala
49v.9 Vyāghrapāda
49v.10 Vasiṣṭha
49v.11 Smṛtisaṃgraha
49v.13 Yājñavalkya

50r.2 Parāśara
50r.4 smṛti
(= Parāśarasmṛti?)
50r.4 Aṅgiras
50r.5 Yama
50r.6 Jātūkarṇa
(*Read* Jātūkarṇya)
50r.7 Parāśara
50r.11 Saṃgrahakāra
50r.12 Vṛddhaśātātapa
50r.13 Śātātapa
50r.14 Ṣaṭṭriṃśanmata
50v.1 Bṛhaspati
50v.2 Parāśara
50v.3 Pulastya
50v.4 Bhaviṣyapurāṇa
50v.5 Yama
50v.8 Viṣṇu
50v.11 Yama
50v.13 Mārkaṇḍeya
51r.1 Vṛddhavasiṣṭha
51r.2 Mārkaṇḍeya
51r.4 Brahmāṇḍapurāṇa
51r.5 Garga
51r.7 Garga
51r.9 Pracetas
51r.10 Manu
51r.11 Kātyāyana
51r.13 Ṣaṭṭriṃśanmata
51v.2 Kūrmapurāṇa
51v.3 Govindāhnika
51v.4 Kātyāyana

51v.6 Divākara
51v.7 Śātātapa
51v.9 Devala
51v.10 Bhṛgu
51v.11 Śātātapa
51v.12 Satyatapas
52r.1 Divākara
52r.2 Kātyāyana
52r.3 Yogayājñavalkya
52r.4 Jātūkarṇya
52r.5 Baudhāyana,
Yogīśvara
52r.6 Viṣṇupurāṇa
52r.9 Kātyāyana
52r.9 Manu
52r.12 Yogayājñavalkya
53v.5 Śaunaka
53v.10 Hariharabhāṣya
54r.3 Bṛhaspati
54r.5 Kūrmapurāṇa
54r.7 Manu
54r.9 Gautama
54v.1 Yama
54v.2 Laghuhārīta
54v.3 Uddharaṇa
54v.6 Bṛhaspati
54v.7 Viṣṇupurāṇa
54v.11 Yogayājñavalkya
54v.11 Kūrmapurāṇa
55r.1 Yogayājñavalkya
55r.3 Kūrmapurāṇa
55r.4 Yogayājñavalkya

55r.6 Kārṣṇājini
55r.6 Hārīta
55r.8 Pitāmaha
55r.9 Yogayājñavalkya
55r.11 Kūrmapurāṇa
55r.12 Gobhila
55r.13 Mārīca
55v.1 Smṛtyarthasāra
55v.6 Kārṣṇājini
55v.8 Viṣṇu
55v.9 Hārīta
55v.10 Yogayājñavalkya
55v.11 Gobhila
55v.13 Mārīca
55v.14 Satyatapas
56r.4 Hariharabhāṣya
57r.2 Yogayājñavalkya
57r.4 Mārīca
57r.5 Marīci
57v9 Divākarāhnika
58r8 Parāśara
58r.9 Śaṅkha
58r.12 Viṣṇupurāṇa
58v.3 Yama
58v.4 Śaṅkha
58v.5 Hārīta
58v.6 Yama
58v.7 Yogayajñavalkya
59r.3 Divākarāhnika
59v.4 Yājñavalkya
59v.7 Hārīta
59v.8 Kūrmapurāṇa
59v.10 Hārīta
59v.13 Padmapurāṇa
60r.1 Yogayājñavalkya
60r.3 Yājñavalkya
60v.1 Nṛsiṃhapurāṇa
(*Read* Narasiṃhapurāṇa)
60v.12 Garuḍapurāṇa
60v.13 Skandapurāṇa
61r.1 Viṣṇudharma
61r.5 Dīpikā
61r.6 Devīpurāṇa
61r.7 Viṣṇupurāṇa
61r.10 Saṃvarta
61r.11 Jābāla
61r.12 Manu
61v.1 Yama
61v.2 Manu
61v.4 Baudhāyana
61v.4 Manu
61v.6 Manu
61v.8 Manu
61v.10 Smṛtilīlā
61v.13 Kātyāyana
62r.1 Manu
62r.4 Kātyāyana
62r.5 Vyāsa
62r.7 Parisiṣṭa
(*Read* Pariśiṣṭa)
62r.9 Baudhāyana
62r.11 Manu
62v.2 Bhūpālapaddhati
62v.4 Śātātapa
62v.5 Jamadagni
62v.8 Manu
62v.10 Vasiṣṭha
62v.11 Vyāsa
63r.2 Devala
63r.3 Laukākṣī
(*Read* Laugākṣī)
63r.8 Paiṭhīnasi
63r.12 Mārkaṇḍeya
63v.2 Laugākṣī
63v.3 Manu
63v.4 Śālaṃkāyana
(*Read* Śāṅkhyāyana)
63v.6 Ṣaṭṭriṃśanmata
63v.7 Vṛddhagautama
63v.7 Vasiṣṭha
63v.10 Matsyapurāṇa
63v.12 Bhaviṣyapurāṇa
63v.13 Udharaṇapaddhati
(*Read* Uddharaṇa˚)
64r.13 Manu
64r.14 Aṣṭāṅgahṛdaya
64v.1 Mārkaṇḍeya-purāṇa
64v.2 Baudhāyana
64v.2 Manu
64v.6 Viṣṇupurāṇa
64v.6 Yama
64v.7 Yājñavalkya
64v.7 Śātātapa
64v.8 Āpastamba
64v.10 Yama

64v.10 Vasiṣṭha
64v.11 Śātātapa
64v.12 Viṣṇupurāṇa
64v.13 Vaiyāghrapadya
65r.2 Viṣṇu
65r.6 Manu
65r.7 Yājñavalkya
65r.8 Chaṃdogapariśiṣṭa-kātyāyana
65r.9 Matsyapurāṇa
65r.10 Padmapurāṇa
65r.11 Mārkaṇḍeya-purāṇa
65r.12 Govindāhnika
65v.8 Baudhāyana
65v.8 Manu
65v.12 Yama
65v.13 Vasiṣṭha
66r.1 Mārkaṇḍeya
66r.2 Brahmapurāṇa
66r.4 Govindāhnika
66r.5 Yājñavalkya
66r.7 Baudhāyana
66r.7 Yama
66r.9 Manu
66r.10 Yama
66r.11 Devala
66r.12 Aṣṭāṅgahṛdaya
66v.1 Bṛhaspati
66v.2 Devala
66v.3 Mahābhārata
66v.4 Manu
66v.5 Manu
66v.6 Vyāsa
66v.7 Pracetas
66v.8 Brahmapurāṇa
66v.9 Manu, Vyāsa
66v.13 Manu
67r.1 Manu
67r.2 Viṣṇupurāṇa
67r.4 Vāvanapurāṇa (*Read* Vāmanapurāṇa)
67r.5 Manu
67r.7 Śaṅkha
67r.7 Viṣṇupurāṇa
67r.10 Chaṃdogapariśiṣṭa-kātyāyana
67r.11 Āpastamba
67r.12 Hārīta
67r.12 Manu
67v.1 Vṛddhamanu
67v.6 Padmapurāṇa
67v.8 Atri
67v.9 Baudhāyana
67v.10 Hārīta
67v.11 Mārkaṇḍeya
67v.12 Udharaṇa, (*Read* Uddharṇa) Divākara
68r.7 Baligovindāhnika
68r.7 Baudhāyana
68r.8 Manu
68r.11 Mārkaṇḍeya
68r.11 Brahmapurāṇa
68r.13 Yājñavalkya
68v.3 Mārkaṇḍeya
68v.5 Atri
68v.6 Mārkaṇḍeya
68v.7 Śaunaka
68v.9 Bhaviṣyapurāṇa
68v.10 Viṣṇupurāṇa
68v.13 Āthapastaṃba (*Read* Āpastamba)
69r.1 Padmapurāṇa
69r.3 Ādityapurāṇa
69r.4 Baudhāyana
69r.5 Pulastya
69r.6 Atri
69r.7 Vṛddhaśātātapa
69r.8 Yājñavalkya
69r.9 Aṅgiras
69r.10 Vṛddhaparāśara
69v.5 Manu
69v.7 Padmapurāṇa
69v.8 Devala
69v.9 Āpastamba
69v.11 Brahmapurāṇa
70r.5 Mahābhārata
70r.5 Brahmapurāṇa
70r.7 Viṣṇupurāṇa
70r.8 Śaṅkha-Likhita
70r.9 Hārīta
70r.11 Yama
70r.13 Mahābhārata
70v.1 Manu
70v.2 Bṛhaspati

70v.3	Manu
70v.3	Vasiṣṭha
70v.4	Aṅgiras
70v.6	Brahmapurāṇa
70v.7	Baudhāyana
70v.8	Uddharaṇa-paddhati
70v.10	Pulastya
70v.12	Devala
70v.13	Gadyavyāsa
71r.1	Vyāsa
71r.2	Govindāhnika
71r.3	Vṛddhaparāśara
71r.4	Hārīta
71r.6	Pārijāta
71r.6	Devala
71r.8	Yājñavalkya
71r.10	Devala
71r.10	Brahmapurāṇa
71r.11	Vyāsa
71r.14	Dhāreśvara
71v.3	Viṣṇupurāṇa
71v.9	Vyāsa
71v.10	Mārkaṇḍeya
71v.11	Yājñavalkya
71v.12	Gautama
71v.13	Parāśara
71v.14	Ṣaṭtriṃśanmata
71v.14	Govindāhnika
72r.2	Gotama (*Read* Gautama)
72r.3	Paiṭhīnasi
72r.5	Yājñavalkya
72r.7	Manu
72r.8	Hārīta
72r.9	Vasiṣṭha
72r.11	Aṅgiras
72r.12	Bhaviṣyapurāṇa
72r.14	Yājñavalkya
72v.2	Devala
72v.3	Aṅgiras
72v.4	Hārīta
72v.5	Parāśara
72v.5	Yama
72v.8	Viṣṇu
72v.14	Manu
73v.3	Yama
73v.5	Yama
73v.6	Śaṅkha
73v.7	Aṅgiras
73v.8	Hārīta
73v.11	Ādityapurāṇa
73v.12	Manu, Yama
73v.13	Śātātapa
73v.14	Manu
74r.1	Yama
74r.1	Manu
74r.3	Yājñavalkya
74r.6	Hārīta
74r.8	Manu
74r.9	Yama
74r.10	Brahmapurāṇa
74r.12	Bhaviṣyapurāṇa
74r.13	Brahmapurāṇa
74r.14	Manu
74v.3	Hārīta
74v.4	Brahmapurāṇa
74v.5	Manu
74v.10	Yājñavalkya
74v.11	Devala
74v.14	Yama
75r.1	Śaṅkha
75r.4	Hārīta
75r.6	Manu, Yama
75r.7	Yama
75r.9	Manu
75r.10	Paiṭhīnasi
75r.10	Devala
75r.11	Śaṅkha
75v.1	Devala
75v.3	Manu, Viṣṇu
75v.4	Manu
75v.5	Yama
75v.8	Yama
75v.8	Āpastamba
75v.11	Manu
75v.13	Manu
75v.13	Yājñavalkya
76r.1	Dakṣa
76r.1	itihāsapurāṇādi
76r.6	Divākarāhnika
76r.7	Yājñavalkya
76r.8	Dakṣa
76r.10	Brahmapurāṇa
76r.13	Viṣṇu
76r.13	Vyāsa

76v.3 Mārkaṇḍeya
76v.4 Pracetas
76v.9 Yājñavalkya
76v.10 Manu
76v.13 Manu
76v.14 Vasiṣṭha
76v.14 Hārīta
77r.2 Viṣṇupurāṇa
77r.5 Devala
77r.6 Parāśara
77r.10 smṛtyantara
77r.11 Marīci
77v.7 Yājñavalkya
77v.8 Yama
77v.9 Ādipurāṇa
77v.11 Hārīta
77v.14 Bṛhanmanu
78r.2 Śaṅkha
78r.3 Jaimini
78r.4 Saṃvarta
78r.6 Aṅgiras
78r.6 Paiṭhīnasi
78r.8 Vyāsa
78r.9 Vṛddhayājñavalkya
78r.11 Śaṅkha
78r.12 Manu
78v.1 Kaśyapa
78v.3 Yama
78v.3 Laugākṣi
78v.4 Yājñavalkya
78v.5 Yājñavalkya
78v.10 Vasiṣṭha
78v.11 Manu
78v.14 Yājñavalkya
79r.1 Vasiṣṭha
79r.3 Marīci
79r.6 Aṅgiras
79r.7 Vyāghrapāda
79r.13 Viśvarūpa
79r.13 Dhāreśvara
79v.1 Medhātithi
79v.1 Vijñāneśvara
79v.2 Āṅgirasa-Ṛṣyaśṛṅga
79v.3 Manu
79v.5 Yājñavalkya
79v.12 Manu
80r.1 Yājñavalkya
80r.3 Gautama
80r.5 Manu
80v.3 Yājñavalkya
80v.6 Pārijāta
80v.9 Kātyāyana
80v.10 Maitrāyaṇīya-pariśiṣṭa
81r.4 Gobhila
81r.5 Kārṣṇājini
81r.7 Narādīyapurāṇa (*Read* Nāradīyapurāṇa)
81r.10 Gobhila
81r.13 Nārada
82v.5 Brahmāṇḍapurāṇa
82v.10 Yājñavalkya
83r.6 Manu
84r.1 Bṛhaspati
84v.7 Manu
84v.8 Śātātapa
84v.9 Kātyāyana
84v.14 Sumantu
85r.1 Sumantu
85v.1 Manu
85v.2 Kātyāyana
85v.5 Prajāpati
85v.6 Yama
85v.9 Kātyāyana
85v.10 Sumantu
86r.6 Viṣṇupurāṇa
86r.9 Manu
86v.8 Baudhāyana
86v.9 Saṃgrahakāra
87r.1 Vasiṣṭha
87r.3 Bhṛgu
87r.9 Pārijāta
87v.5 smṛtyantara
87v.6 Bhṛgu

７．引用・固有名詞索引（書名，著者名，学派名等）

Veda

śruti 2v.2; 5r.3; 35v.9

Taittirīyabrāhmaṇa 35v.8

Taittirīyaśākhā（Taittirīya 学派） 13r.13

Gṛhyasūtra

Kauśikasūtra 45v.4; 45v.12

Gobhilagṛhyasūtra 21v.5; 55r.12; 55v.11; 81r.4; 81r.10

Jaiminigṛhyasūtra 78r.3

Pāraskaragṛhyasūtra 24r.7; 34r.10

Śāṅkhāyanagṛhyasūtra 8r.11; 8v.7; 47v.3; 63v.4

Hariharabhāṣya 10r.7; 53v.10; 56r.4
(ad Pāraskaragṛhyasūtra)

Pariśiṣṭa

Chandogapariśiṣṭa → Kātyāyana

Maitrāyaṇīyapariśiṣṭa 80v.10

pariśiṣṭa 22r.8; 62r.7

叙事詩

Mahābhārata 9r.6; 39r.6; 41r.5; 66v.3; 70r.5; 70r.13

Dharmasūtra

Āpastambadharmasūtra 3v.4; 4v.10; 6v.1; 7v.1; 8v.1; 26r.3; 26v.3; 27v.8; 64v.8; 67r.11; 68v.13; 69v.9; 75v.8

Gautamadharmasūtra 2v.6; 4r.10; 24v.6; 44v.5; 54r.9; 71v.12; 72r.2; 80r.3

Baudhāyanadharmasūtra 7r.8; 8r.7; 8r.13; 22r.1; 27v.9; 27v.12; 28r.1; 30r.9; 30v.1; 36r.4; 47v.6; 52r.5; 61v.4; 62r.9; 64v.2; 65v.8; 66r.7; 67v.9;

68r.7; 69r.4; 70v.7; 86v.8

Bhāradvājadharmasūtra 6v.1; 7v.5; 41v.1; 49r.3; 49r.6

Laghuhārītadharmasūtra 54v.2

Vasiṣṭhadharmasūtra 2v.7; 3v.12; 5r.4; 19r.10; 22r.5; 24v.2; 26r.2; 28r.8; 28v.8; 31r.3; 31r.5; 31r.11; 34v.3; 43v.8; 46r.6; 46v.7; 49v.10; 62v.10; 63v.7; 64v.10; 65v.13; 70v.3; 72r.9; 76v.14; 78v.10; 79r.1; 87r.1

Vṛddhagautamadharmasūtra 63v.7

Vṛddhavasiṣṭhadharmasūtra 34v.11; 51r.1

Hārītadharmasūtra 5r.6; 6r.9; 7v.11; 7v.13; 8r.2; 23v.10; 24v.9; 32r.5; 32r.6; 34v.12; 36r.9; 39r.4; 39r.13; 40v.6; 42v.1; 42v.10; 44r.10; 45v.8; 55r.6; 55v.9; 58v.5; 59v.7; 59v.10; 67r.12; 67v.10; 70r.9; 71r.4; 72r.8; 72v.4; 73v.8; 74r.6; 74v.3; 75r.4; 76v.14; 77v.11

書名，著者名など（～smṛti 類はここに入れた。）

Aṅgiras 5v.10; 8r.8; 48v.7; 50r.4; 69r.9; 70v.4; 72r.11; 72v.3; 73v.7; 78r.6; 79r.6

Atri 67v.8; 68v.5; 69r.6

Arthaśāstra 43r.2

Aṣṭāṅgahṛdaya 41r.2; 64r.14; 66r.12

Āṅgirasa-Ṛṣyaśṛṅga 79v.1

Ācāratilaka 11v.13

Uddharaṇapaddhati 40r.6; 54v.3; 63v.13; 67v.12; 70v.8

Uśanas 23r.6; 39r.10

Kaśyapa 17v.8; 17v.11; 26v.7; 30v.6; 32r.12; 78v.1

Kāṇva 10r.11

Kātyāyana (Chandogapariśiṣṭa) 3v.5; 7v.13; 9r.1; 9r.6; 9v.2; 10r.2; 21v.11; 29r.2; 30r.2; 31r.13; 34v.4; 35r.3; 35v.4; 36r.2; 45r.9; 45v.2; 51r.11; 51v.4; 52r.2; 52r.9; 61v.13; 62r.4; 65r.8; 67r.10; 80v.9; 84v.9; 85v.2;

	85v.9
Kāmadhenu	12r.4
Kārṣṇājini	55r.6; 55v.6; 81r.5
Gadyavyāsa	70v.13
Garga	9r.4; 21v.13; 34r.12; 49r.8; 51r.5; 51r.7
Govindāhnika	6r.10; 8r.2; 11v.12; 13r.1; 51v.3; 65r.12; 66r.4; 71r.2; 71v.14
Jamadagni	4r.8; 62v.5
Jātūkarṇya	50r.6; 52r.4
Jābāla	61r.11
Jābāli	11v.5; 47v.4
jyotiḥśāstra	35r.12
Dakṣa	6v.3; 6v.10; 6v.13; 7v.4; 7v.6; 10v.13; 19v.7; 22v.6; 45r.6; 76r.1; 76r.8
Divākarāhnikamata	12r.10; 14r.6; 16r.8; 17v.5; 18r.7; 19v.12; 46v.12; 47r.13; 47v.7; 47v.13; 51v.6; 52r.1; 57v.9; 59r.3; 67v.12; 76r.6
Dīpikā	61r.5
Devala	3r.2; 6r.2; 7r.2; 8v.3; 17v.12; 23v.6; 25v.9; 32r.8; 37v.6; 41v.11; 49r.1; 49v.3; 49v.7; 51v.9; 63r.2; 66r.11; 66v.2; 69v.8; 70v.12; 71r.6; 71r.10; 72v.2; 74v.11; 75r.10; 75v.1; 77r.5
Dhāreśvara	71r.14; 79r.13
Nārada	9r.9; 29r.3; 29v.7; 29v.13; 30v.8; 31r.8; 31r.12; 31v.1; 32v.3; 41r.5; 41r.8; 42r.8; 44r.1; 81r.13
Nārāyaṇa	16r.6
Parāśara	7r.12; 10r.12; 12r.3; 12v.7; 22v.10; 44v.4; 49r.4; 50r.2; 50r.4(?); 50r.7; 50v.2; 58r8; 71v.13; 72v.5; 77r.6
Pāṇinīyaśikṣā	22v.9
Pārijāta	7r.9; 8v.5; 13r.9; 17v.6; 19r.3; 21r.5; 21r.6; 21v.5; 71r.6; 80v.6; 87r.9
Pitāmaha	5v.8; 55r.8
Pulastya	50v.3; 69r.5; 70v.10

Paiṭhīnasi	7v.8; 24v.7; 28r.11; 29v.3; 39r.7; 49r.7; 49r.9; 63r.8; 72r.3; 75r.10; 78r.6
Pracetas	6r.13; 7r.12; 51r.9; 66v.7; 76v.4
Prajāpati	85v.5
Baligovindāhnika	68r.7
Bṛhanmanu	77v.14
Bṛhaspati	4r.6; 6r.8; 8r.9; 19r.7; 24v.2; 25v.4; 42v.3; 44v.1; 44v.3; 50v.1; 54r.3; 54v.6; 66v.1; 70v.2; 84r.1
Brahmadattabhāṣya	47v.4
Bhūpālapaddhati	62v.2
Bhṛgu	51v.10; 87r.3; 87v.6
Maṇḍanamiśra	37r.1; 37r.6
Manu	2r.12; 2v.8; 3r.6; 3v.1; 3v.8; 4r.3; 4r.10; 4v.3; 4v.6; 5r.5; 5r.7; 5r.12; 5v.5; 6r.3; 7r.4; 7r.7; 7v.3; 10r.14; 10v.3; 12v.9; 16r.1; 19r.3; 21r.13; 22v.4; 22v.6; 22v.13; 23r.1; 23r.13; 24v.10; 24v.12; 25r.1; 25r.12; 25v.10; 26v.6; 26v.10; 26v.11; 27v.6; 29r.6; 29r.13; 30r.7; 30r.11; 31r.10; 31v.2; 31v.4; 31v.6; 31v.12; 32r.10; 32v.3; 32v.4; 32v.5; 34v2; 35v.3; 37v.2; 37v.10; 37v.12; 38r.1; 38r.7; 38r.10; 38v.11; 40r.2; 41v.6; 41v.10; 41v.13; 42r.3; 42r.6; 42r.11; 42v.4; 42v.8; 42v.9; 43r.1; 43v.1; 43v.9; 44r.3; 44v.2; 44v.12; 51r.10; 52r.9; 54r.7; 61r.12; 61v.2; 61v.4; 61v.6; 61v.8; 62r.1; 62r.11; 62v.8; 63v.3; 64r.13; 64v.2; 65r.6; 65v.8; 66r.9; 66v.4; 66v.5; 66v.9; 66v.13; 67r.1; 67r.5; 67r.12; 68r.8; 69v.5; 70v.1; 70v.3; 72r.7; 72v.14; 73v.12; 73v.14; 74r.1; 74r.8; 74r.14; 74v.5; 75r.6; 75r.9; 75v.3; 75v.4; 75v.11; 75v.13; 76v.10; 76v.13; 78r.12; 78v.11; 79v.3; 79v.12; 80r.5; 83r.6; 84v.7; 85v.1; 86r.9
Marīci / Mārīca	9v.6; 55r.13; 55v.13; 57r.4; 57r.5; 77r.11; 79r.3
Medhātithi	79v.1
Yama	6r.1; 8r.3; 16v.9; 21r.7; 22v.12; 25v.1; 30r.12; 31r.5; 42r.12; 50r.5; 50v.5; 50v.11; 54v.1; 58v.3; 58v.6; 61v.1; 64v.6; 64v.10; 65v.12;

	66r.7; 66r.10; 70r.11; 72v.5; 73v.3; 73v.5; 73v.12; 74r.1; 74r.9; 74v.14; 75r.6; 75r.7; 75v.5; 75v.8; 77v.8; 78v.3; 85v.6
Yavanajātaka	6v.2
Yājñavalkya	3v.1; 3v.6; 4v.1; 4v.5; 4v.11; 5r.3; 5r.6; 5r.8; 5r.13; 5v.13; 6v.3; 7v.2; 7v.7; 7v.9; 8r.6; 9v.7; 9v.11; 9v.13; 10v.6; 12r.5; 21r.8; 22v.2; 22v.7; 22v.13; 23r.6; 23v.11; 24r.4; 24v.13; 25r.7; 26v.8; 28r.4; 28v.10; 29r.1; 29v.4; 29v.6; 30v.7; 31v.8; 31v.14; 32v.11; 37v.4; 37v.8; 37v.11; 37v.13; 38r.9; 38v.7; 40v.9; 41r.1; 41v.8; 42v.7; 42v.9; 42v.11; 44r.12; 44r.13; 44v.6; 49r.5; 49v.13; 59v.4; 60r.3; 64v.7; 65r.7; 66r.5; 68r.13; 69r.8; 71r.8; 71v.11; 72r.5; 72r.14; 74r.3; 74v.10; 75v.13; 76r.7; 76v.9; 77v.7; 78v.4; 78v.5; 78v.14; 79v.5; 80r.1; 80v.3; 82v.10
Yogayājñavalkya	9v.12; 11r.7; 11r.11; 16r.3; 18r.4; 19r.4; 46r.7; 46r.9; 46r.11; 48v.7; 48v.13; 52r.3; 52r.12; 54v.11; 55r.1; 55r.4; 55r.9; 55v.10; 57r.2; 58v.7; 60r.1
Yogīśvara →	Yājñavalkya
Ratnamālā	2v.4; 33r.3
Rājamārtaṇḍa	33r.2
Laugākṣī	63r.3; 63v.2; 78v.3
Vijñāneśvara	79v.1
Viśvarūpa	79r.13
Viṣṇu	5v.9; 6v.8; 8v.2; 8v.9; 8v.13; 9r.2; 9r.3; 11v.6; 25r.4; 25r.6; 25r.11; 25v.13; 30r.10; 39r.10; 40r.1; 40r.5; 43v.6; 50v.8; 55v.8; 65r.2; 72v.8; 75v.3; 76r.13
Vṛddhaparāśara	7r.11; 69r.10; 71r.3
Vṛddhamanu	67v.1
Vṛddhayājñavalkya	78r.9
Vṛddhaśātātapa	50r.12; 69r.7
Vyāghrapāda	49v.9; 64v.13; 79r.7
Vyāsa	4v.12; 9v.9; 12v.8; 13v.6; 14r.4; 17v.13; 18r.3; 22r.7; 25v.1;

25v.6; 28v.12; 32v.9; 34r.11; 39r.14; 40r.9; 40v.5; 62v.11; 66v.6; 66v.9; 71r.1; 71v.9; 76r.13; 78r.8

Śaṅkha 9r.11(?); 10r.1; 11r.2; 13v.1; 17v.4; 25r.4; 28r.13; 38v.8; 45v.5; 58r.9; 58v.4; 67r.7; 73v.6; 75r.1; 75r.11; 78r.2; 78r.11

Śaṅkha-Likhita 24v.6; 70r.8

Śātātapa 4r.5; 6v.6; 13v.14; 25v.1; 31v.5; 34v2; 50r.13; 51v.7; 51v.11; 62v.4; 64v.7; 64v.11; 73v.13; 84v.8

Śaunaka 21v.3; 29r.8; 29r.9; 53v.5; 68v.7

Ṣaṭṭriṃśanmata 50r.14; 51r.13; 63v.6; 71v.14

Saṃvarta 14r.5; 24r.12; 30v.5; 61r.10; 78r.4

Saṃgrahakāra 3r.1; 50r.11（→ Smṛtisaṃgraha ?）

Satyatapas 51v.12; 55v.14

Sumantu 27v.2; 34v.10; 34v.13; 84v.14; 85r.1; 85v.10

Sureśvara 37r.11

Smṛtilīlā 61v.10

Smṛtisaṃgraha 10r.1; 49v.11

Smṛtyarthasāra 35v.12; 36r.14; 55v.1

smṛtyantara（別の smṛti） 2v.11; 5r.9; 22r.9; 35r.5; 35v.10; 77r.10; 87v.5

Purāṇa

Ādipurāṇa 77v.9

Ādityapurāṇa 6v.12; 7r.1; 69r.3; 73v.11

itihāsapurāṇādi 76r.1

Kūrmapurāṇa 8v.13; 18r.1; 51v.2; 54r.5; 54v.11; 55r.3; 55r.11; 59v.8

Garuḍapurāṇa 60v.12

Devīpurāṇa 25r.5; 61r.6

Narasiṃhapurāṇa 24r.6; 40v.10; 47v.2; 60v.1

Nāradīyapurāṇa 81r.7

Padmapurāṇa 10r.12; 59v.13; 65r.10; 67v.6; 69r.1; 69v.7

Brahmapurāṇa 3v.7; 10v.12; 12r.3; 13v.7; 14r.1; 19r.11; 43r.8; 49v.5; 66r.2; 66v.8;

68r.11; 69v.11; 70r.5; 70v.6; 71r.10; 74r.10; 74r.13; 74v.4; 76r.10

Brahmāṇḍapurāṇa 13v.9; 14r.2; 16r.4; 51r.4; 82v.5

Bhaviṣya-/Bhaviṣyottara-purāṇa 10v.10; 22r.2; 49v.5; 50v.4; 63v.12; 68v.9; 72r.12; 74r.12

Matsyapurāṇa 2r.1; 11v.9; 26r.9; 63v.10; 65r.9

Mārkaṇḍeyapurāṇa 7v.10; 8r.1; 9r.5; 9v.10; 12r.1; 24v.8; 25r.8; 25v.6; 41r.7; 49r.10; 50v.13; 51r.2; 63r.12; 64v.1; 65r.11; 66r.1; 67v.11; 68r.11; 68v.3; 68v.6; 71v.10; 76v.3

Varāhapurāṇa 9v.8; 32v.13; 33r.5; 40v.7

Vāmanapurāṇa 11v.10; 67r.4

Vāyupurāṇa 3v.4

Viṣṇupurāṇa 5v.6; 6r.8; 6v.7; 6v.10; 10v.11; 12v.5; 24v.5; 25v.13; 40r.3; 41r.3; 52r.6; 54v.7; 58r.12; 61r.7; 64v.6; 64v.12; 67r.2; 67r.7; 68v.10; 70r.7; 71v.3; 77r.2; 86r.6

Viṣṇudharmottarapurāṇa 61r.1

Skandapurāṇa 25r.10; 38r.12; 40r.7; 60v.13

purāṇa 17v.10

おわりに

管見の限りではあるが，近代以降に成立したインド学において，Madhusūdana 著 Ācārārṇava の存在は知られていなかったものと考えられる。すなわち，著者の Madhusūdana の情報にしても，その執筆年代が紀元後 1150～1500 年に置かれることしか現在は解っていない。また，本書の別写本が他にも存在するのかどうか，という基本的な情報についても不明である。一説には，インドに存在すると見込まれる 500 万点の写本のうち，既にカタログに記載されたものは，100 万点程であるとされる[38]。そうであれば，今後，Ācārārṇava の別写本が他からも発見される可能性は排除できない。

[38] ［Gaur & Chakraborty 2009: 90］．これによれば，カタログだけでも，1100 冊の出版本のほか，70 の図書館に所蔵されるリストが存在するとされる．［NCC.］が一つの手がかりに

また，逆に今後数百年を経ても，他から発見することがなければ，本書は全く地域的な Dharmanibandha であって，流布することがほとんどなかったという可能性が高くなる。

いずれにしても，本書には多数の引用とそれに対する註釈を含むことから，15 世紀以前の文献伝承の解明のために，種々の資料を提供する可能性を含んでいるものと考えられる。具体的には，近代以前に生きた伝承が途絶え，既に完本が失われたとみなされている Dharmaśāstra の数は多い[39]が，当写本がそれらの復元に役立つ可能性を秘めているのである。また，現存する文献であっても，それらがどのように受容・伝承されてきたかを立証するための傍証にはなろう。

さらに，現時点で本書に含まれる註釈にどれほどの独自性があるか不明である。しかしながら，たとえその註釈に特筆すべき独自性がなかったとしても，その場合は逆に，著者 Madhusūdana の教養がどのように形成されてきたかを知ることができるという点で，インド文献史／宗教史上の価値は存在するであろう。

〈主要参考文献〉

［Bist 2004］ Bist, B. S.: *Yājñavalkyasmṛti of Yogīśvara Maharṣi Yājñavalkya*, Delhi.

［Brick 2015］ Brick, David: *Brahmanical Theories of the Gift. A Critical Edition and Annotated Translation of the Dānakāṇḍa of Kṛtyakalpataru*, (Harvard Oriental Series 77), Cambridge.

［EINOO CARD］ Einoo, Shingo: *EINOO CARD: A Database for the Study of Vedic and Hindu Rituals.* (http://card.ioc.u-tokyo.ac.jp/)

［Gaur & Chakraborty 2009］ Gaur, Ramesh C. & Chakraborty, Mrinmoy: Preservation and Access to Indian Manuscripts: A Knowledge Base of Indian Cultural Heritage Resources for Academic Libraries, in

はなるとはいえ，筆者がそれらのカタログの全てを見ていないことから，既にカタログ化されたものの中に Ācārārṇava が含まれていないとは断言できない.

[39] そのうち，本書に引用があるものとして，Bṛhaspati, Kātyāyana, Vyāsa, Śaṅkha-Likhita, Hārīta が挙げられる.

ICAL 2009: Vision and Roles of the Future Academic Libraries, University of Delhi, 5-8 October 2009, New Delhi, pp. 90-98.

［Kane HDh.］ Kane, P. V.: *History of Dharmaśāstra (Ancient and Medieval Religious and Civil Law in India)*, 5 vols in 8 parts, Poona, 1930-1962. (2nd ed. 1968)

［Kṛtyakalpataru］ Aiyangar, K. V. Rangaswami *et al.*(ed.): *Kṛtyakalpataru of Bhaṭṭa Lakṣhmīdhara*, 14vols, Baroda, 1941-2008.

［Lingat 1973］ Lingat, Robert: *The Classical Law of India* [*Sources du droit dans le système traditionnel de l'Inde*], translated from the french, with addition by, J. Duncan M. Derret., Berkeley.

［NCC.］ Raghavan, V. *et al.*(ed.): *New Catalogus Catalogorum*, Madras, 39 vols, 1968-2015.

［Olivelle 1995］ Olivelle, Patrick: *Rules and Regulations of Brahmanical Asceticism. Yatidharmasamuccaya of Yādava Prakāśa*, Albany.

［Olivelle 2005］ Olivelle, Patrick: *Manu's Code of Law: A Critical Edition and Translation of the Mānava-Dharmaśāstra*, Oxford.

［Olivelle 2015］ Olivelle, Patrick: *A Sanskrit Dictionary of Law and Statecraft*, Delhi.

［Yājñavalkyasmṛti］ *Yājñavalkyasmṛti with the commentary Mitākṣarā of Vijñāneśvara*, (A reproduction of the earlier edition of Nirnaya Sagar Press), Delhi, 1985.

［井狩弥介・渡瀬信之 2002］井狩弥介・渡瀬信之訳注『ヤージュニャヴァルキヤ法典』〈東洋文庫〉平凡社.

［古宇田 2015］ 「Gopāla 著 Kṛtyakāmadhenu の貝葉写本（上）」『淑徳大学長谷川仏教文化研究所年報』第 39 号，pp. (1)-(61).

［古宇田 2016］ 「Gopāla 著 Kṛtyakāmadhenu の貝葉写本（下）」『淑徳大学長谷川仏教文化研究所年報』第 40 号，pp. (1)-(59).

［田辺繁子 1953］ 田辺繁子訳『マヌの法典』岩波書店.

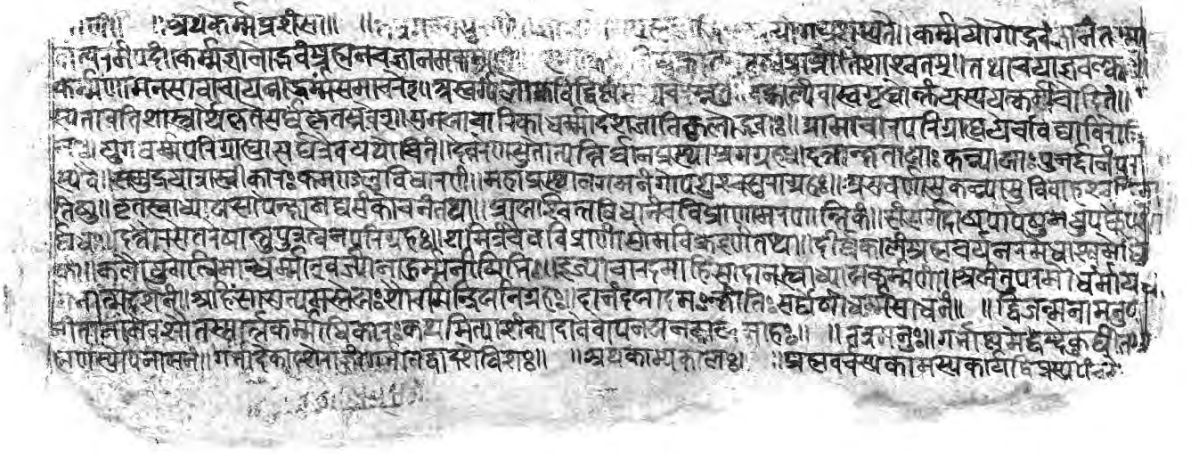
［中野義照 1951］ 中野義照訳注『マヌ法典』（高野山大学内）日本印度学会.

［渡瀬信之 2013］ 渡瀬信之訳注『マヌ法典』〈東洋文庫〉平凡社.

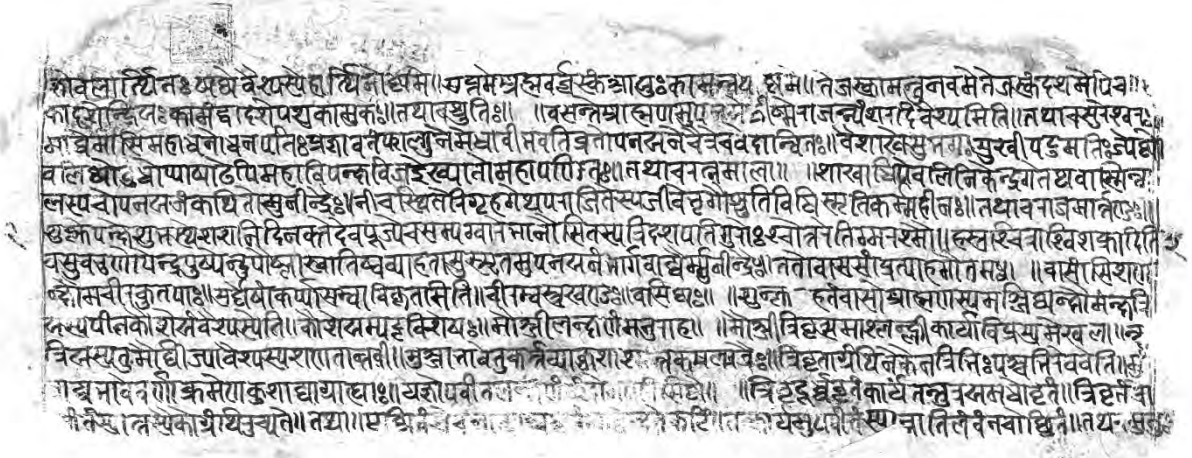
（当研究所専任研究員）

FACSIMILES
(folio 2-87)

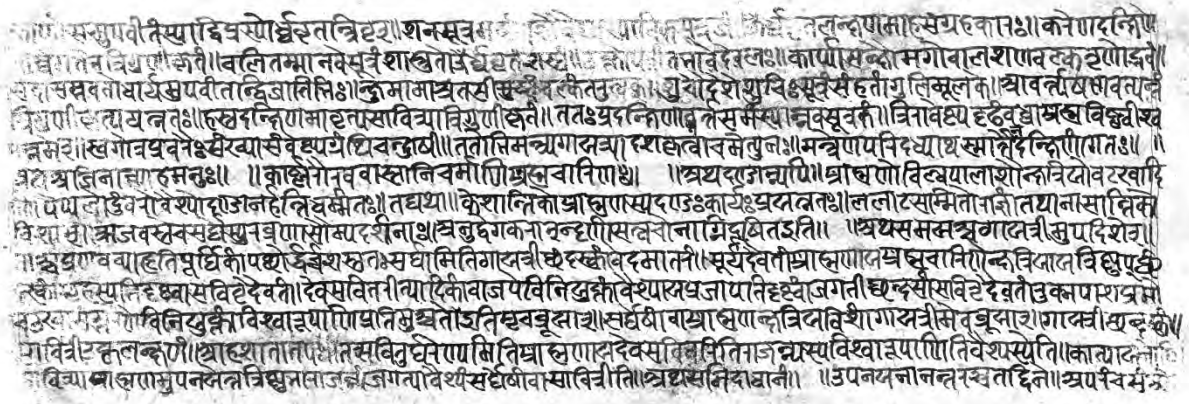
2r



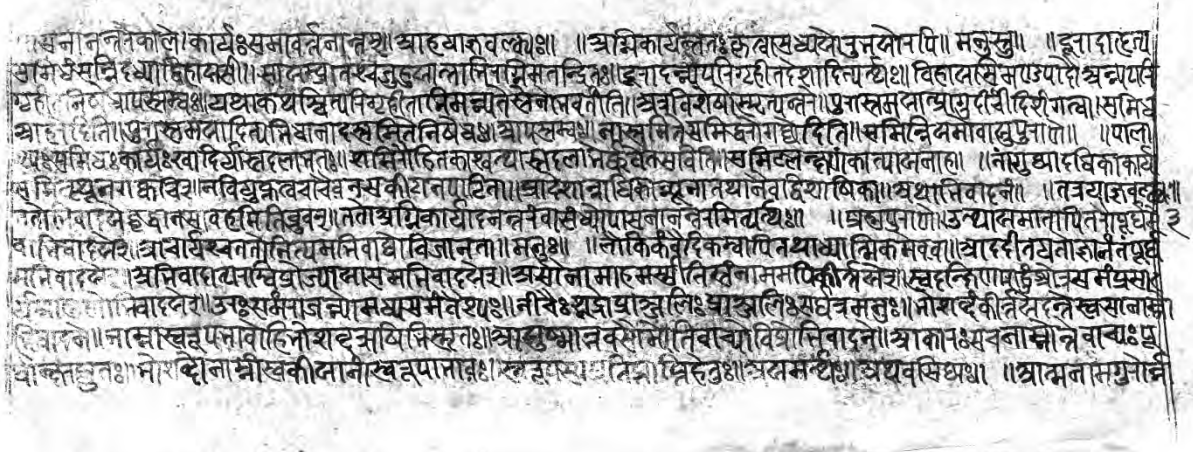
2v



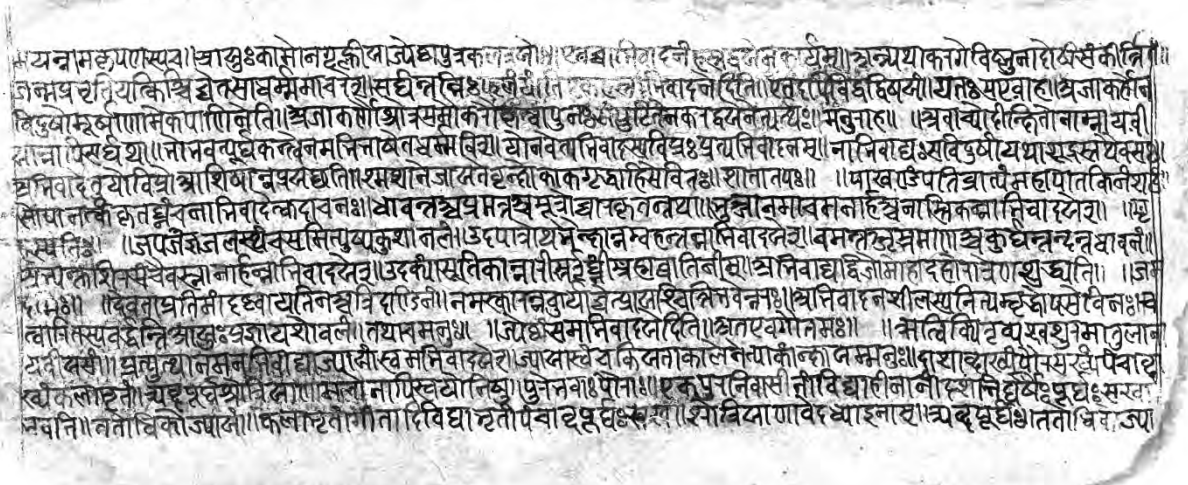
3r



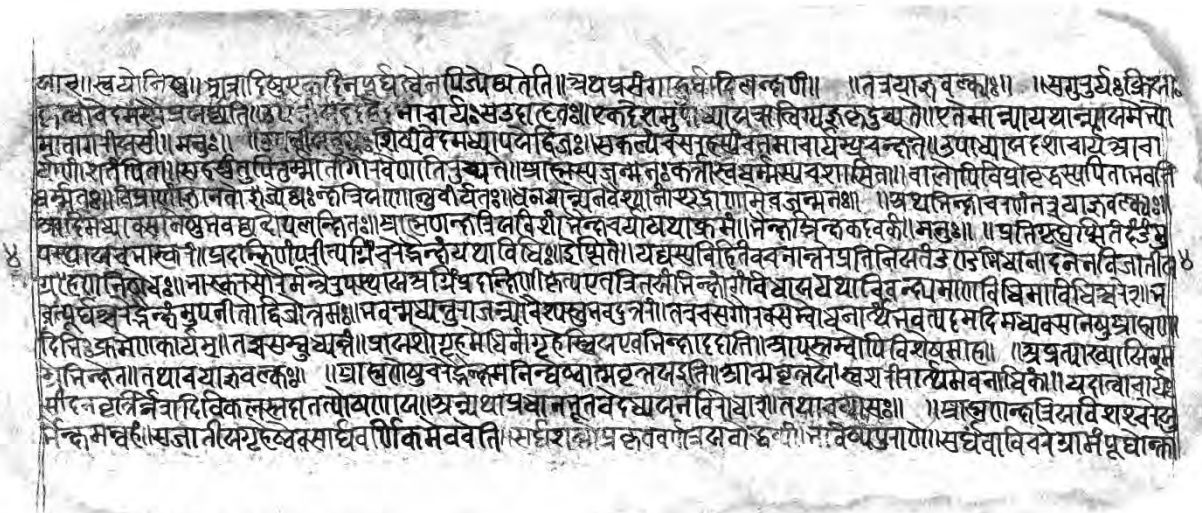
3v



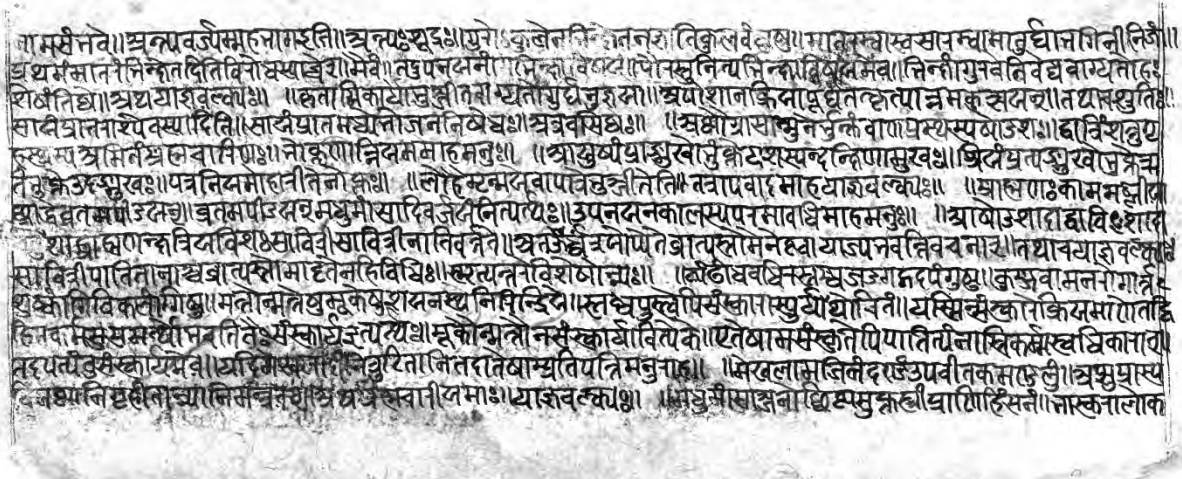
4r



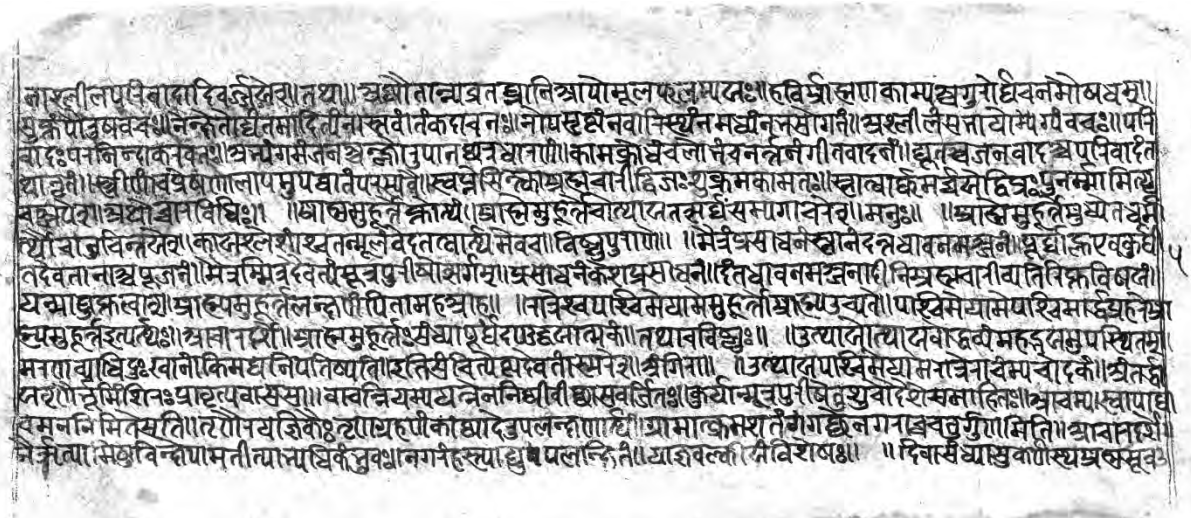
4v



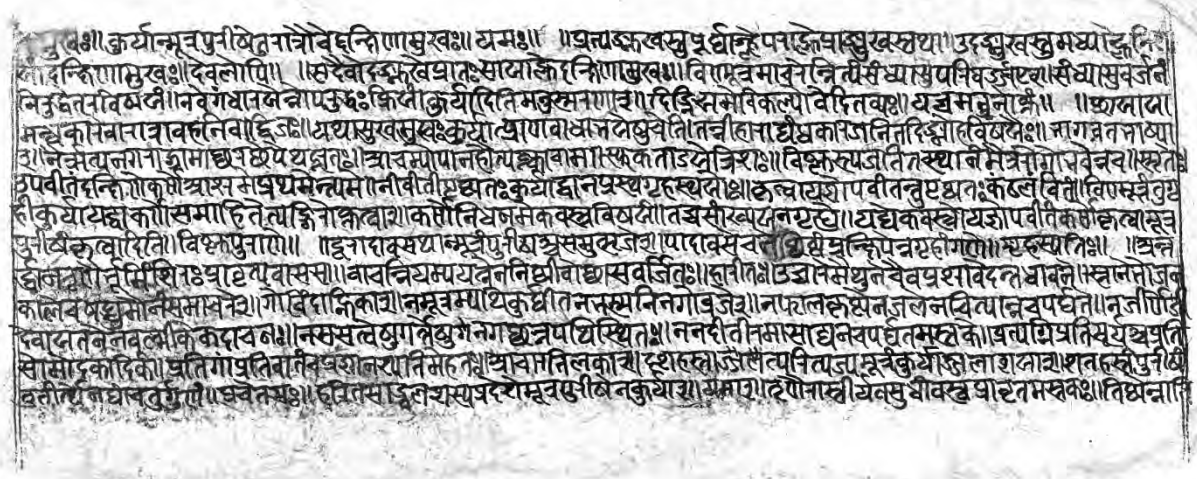
5r



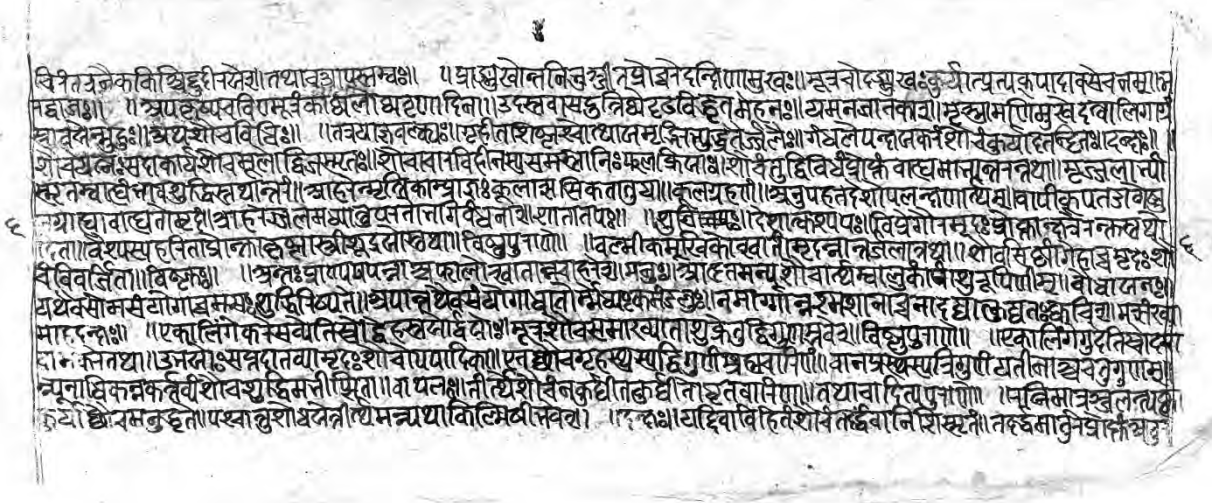
5v



6r

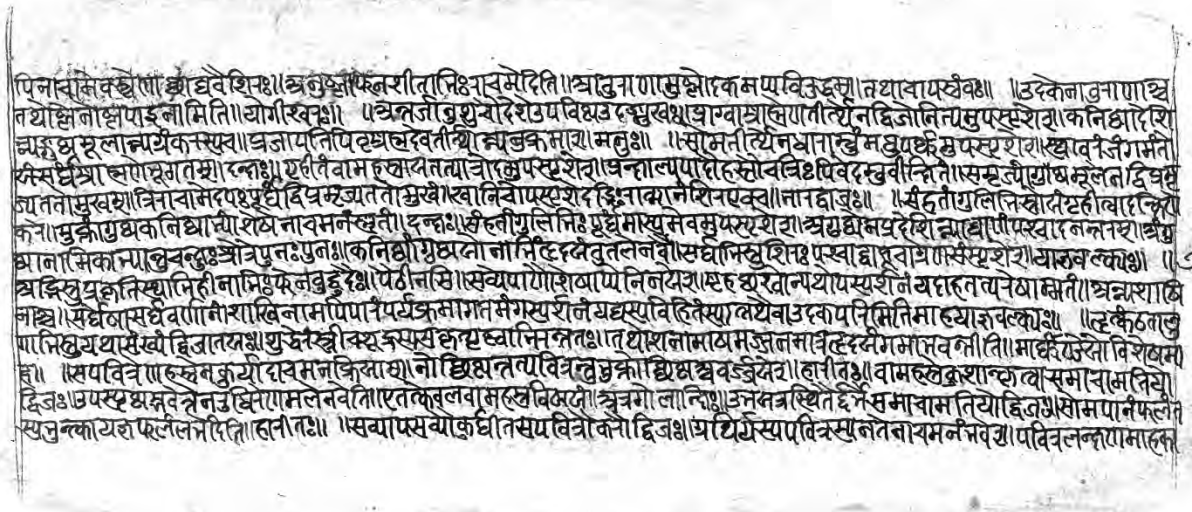


6v

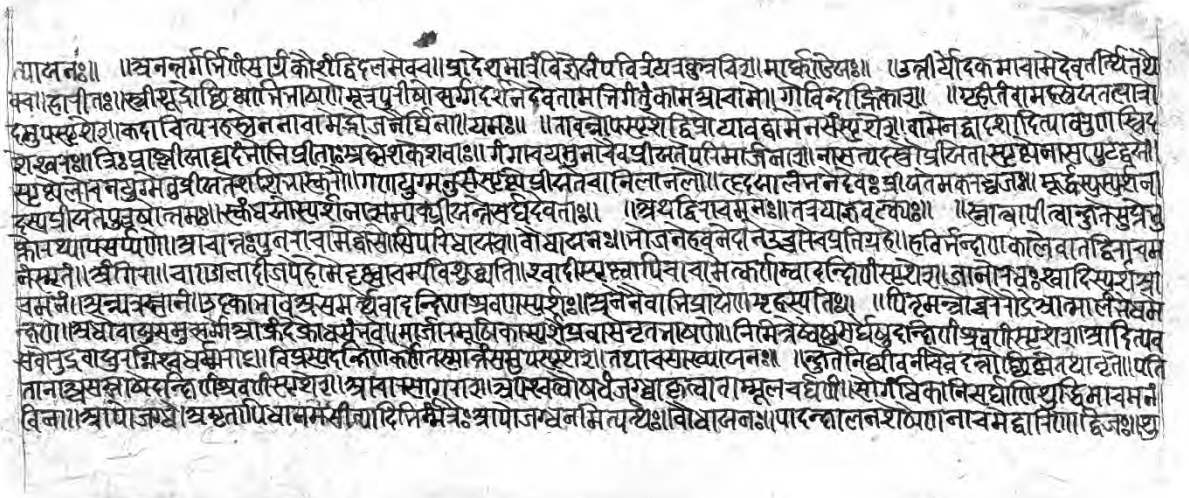


7r

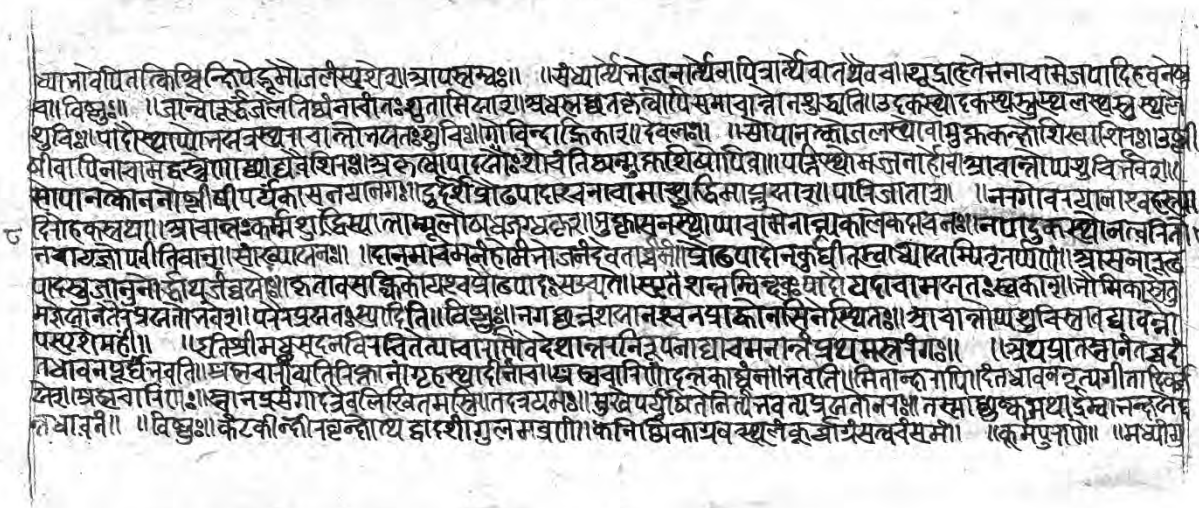
7v



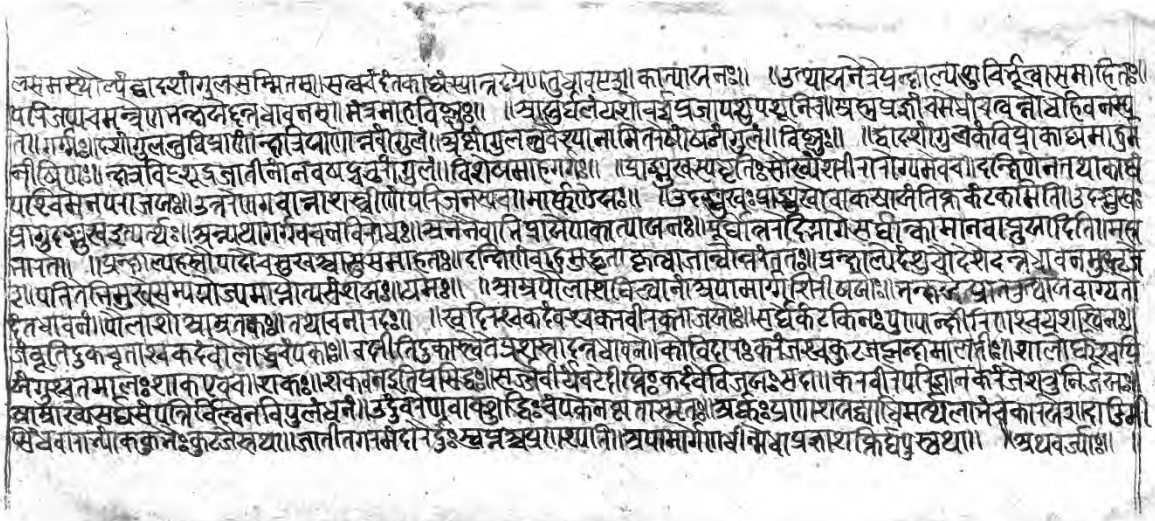
8r



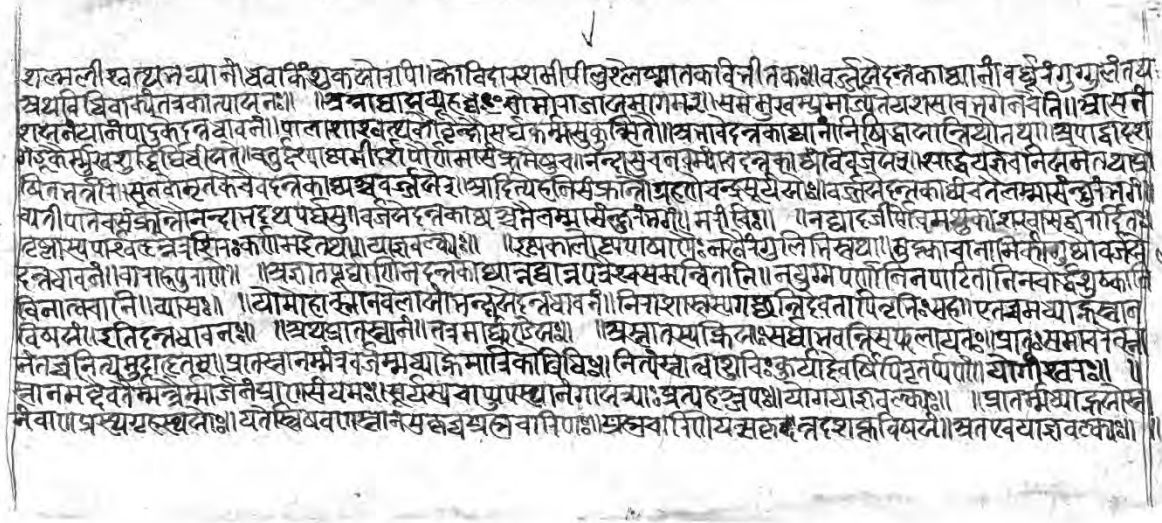
8v



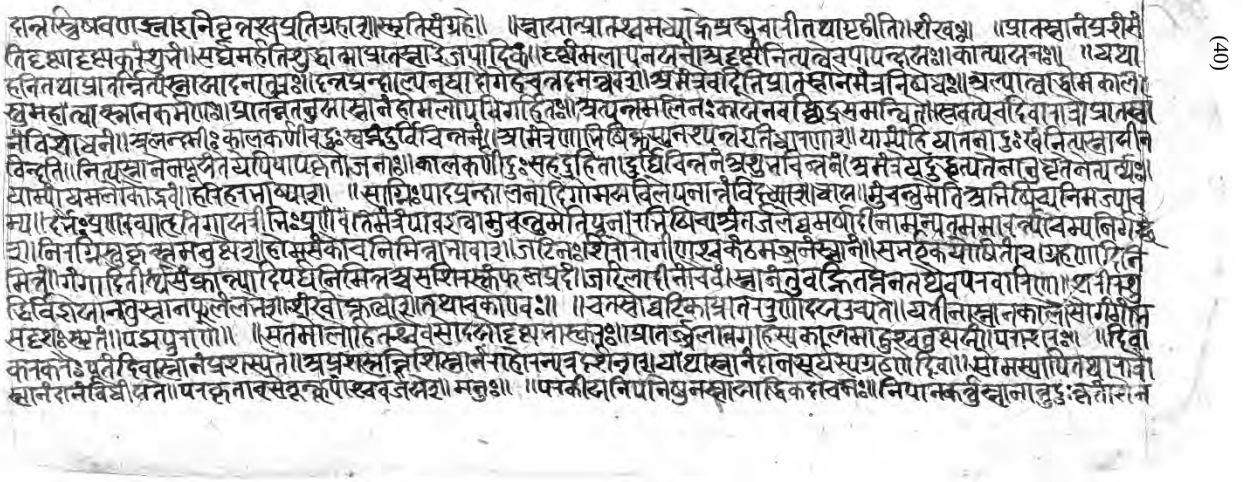
9r



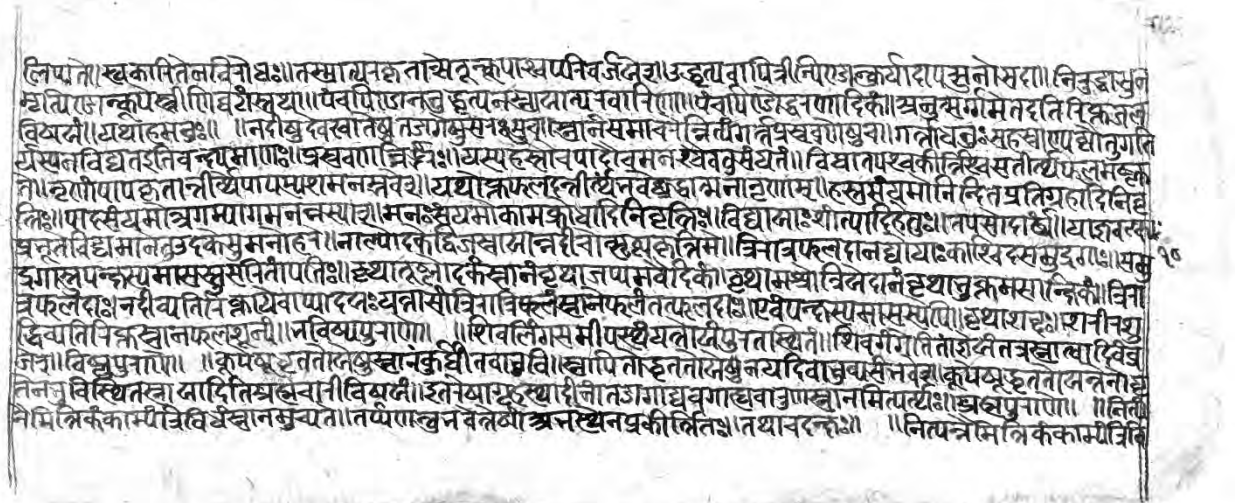
9v



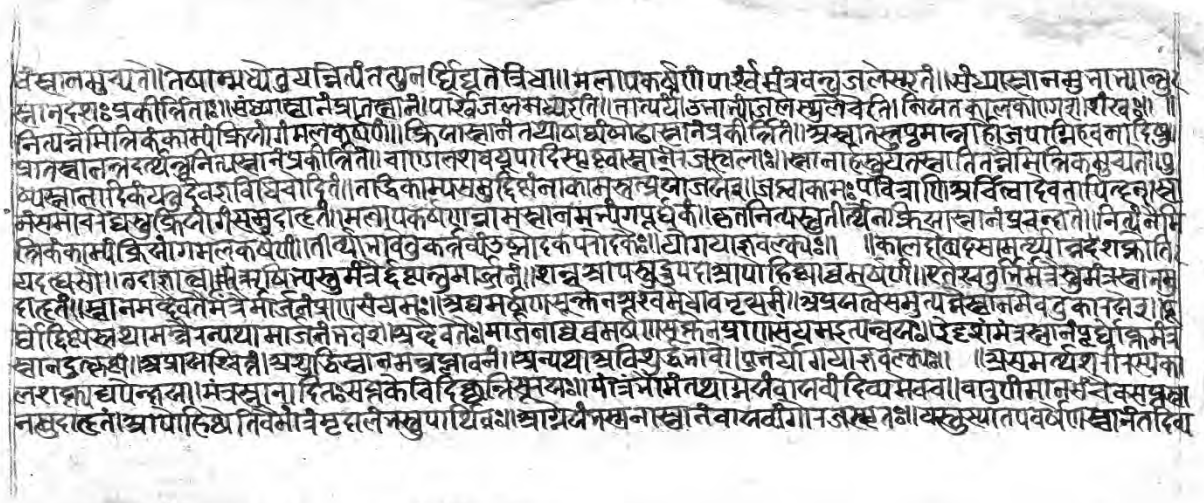
10r



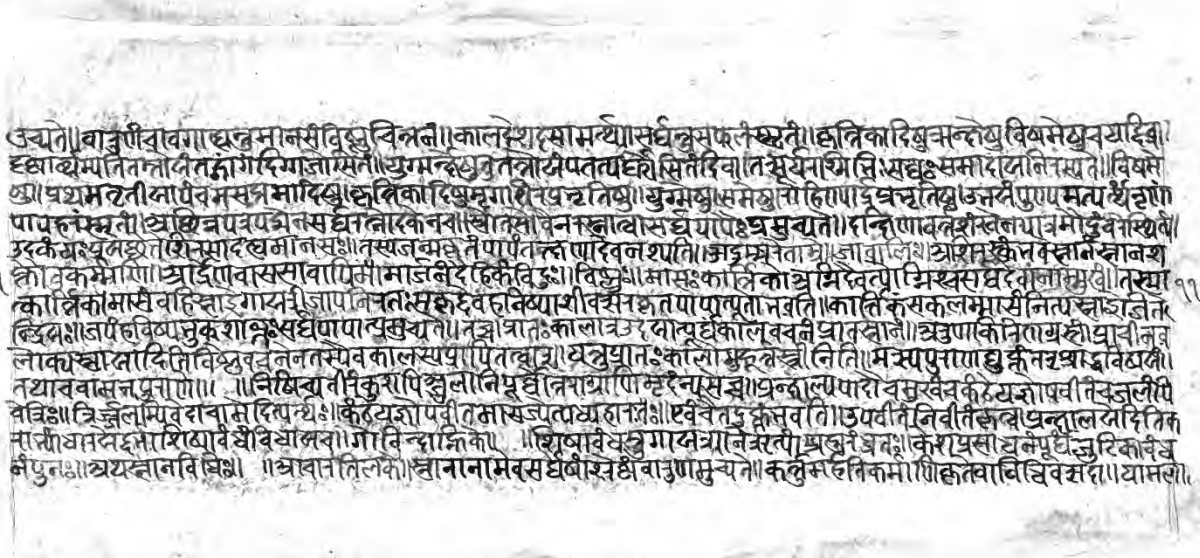
10v



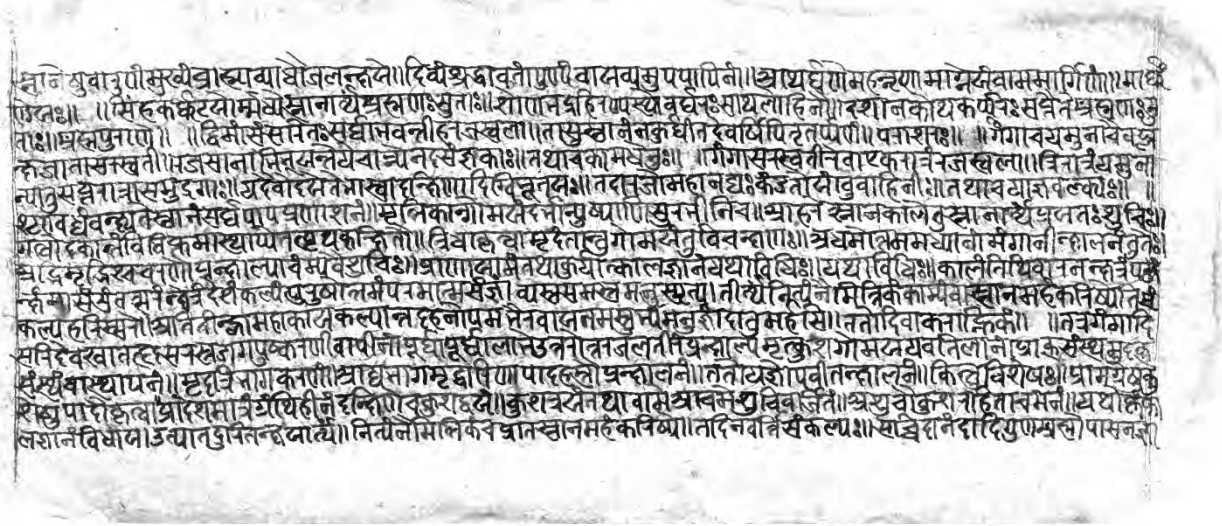
11r



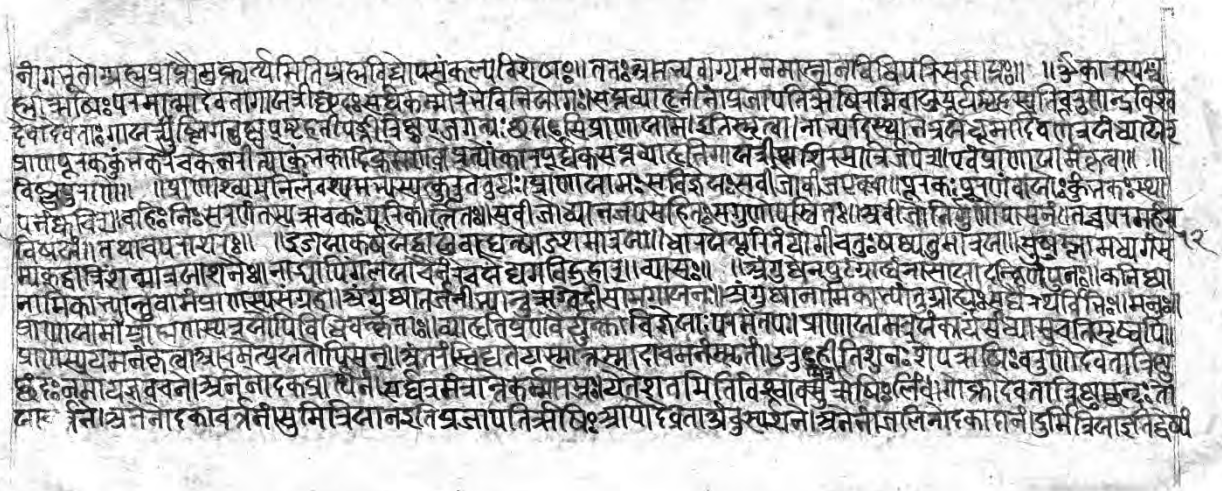
11v

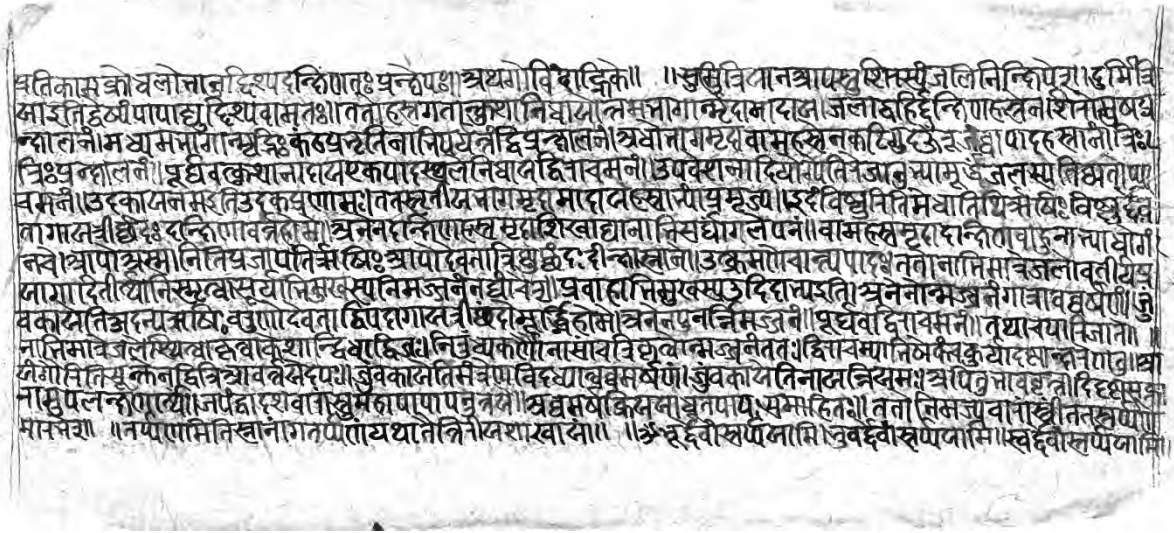


12r



12v

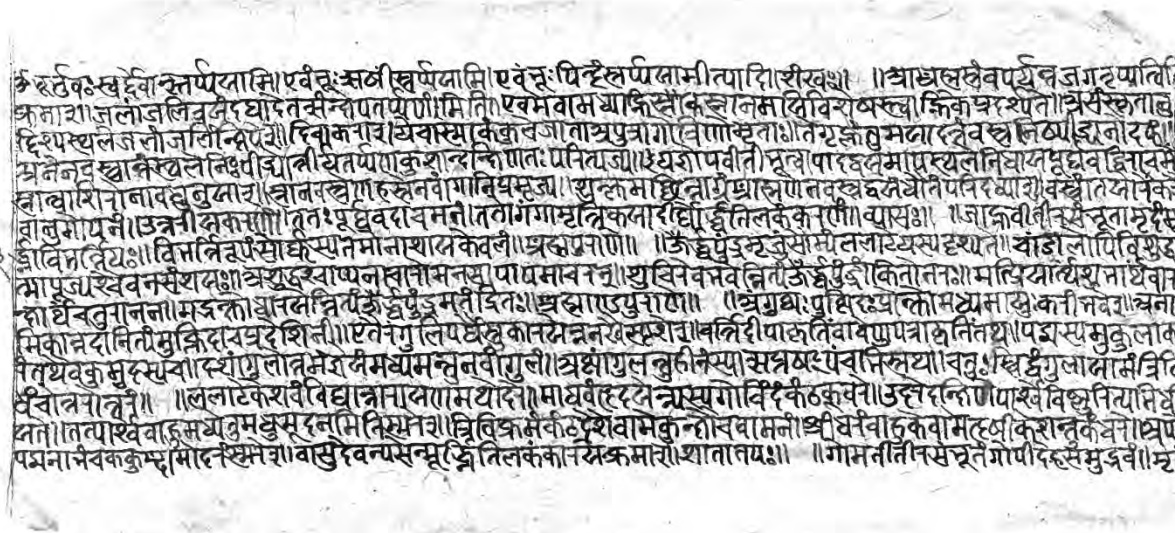




13r

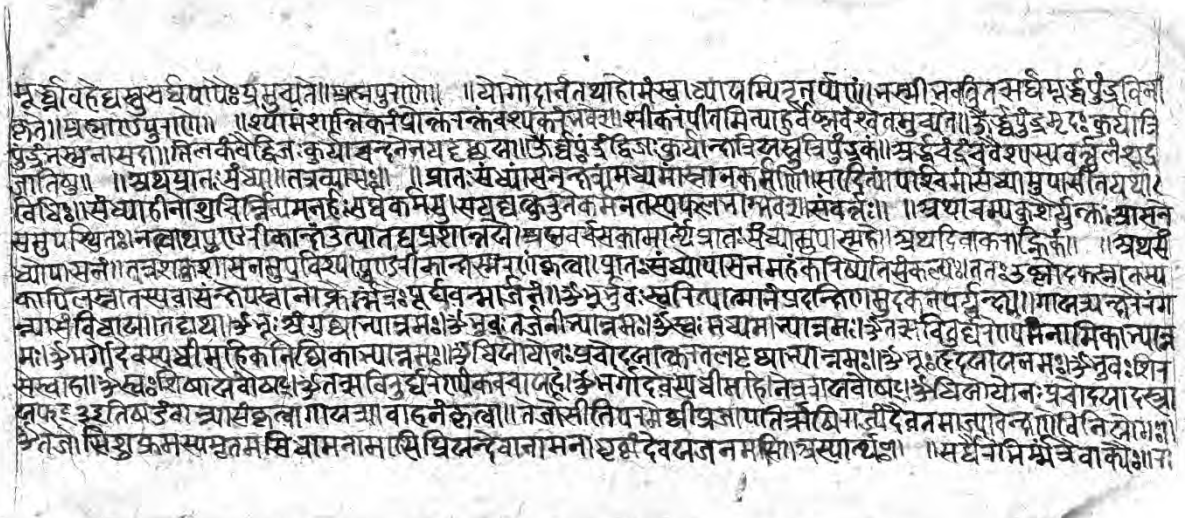
सतिकासत्कोवलोत्तानद्विस्पदन्दिणतुष्प्रन्तेपथः। अयगोविदादिकेः॥ ॥सुसुत्रिवानआपस्तुशिमस्तुजलिनिन्दिपूरा। दुर्मित्र
जाइतिद्वब्धीपापाद्युद्विस्पदामतःश्री। ततोहस्तगतात्तुयानिधायात्मसमागान्तदाभदाज। जलावहिर्दिन्दिणहस्तेनशिनास्युबध
न्धालनौ। मध्यमभागान्मृद्धिः कंठपर्यन्तेनानिपयन्तीद्विप्रन्दालनौ। अधोनागमद्य वामहस्तेनकटिमुद्वेऊरू तथा पादहस्तानौ। त्रिः
त्रिःप्रन्दालनौ। पूर्ववत्कुशानादायएकपादस्थलनिधायदिनावमनौ। उपवेशनादियापतिजानुत्यामूर्द्धं जलस्यनिक्षेता। प्रा
वमनौ। उदकासनमइतिउदकस्पृणामः। ततस्तृतीयनागमृदमादायहस्तेनाप्रमृज्य। इदंविष्णुरितिमेयातिपित्रेविः विष्णुर्देव
तागायत्रीछंदःदन्दिणावत्रेतामा। अनेनदन्दिणहस्तमृदाशिखाद्यानातिसर्वागलेपनं। वामहस्तमृदादन्दिणवाहुनात्पायोगी
त्वे। आपोअस्मानितियजापतिऋषिः आपोदेवतात्रिष्टुछंदःदीन्दास्नाने। उत्क्रमणोवान्तपादश्चततोनाभिमात्रेजलावतीर्य
जागादितीर्थानिस्मृत्वासूर्यानिमुखस्यानिमज्जनेनद्यावत्रो। प्रवाहात्मिमुखस्यउदित्यादितु। अनेनोन्मज्जनेगात्रावघर्षणी। जु
वकायेतिअघमर्षणऋषिः वरुणोदेवताछिपदागायत्रीछंदोमूर्द्धिहोमे। अनेनपुनर्निमज्जनं। पूर्ववद्विनावमनं। तथात्रयानिजानं॥
नाभिमात्रेजलेस्थित्वाहत्वाकुशान्द्विवाहित्वः निपुणकर्णौनासावविद्धत्वान्मज्जनेततः। द्विावमनानिअक्षतकुर्यादस्मान्देननापु। ध्या
नीमानितिसूक्तेनद्विचित्रेऋषावत्तेदपः। ध्रुवकायेतिमेवेणविदध्यातुघमर्षणं। ध्रुवकायेतिनाद्यन्निदमः। अपितुनावद्गन्तो। दिद्वसमन्
नासुपलन्दणार्थो। जपेद्दाद्दशवारांस्तुमहापापापनुत्तये। अघमर्षणकिन्नात्रपापः प्रभाहितः। ततोनिमज्जयवानांस्त्रीनत्तस्तर्पयेत्
मानसेः॥ ॥तर्पणामितिस्नानांगतर्पणंयथातेन्नितीयशाखादां॥ ॥ॐ भूर्देवांस्तर्पयामि। भुवर्देवांस्तर्पयामि। स्वर्देवांस्तर्पयामि।

13v

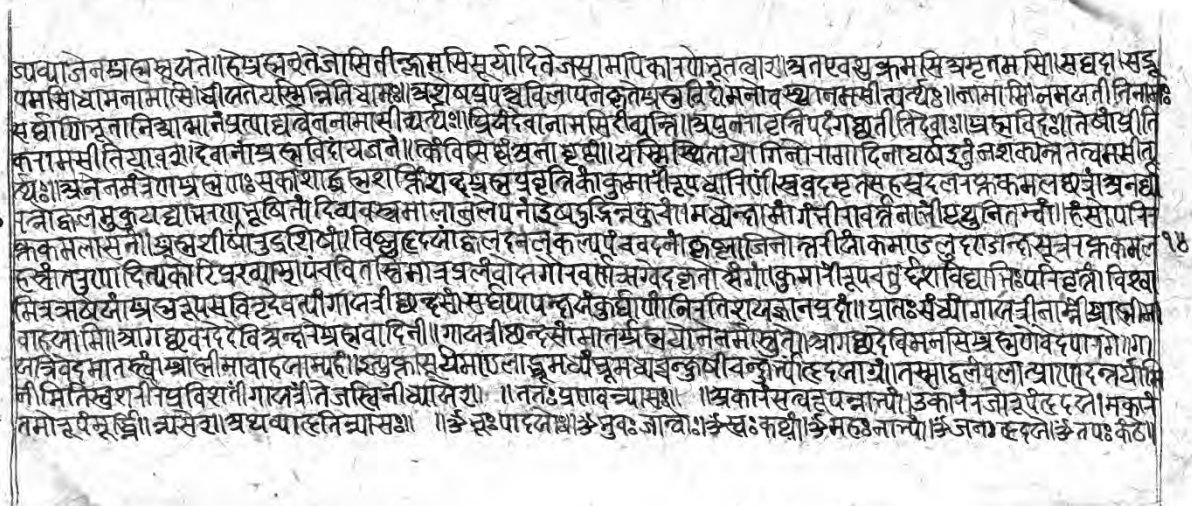


ॐ भूर्भुवःस्वर्देवांस्तर्पयामि। एवंभूःसर्वांस्तर्पयामि। एवंभूःपितृंस्तर्पयामीत्यादिशीरवः॥ ॥आब्रह्मस्तंबपर्यन्तंजगत्तृप्यतिति
क्रमाः। जलांजलित्रयंदद्यादेतस्मिन्नेपतर्पणमिति। एवमवामयाज्ञिकोक्तस्नानमादिविशेषस्त्वाक्रिकप्रदर्श्यते। असंस्कृताद्व
द्विस्पस्थलेजलोजलिर्निन्दिपेत्। दिवाकरायेवास्माकेकुलजाताअपुत्रागोत्रिणोमृताः। तेगृह्णंतुमयादत्तंवस्त्रनिष्पीडनोदकं॥
अनेनवस्त्रंस्थलेनिःपीड्यात्रीयतर्पणंकुशान्दिणातः पवित्रजपात्। यज्ञोपवीती भूत्वापादद्वयमा। प्रस्थलेनिधायपूर्ववद्द्विरावमेत्
स्नात्वाशिरोनाववधूनुयात्। स्नानवस्त्रेणहस्तेनवागात्राणिप्रमृज्य। शुक्लमाच्छिन्नाग्रंधारयेणनवस्त्रद्वयेनैपनिदध्यात्। वस्त्रंतयोनेकल
वालुकोयमं। उक्तंदीक्षकतः। ततःपूर्ववदावमनं। ततोगंगामृत्तिकयादीर्घोर्ध्वतिलकंकारयेत्। व्यासः॥ ॥जाह्नवीतीरसंभूतांमृदंमू
१३ र्ध्नाविभर्त्तियः। विभर्तिरूपंसोर्कस्यतमोनाशायकेवलं। ब्रह्मपुराणे॥ ॥ऊर्द्ध्वपुंड्रंमृजुंसौम्यंललाटेयस्यदृश्यते। चांडालोपिविशुद्ध
त्मापूजार्हश्चवनसंशयः। अशुद्धस्वाप्यनस्नानोमनसापापमावरन्। शुचिरेवभवेन्नित्यमूर्द्धपुंड्रांकितो नरः। मत्तिकायाश्चनाथवान १३
न्हाथवतुनानरः। मज्जन्कोयानदेव्रितयंऊर्द्ध्वपुंड्रमतीदितः। ब्रह्माण्डपुराणे॥ ॥अंगुष्ठःपुष्टिदःप्रोक्तोमध्यमायुष्करीभवेत्। अनाम
मिकान्नदानित्यमुक्तिदावप्रदेशिनी। एतेरंगुलिपर्यतैःकुर्यान्नतुनखस्पृशा। वर्त्तिदीपाकृतिंवापिवेणुपत्राकृतिंतथा। पद्मस्यमुकुलाका
रंतथैवकुमुदस्यवा। दशांगुलोत्तमःप्रोक्तोमध्यमस्तुनवांगुलः। अष्टांगुलस्तुनीस्यात्सप्तषट्पंचभिस्तथा। चतुःस्त्रिद्वयंगुलादानंत्रिवि
धीवात्रयानृषां॥ ॥ललाटेकेशवंविद्यान्नारायणमथोदरे। माधवंहृदयेन्यस्यगोविंदंकंठकूपके। उदरेदन्दिणेपार्श्वेविष्णुंनित्यंनिवे
शयेत्। तत्पार्श्वेबाहुमध्येतुमधुसूदनमित्यनुस्मरेत्। त्रिविक्रमंकर्णदेशेवामेकुक्षौतुवामनं। श्रीधरंवाहुकेवामेहृषीकेशंतुकंधरे। अप
पद्मनाभंचकट्मुन्दामोदरंस्मरेत्। वासुदेवन्यसन्मूर्ध्नितिलकंकारयेत्क्रमात्। शातातपः॥ ॥गोमतीतीरसंभूतं गोपीचंदनसमुद्भवं। मृद

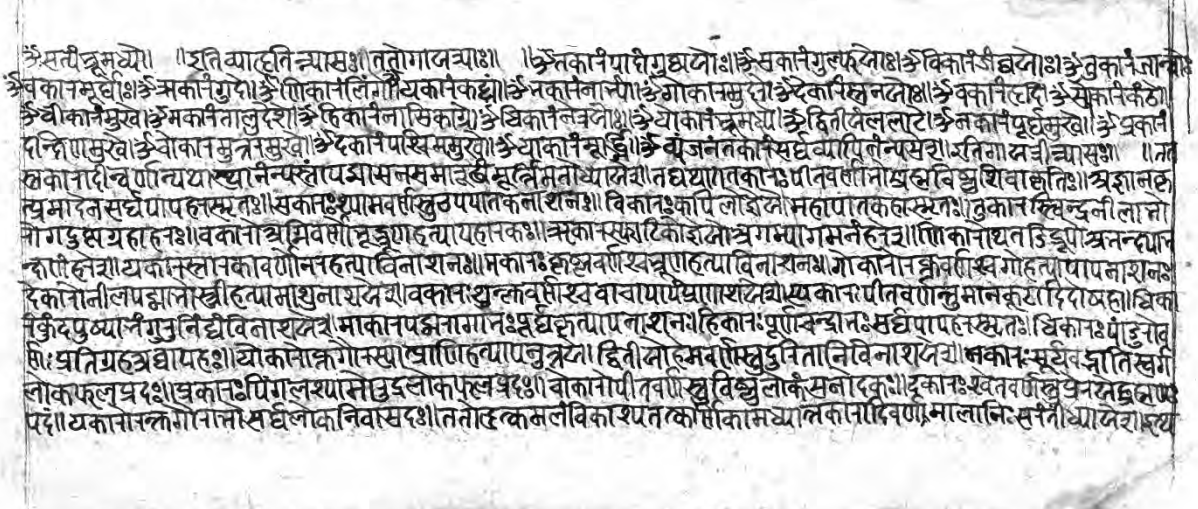
14r



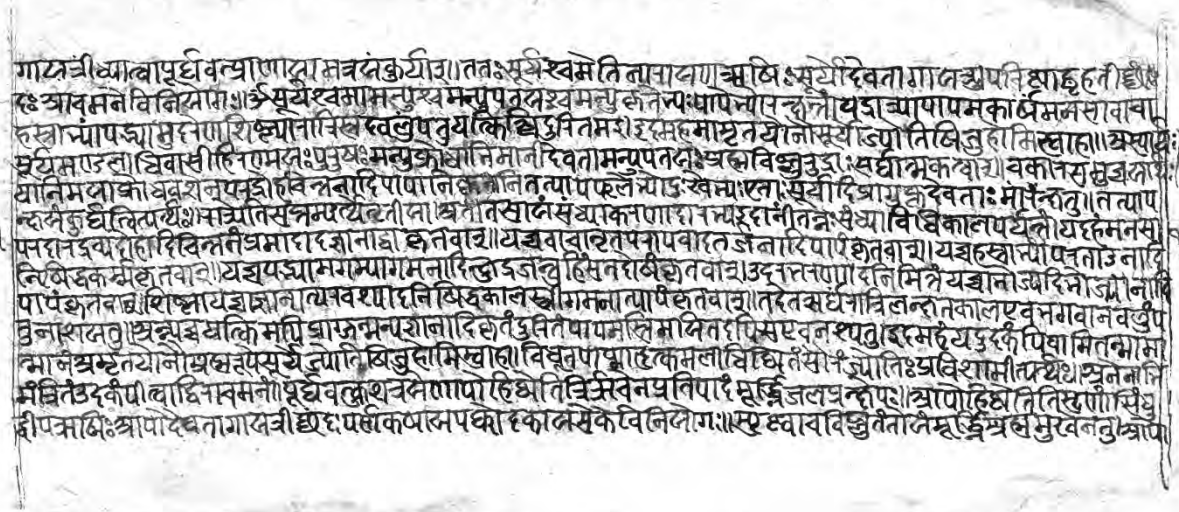
14v



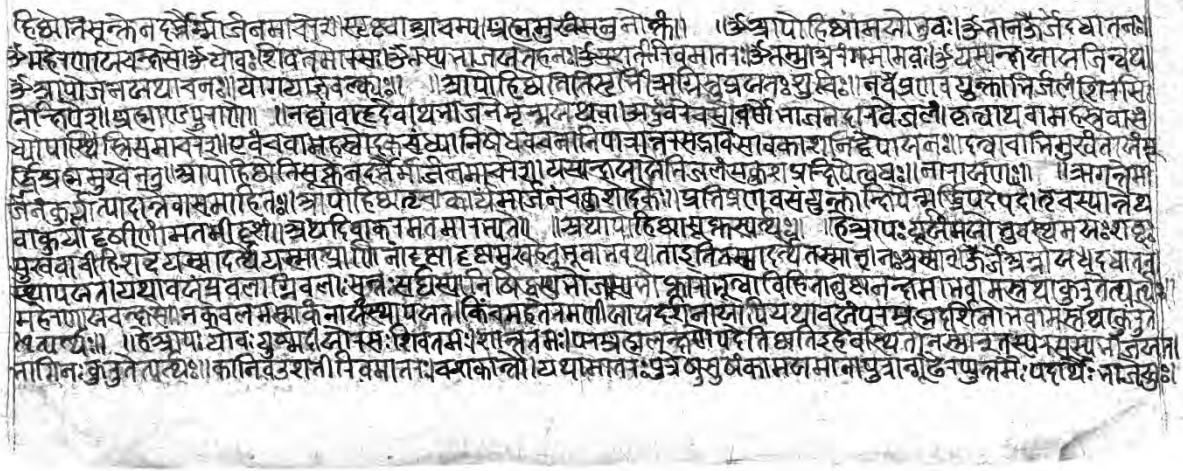
15r



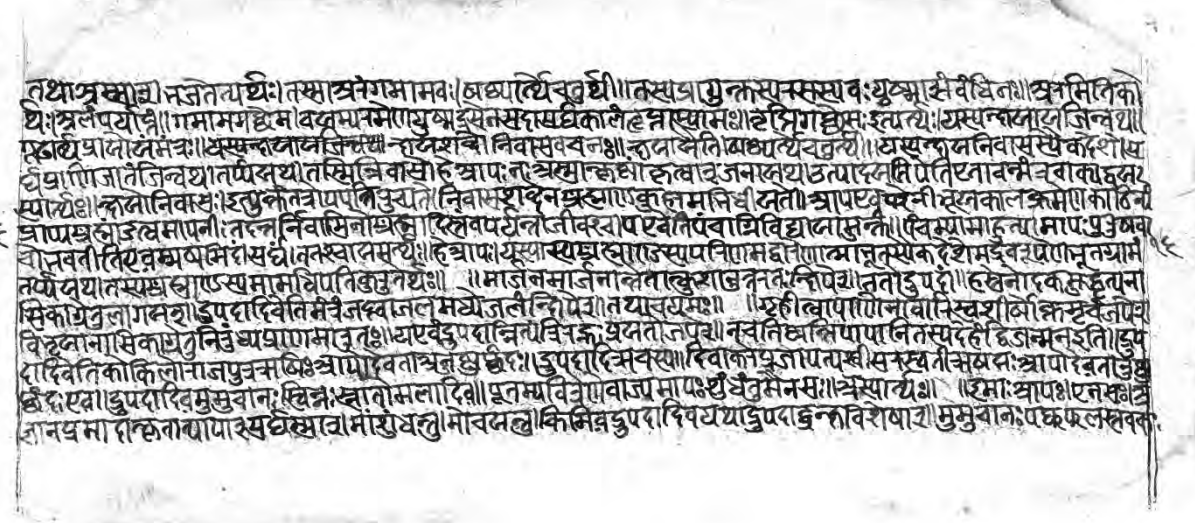
15v



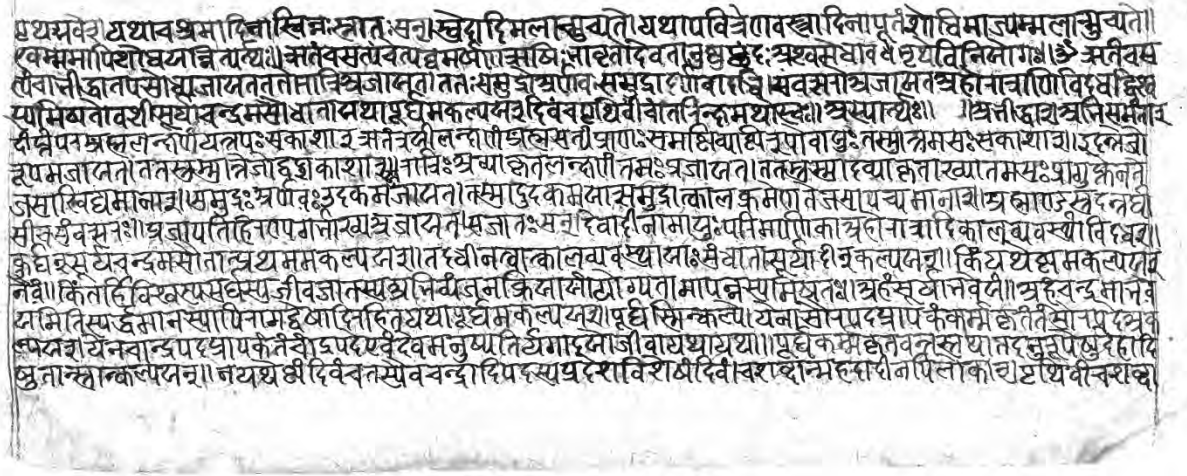
16r



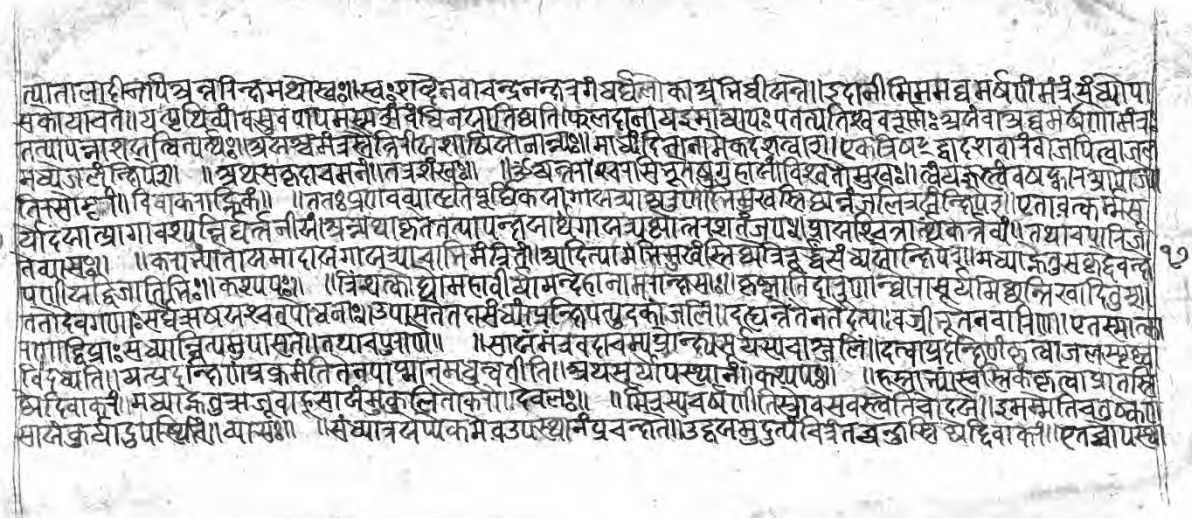
16v



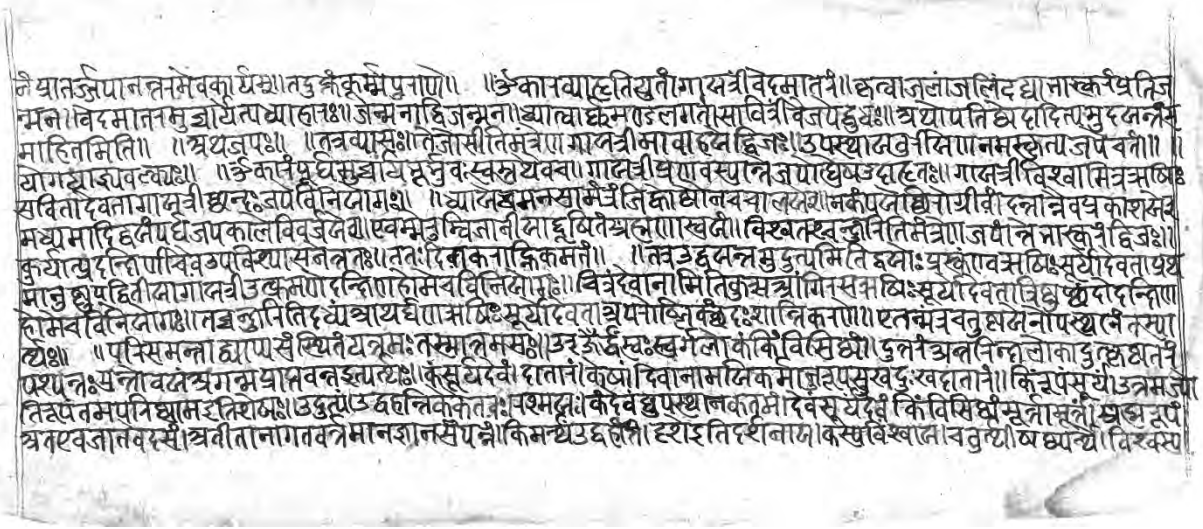
17r



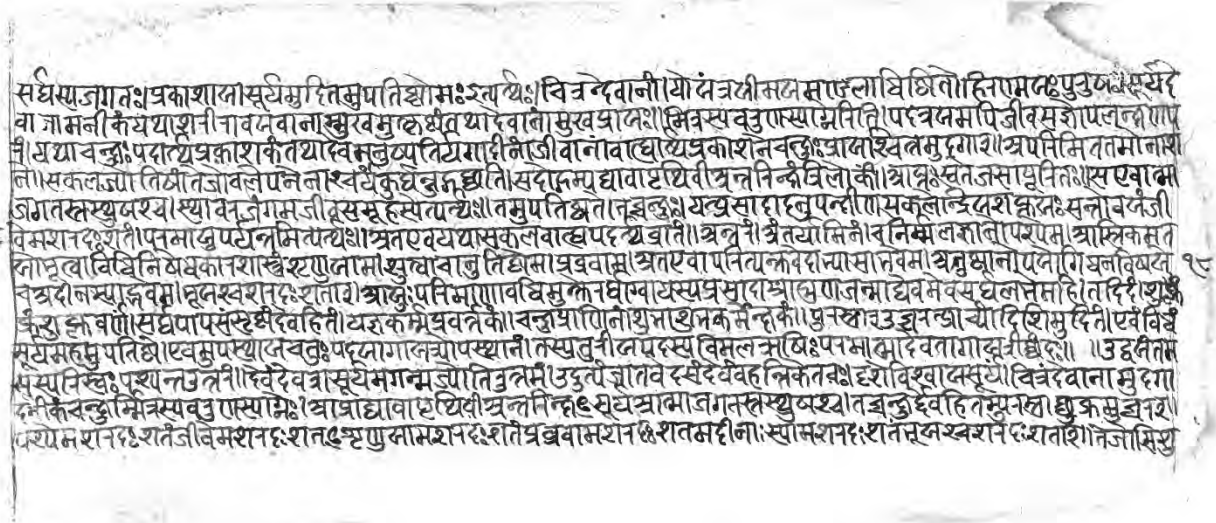
17v



18r



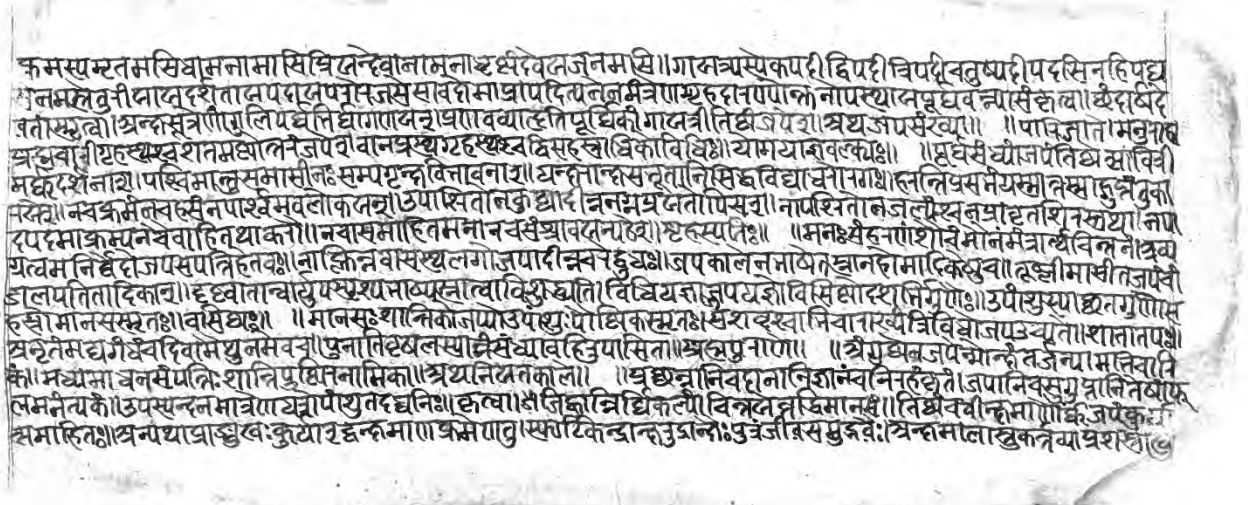
18v



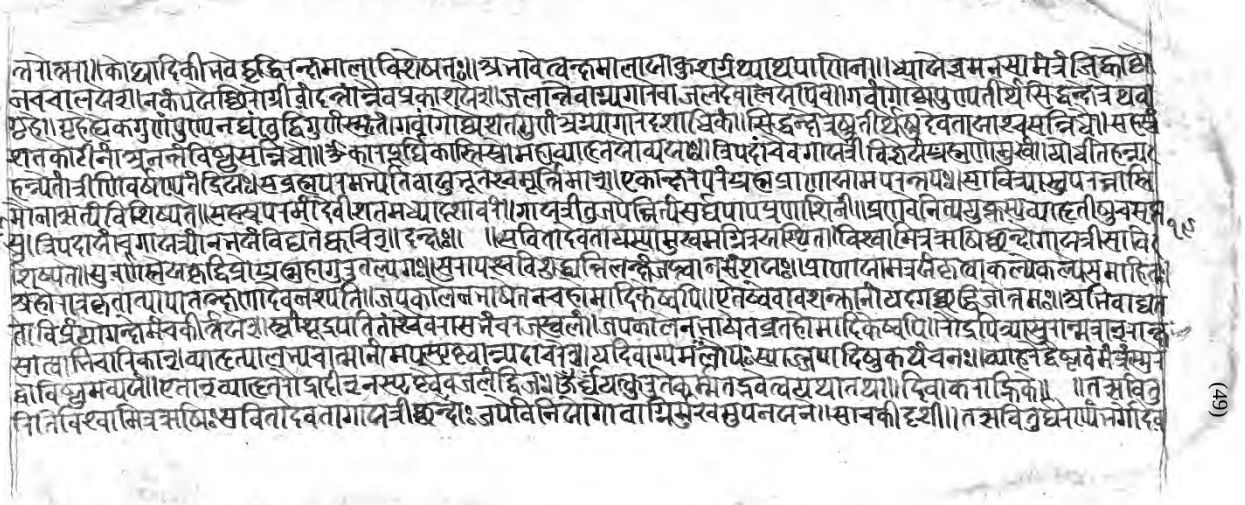
19r

कमस्यमृतमसिवाममनामासिप्रियं देवानामनाधृष्टं देवयजनमसि॥ गायत्र्यस्येकपदी द्विपदी त्रिपदी चतुष्पद्यपदसि नहि पद्य
से नमस्ते तुरीयाय दर्शताय पदाय परोरजसेऽसावदो मा प्रापदिति जन्मन्त्रेण श्रद्दानपाणिनोपस्थाय पूर्ववन्न्यासं कृत्वा छेदर्षिदे
वतां स्मृत्वा॥ अन्यसूत्रेणांगुलिपर्वभिर्जपगणनं प्रणवव्याहृतिपूर्विकां गायत्रीं त्रिर्जपेत्॥ अथ जपसंख्या॥ ॥पारिजाते॥ मनुः॥
ब्रह्मचारी गृहस्थश्च शतमष्टोत्तरं जपेत्। वानप्रस्थो गृहस्थश्च द्विसहस्राधिकां विदुः॥ याज्ञवल्क्यः॥ ॥पूर्वसंध्यां जपंस्तिष्ठेत्सावित्री
मर्कदर्शनात्। पश्चिमां तु समासीनः सम्यगृक्षविभावनात्॥ छन्दांस्यनृतानि सिद्धविद्या वा नरः॥ सन्निधिः सन्नेयस्मात्तस्मात्कुर्वीत बुका
मस्तः॥ न चक्रमेन्न हसेन्न पार्श्वमवलोकयेत्॥ उपाश्रितो न कुर्याच्च न जल्पेन्न प्रजल्पयेत्॥ नापश्रितो न जल्पेत न प्रावृतशिरास्तथा॥ न पा
दं पादेनाक्रम्य न चैव हि तथा करौ॥ न चासमाहितमना न च संश्रावयन् जपेत्॥ स्मृत्यन्तरे॥ ॥मनःसंहरणं शौचं मौनं मन्त्रार्थचिन्तनम्॥ अव्य
ग्रत्वमनिर्वेदो जपसम्पत्तिहेतवः॥ नाक्लिन्नवासः स्थलगो जपादीन्नवरे कुर्यात्॥ जपकाले न भाषेत स्नानहोमादिकेषु वा॥ तूष्णीमासीत जपे वै
चाण्डालपतितादिकान्॥ दृष्ट्वा तान्वायुमुपस्पृश्य सम्भाष्य स्नात्वा विशुध्यति॥ विधियज्ञाज्जपयज्ञो विशिष्टो दशभिर्गुणैः॥ उपांशुः स्याच्छतगुणः स
हस्रो मानसः स्मृतः॥ वासिष्ठः॥ ॥मानसः शान्तिको जप्य उपांशुः पौष्टिकः स्मृतः॥ सशब्दस्त्वाभिचारार्थं त्रिविधो जप उच्यते॥ शातातपः॥
अनृतं मद्यगन्धं च दिवा मैथुनमेव च॥ पुनाति वृषलस्यान्नं संध्या बहिरुपासिता॥ अत्रिपुराणे॥ ॥अंगुष्ठेन जपेन्मोक्षं तर्जन्या मन्त्रवाचि
कं॥ मध्यमा धनसंपत्तिः शान्तिपुष्टिरनामिका॥ अथ नियतकाल॥ ॥पृथ्वीचन्द्रो निवर्धनानि शान्त्यै वा निनक्तं कृते॥ जपानि वसुमुद्रानि ते बाफ
लमनैत्यके॥ उपस्पन्दनमात्रेण यज्ञोपवीतदक्षिणः॥ कृत्वा॥ तिस्रो अग्निर्विविक्तलो विन्यसेन्मुद्रिमानसः॥ तिष्ठेच्च चान्द्रमा॥ ॥कं जपेत्कु
समाहितः॥ अन्यथा प्राङ्मुखः कुर्याद्रुद्राक्षमाला॥ पवित्रः स्फाटिकैर्दाद्रुद्राक्षैः पुत्रंजीवसमुद्भवैः॥ अक्षमाला तु कर्तव्या प्रशस्ता

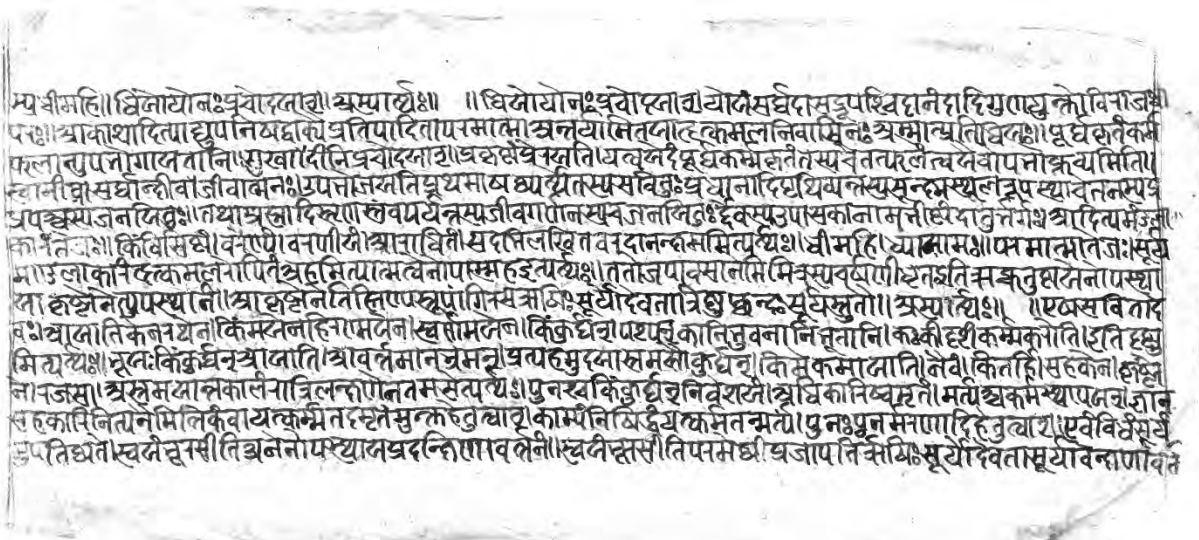
19v



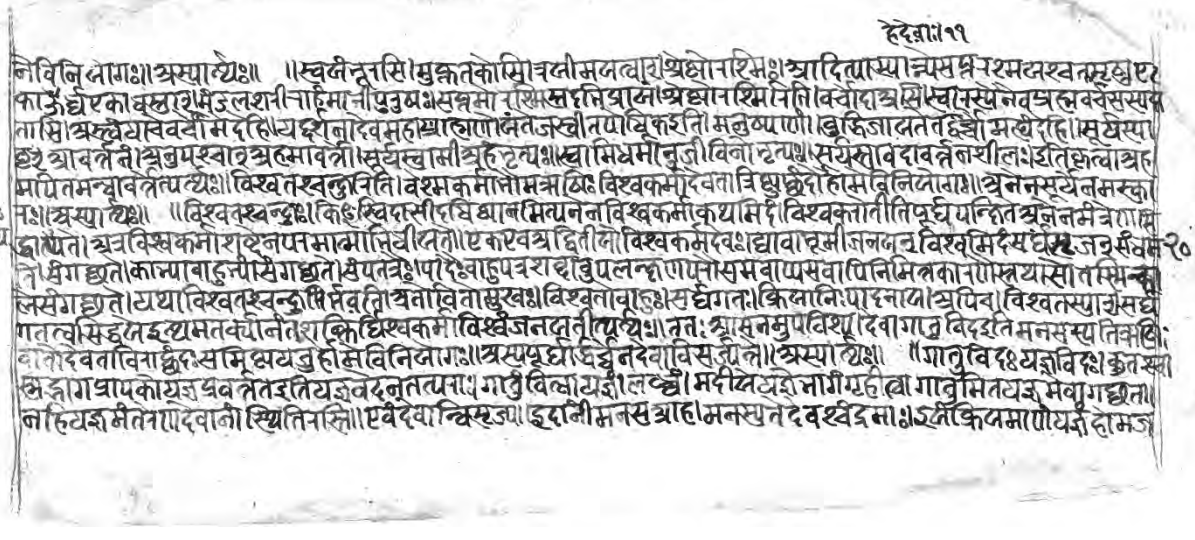
लोत्तमा॥ काष्ठादिकीर्न वृद्धिश्चन्द्रमाला विशेषतः॥ अभावे त्वक्षमालाया कुशग्रन्थ्याथ पाणिना॥ ध्यायेच्च मनसा मन्त्रं जिह्वोष्ठौ
न चालयेत्॥ न कंपयेच्छिरोग्रीवां दन्तान्नैव प्रकाशयेत्॥ जलान्ते वाग्न्यगारे वा जलदेवालयेऽपि वा॥ गवां गोष्ठेषु पुण्यतीर्थे सिद्धक्षेत्रे ग्रहे
गृहे॥ गृहे चैकगुणं पुण्यं नद्यां तु द्विगुणं स्मृतं॥ गवां गोष्ठे शतगुणं अग्न्यागारे दशाधिकं॥ सिद्धक्षेत्रेषु तीर्थेषु देवतायाश्च सन्निधौ॥ सहस्र
शतकोटीनामनन्तं विष्णुसन्निधौ॥ ॐकारपूर्विकास्तिस्रो महाव्याहृतयोऽव्ययाः॥ त्रिपदा चैव गायत्री विज्ञेयं ब्रह्मणो मुखं॥ यो धीतेऽहन्य
हन्येतां त्रीणि वर्षाण्यतन्द्रितः॥ स ब्रह्म परमभ्येति वायुभूतः खमूर्तिमान्॥ एकाक्षरं परं ब्रह्म प्राणायामः परं तपः॥ सावित्र्यास्तु परं नास्ति
१९ मौनात्सत्यं विशिष्यते॥ सहस्रपरमां देवीं शतमध्यां दशावरां॥ गायत्रीं तु जपेन्नित्यं सर्वपापप्रणाशिनीं॥ प्रणवं नित्ययुक्तस्य व्याहृतीषु च सप्त १९
सु॥ त्रिपदायां च गायत्र्यां न भयं विद्यते क्वचित्॥ दक्षः॥ ॥सविता देवता यस्या मुखमग्निस्तथैव च॥ विश्वामित्र ऋषिश्छन्दो गायत्री सा वि
शिष्यते॥ सुवर्णस्तेयकृद्विप्रो ब्रह्महा गुरुतल्पगः॥ सुरापश्च विशुध्यन्ति लक्षजप्यान्न संशयः॥ प्राणायामत्रयेणैवं कल्पकल्पसमाहितः॥
अशेषाभिहतात्पापात्तत्क्षणादेव नश्यति॥ जपकाले न भाषेत व्रतहोमादिकेष्वपि॥ एतेष्वेवावशक्तानीयदा गच्छेद्द्विजोत्तमः॥ अभिवाद्य
तो विप्रं योगक्षेमं च कीर्तयेत्॥ स्त्रीशूद्रपतितांश्चैव रासभं चैव न जल्पेत्॥ जपकाले न भाषेत व्रतहोमादिकेष्वपि॥ नोऽपि व्याससुतानमवाञ्छान्ध
सालात्रिवार्षिकान्॥ व्याहृत्यालभ्य चात्मानं मपस्पृश्य चान्यदाचरेत्॥ यदि वाग्यमलोपः स्याज्जपादिषु कथंचन॥ व्याहरेद्वैष्णवं मन्त्रं स्मरे
द्वा विष्णुमव्ययं॥ एतांश्च व्याहृतीः सादरेण तस्य हृदयं जलौ द्विजः॥ ॐ घ्येयक्तु तु तत् कृत्मतच्च चलयथा तथा॥ द्विवाकमाह्निके॥ ॥तत्सवितु
रिति विश्वामित्र ऋषिः सविता देवता गायत्री छन्दः जपे विनियोगो वाग्निमुखमुपनयने॥ सायं की दृशी॥ तत्सवितुर्वरेण्यं भर्गो देव



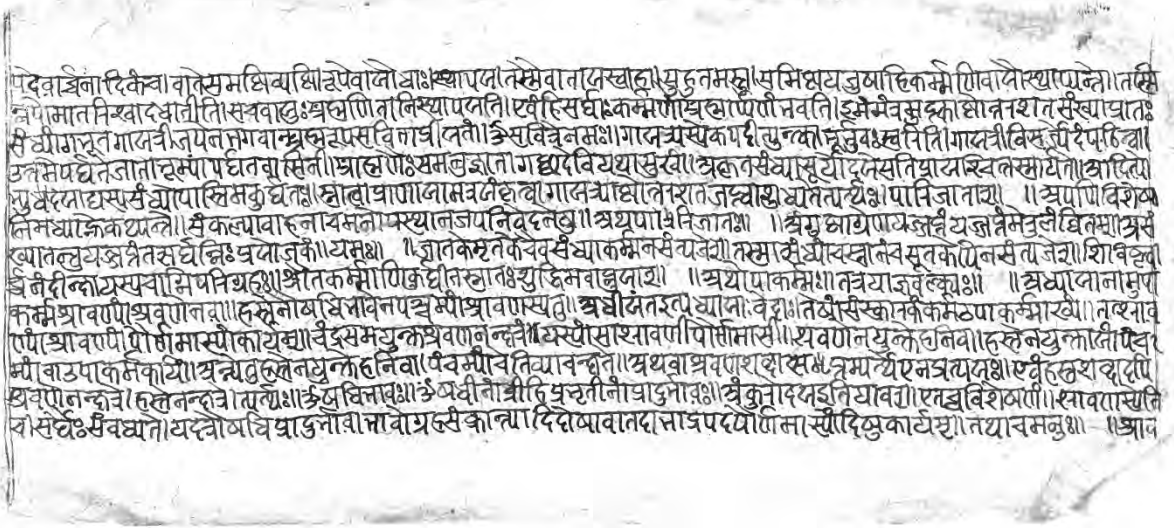
20r



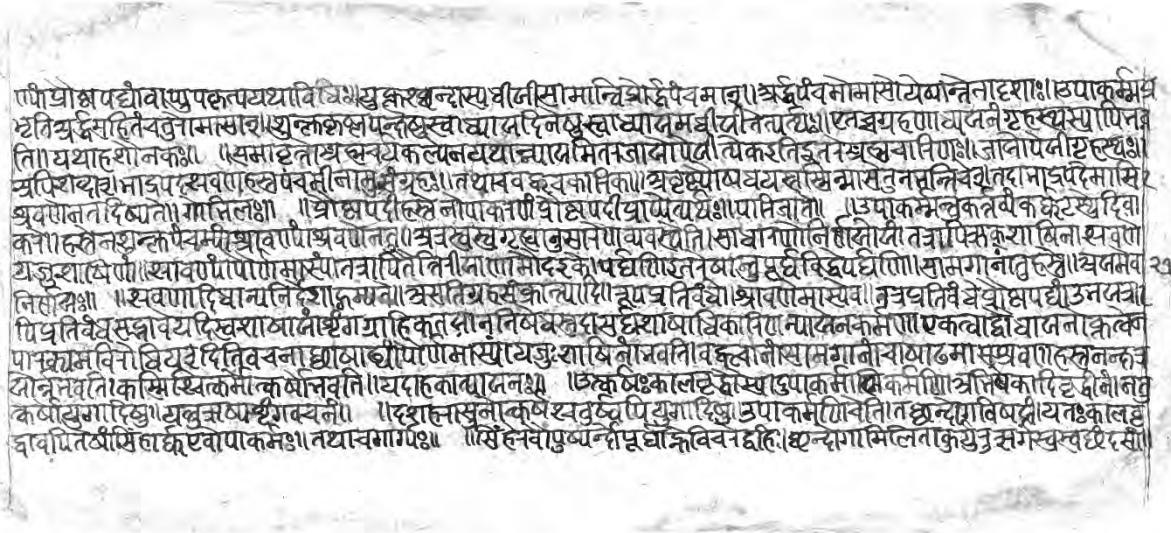
20v



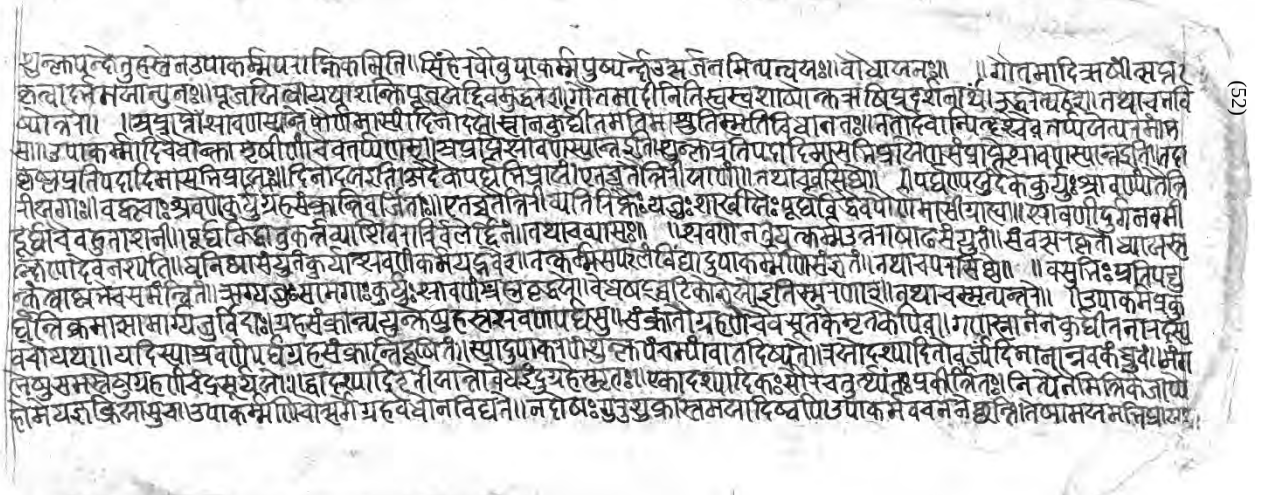
21r



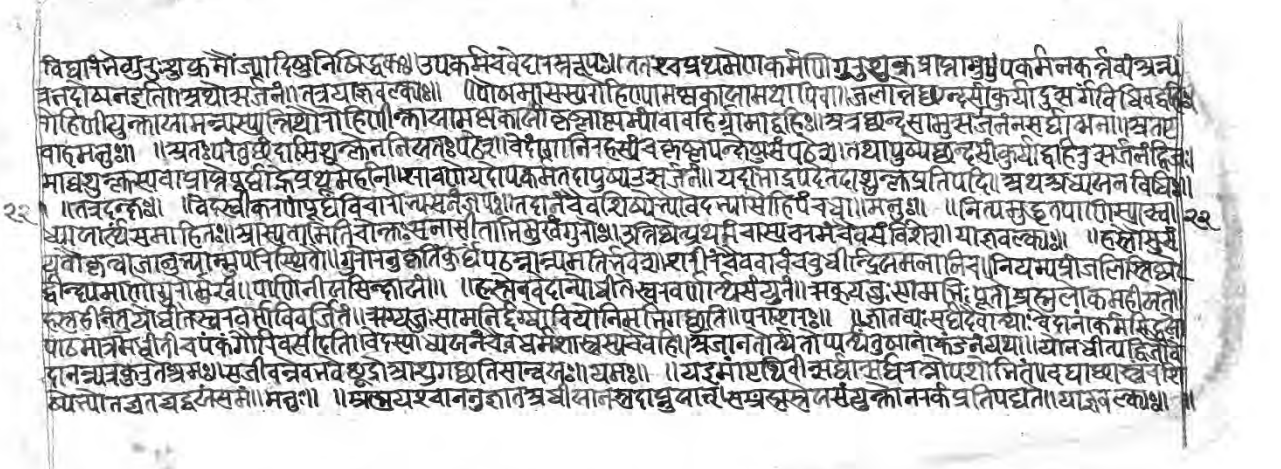
21v



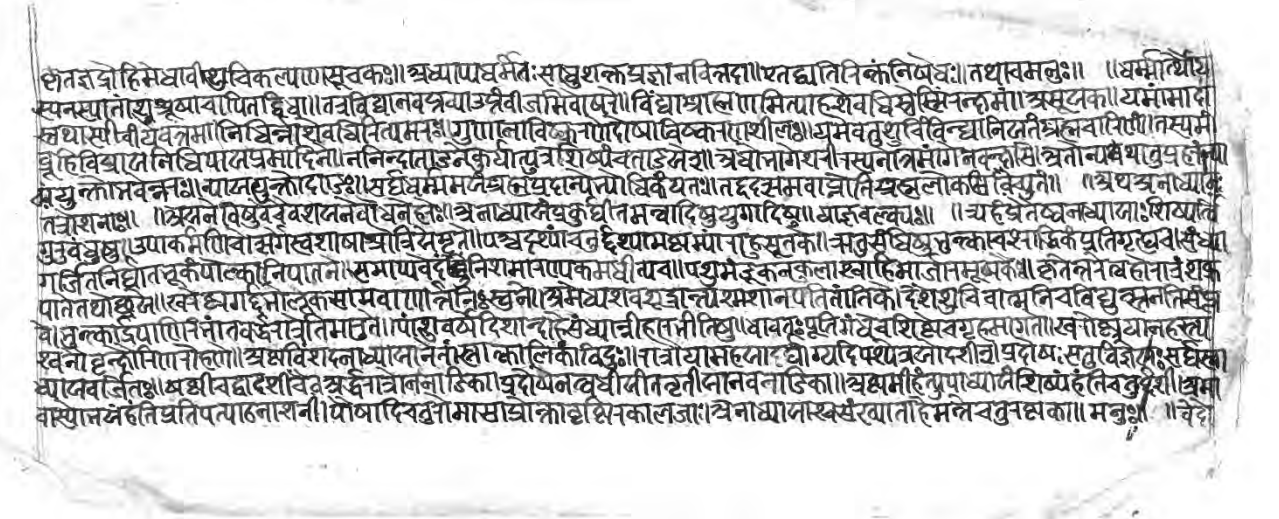
22r



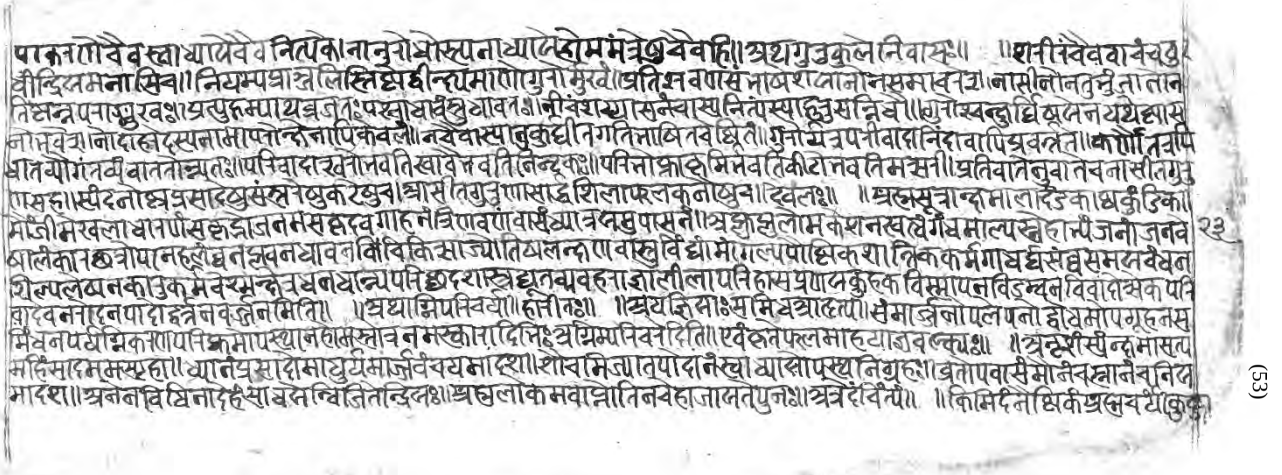
22v



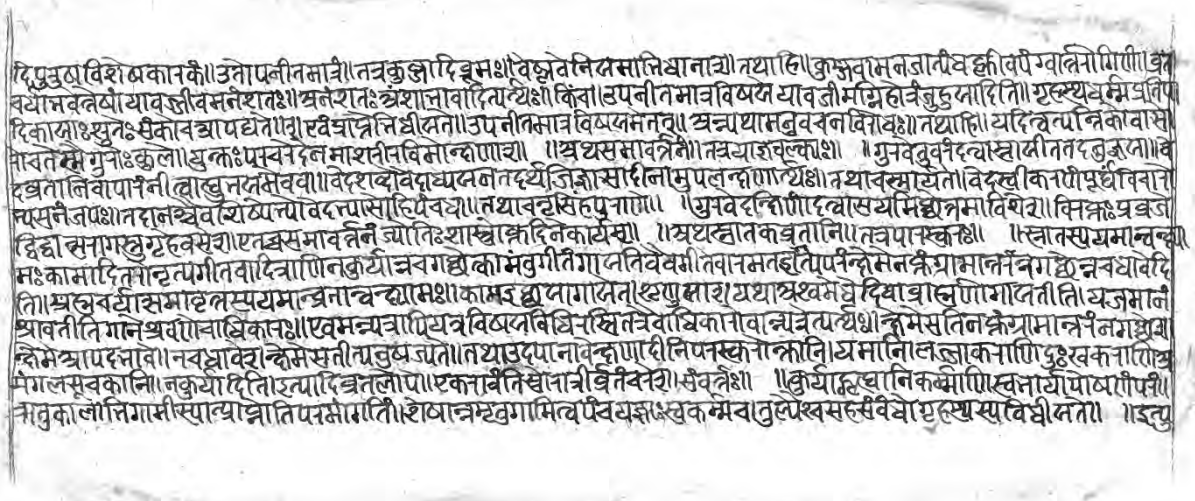
23r



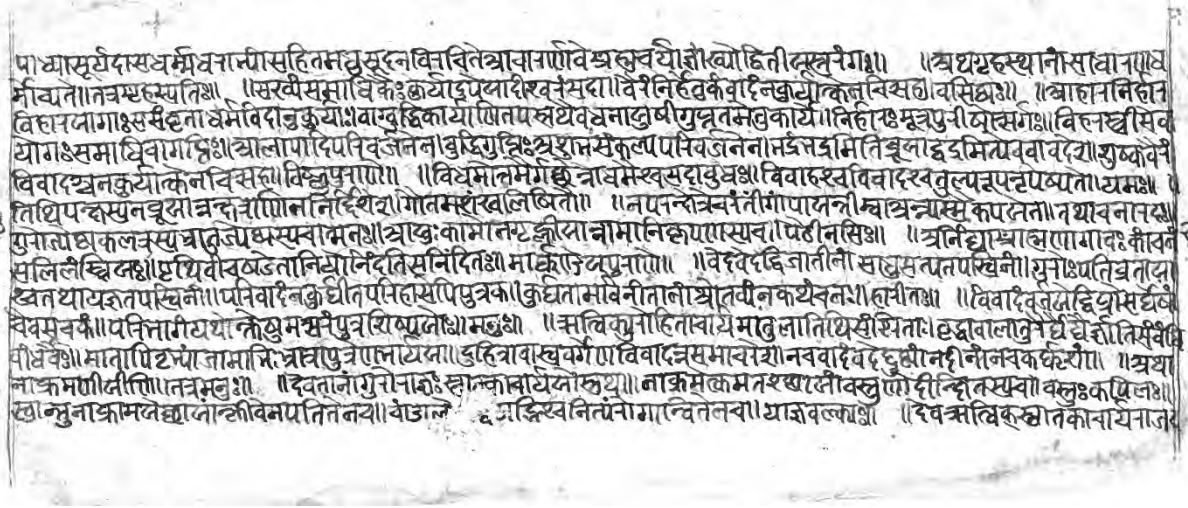
23v



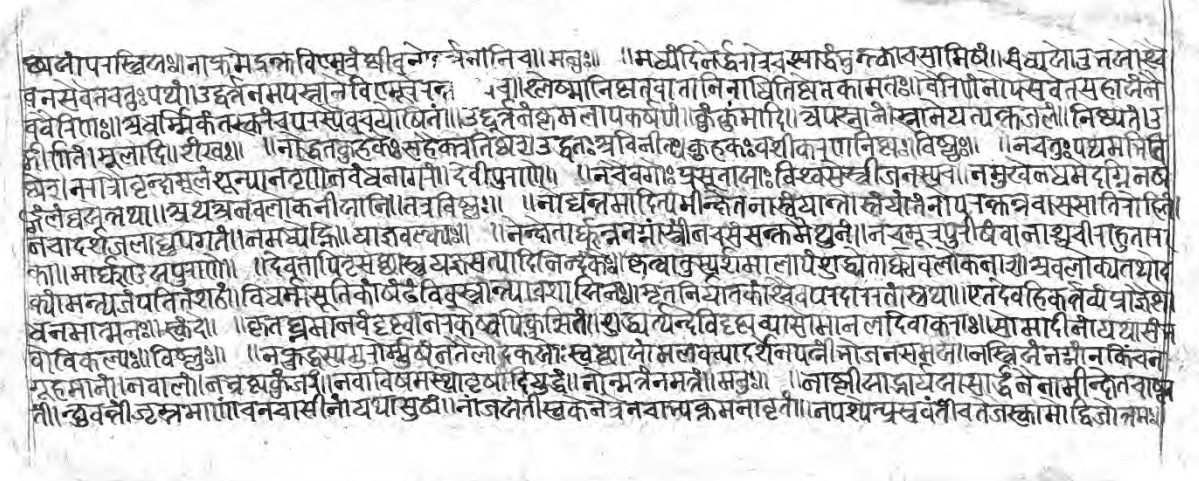
24r



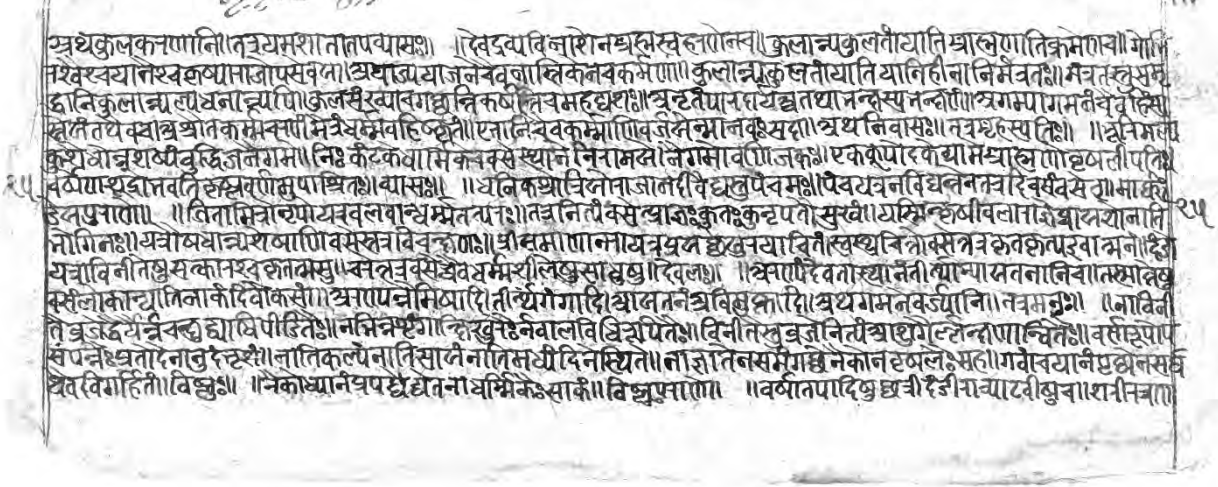
24v



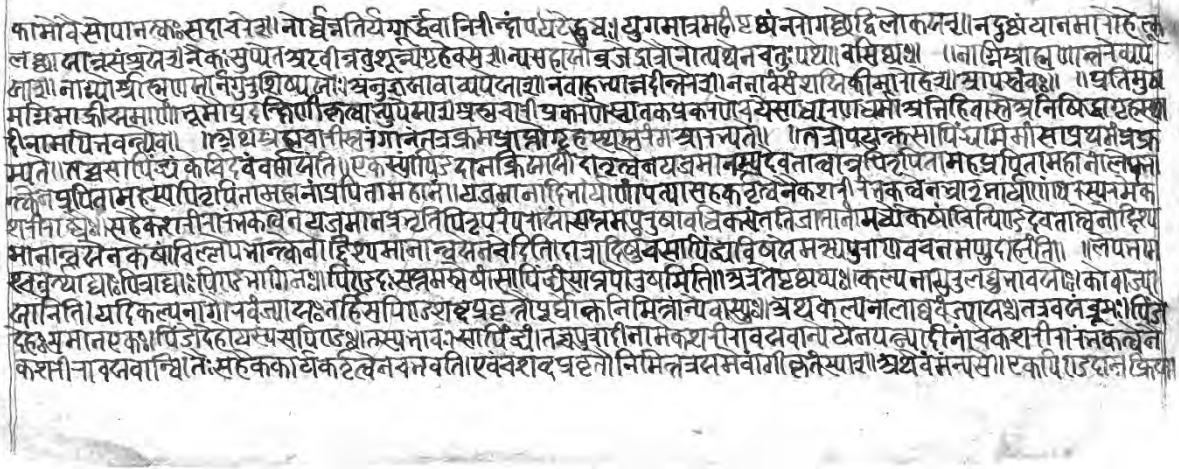
25r



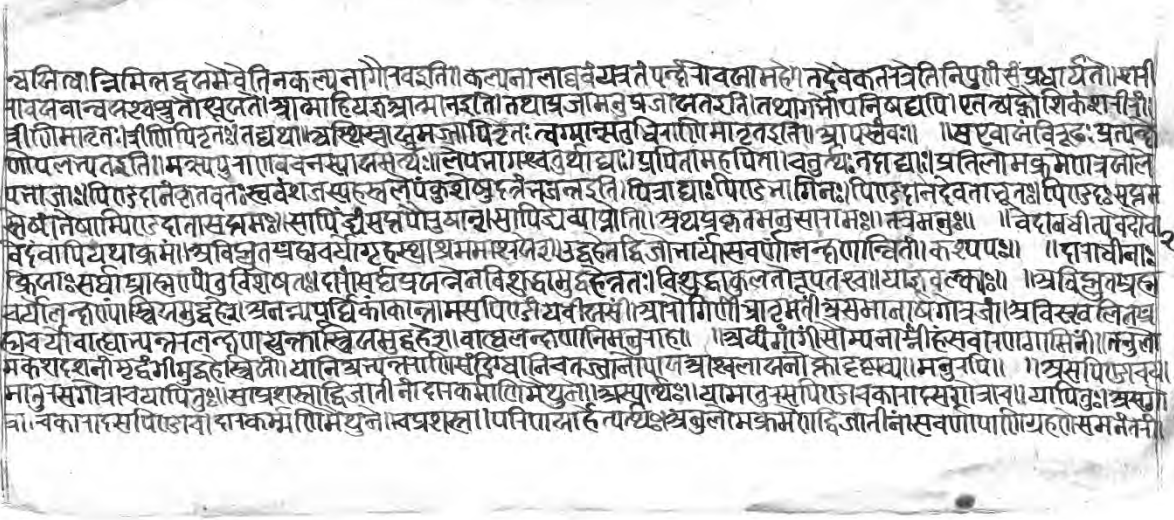
25v



26r



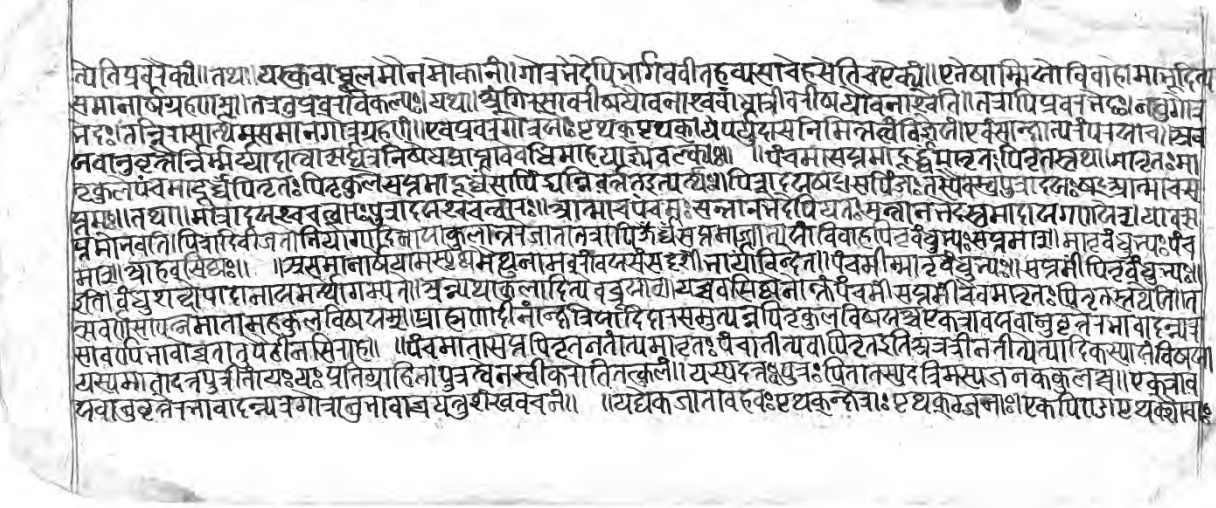
26v



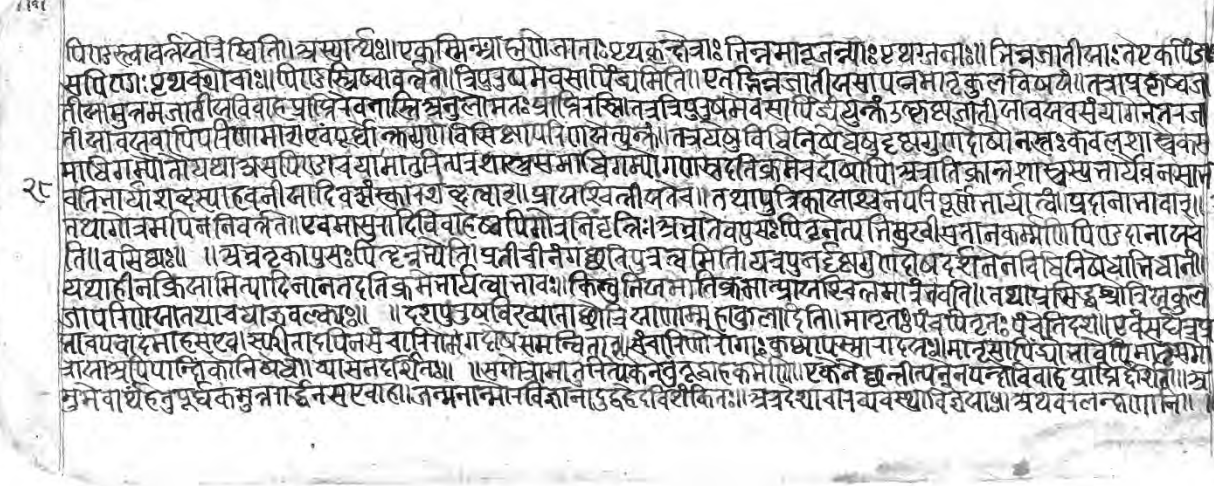
27r

27v

28r



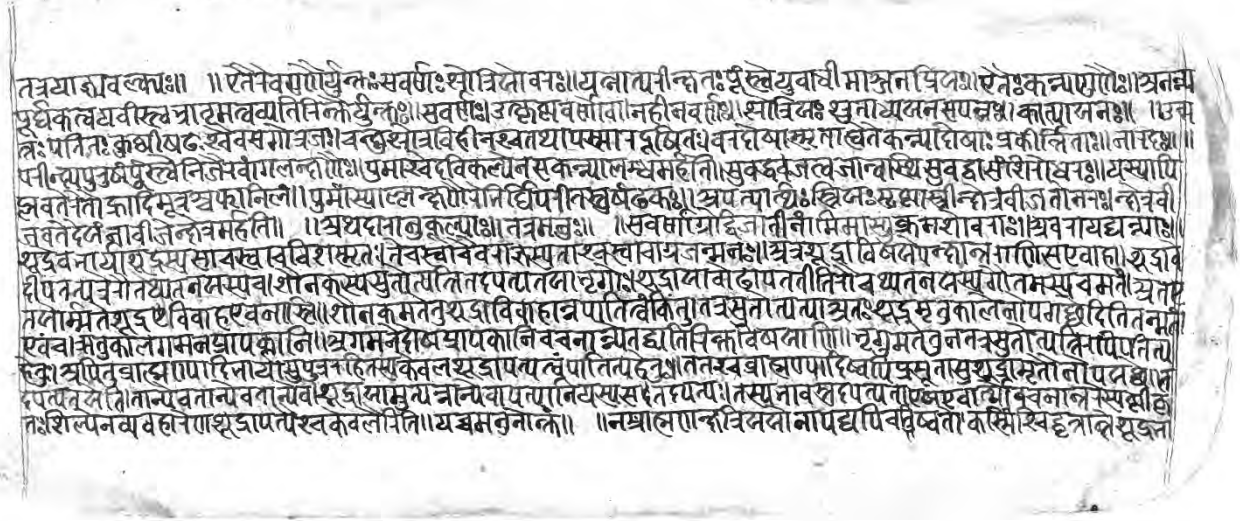
28v



29r

तत्र याज्ञवल्क्यः॥ ॥एतैरेव गुणैर्युक्तः सवर्णः श्रोत्रियो वरः॥ यत्नात्परीक्षितः पुंस्त्वे युवा धीमान् जनप्रियः॥ एतेः कन्यागुणाः॥ अनन्य
पूर्विकत्वं यवीयस्त्वं पत्न्याः सवर्णत्वं चेति निर्दोषौ युक्ताः॥ सवर्णः॥ उत्कृष्टवर्णो वा न हीनवर्णः॥ श्रोत्रियः श्रुताध्ययनसंपन्नः॥ कात्यायनः॥ ॥उन्म
त्तः पतितः कुष्ठी षण्ढः स्वगोत्रजः॥ चक्षुःश्रोत्रविहीनश्च तथापस्मारदूषितः॥ वरदोषास्तु ये चैते कन्यादोषाः प्रकीर्तिताः॥ नारदः॥ ॥
परीक्ष्य पुरुषः पुंस्त्वे निजैरेवांगलक्षणैः॥ पुमांश्चेदविकल्पेन स कन्यां लब्धुमर्हति॥ सुकंधजत्रुजान्वस्थि सुवद्धासीशिरोधरः॥ यस्यापि
प्रवर्तते तोकादि मूत्रं च फेनिलं॥ पुमांस्यात्लक्षणैरेतैर्विपरीतस्तु षण्ढकः॥ अपत्यार्थाः स्त्रियः सृष्टाः स्त्री क्षेत्रं बीजिनो नराः॥ क्षेत्रं बी
जवते देयं नाबीजी क्षेत्रमर्हति॥ ॥अथ दानानुकल्पाः॥ तत्र मनुः॥ ॥सवर्णाग्रे द्विजातीनां प्रशस्ता दारकर्मणि॥ कामतस्तु प्रवृत्तानामिमाः स्युः क्रमशो वराः॥ अत्र नारदः॥ ॥
शूद्रैव भार्या शूद्रस्य सा च स्वा च विशः स्मृते॥ ते च स्वा चैव राज्ञश्च ताश्च स्वा चाग्रजन्मनः॥ अत्र शूद्राविवाहो ब्राह्मणादीनां स एवाह॥ शूद्राव
दीपतन्यस्तु गोत्रे तथा तनयस्य च॥ शौनकस्य सुतोत्पत्त्या तदपत्यतया भृगोः॥ शूद्रायां वोढा पततीति नो वयमतनयस्य गौतमस्य च मतेन स्यात्॥ अत्र
मयास्मृतेः शूद्रविवाह एव वनारे॥ शौनकमते तु शूद्राविवाहान्न पातित्वं किंतु तत्र सुतोत्पत्त्या॥ अतः शूद्रस्य तु कालेनापगच्छेदिति तन्मतं॥
एवं च ऋतुकालगमनज्ञापकानि॥ अगमने दोषज्ञापकानि वचनान्यतद्यातिरिक्तविषयाणि॥ भृगुमते तु न तत्र सुतोत्पत्त्यापि पतित्वं॥
किंतु अपि तु ब्राह्मणादिनाऽऽयासु पुत्ररहितस्य केवलशूद्रापत्यत्वं पातित्यहेतुः॥ ततश्च ब्राह्मणादिर्ब्राह्मण्यादिषु सुतोत्पत्त्या शूद्रामृतो नापदः॥ त
दपत्यत्वं सति नान्यवचनान्यवतामवाश्शूद्रायामुत्पन्नान्यपत्यानि यस्य स तदपत्यः॥ तस्य तावत्तदपत्यतैव एवा नापि वचनान्तरस्य अपीत
तः शिल्पनवावहनेन शूद्रापत्यस्य केवलमिति॥ यच्च मनुनोक्तं॥ ॥न ब्राह्मणक्षत्रिययोरापद्यपि हि तिष्ठतोः॥ कस्मिंश्चिदपि वृत्तान्ते शूद्रा

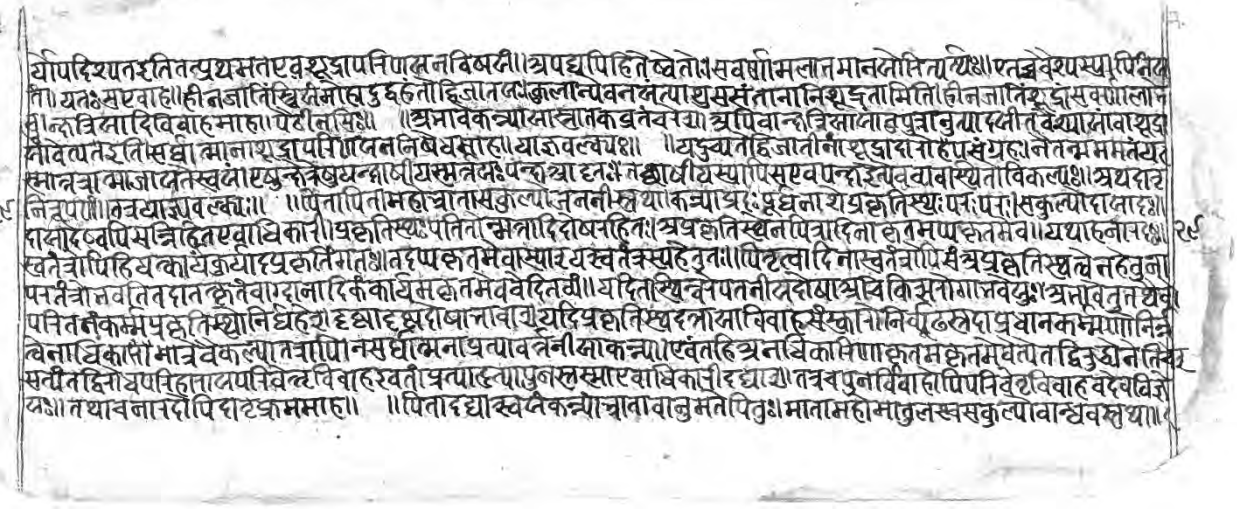
२९



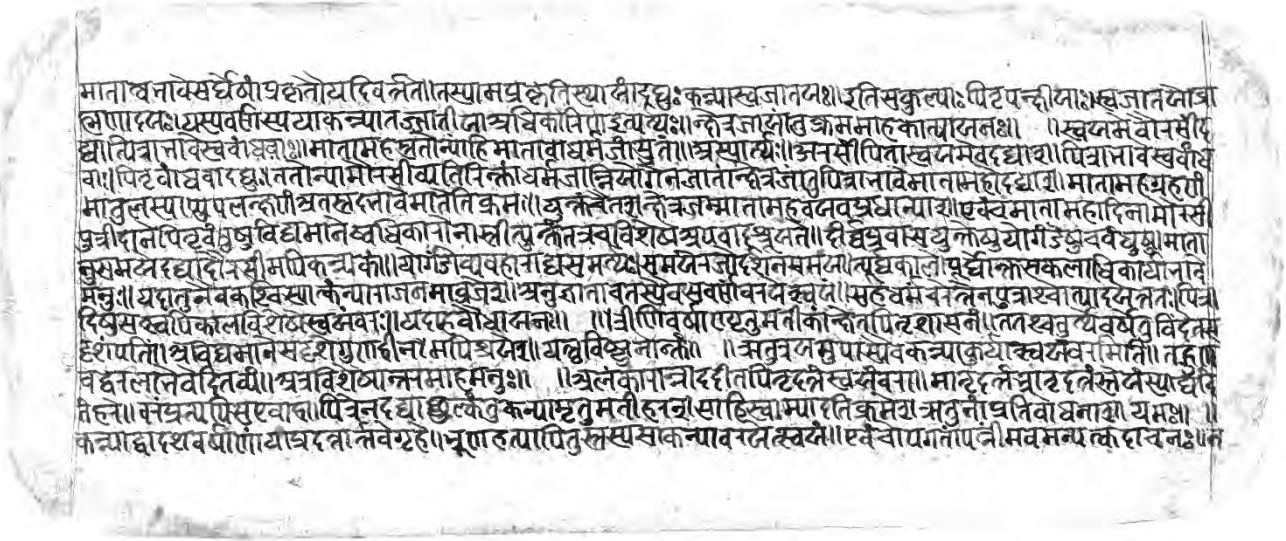
29v

योपदिश्यत इति तत्प्रथमत एव शूद्रापतिपातेन विरुद्धं॥ अपद्यपिहितेष्वेतास्सवर्णामलाभमानतोऽनिन्द्यः॥ एतच्चेवेशयस्यापि नित
ति॥ यतः स एवाह॥ हीनजातिं स्त्रियं मोहादुद्वहंतो द्विजातयः॥ कुलान्येव नयन्त्याशु ससंतानानि शूद्रतामिति॥ हीनजातिं शूद्रां सवर्णालाभ
इत्यादि विज्ञानादिविवाहमाह॥ पैठीनसिः॥ ॥अभावे कन्यायाः स्नातकव्रतं चरेत्॥ अपि वा क्षत्रियायां पुत्रमुत्पादयीत वैश्यायां वा शूद्रा
यां वेत्यत इति सर्वधाम्नां शूद्रापरिणयननिषेधमाह॥ याज्ञवल्क्यः॥ ॥यदुच्यते द्विजातीनां शूद्राद्दारोपसंग्रहः॥ नैतन्मम मतं यत
स्मात्तत्रायं जायते स्वयं॥ एवं तत्त्वेषु यन्न्यायो यस्मिन्नयः पन्था इत्यन्ये त एवाधीयस्यापि स एव पन्था इत्यत्र व्यवस्थिता विकल्पः॥ अथ दात्
निरूपणं॥ तत्र याज्ञवल्क्यः॥ ॥पिता पितामहो भ्राता सकुल्यो जननी तथा॥ कन्याप्रदः पूर्वनाशे प्रकृतिस्थः परः परः॥ सकुल्यो दायादः॥
दायादेष्वपि सन्निहित एवाधिकारी॥ प्रकृतिस्थः पतितोन्मत्तादिदोषरहितः॥ अप्रकृतिस्थेन पित्रादिना कृतमप्यकृतमेव॥ यथाह नारदः॥ २९
स्वतंत्रोपि हि यत्कार्यं कुर्यादप्रकृतिं गतः॥ तदप्यकृतमेवास्यादस्वतंत्रस्य हेतुतः॥ पितृत्वादिनास्वतंत्रोपि सन् अप्रकृतिस्थत्वे न हेतुना
पतिरेव तु कर्तादाने तत्रैव वाग्दानादिकं कार्यमकृतमेव वेदितव्यं॥ यदि तास्थितस्ते पतनीयदोषाश्चाविकृतमो गाजवेयुः अन्नावतुत्त्थेव
पतितनीकर्म प्रकृतिस्थो निर्धिहे यो दद्याद् दद्यादेवान्यानाय॥ यदि प्रकृतिस्थः दत्ता सा विवाहसंस्कारेणा निवृत्तस्तदा प्रधानकर्मणो निर्व
र्त्तनाधिकारी मात्रवैकल्यात्तत्रापि न सुधीरमनाय त्यावर्त्तनीया कन्या॥ एवं तर्हि अनधिकारिणा कृतमकृतमेवेत्यतद्विरुद्धमिति चेत् न
सप्तीन तदृतीयपतिहानादपतिवृद्धविवाहश्च तत्प्रत्युपादायापुनस्तस्मा एवाधिकारी दद्यात्॥ तत्र च पुनर्विवाहो पि पतिवृद्धविवाहवदेव विज्ञे
यः॥ तथा च नारदोपि दात्क्रममाह॥ ॥पिता दद्यात्स्वयं कन्यां भ्राता वानुमते पितुः॥ मातामहो मातुलश्च सकुल्यो बान्धवस्तथा॥

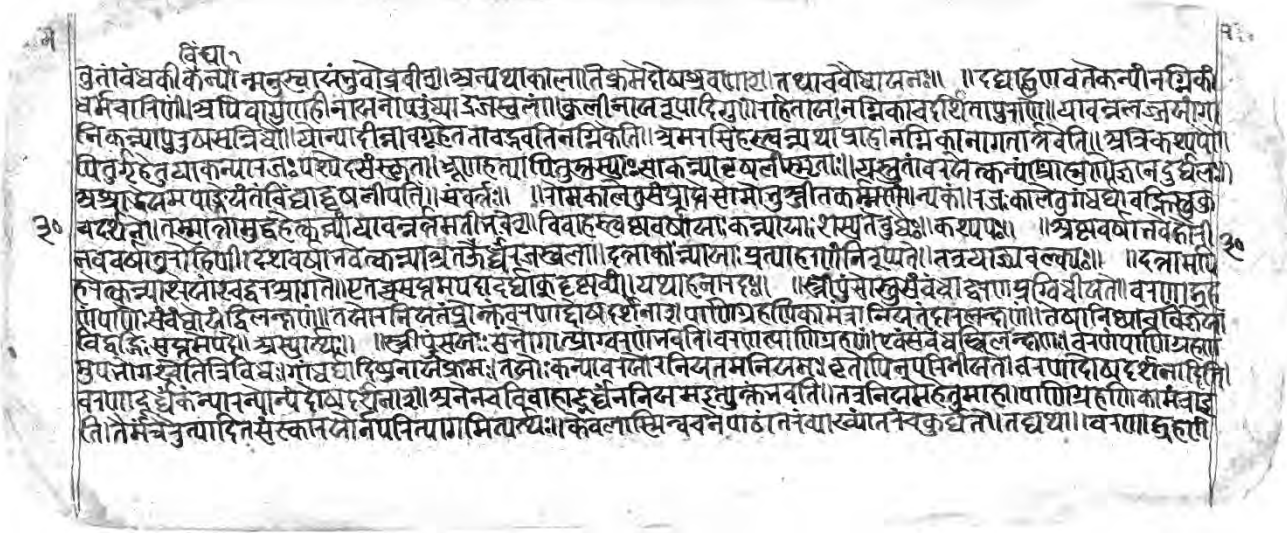
२९



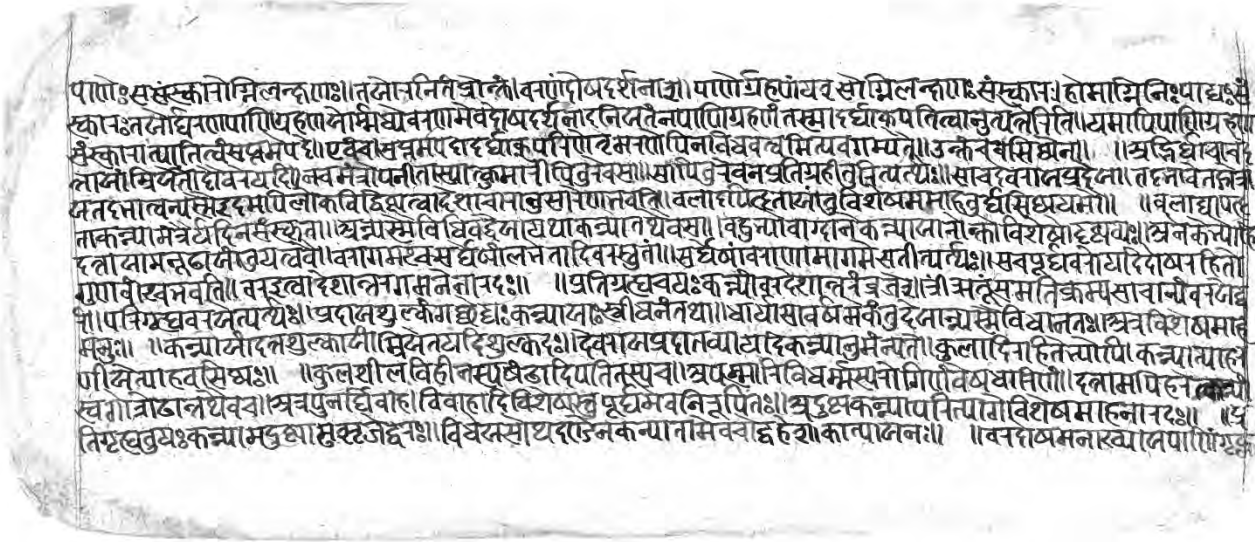
30r



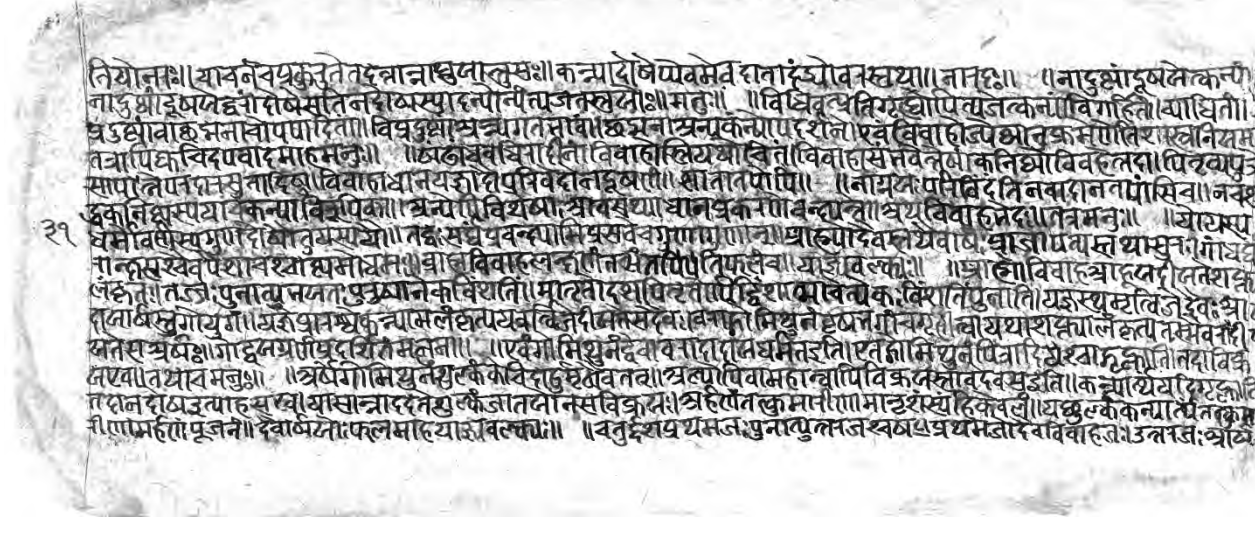
30v



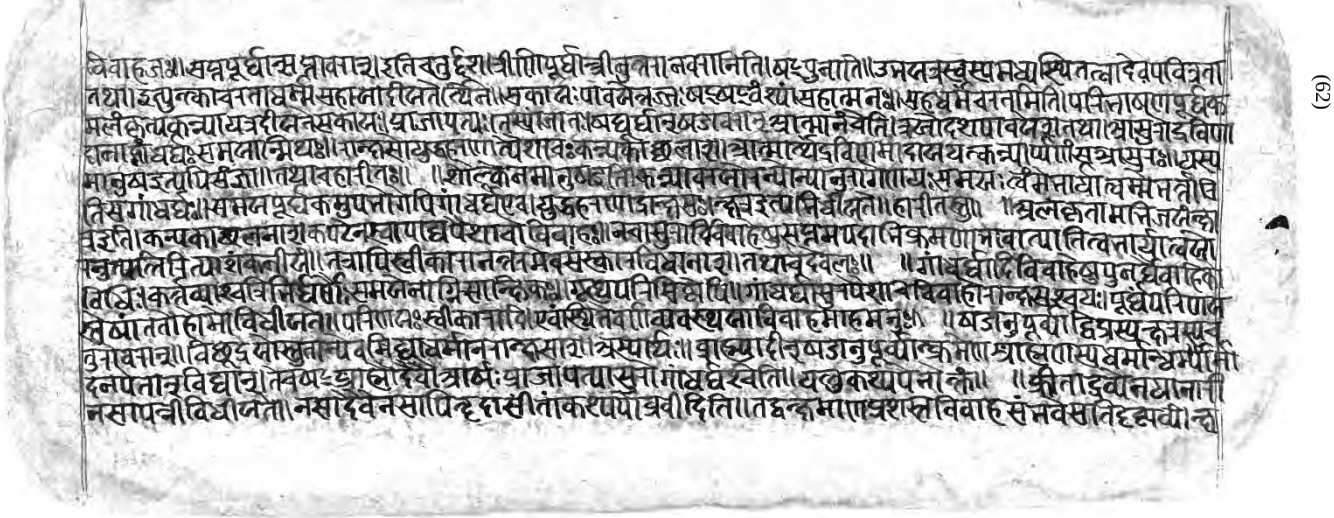
31r



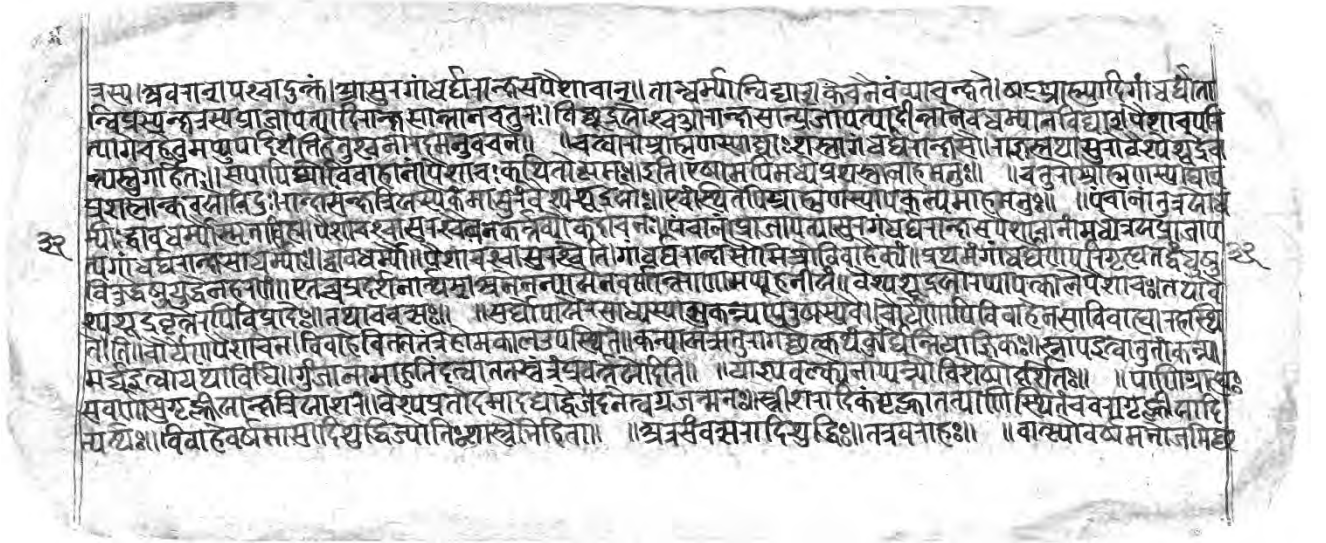
31v



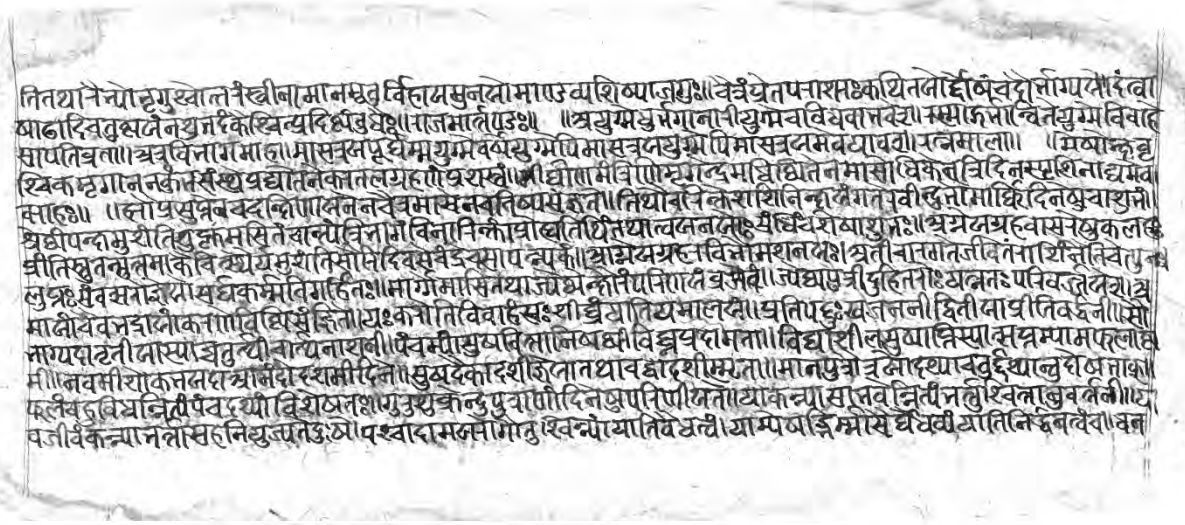
32r



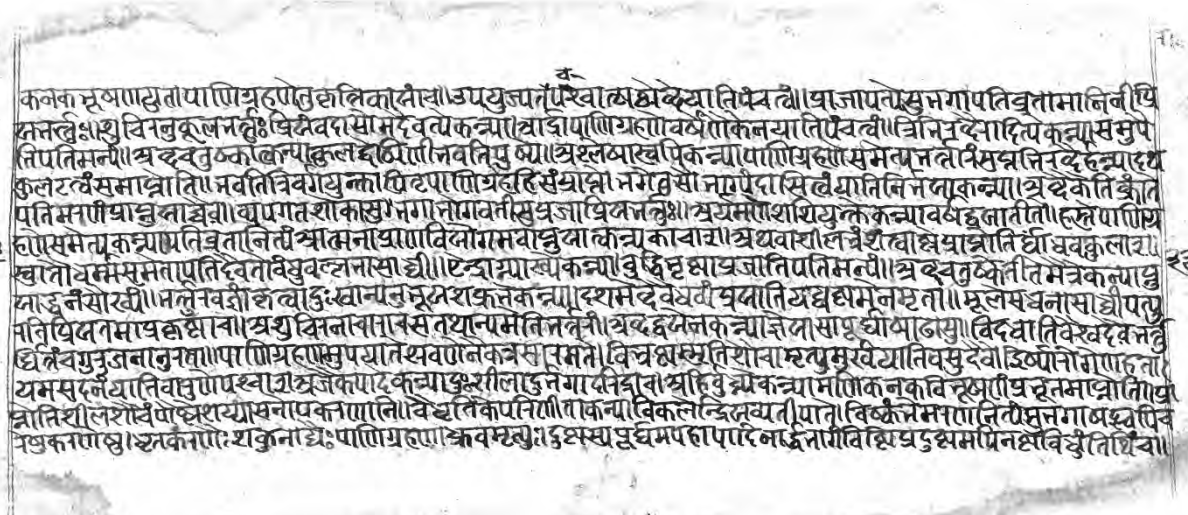
32v



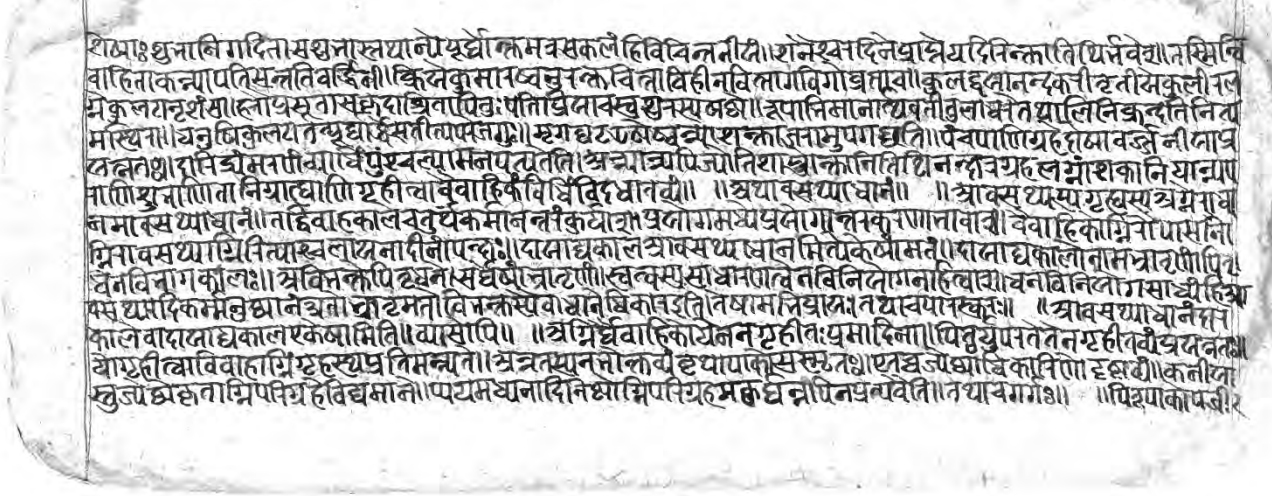
33r



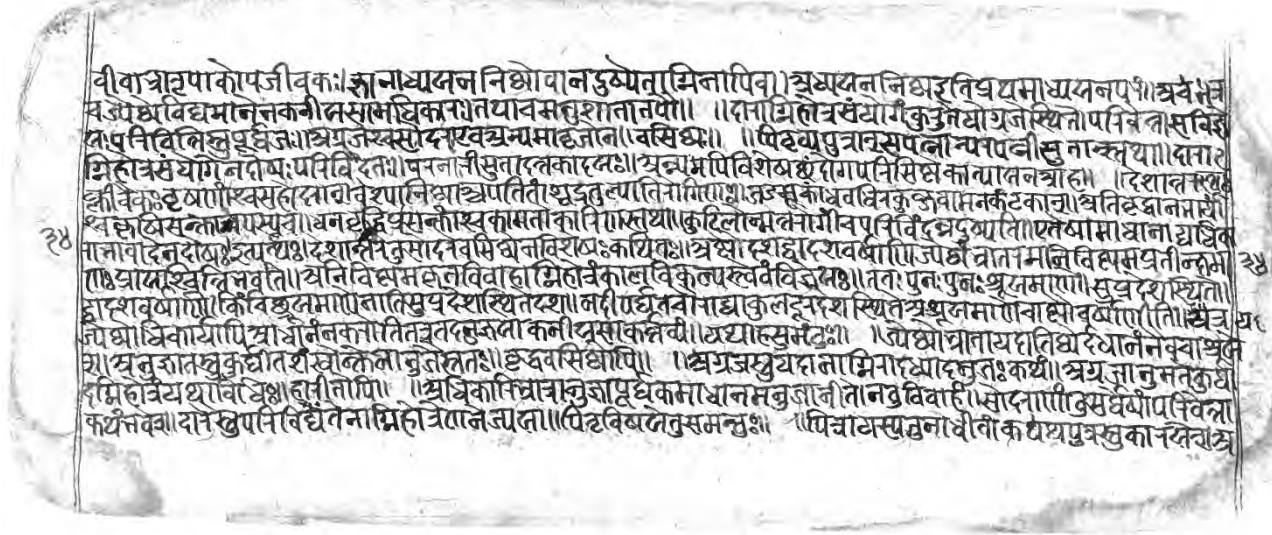
33v



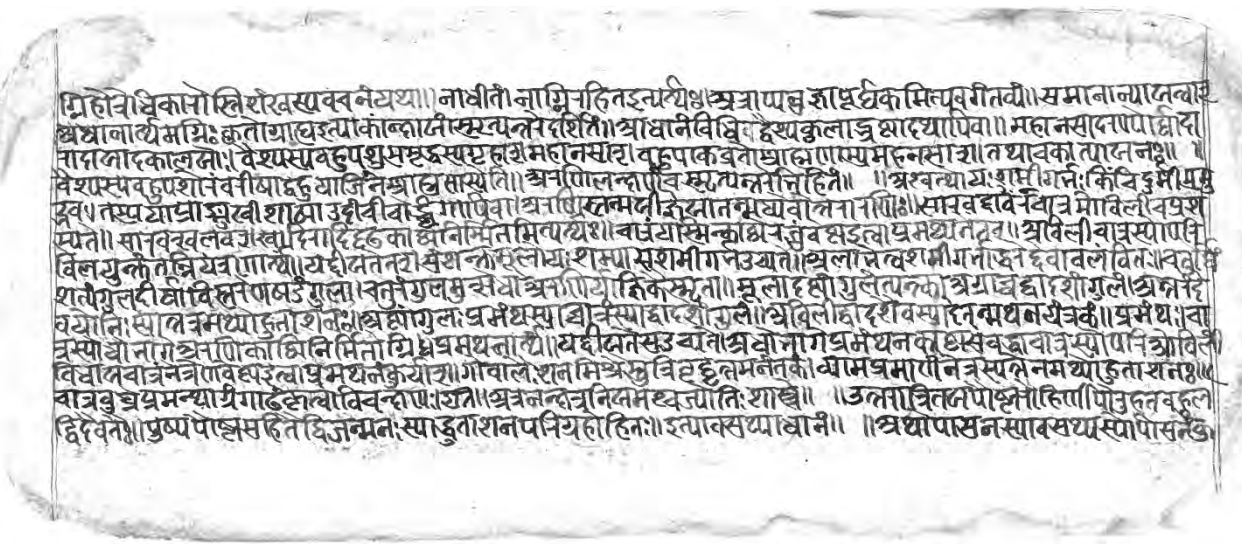
34r



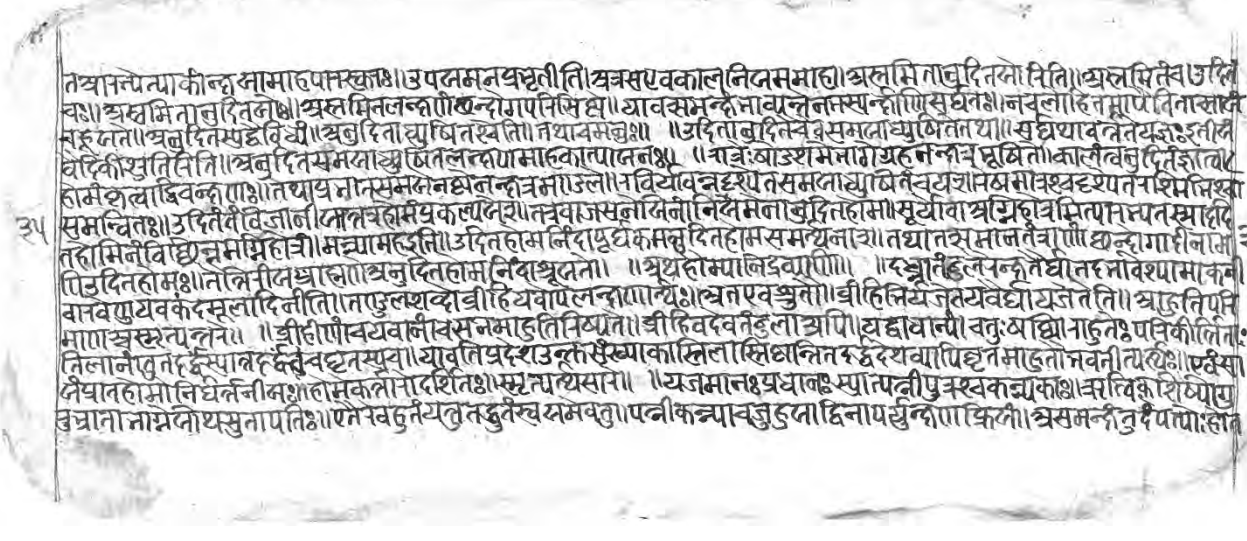
34v



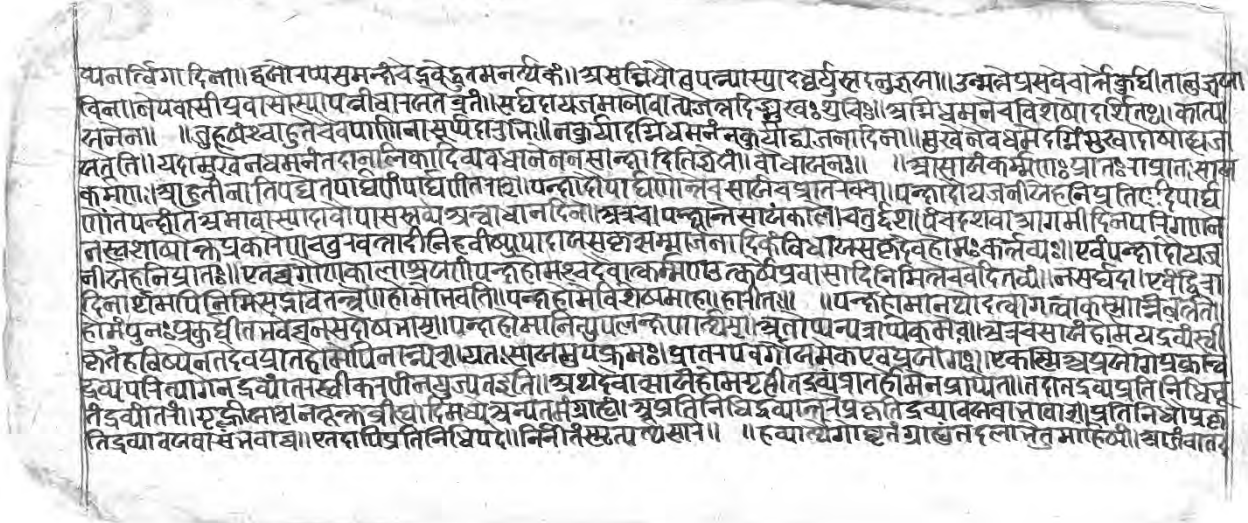
35r



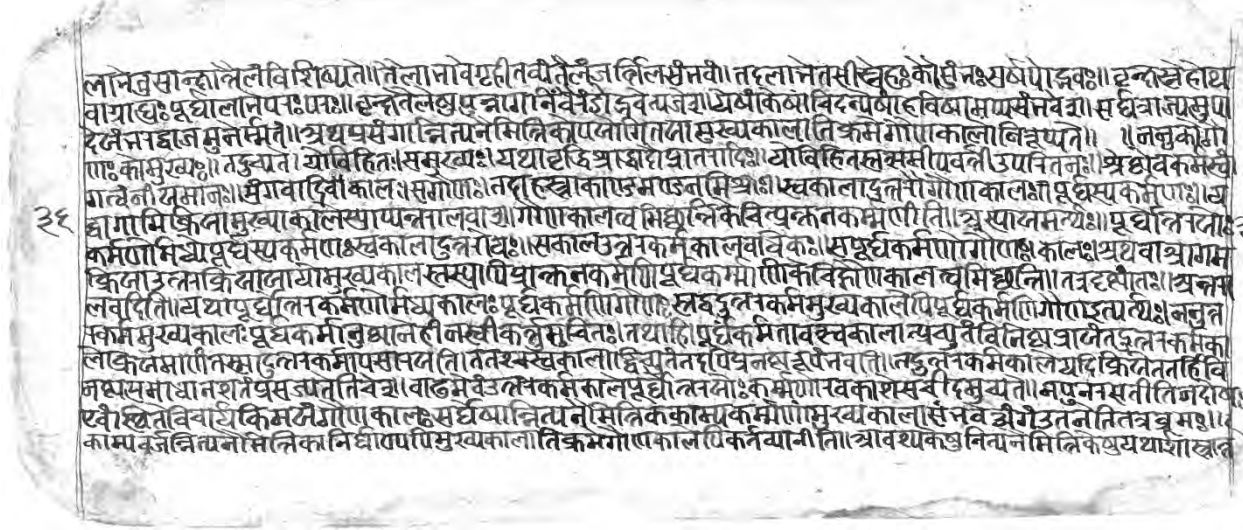
35v



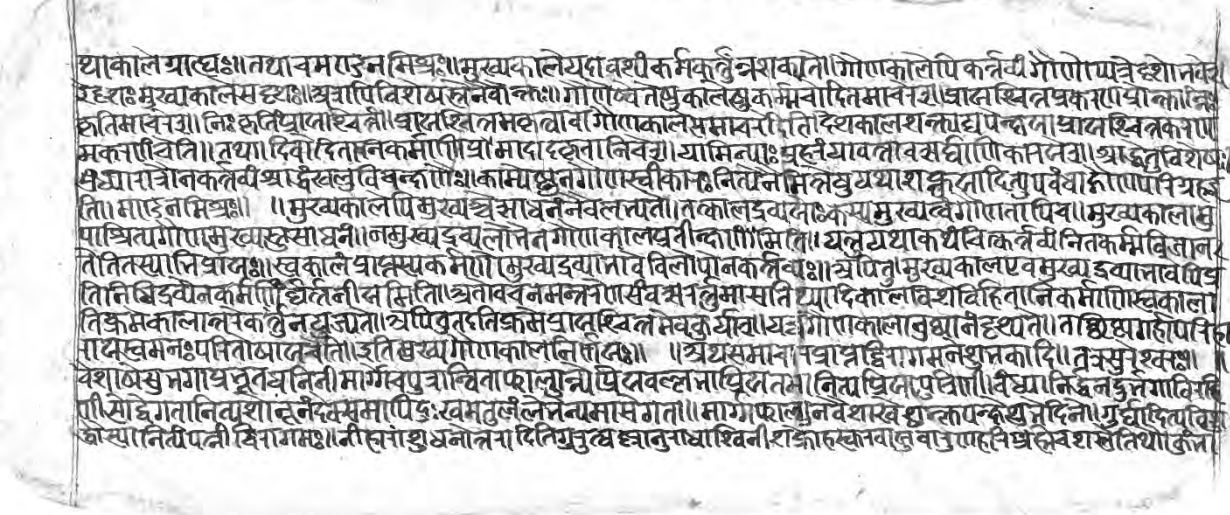
36r



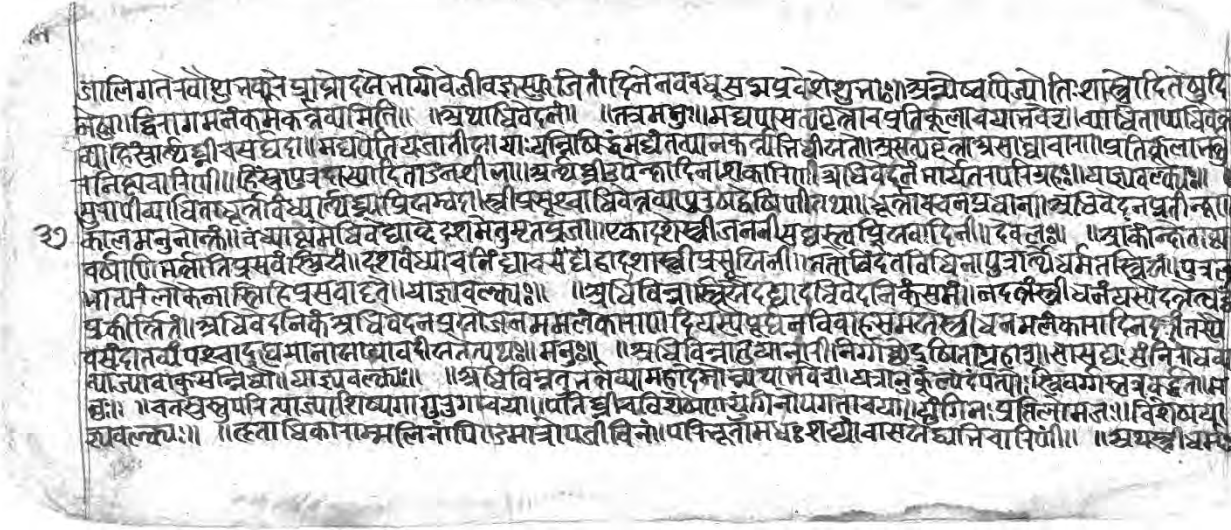
36v



37r



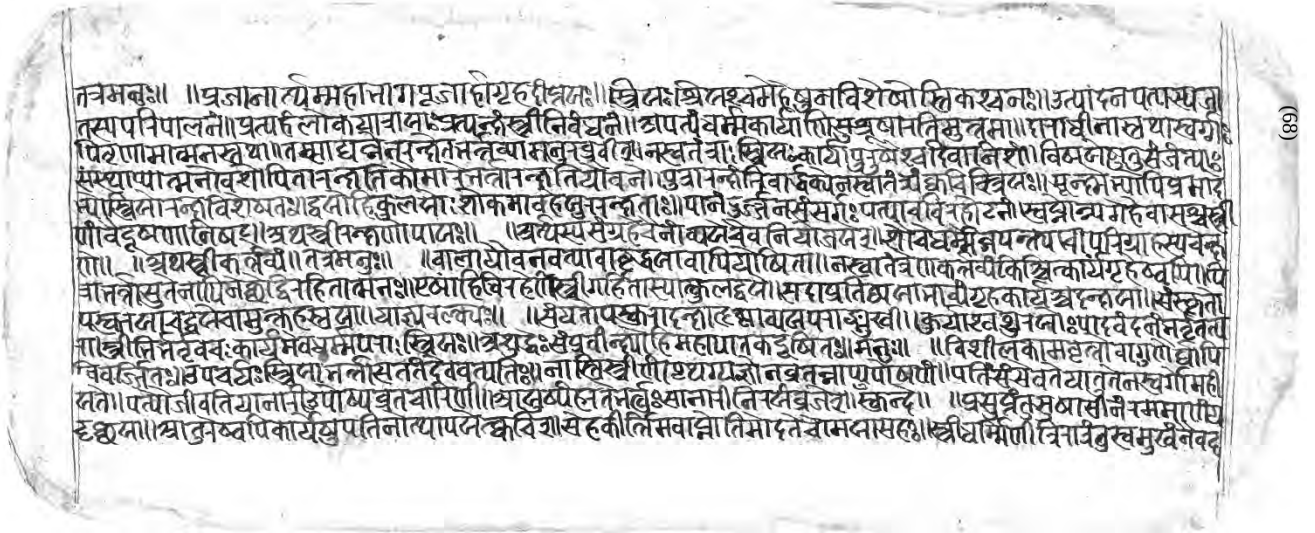
37v



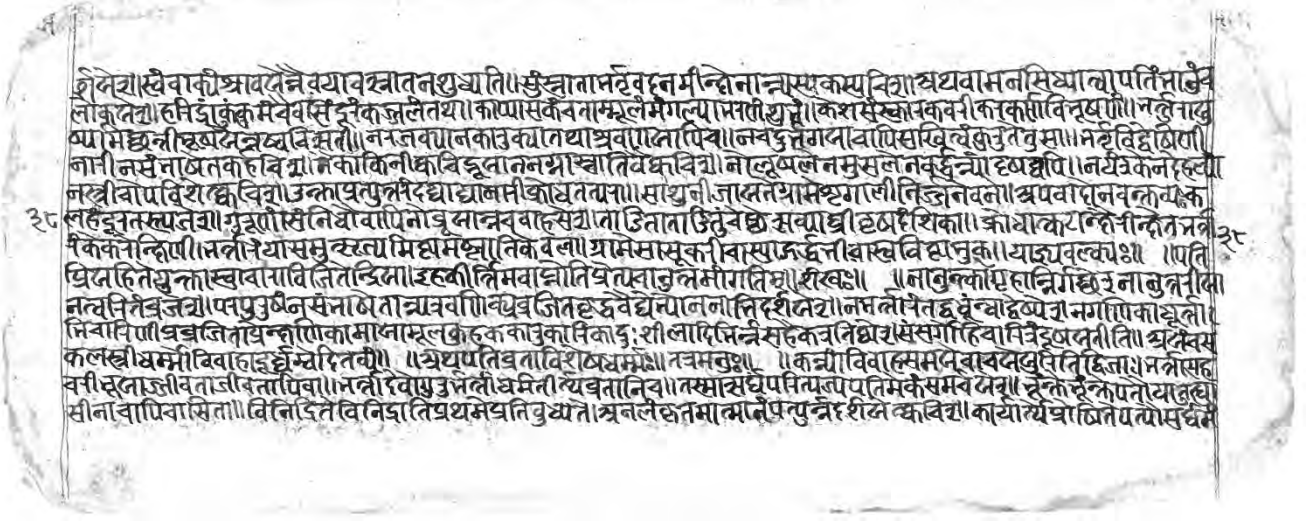
38r

तत्र मनुः॥ ॥प्रजनार्थं महाभागाः पूजार्हा गृहदीप्तयः॥ स्त्रियः श्रियश्च गेहेषु न विशेषोऽस्ति कश्चन॥ उत्पादनमपत्यस्य जा-
तस्य परिपालनं॥ प्रत्यहं लोकयात्रायाः प्रत्यक्षं स्त्रीनिबंधनं॥ अपत्यं धर्मकार्याणि शुश्रूषा रतिरुत्तमा॥ दाराधीनस्तथा स्वर्गः
पितॄणामात्मनस्तथा॥ तस्माद्यत्नेन रक्ष्यैता रक्ष्या मनुरब्रवीत्॥ न स्वतंत्राः स्त्रियः कार्याः पुरुषैः स्वैर्दिवानिशं॥ विषयेषु च सज्जंत्यः
संस्थाप्या आत्मनो वशे॥ पिता रक्षति कौमारे भर्ता रक्षति यौवने॥ पुत्रा रक्षंति वार्द्धक्ये न स्वातंत्र्यं क्वचित्स्त्रियः॥ सूक्ष्मेभ्योऽपि प्रसं-
गेभ्यः स्त्रियो रक्ष्या विशेषतः॥ द्वयोर्हि कुलयोः शोकमावहेयुररक्षिताः॥ पानं दुर्जनसंसर्गः पत्या च विरहोऽटनं॥ स्वप्नोऽन्यगेहवासश्च स्त्री-
णां दूषणानि षट्॥ अथ स्त्रीरक्षणोपायः॥ ॥अर्थस्य संग्रहे चैनां व्यये चैव नियोजयेत्॥ शौचे धर्मेऽन्नपक्त्यां च पारिणाह्यस्य वेक्ष-
णे॥ ॥अथ स्त्रीकर्तव्यं॥ तत्र मनुः॥ ॥बालया यौवनवत्या वा वृद्धया वापि योषिता॥ न स्वातंत्र्येण कर्तव्यं किंचित्कार्यं गृहेष्वपि॥ पि-
त्रा भर्त्रा सुतैर्वापि नेच्छेद्विरहमात्मनः॥ एषां हि विरहेण स्त्री गर्हिता स्यात्कुलद्वये॥ सदा प्रहृष्टया भाव्यं गृहकार्ये च दक्षया॥ सुसंस्कृतो-
पस्करया व्यये चामुक्तहस्तया॥ याज्ञवल्क्यः॥ ॥संयतोपस्करा दक्षा हृष्टा व्ययपराङ्मुखी॥ कुर्याच्छ्वशुरयोः पादवंदनं भर्तृतत्-
परा॥ स्त्रीभिर्भर्तृवचः कार्यमेष धर्मः परः स्त्रियः॥ आ शुद्धेः संप्रतीक्ष्यो हि महापातकदूषितः॥ मनुः॥ ॥विशीलः कामवृत्तो वा गुणैर्वा परि-
वर्जितः॥ उपचर्यः स्त्रिया साध्व्या सततं देववत्पतिः॥ नास्ति स्त्रीणां पृथग्यज्ञो न व्रतं नाप्युपोषणं॥ पतिं शुश्रूषते येन तेन स्वर्गे मही-
यते॥ पत्यौ जीवति या नारी उपोष्य व्रतचारिणी॥ आयुष्यं हरते भर्तुः सा नारी नरकं व्रजेत्॥ स्कान्दे॥ ॥प्रसुप्ते तु सुखासीने रममाणेऽपि
इच्छया॥ आतुरेष्वपि कार्येषु पतिं नोत्थापयेत्क्वचित्॥ एवंविधा सेह कीर्तिमवाप्नोति मोदते चामरैः सह॥ स्त्रीधर्मिणी त्रिरात्रं तु स्वमुखं नैव द-

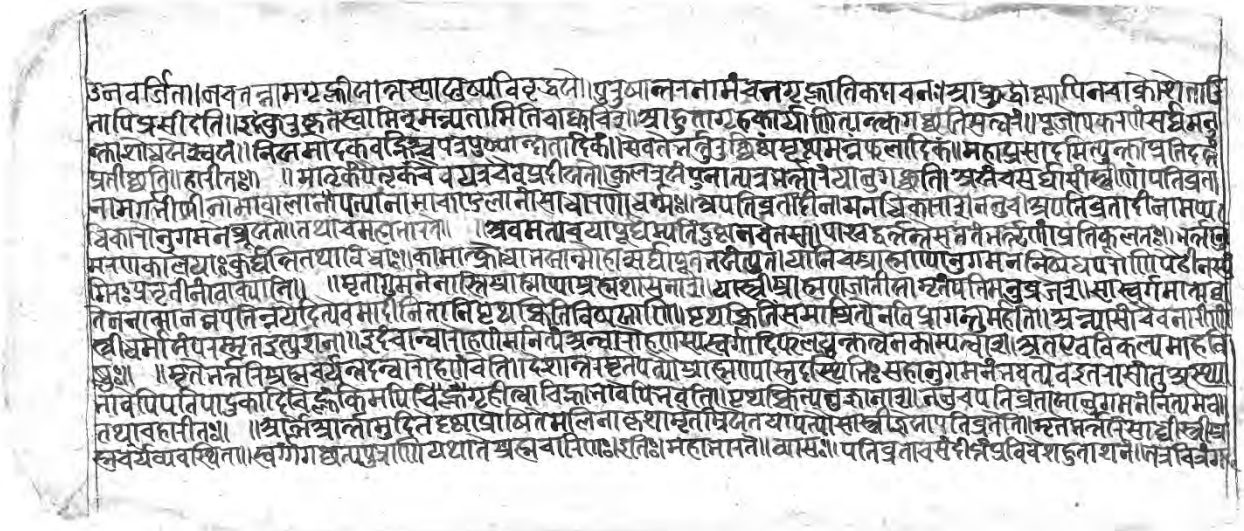
38v



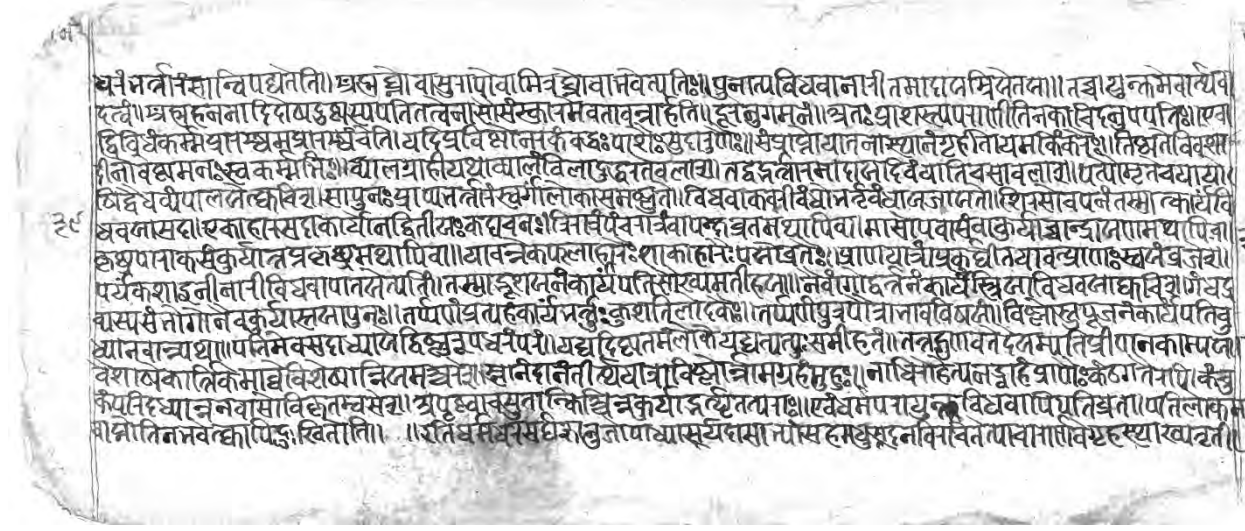
र्शयेत्॥ स्ववाक्यं श्रावयेन्नैव यावत्स्नाता न शुध्यति॥ सुस्नाता भर्तृवदनं ईक्षेतान्यस्य न क्वचित्॥ अथवा मनसि ध्यात्वा पतिं भानुं वि-
लोकयेत्॥ हरिद्रां कुंकुमं चैव सिंदूरं कज्जलं तथा॥ कूर्पासकं च तांबूलं मांगल्याभरणं शुभं॥ केशसंस्कारकबरीकरकर्णविभूषणं॥ भर्तुरायु-
ष्यमिच्छन्ती दूषयेन्न पतिव्रता॥ नर्तनवाद्यकौतुक्यं तथा श्रवणादिकं॥ न च कुत्रगमनं वापि सखीभिः कुतुकं सदा॥ भर्तृविद्वेषिणी-
नारी न संभाषेत कर्हिचित्॥ नैकाकिनी क्वचिद्भूत्वा न नग्ना स्नातिवर्धकं(?)॥ नोलूखले न मुसले न वर्धन्यां दृषद्यपि॥ न यंत्रके न देहल्यां
न स्त्री वाप्युपविशेत्क्वचित्॥ उच्चैः प्रत्युत्तरं दद्याद्भाषमाणे च तत्पतौ॥ सा धुनी जाग्रतस्तथा सर्वगा नीति(?)निद्रिता भवेत्॥ अपवादं न वक्तव्यं क-
३८ लहं दूरतस्त्यजेत्॥ गुरूणां संनिधौ वापि नोच्चैर्वा हसेत्क्वचित्॥ ताडिता ताडितुं वेच्छेत् सत्याश्रीव्रताद्विशिका(?)॥ क्रोधात्कदाचिदुक्तापि न नि- ३८
न्दिका कदापि(?)॥ न दानं न यात्रा स्वयमेव कुर्यान्मिथ्यामयी(?)॥ ग्रामे समासु कर्त्री वा स्वजनैर्वा स्वविहारिणी(?)॥ याज्ञवल्क्यः॥ ॥पति-
प्रियहिते युक्ता स्वाचारा विजितेन्द्रिया॥ इह कीर्तिमवाप्नोति प्रेत्य चानुत्तमां गतिं॥ शंखः॥ ॥नाननुज्ञाता गृहान्निर्गच्छेत् नानुत्तरीया
न त्वरितं व्रजेत्॥ परपुरुषं नाभिभाषेत अन्यत्र वणिक्प्रव्रजितवृद्धवैद्येभ्यः॥ नाभिं न दर्शयेत्॥ ना गुल्फाद्वस्त्रं परिदध्यात्॥ न स्तनौ विवृतौ कुर्यात्॥ नगणिका धूर्त-
भिसारिणी प्रव्रजिता प्रेक्षणिका मायामूलकुहककारिकाद्दुःशीलादिभिः सहैकत्र तिष्ठेत्॥ संसर्गाद्धि चारित्रं दुष्यतीति॥ अथ दैव-
कलस्त्रीधर्मो विवाहाद्यूर्ध्वं चोदितव्यः॥ ॥अथ पतिव्रताविशेषधर्माः॥ तत्र मनुः॥ ॥कन्या विवाहसमये वाचयेदिति तां द्विजाः॥ भर्तुः सह
धर्मचरी भव जीवता जीवतापि वा॥ मनोवाक्कर्मभिः शुद्धा पतिदेशानुवर्तिनी(?)॥ तस्मात्सधर्मपत्नीत्वं पतिमेकं समर्चयेत्॥ हृष्टे हृष्टा पत्यौ दुःखिते दुःखिता
सीना चापि वासिता॥ विनिद्रिते विनिद्राति प्रथमं प्रतिबुध्यते॥ अनलंकृतमात्मानं पत्युर्न दर्शयेत्क्वचित्॥ कार्यार्थं प्रोषिते पत्यौ सधर्म



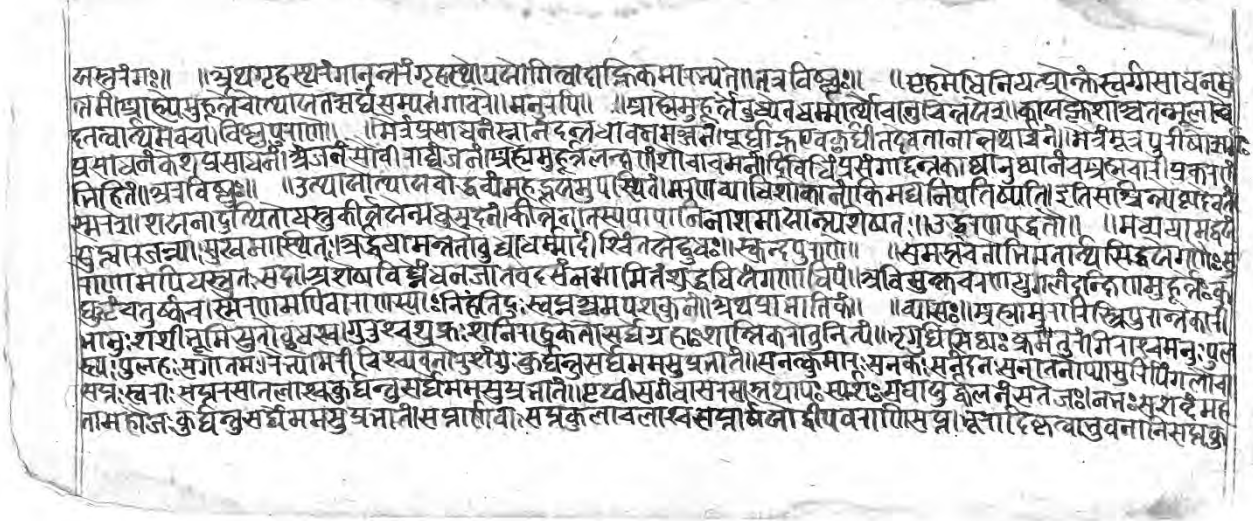
39r



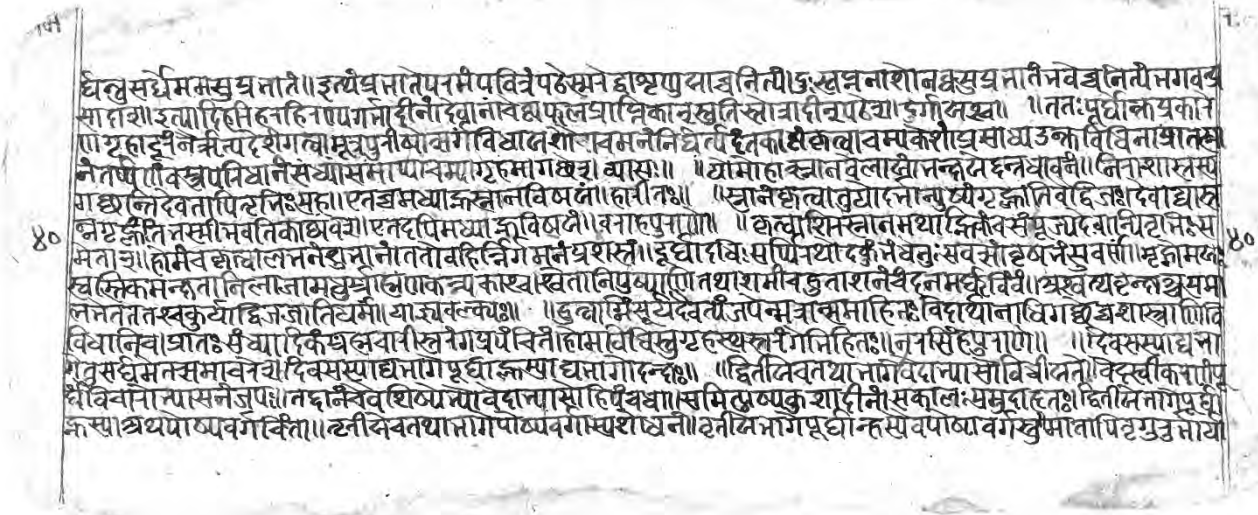
39v



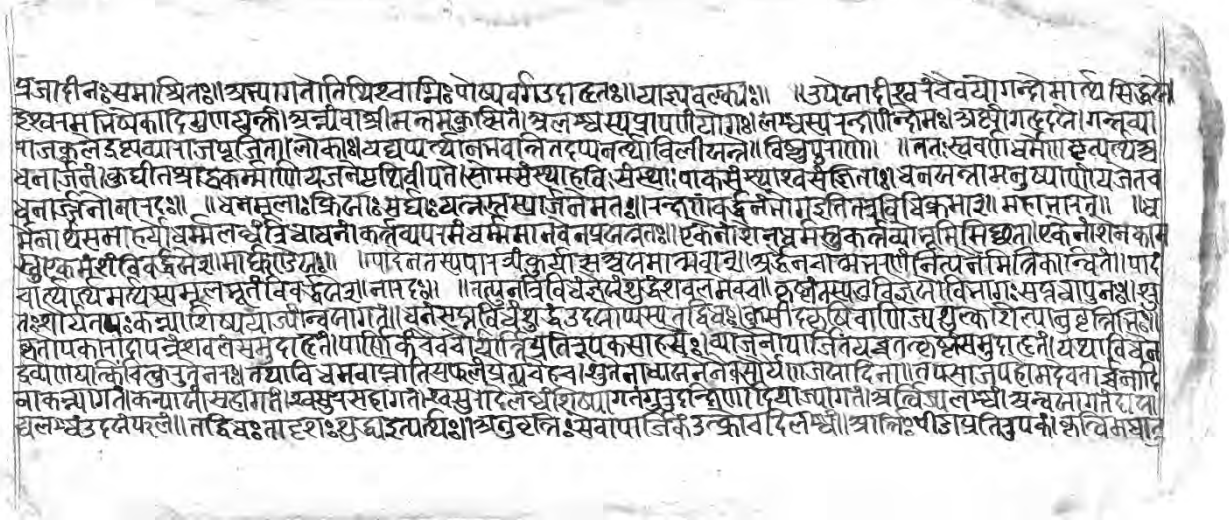
40r



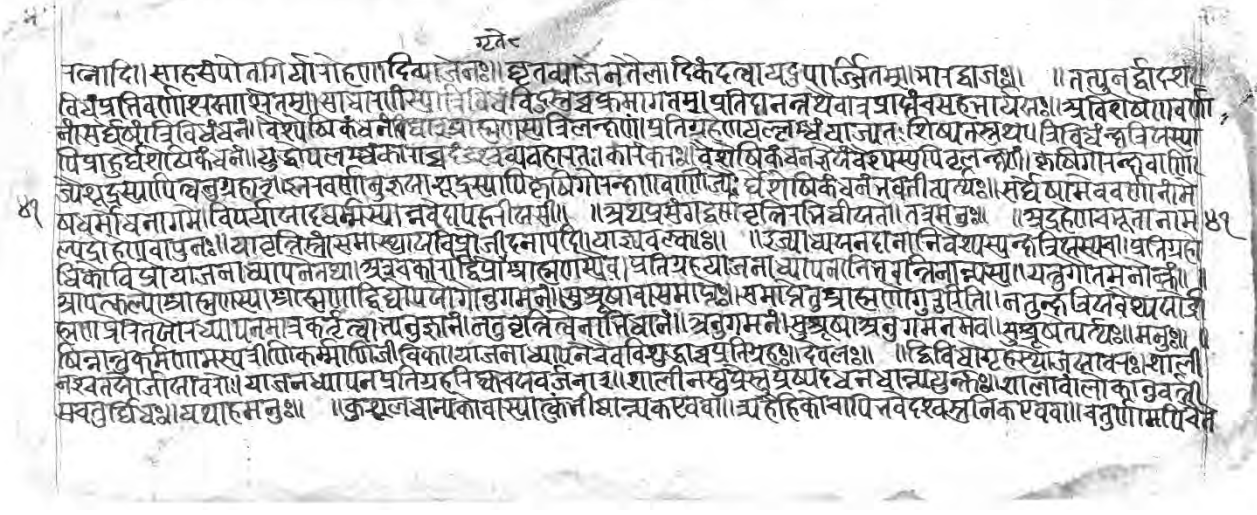
40v



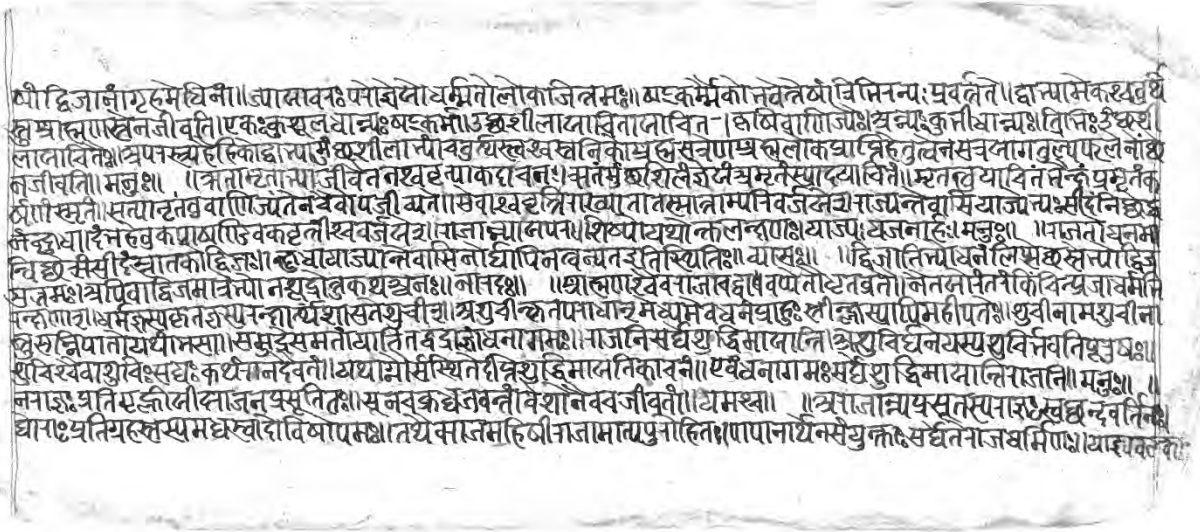
41r



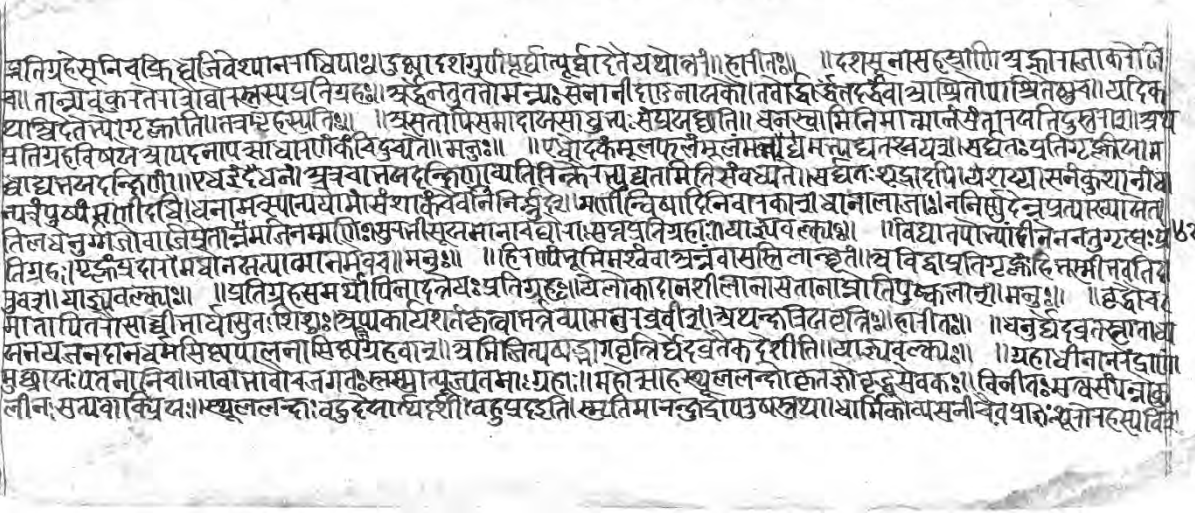
41v



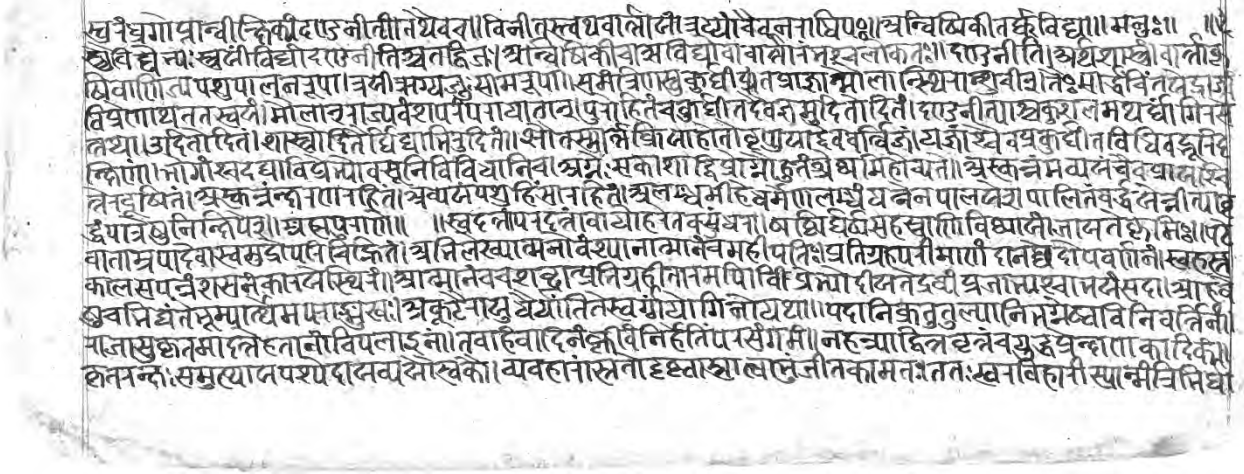
42r



42v

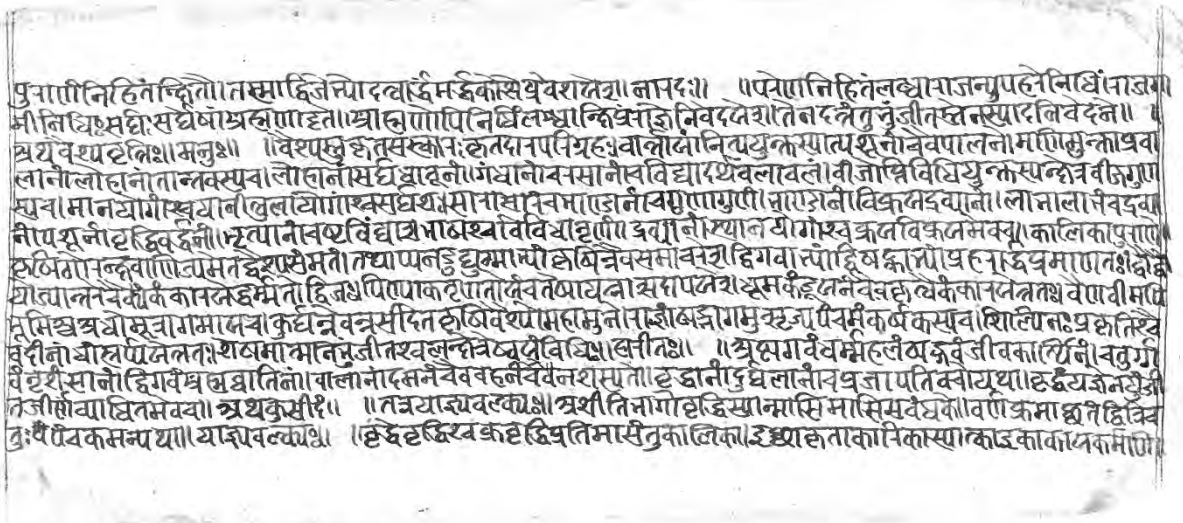


43r

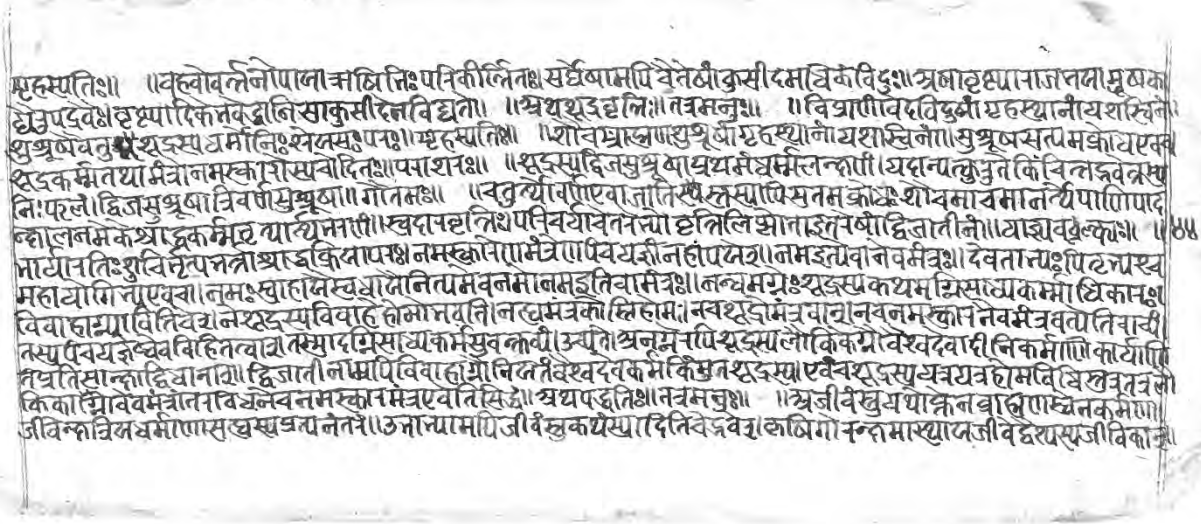


43v

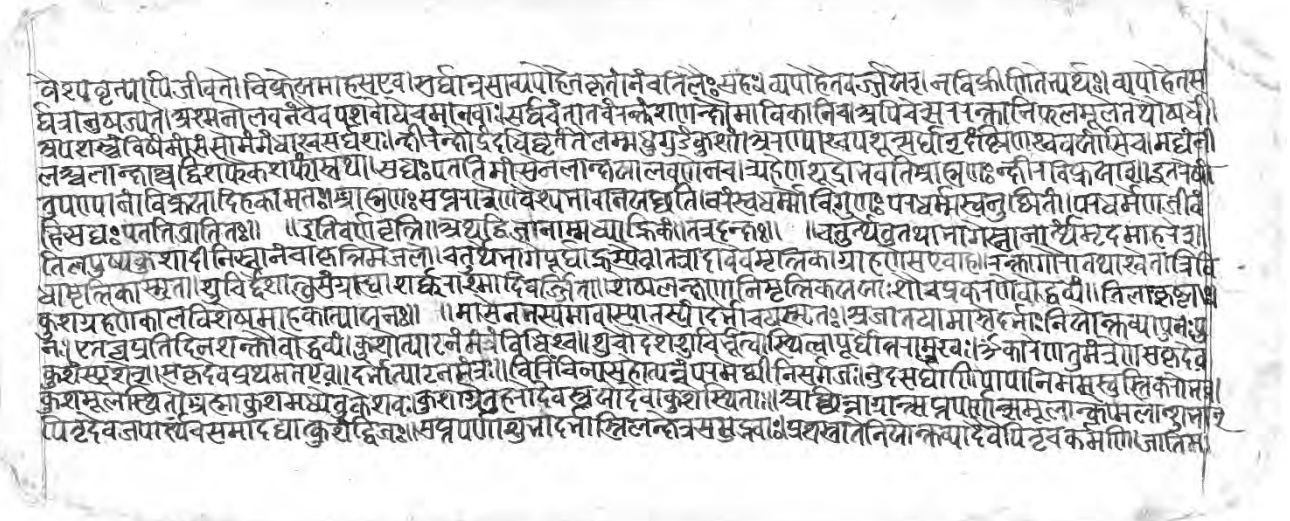
44r



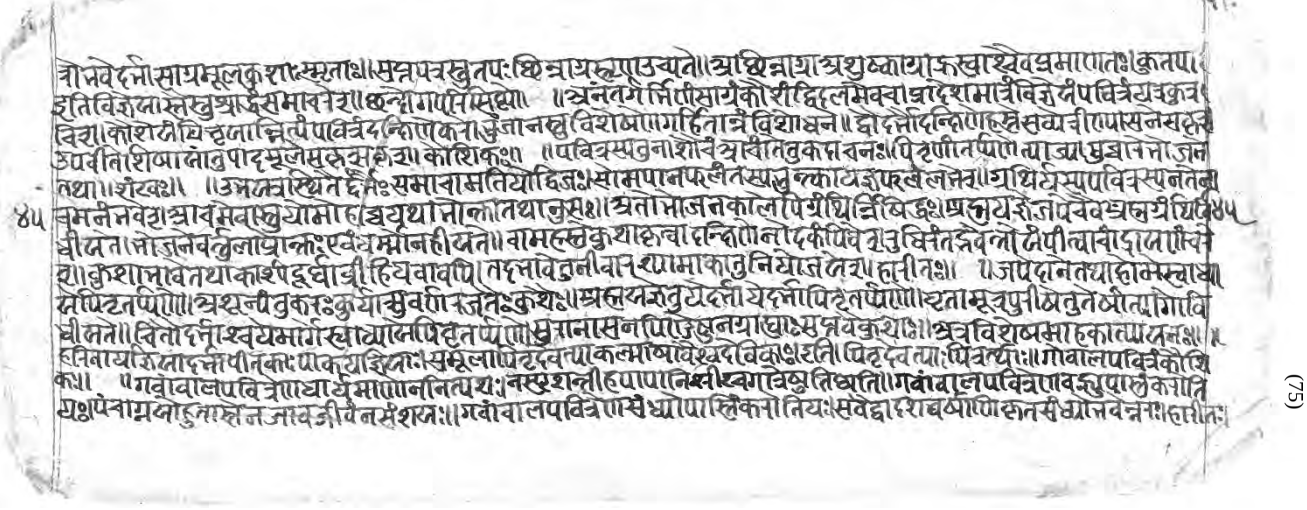
44v



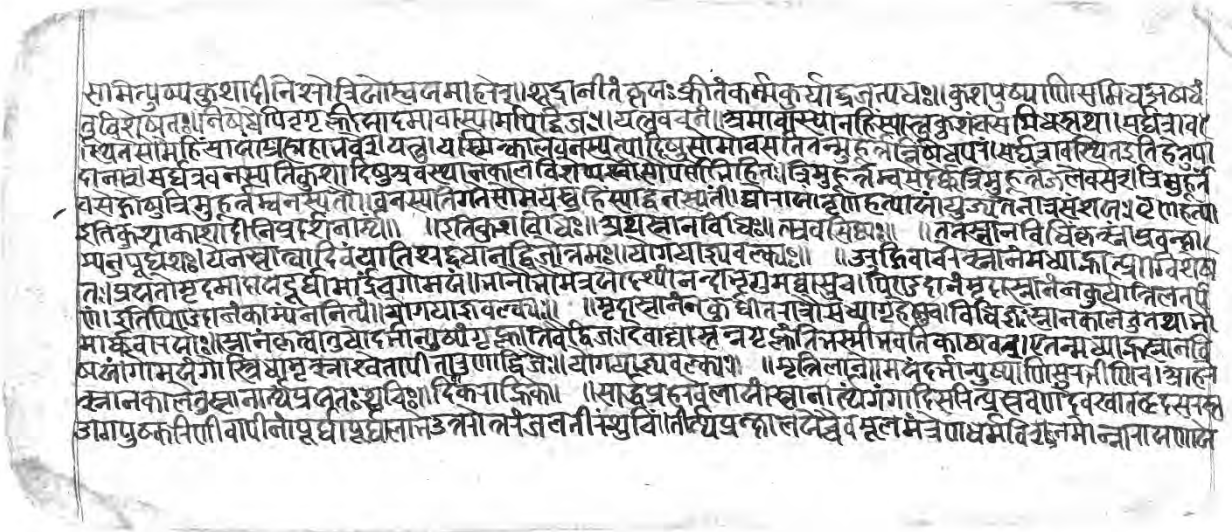
45r



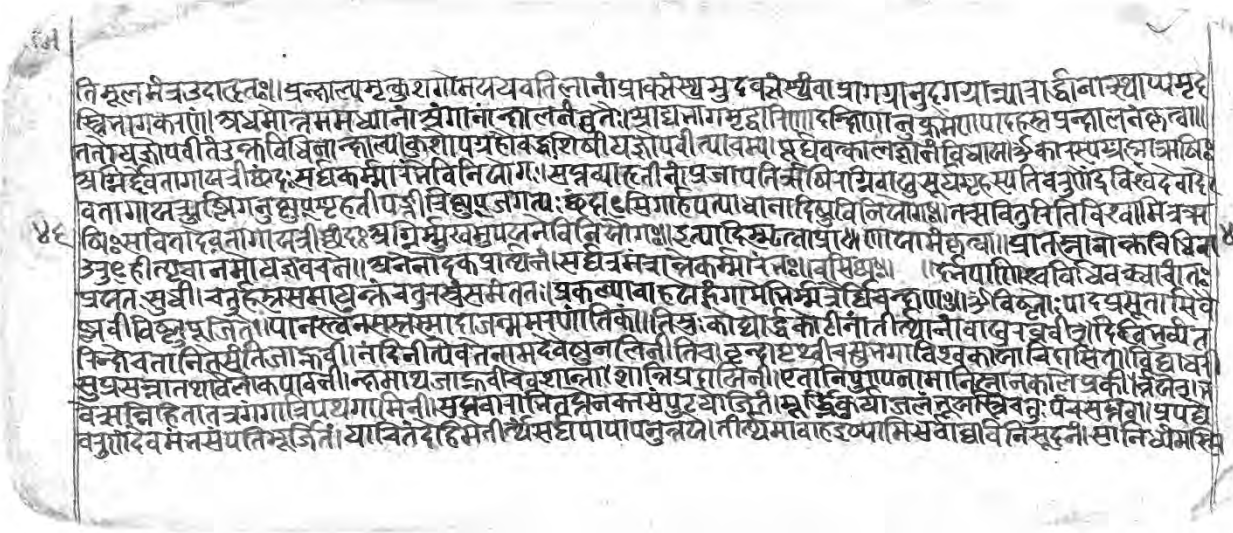
45v



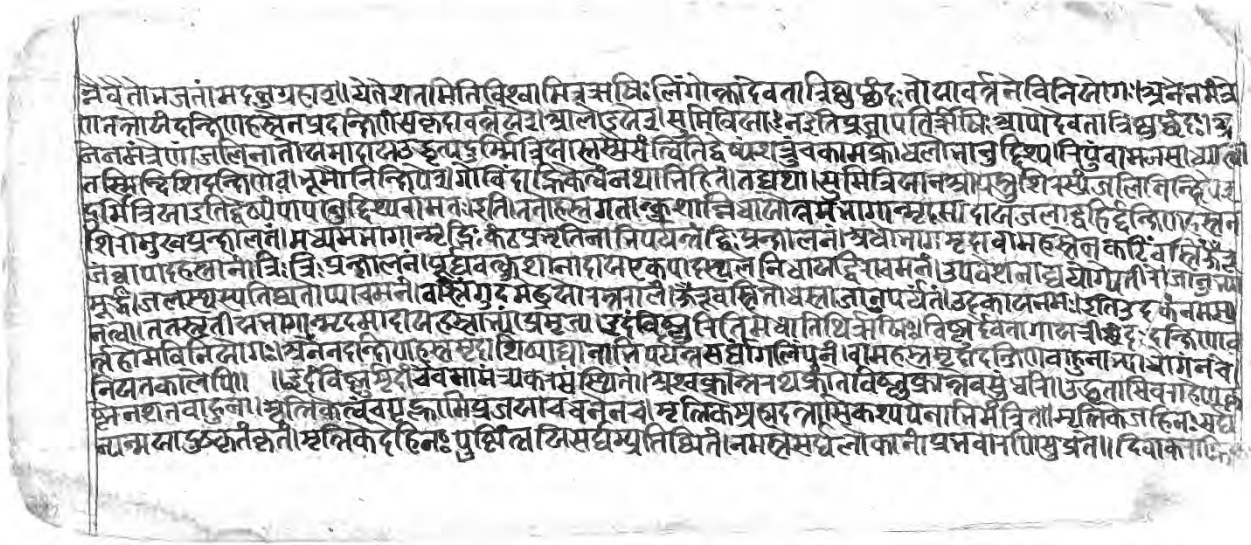
46r



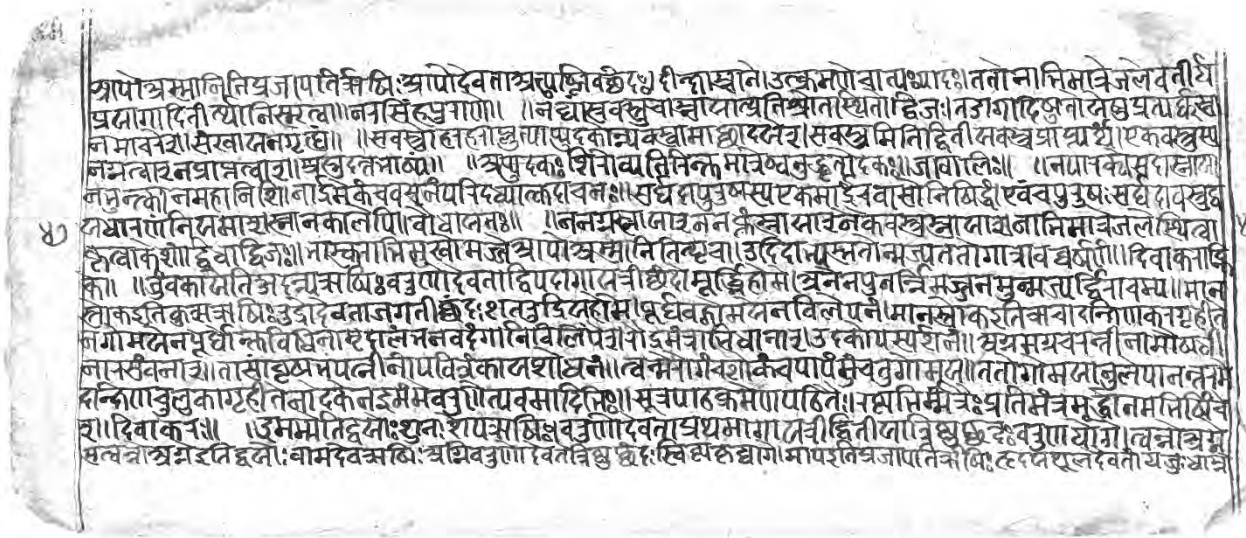
46v



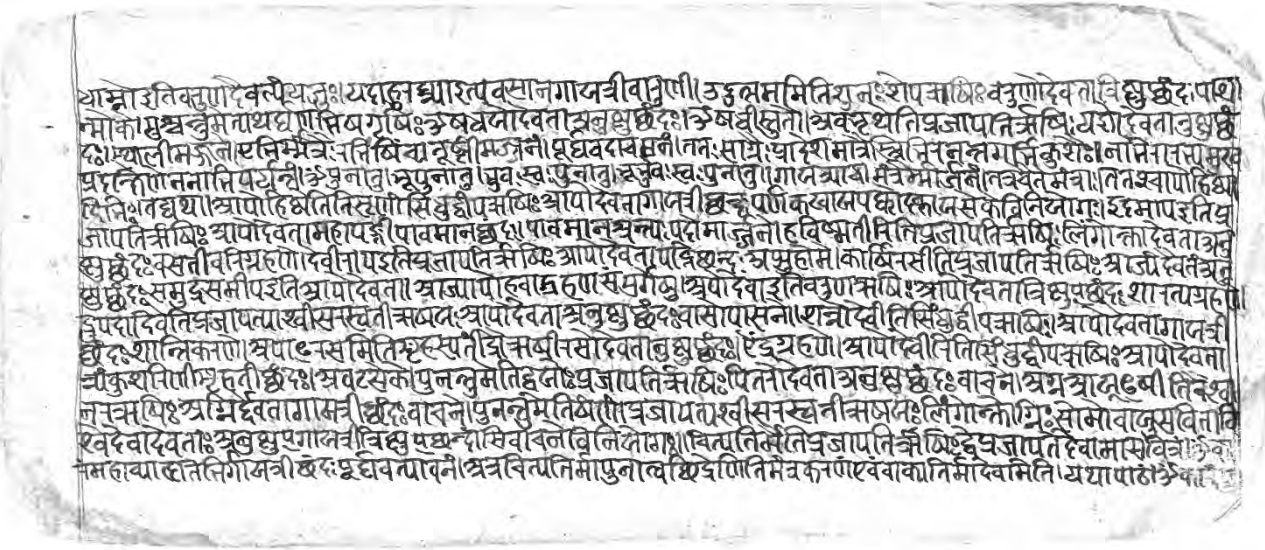
47r



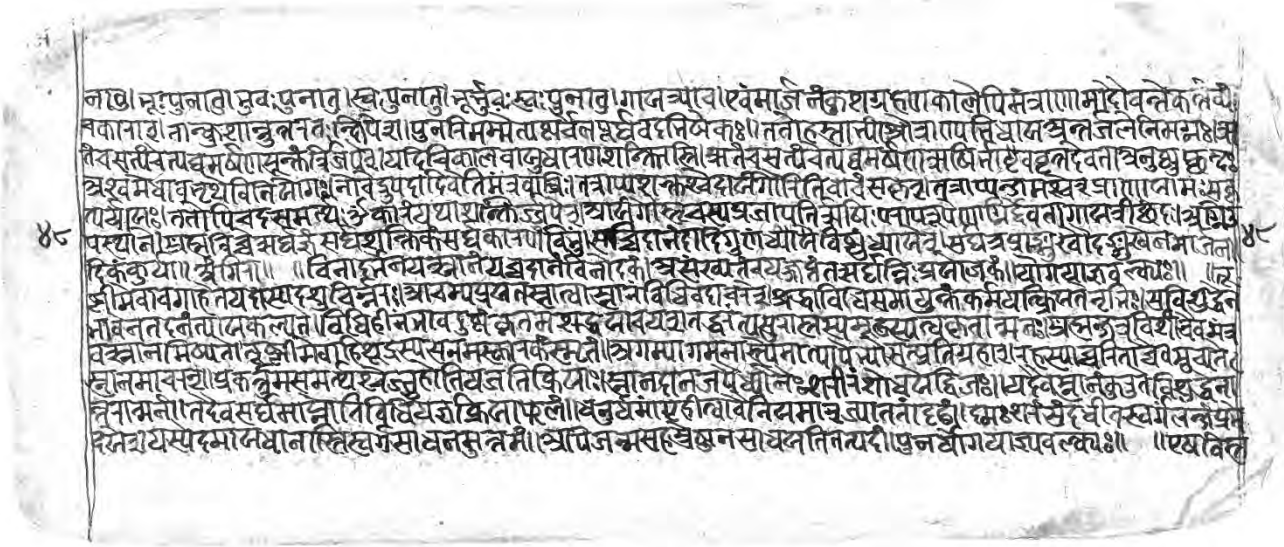
47v



48r



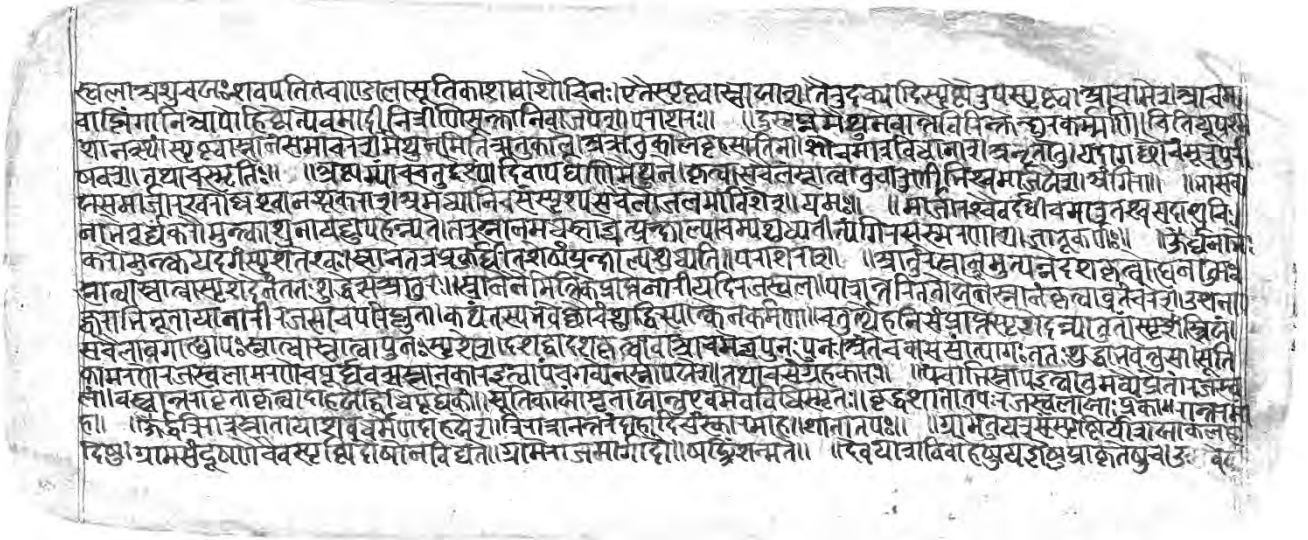
48v



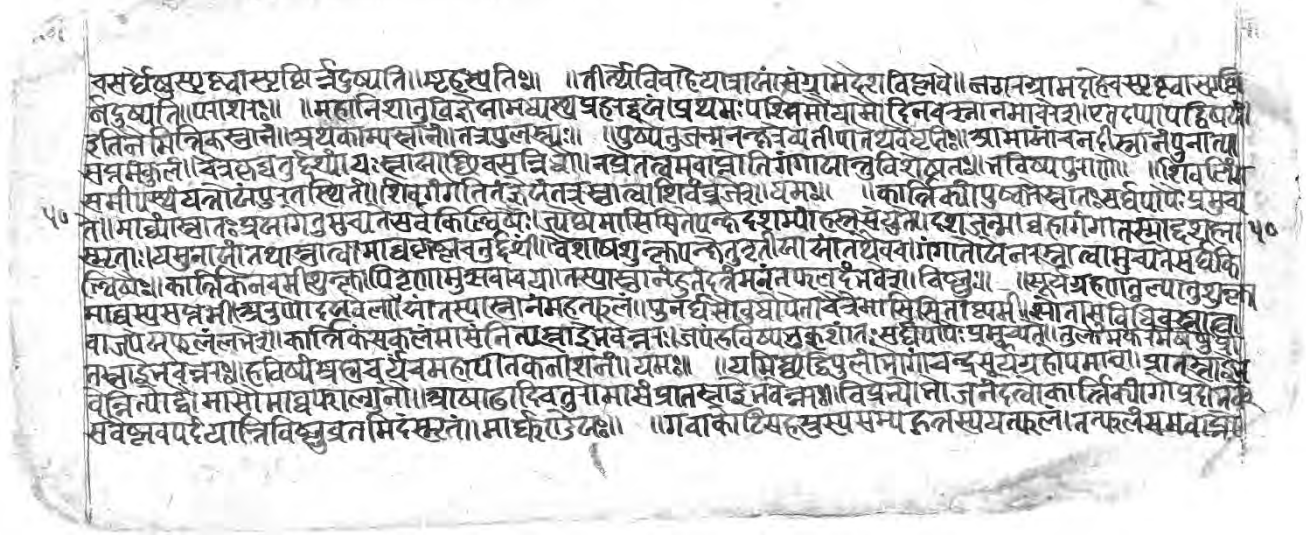
49r

49v

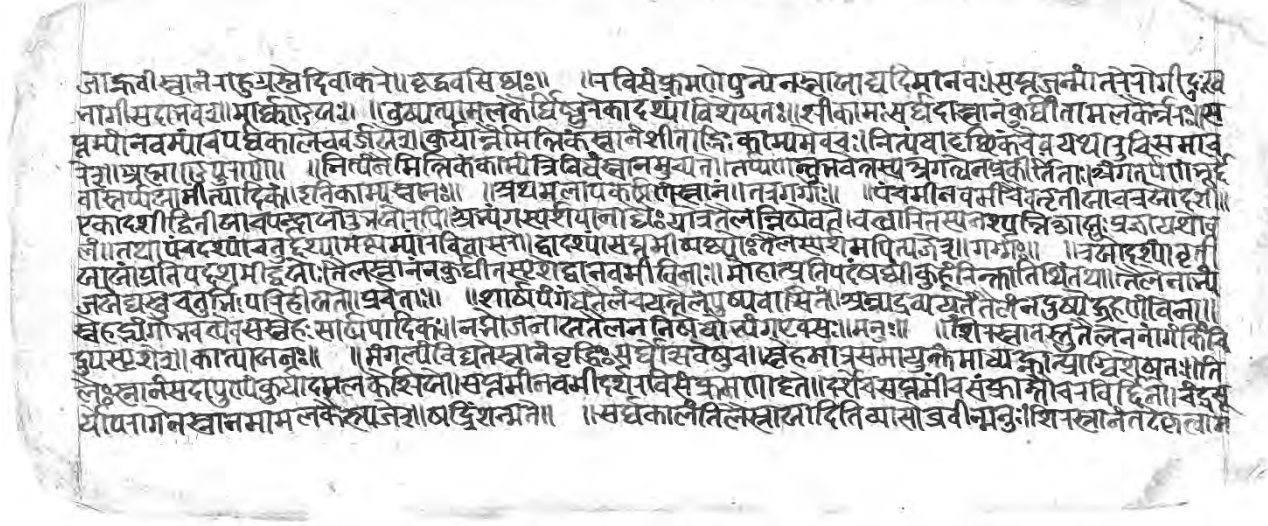
50r



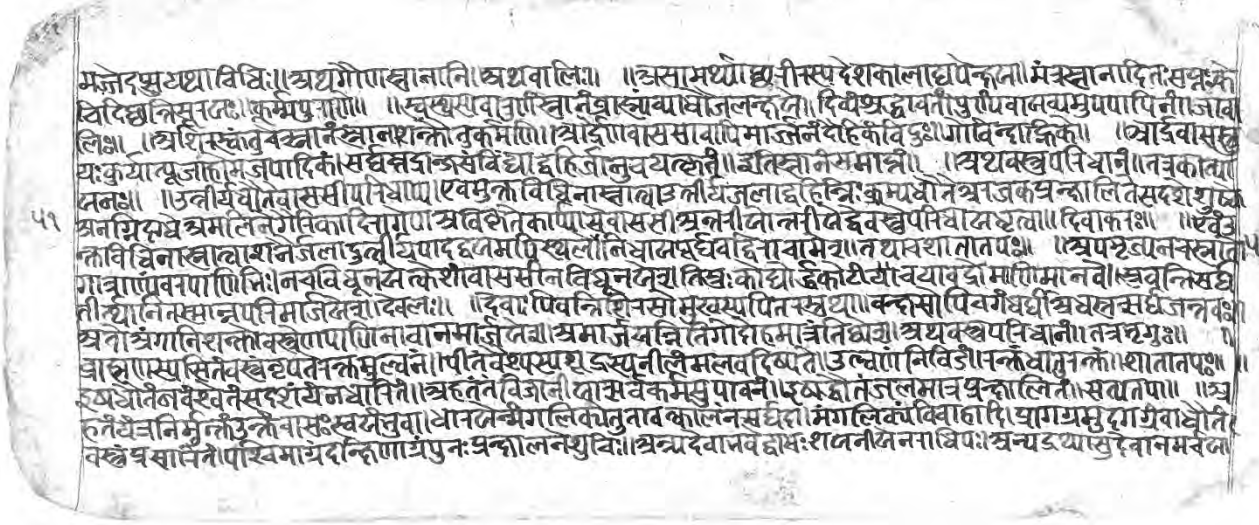
50v



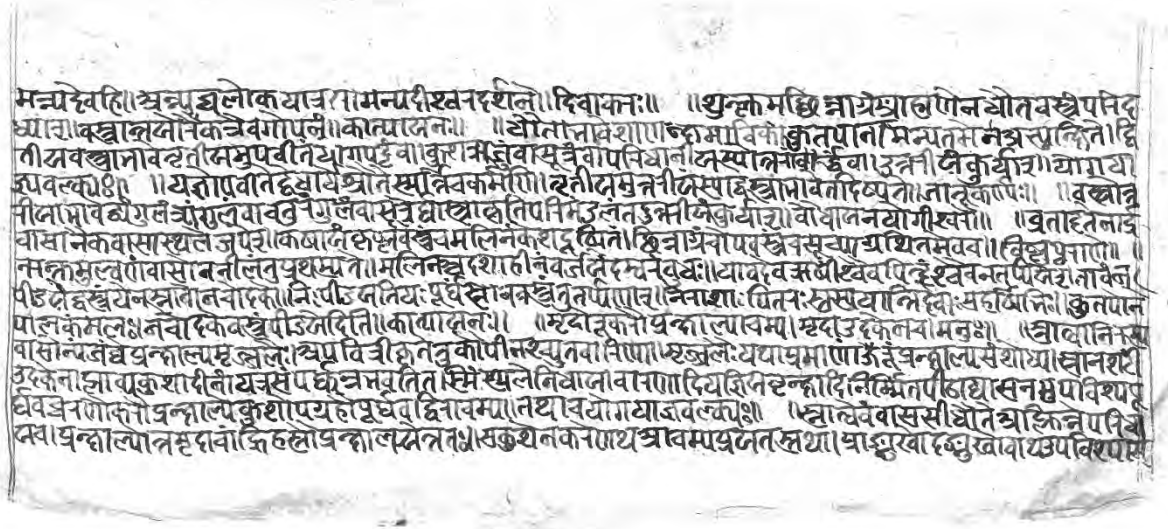
51r



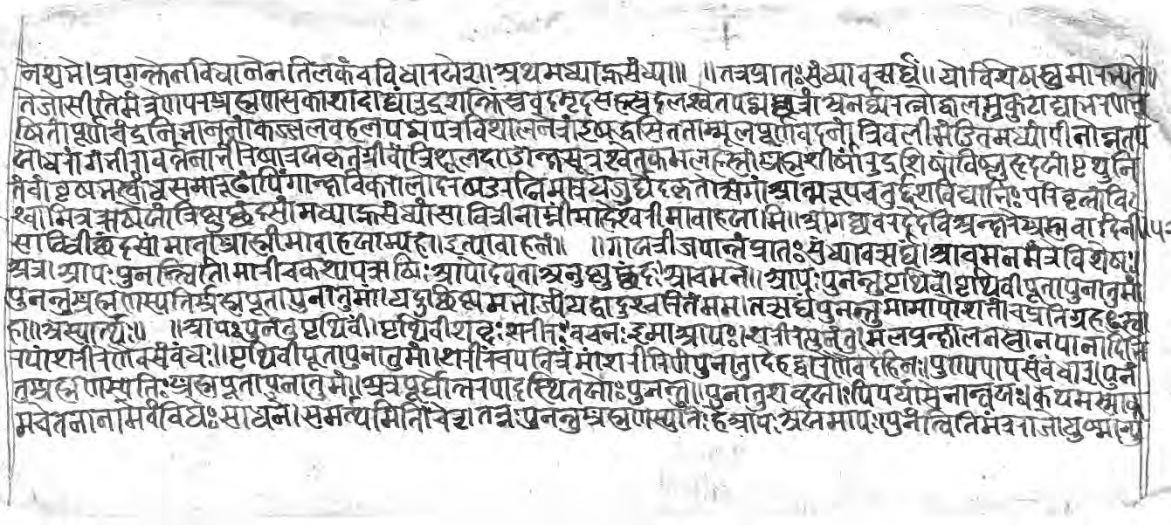
51v



52r

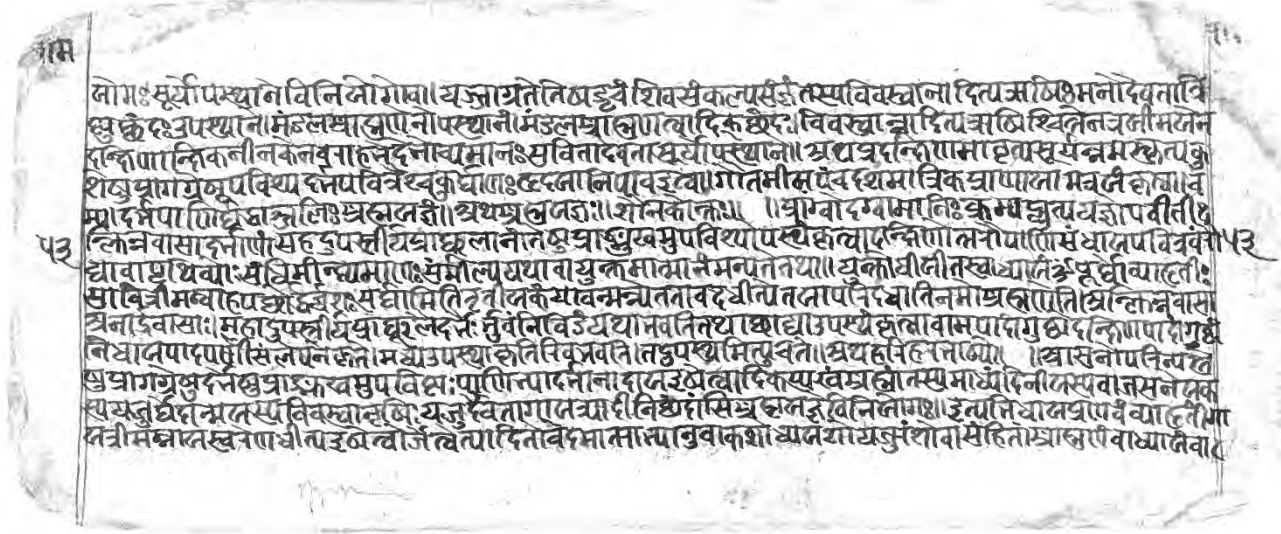


52v

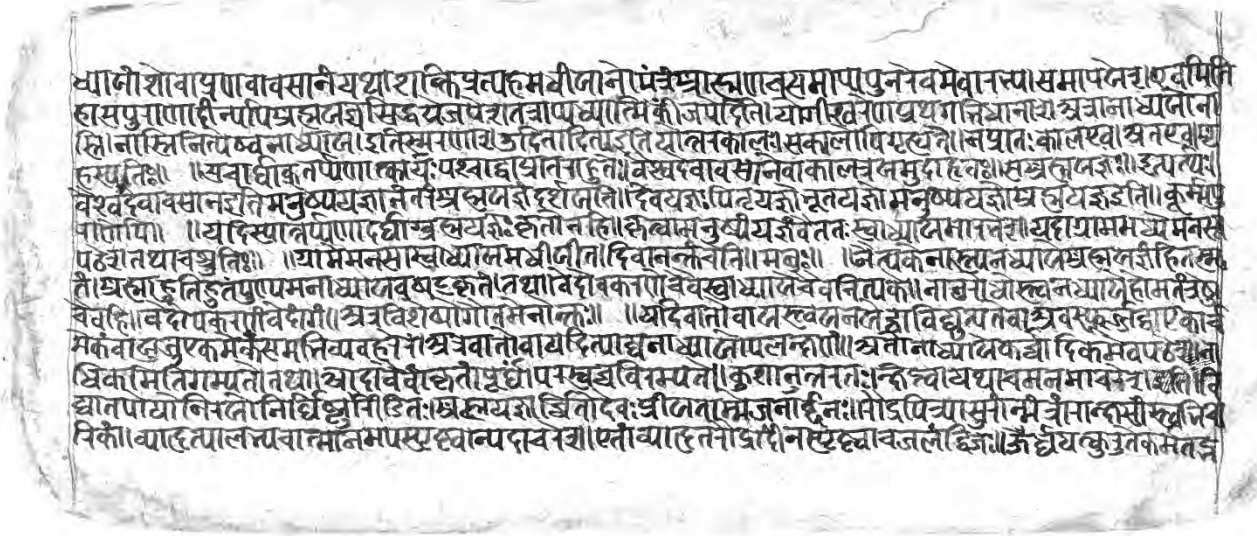


53r

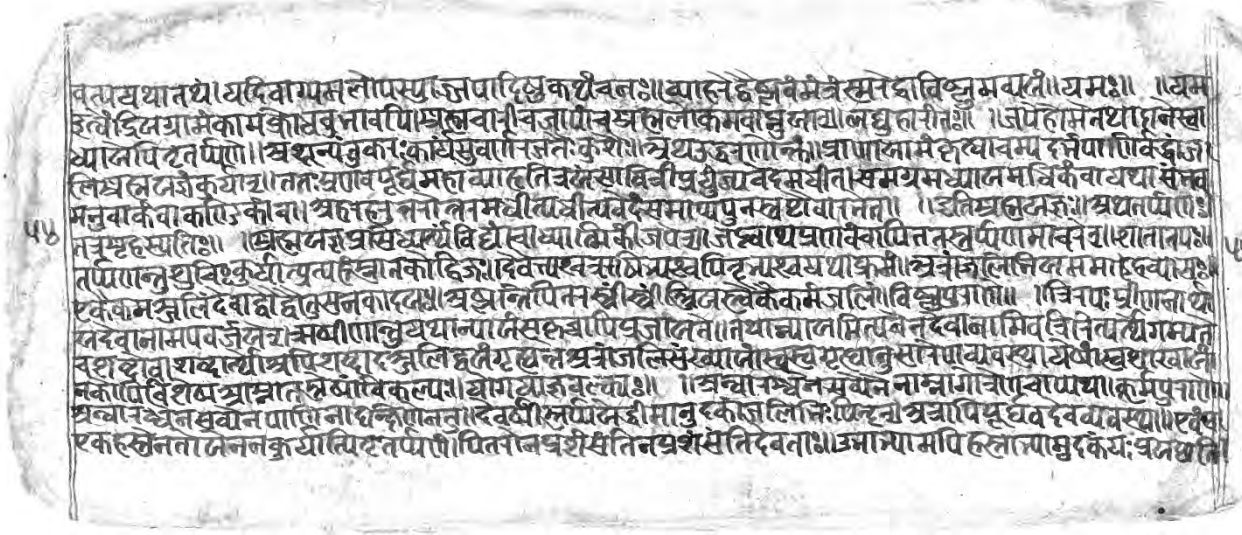
53v



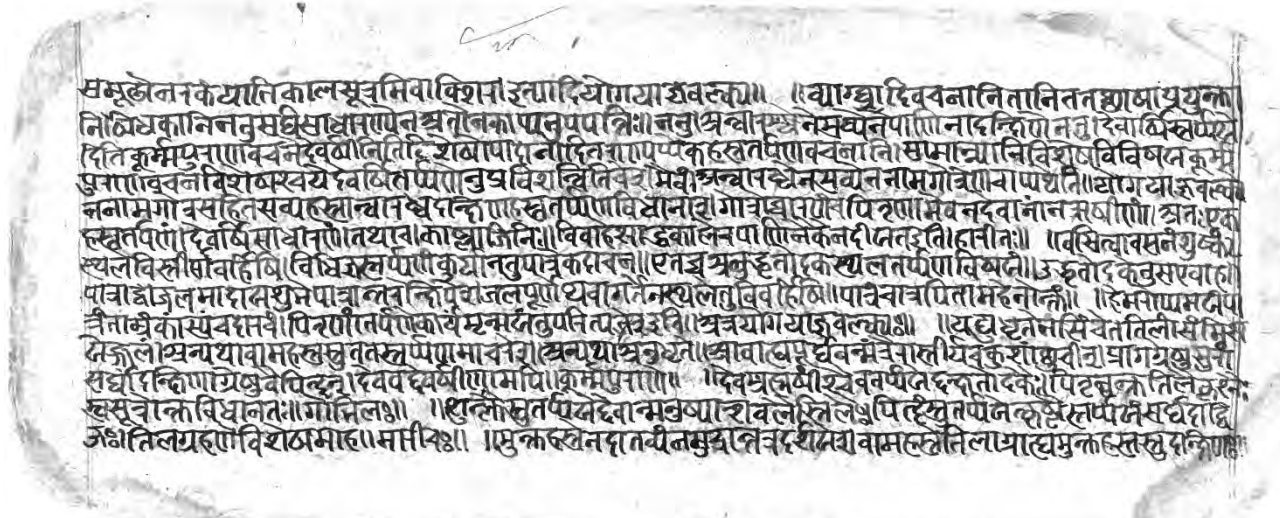
54r



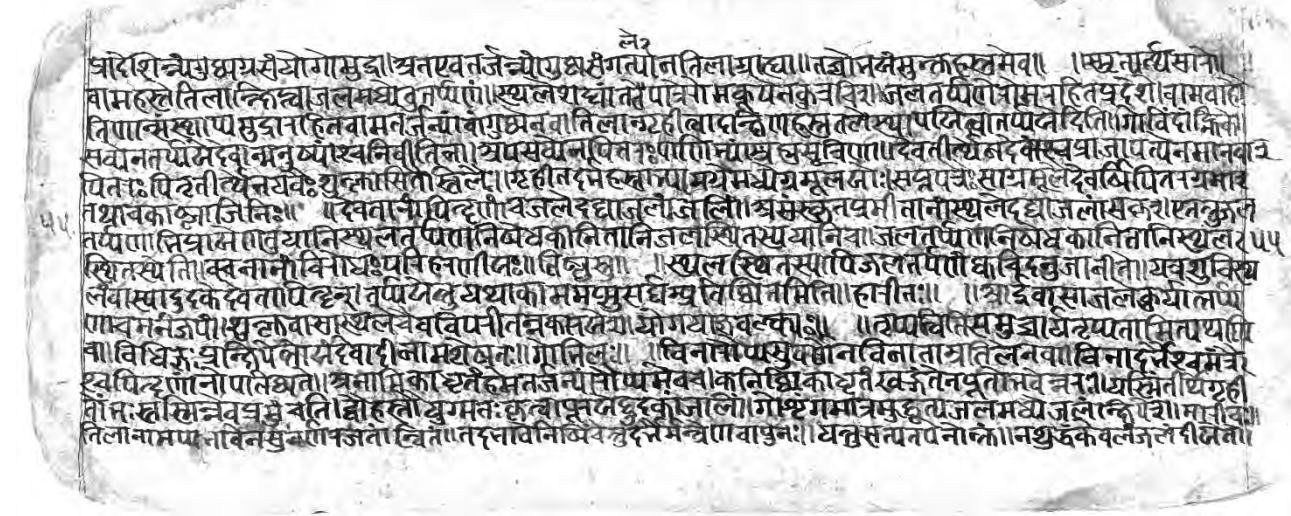
54v



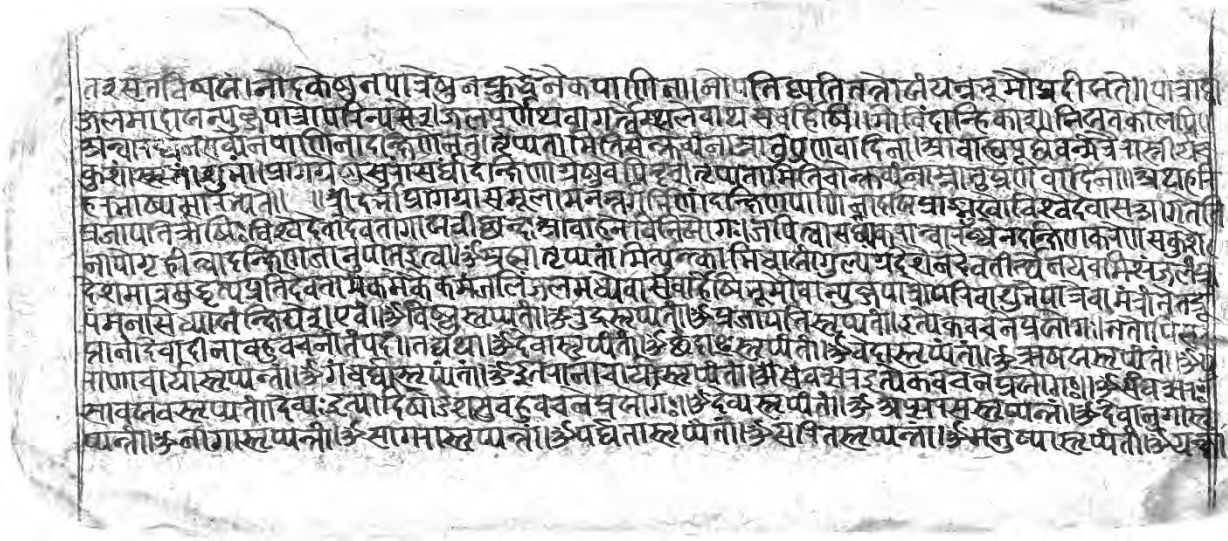
55r



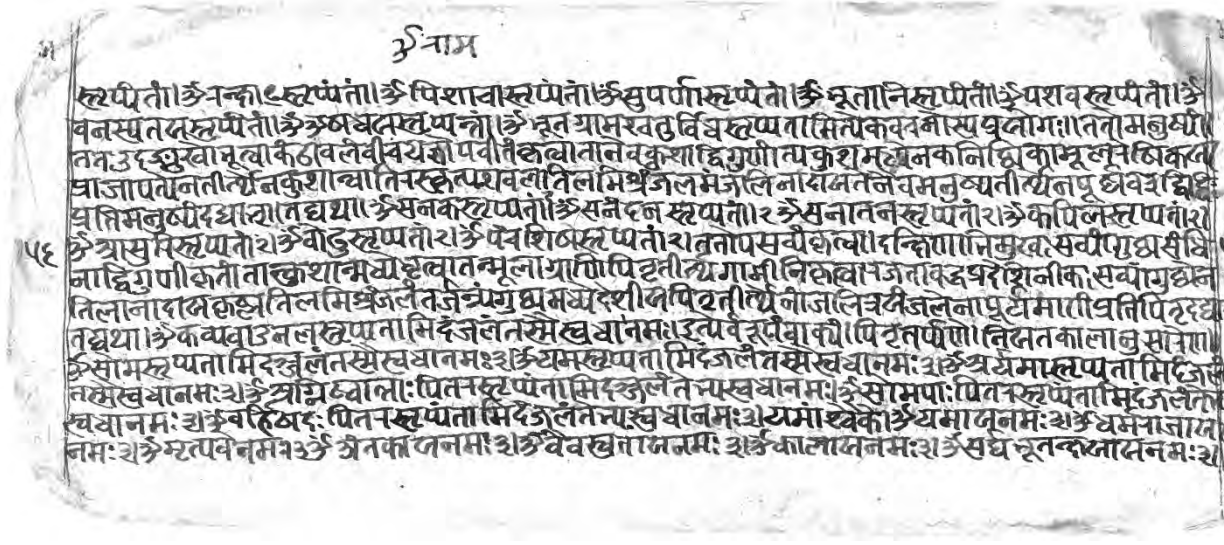
55v



56r

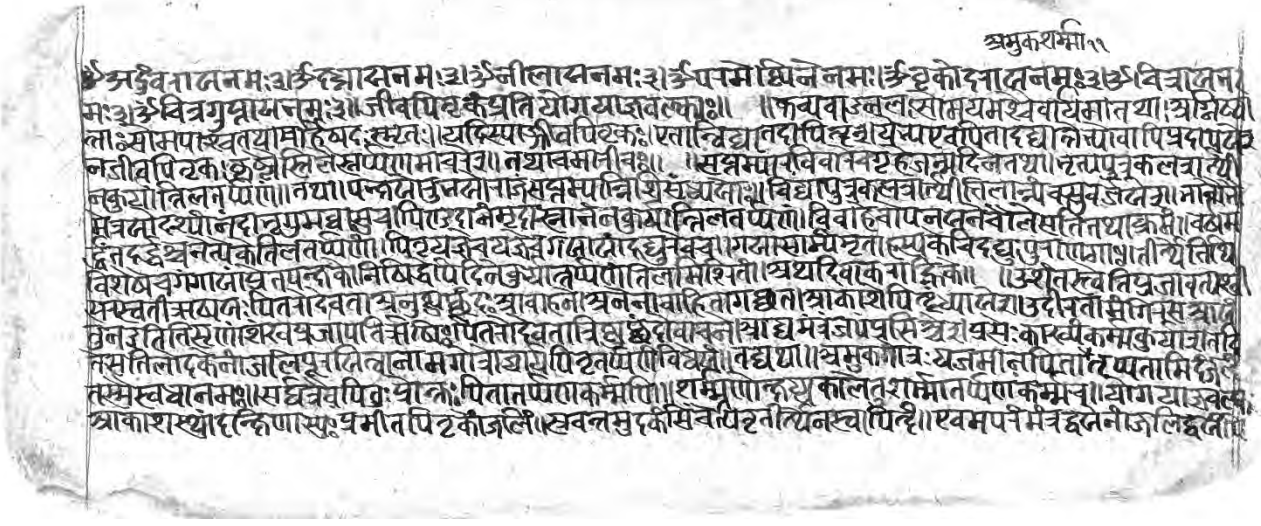


56v



अमुकशर्म्मा ११

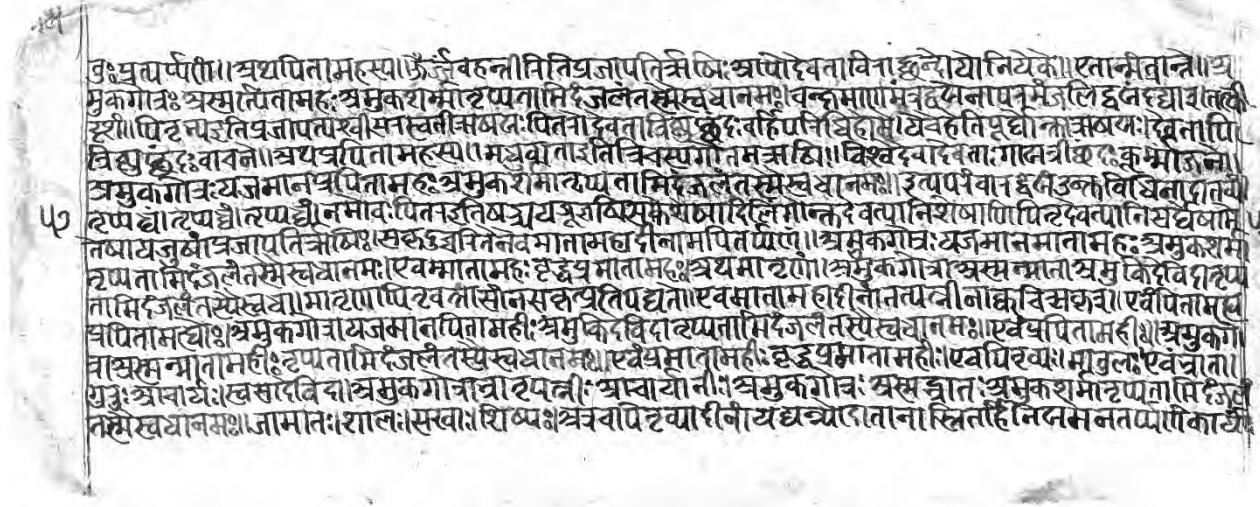
ॐ अद्भुतनादनमः ॥ ॐ दस्रादनमः ॥ ॐ नीलादनमः ॥ ॐ परमेष्ठिने नमः ॥ ॐ वृकोदरादनमः ॥ ॐ चित्रादनम
मः ॥ ॐ चित्रगुप्ताय नमः ॥ जीवपितृकं प्रति योगयाज्ञवल्क्यः ॥ ॥ कव्यवाडनलः सोमो यमश्चैवार्यमा तथा ॥ अग्निष्वा
त्ताः सोमपाश्चैव तथा बर्हिषदः स्मृताः ॥ यदि स्याज्जीवपितृकः एतान्विद्यात्तदा पितॄन् ॥ यस्य एव पिता दद्यात्तेभ्यो वापि प्रदद्यात्पु
न जीवपितृकः कृष्णैस्तिलैस्तर्पणमाचरेत् ॥ तथा वर्तमानेषु ॥ ॥ सप्तम्यां रविवारे च गृहे जन्मदिने तथा ॥ भृत्यपुत्रकलत्रार्थी
न कुर्यात्तिलतर्पणम् ॥ तथा पक्षयोरुभयोर्नास्ति सप्तम्यां निशि संध्ययोः ॥ विद्यापुत्रकलत्रार्थी तिलान्नैव स्पृशेद्गृहे ॥ मात्रमन्ने
मन्त्रदोषे स्थिते नद्यां युग्ममघासु च पितृदाने गृहे स्नाने नैव कुर्यात्तिलतर्पणम् ॥ विवाहे चोपनयने चौले सति तथा क्रमात् ॥ वर्षम
र्द्धं तदर्द्धं च नैव कुर्यात्तिलतर्पणम् ॥ पितृयज्ञे वा यज्ञे गयादौ दर्शे नवं ॥ गयासांनिध्यमृतानां कविदद्युः पुनः प्रमाप्यानीर्थतिथि
विशेषे गंगायां च तप्त निषिद्धेपि दिने च यत्तर्पणं तिलमिश्रितं ॥ अथ दिव्याकर्षणिका ॥ ॥ उशन्तस्त्वेति प्रजापतिऋषि
स्त्रिष्टुप्छन्दः पितरो देवता अनुष्टुप्छन्दः आवाहने ॥ अनेनावाहितान्गच्छतात्राकाशे पितृद्याले ॥ उदीरतामिति सोम
पुनरुक्ति तिसृणां शंखप्रजापतिऋषिः पितरो देवता त्रिष्टुप्छंदः आवाहने आद्यमंत्रजपप्रसिद्धः वसुः कार्य्यो कर्म कुर्याज्ञात
तस्तिलोदकेनांजलिपूरितेनाम गोत्राय पितृतर्पणं विदध्यात् ॥ तद्यथा ॥ अमुकगोत्रः यजमानपिता तृप्यतामिदं जलं
तस्मै स्वधानमः ॥ सर्वत्रैव पितुः प्रोक्तः पितामहप्रपितामहाः ॥ शर्म्मणोन्तकाले तु शर्म्मान्तं प्रपाकर्म च ॥ योगयाज्ञवल्क्यः
आकाशस्थोदकेनैव अस्पृश्यमितिपितृकांजलिं ॥ सव्येनमुद्रकां सव्येपितृतीर्थेन स्वापितृः ॥ एवमपरैर्मंत्रैर्दद्यादंजलिद्वयं ॥



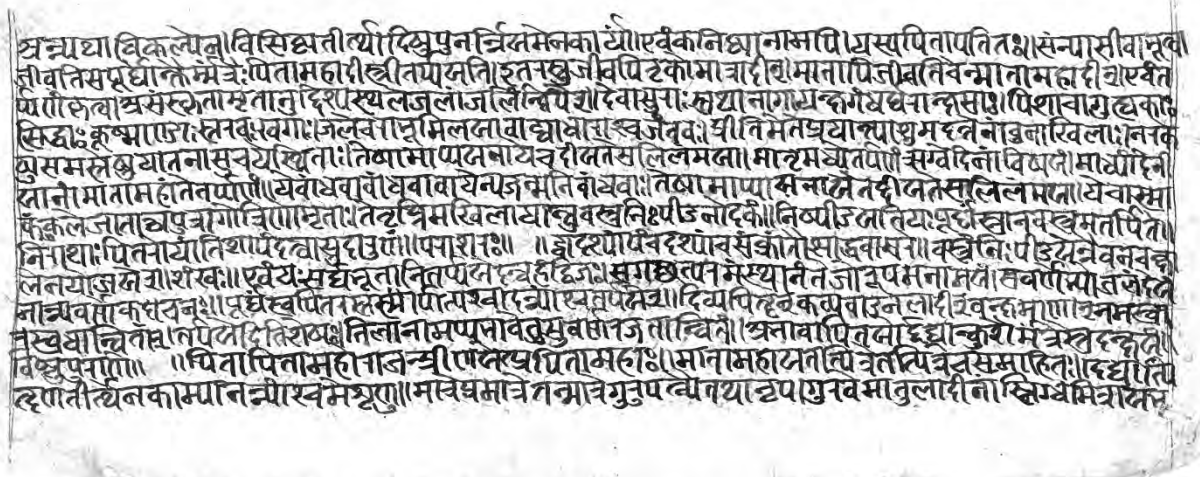
57r

५७ तुः प्रतर्पयेत् ॥ अथ पितामहस्य ॥ ॐ ऊर्जं वहन्तीरिति प्रजापतिऋषिः आपो देवता विराट्छन्दो याज्ञिके ॥ एतान्मंत्रान्ते ॥ अ
मुकगोत्रः अस्मत्पितामहः अमुकशर्मा तृप्यतामिदं जलं तस्मै स्वधा नमः ॥ वन्दमानो मन्त्रस्थापनाय पूर्वे अंजलिद्वयं दद्यात् तत्
सृष्टौ ॥ पितृभ्य इति प्रजापतिऋषिः सरस्वती अवसन्नः पितरो देवता त्रिष्टुप्छंदः बर्हिषदनिधिरिहामे ॥ ये वहन्ति पूर्वो नाम अवसः देवता पि
त्रिष्टुप्छंदः वाचने ॥ अथ प्रपितामहस्य ॥ मधुवाता इति त्रिवस्पगोतम ऋषिः ॥ विश्वेदेवा देवताः गायत्री छन्दः कुम्भोऽजने ॥
अमुकगोत्रः यजमानप्रपितामहः अमुकशर्मा तृप्यतामिदं जलं तस्मै स्वधा नमः ॥ इत्युपवीतवान्ह्वयेदुक्तविधिना दातव्यं
तृप्यध्वं तृप्यध्वं तृप्यध्वं नमो वः पितर इति अत्राय सूत्रविसर्गे कथा आदिलिंगोक्तदेवत्यानि शेषाणि पितृदैवत्यानि सर्वेषामभ ५७
तथा यजुर्भिः प्रजापतिऋषिः ॥ सकृदुच्चरितेनैव मातामहादीनामपि तर्पणं ॥ अमुकगोत्रः यजमानमातामहः अमुकशर्मा
तृप्यतामिदं जलं तस्मै स्वधा नमः ॥ एवं मातामहः वृद्धप्रमातामहः ॥ अथ मातृणां ॥ अमुकगोत्रा अस्मन्माता अमुकीदेवी दा तृप्य
तामिदं जलं तस्यै स्वधा ॥ मातृणां पितृवत्तासां न सकृत्प्रतिपद्यते ॥ एवं मातामहादीनां तत्पत्नीनां च विसर्जनं ॥ एवं पितामही
प्रपितामह्योः ॥ अमुकगोत्रा यजमानपितामही अमुकीदेवीदा तृप्यतामिदं जलं तस्यै स्वधा नमः ॥ एवं प्रपितामही ॥ अमुकगो
त्रा अस्मन्मातामही तृप्यतामिदं जलं तस्यै स्वधा नमः ॥ एवं प्रमातामही वृद्धप्रमातामही ॥ एवं पितृव्यः मातुलः एवं भ्राता ॥
गुरुः आचार्यः स्वसा देवीदा अमुकगोत्रा आचार्यपत्नी आचार्यानी ॥ अमुकगोत्रः अस्मद्भ्राता अमुकशर्मा तृप्यतामिदं जलं
तस्मै स्वधा नमः ॥ जामाता श्यालः सखा शिष्यः ॥ अत्र वा पितृव्यादीनां यद्यन्ये दातारो न स्युस्तर्हि निदमे नन्तर्पणं कार्यं

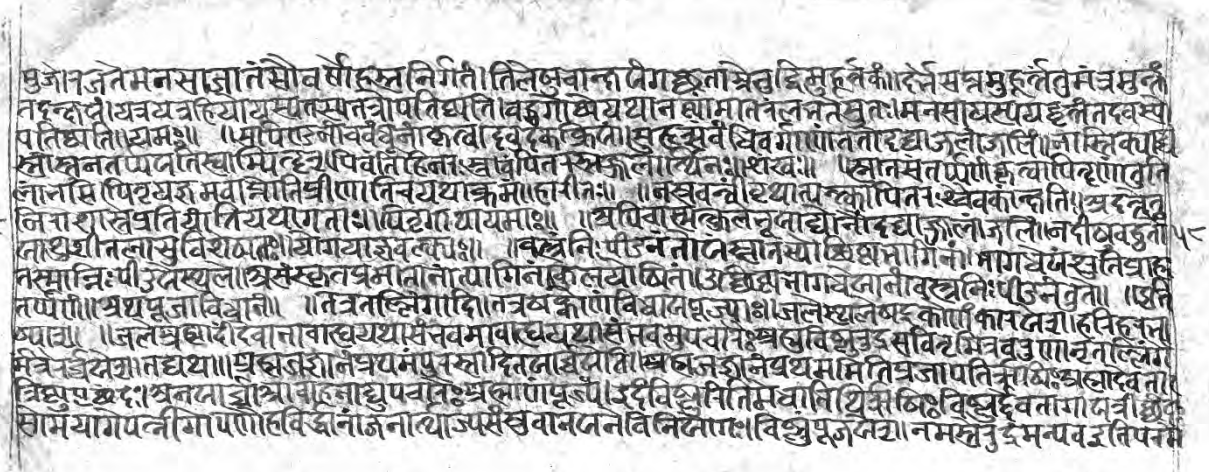
57v

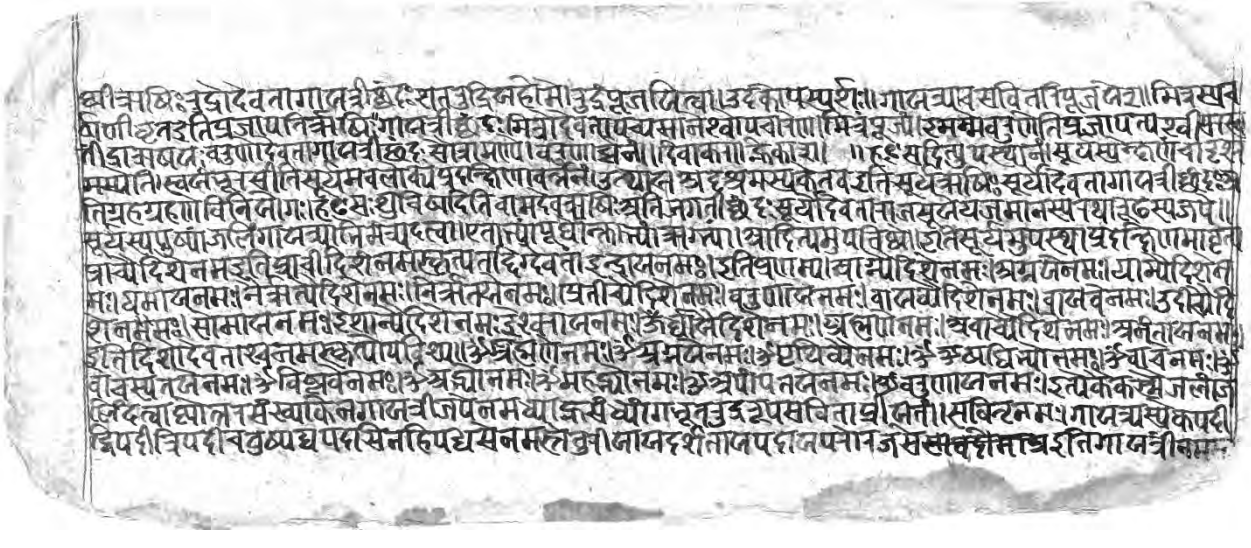


58r



58v

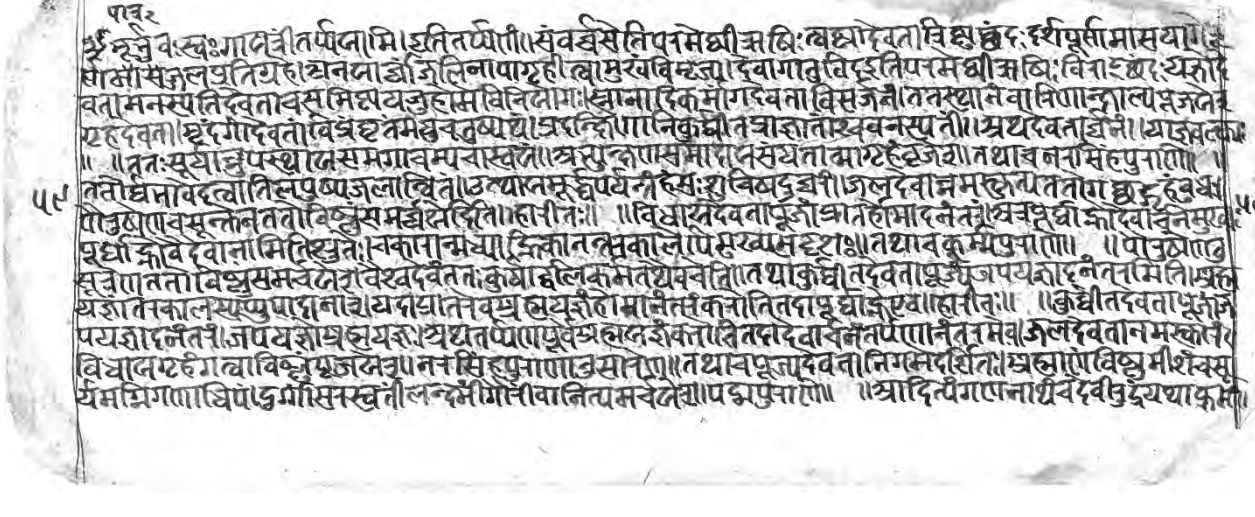




59r

थी ऋषिः नुद्रो देवता गायत्री छंदः शन्त उद्रिजहोमे नुदपूजयित्वा उदकोपस्पर्शः ॥ गायत्र्या सवितारं पूजयेत् ॥ मित्रस्य च
र्षणी धृत इति प्रजापतिर्ऋषिः गायत्री छंदः मित्रो देवता पंचमानेश्वोपवाना ॥ मित्रपूजा ॥ इमम्मे वरुणेति प्रजापत्य ऋषि स्म
तीडाम्बदः वरुणो देवता गायत्री छंदः सावामाप्य वरुणाज्जने ॥ दिवाकरा न्त्रकाश्च ॥ ॥ हंसः शुचिषदिति पस्थानं सूर्यस्य न्द्राणां वा हंस
मम्योति ॥ स्वर्णन्तरं सवीतिसूर्यमवलोक्य प्रदक्षिणावर्तनं उत्थाय अदृश्रमस्य केतव इति सूर्यऋषिः सूर्यो देवता गायत्री छंदः
तिग्रहण्यहो ॥ विनियोगः हंसः शुचि षदिति वामदेव ऋषिः अति जगती छंदः सूर्यो देवता जमूलयजमानस्य तथा हंसपजपे ॥
सूर्यस्य पुष्पांजलि गायत्र्याञ्जलिमच्चादत्वा ॥ एतास्त्वा पूर्वान्तां त्यो ऋगत्वा ॥ आदित्यमुपतिष्ठेत् ॥ इति सूर्यमुपस्थाप्य प्रदक्षिणामाहृत्य
प्राच्यै दिशे नम इति प्राची दिशे नमस्कृत्य तद्दिग्देवता इन्द्राय नमः ॥ इति प्रणम्य ॥ आग्नेय्यै दिशे नमः अग्नये नमः ॥ याम्यै दिशे न
मः ॥ यमाय नमः ॥ नैर्ऋत्यै दिशे नमः ॥ निर्ऋतये नमः ॥ प्रतीच्यै दिशे नमः ॥ वरुणाय नमः ॥ वायव्यै दिशे नमः ॥ वायवे नमः ॥ उदीच्यै दि
शे नमः ॥ सोमाय नमः ॥ ऐशान्यै दिशे नमः ईश्वराय नमः ॥ ॐ ऊर्ध्वायै दिशे नमः ॥ ब्रह्मणे नमः ॥ अवाच्यै दिशे नमः अनन्ताय नमः
इति दिशादेवताः नमस्कृत्याय दिशा ॥ ॐ ब्रह्मणे नमः ॥ ॐ अग्नये नमः ॥ ॐ पृथिव्यै नमः ॥ ॐ ओषधिभ्यो नमः ॥ ॐ वाचे नमः ॥ ॐ
वाचस्पतये नमः ॥ ॐ विष्णवे नमः ॥ ॐ अद्भ्यो नमः ॥ ॐ महद्भ्यो नमः ॥ ॐ अपांपतये नमः ॥ ॐ वरुणाय नमः ॥ इत्येकैकस्मै जलाञ्ज
लिं दत्वा ॥ ततो नर्मस्यादिकेन गायत्रीजपेन मया ज्ञानं यद्यं गायत्रुद रूपसविता प्रीयतां ॥ सविन्नम गायत्र्यस्यैकपदी
द्विपदी त्रिपदी चतुष्पद्य पदसि नहि पद्यसे नमस्ते तुरीयाय दर्शताय पदाय परोरजसे सावदोमाप्र इति गायत्रीं नम

59v



पत्र२

ॐ भूर्भुवः स्वः गायत्रीं तर्पयामि ॥ इति तर्पयेत् ॥ संवर्चसेति परमेष्ठी ऋषिः ब्रह्मा देवता त्रिष्टुप् छंदः दर्शपूर्णमासयोः
सोमो मासज्जल प्रतिग्रहे ॥ अनया अञ्जलिना पागृहीत्वा मुखं विमृज्य ॥ देवा गातु विद इति परमेष्ठी ऋषिः विराट् छंदः यज्ञो दे
वता मनस्पति देवता वसमिष्टयजुर्होम विनियोगः ॥ स्नानादिकमांग देवता विसर्जने ॥ ततः स्थाने वा निपातान्त्यालपम्मजने
गृहदेवता ॥ गृहे गोदेवता विप्रं इष्टं नमस्कृत्य प्रदक्षिणा निकुर्यात् ॥ तथा ज्ञाता स्वनस्पती ॥ अथ देवता यज्ञे ॥ याज्ञवल्क्यः
॥ ॥ ततः सूर्याद्युपस्थानं सभगा वम्यपास्थता ॥ असुन्नणासमादाय संयता मा गृहे हजेत् ॥ तथा च नरसिंहपुराणे ॥ ॥
५९ ततो र्घ्यं दत्वा तिलपुष्पजलान्वितं ॥ उत्थाय मूर्द्धपर्यन्तं हंसः शुचिषदृचा ॥ जलदेवान्नमस्कृत्य ततो गृहं व्रजेत् बुधः ॥ ५९
पौरुषेण च सूक्तेन ततो विष्णुं समर्चयेदिति ॥ हारीतः ॥ ॥ विधाय देवतापूजां कृतहोमादनंतरं ॥ अग्रभूधीक्रादद्याद्विनमुखे
र्भूधीक्रा देवानामिति श्रुतेः ॥ न कालानमयात्क्रान्त न्नकालेपि मुखमस्मिन् दृष्टा ॥ तथा च कूर्मपुराणे ॥ ॥ पौरुषेण तु
सूक्तेन ततो विष्णुं समर्चयेत् ॥ वैश्वदेवं ततः कुर्यात् बलिकर्म तथैव च ॥ तथा कुर्यात् देवतापूजाजपयज्ञादनंतरमिति ॥ अत्र
यज्ञा तत्कालस्य प्राधान्याय यदा ज्ञातं वश्य मयज्ञो होमानंतरं कर्तव्यं तदा पूर्वाह्ने एव ॥ हारीतः ॥ ॥ कुर्यात्देवतापूजां ज
पयज्ञादनंतरं ॥ जपयज्ञस्य च समयः ॥ अथ तर्पणात् पूर्वं अनुष्ठेय कर्तव्यं तदा देवार्चनं तर्पणानंतरमेव ॥ जलदेवान्नमस्कारो
विद्यात् गृहे गत्वा विष्णुं पूजयेत् ॥ नरसिंहपुराणे उक्तत्वात् ॥ तथा च पूजा देवता निगमदर्शिताः ॥ ब्रह्माणं विष्णुमीशं च सू
र्यमग्निं गणाधिपं ॥ दुर्गां सरस्वतीं लक्ष्मीं गौरीं वा नित्यमर्चयेत् ॥ पद्मपुराणे ॥ ॥ आदित्यं गणनाथं च देवीं रुद्रं यथाक्रमं ॥

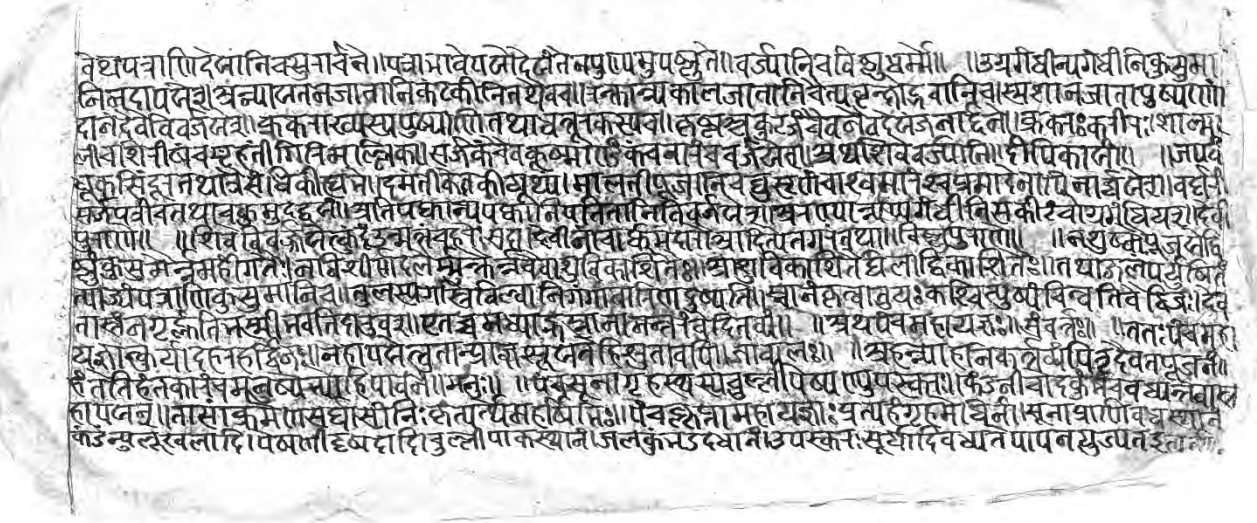
60r

नानाभ्यगीविश्वुद्भवाखीमन्येचकुलदेवताः॥ यागयाज्ञवल्क्यः॥ ॥देवानामर्चनेकुर्याद्ब्रह्मादीनाममसत॥ विष्णुर्ब्रह्मा च रुद्र
श्चविष्णुर्देवो दिवाकरः॥ तस्मात्पूज्यतमं नान्यमहं मन्ये जनार्दन॥ दद्यात्पुरुषसूक्तेन यः पुष्पाण्यप एव वा॥ अर्चितं स्याज्जगदि
दं तेन सर्वं चराचरं॥ अप्स्वग्नौ हृदये सूर्ये स्थण्डिले प्रतिमासु च॥ षट्स्वेतेषु हरेः सम्यगर्चनं मुनिभिः स्मृतं॥ याज्ञवल्क्यः॥ ॥नग्नं
पूजयेल्लिंगमन्नमस्यादिरवनुसरं॥ नमूर्त्तिः सवितुः पूज्या यदिच्छेच्चिरजीवितं॥ अग्नौ क्रियावतां देवो जले देवो मनीषिणां॥ प्रति
मास्वल्पबुद्धीनां योगिनां हृदये हरिः॥ अनुष्टुभस्य सूक्तस्य त्रिष्टुबन्तस्य देवता॥ पुरुषो यो जगद्बीजमृषिर्नारायणः स्मृतः॥ प्रथ
मां विन्यसेद्वामे द्वितीयां दक्षिणे करे॥ तृतीयां वामपादे तु चतुर्थीं दक्षिणे न्यसेत्॥ पंचमीं वामजानौ तु षष्ठीं वै दक्षिणे न्यसेत्॥ सप्तमीं
वामकट्यां तु अष्टमीं दक्षिणे न्यसेत्॥ नवमीं नाभिमध्ये तु दशमीं हृदये तथा॥ एकादशीं कण्ठदेशे वामबाहौ तथा परां॥ त्रयोदशीं द
क्षिणे तु आस्यदेशे चतुर्दशीं॥ अक्ष्णोः पंचदशीं षोडशीं मूर्ध्नि विन्यसेत्॥ एवं न्यासविधिं कृत्वा पश्चाद्यागं समाचरेत्॥ आद्ययावाह
येद्देवमृचा तु पुरुषोत्तमं॥ द्वितीययासनं दद्यात्पाद्यं चैव तृतीयया॥ अर्घ्यश्चतुर्थ्या दातव्यः पंचम्याचमनीयकं॥ षष्ठ्या स्नानं प्रदात
व्यं सप्तम्या वस्त्रमेव च॥ यज्ञोपवीतमष्टम्या नवम्या चानुलेपनं॥ पुष्पं दशम्या दातव्यमेकादश्या च धूपकं॥ द्वादश्या दीपकं दद्या
त्त्रयोदश्या निवेदनं॥ चतुर्दश्या नमस्कारं पंचदश्या प्रदक्षिणं॥ एवं जित्वा तु देवेशं षोडश्या च विसर्जयेत्॥ स्नानवस्त्रनै
वेद्यं दद्यादाचमनीयकमिति॥ एवमितरेषां ब्रह्मादीनां पूजनं कार्यं॥ तत्प्रकाशकैर्वैदिकैर्मन्त्रैः तदशक्तो तत्तन्नामधेयम
न्त्रैर्नमोन्तैः पूजयेत्॥ अथ यावा वेदा विष्णुं स्वस्वदीक्षानुसारेण वा देवार्चनं कार्यं॥ हतपापेन तापो वै यस्य पुंसः प्रजायते

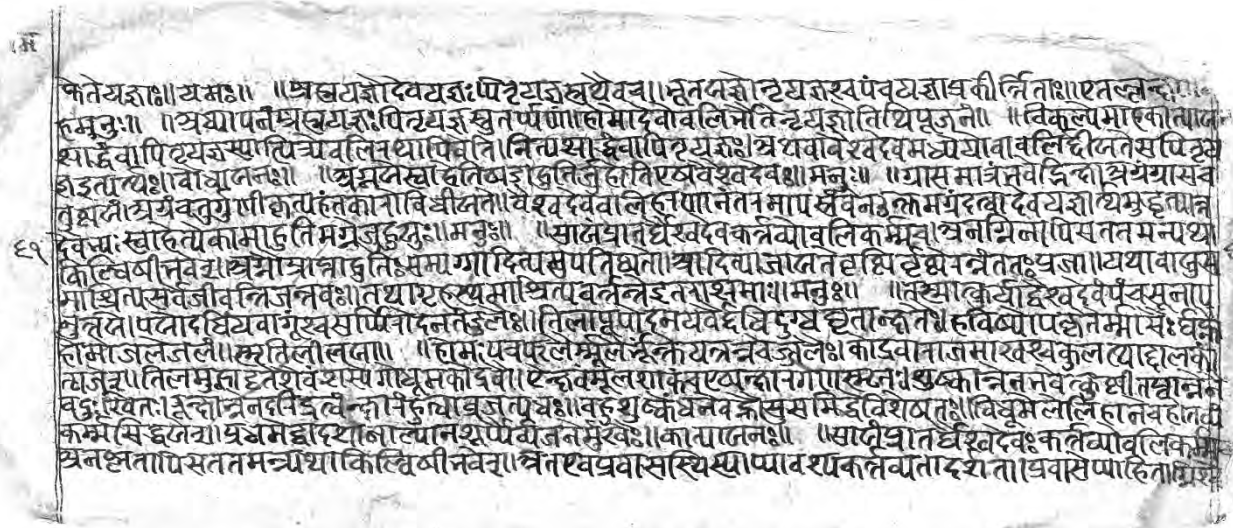
60v

यावत्स्थितं तु तस्यैव कीर्त्तितं समनाणप्ये॥ ॥इति देवतार्चनं॥ अथ पूजाप्रयुक्तपुष्पाणि॥ तत्र नृसिंहपुराणे॥ ॥पुष्पैर्ना
प्यर्सीनृतः पत्रैर्वाप्यर्चयेदेवं॥ अपर्युषितनिश्छिद्रप्रोक्षितैर्जन्तुवर्जितैः॥ आत्मारामोद्भवैर्वापि पुष्पैः संपूजयेद्धरिं॥ शमीपुष्पं
बिल्वपुष्पं केतकी च तथा॥ करवीरं तथा श्वेतं पलाशं कशपुष्पकं॥ वनमाला च्य शोकं चम्पकं कुञ्जमालती॥ त्रिसंध्यं च तथा
श्वेतं कृष्णशतपत्रकं॥ मल्लिका च बृजाती च सर्वपुष्पाणि शोभते॥ जातीपुष्पसहस्रेण यच्छन्मालां सुशोभनां॥ विष्णवे विधि
वद्भक्त्या तत्पुण्यफलं शृणु॥ कल्पकोटिसहस्राणि कल्पकोटिशतानि च॥ वसेद्विष्णुपुरे श्रीमान्विष्णुतुल्यपराक्रमः॥ पत्राणि
६० प्यत्र मार्गाः शमीपत्रं च खादिरं॥ दूर्वांकुरं च कुशपत्रं च दमनं मरुवकं तथा॥ ततः श्रेष्ठं बिल्वपत्रं ततस्तु तुलसी च ना॥ एतेषां च यथाला
भं पत्रैर्यश्चार्चयेद्धरिं॥ सर्वपापविनिर्मुक्तो विष्णुलोके महीयते॥ यथा संति च पुष्पाणि प्रशस्तान्यच्युतं तस्य पल्लवान्यपि तच्च
स्पृशस्तान्यद्य च विधालयः॥ वीरुधानामतापि बर्हिषा चार्चयेद्धरिं॥ अपामार्गसहस्राणि अपामार्गशतानि च॥ पद्ममेकेन देवेश
न्द्रोमतेदलमार्चितं॥ पद्मेनैकेन देवेशमर्चितं कमलापतिं॥ वर्षायुतसहस्रस्य पापस्य कुरुते न्दहं॥ अगस्त्यैर्न्द्रसंभूतैः कुसुमैर
सितैः सितैः॥ एवं जन्तिवदेवेशं नः प्राप्नोति परमं पदं॥ सुवर्णकेतकीपत्रं यो दद्यात्तु जनार्दने॥ कोटिजन्मार्जितं पापं दहते गरुडध्वजः॥
सकृत्कं देवपुष्पाणि हेलया हन्ति केशवः॥ सप्तजन्मनि देवेश तस्य लक्ष्मीर्न हीयते॥ कुंदपुष्पं तु देवेशं यः प्रयच्छति केशवायु
वर्षापलमात्रेण पुष्पं पुष्पेण वैभवं॥ गरुडपुराणे॥ ॥यथा कथंचित्प्राहृत्य कुसुमैः पूजयेद्धरिं॥ नाकष्टमवाप्नोति नात्र का
र्यविचारणा॥ स्कंदपुराणे॥ ॥विष्णुमूर्ध्नि स्थितं पुष्पं शिरसा यो वहेन्नरः॥ अपर्युषितपापः स्याद्यावद्युगचतुष्टयं॥ पुष्पा

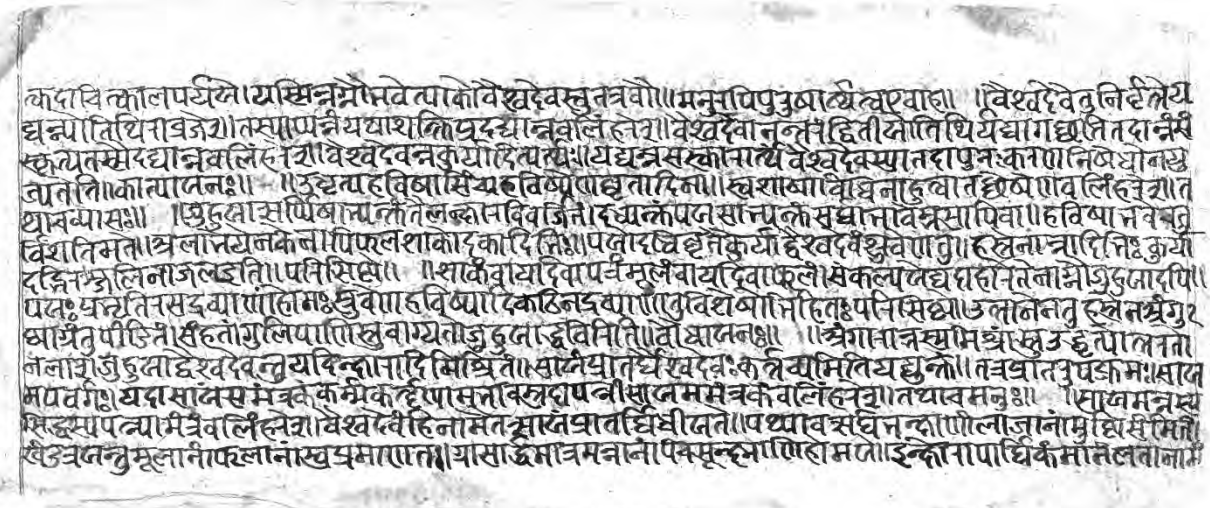
61r



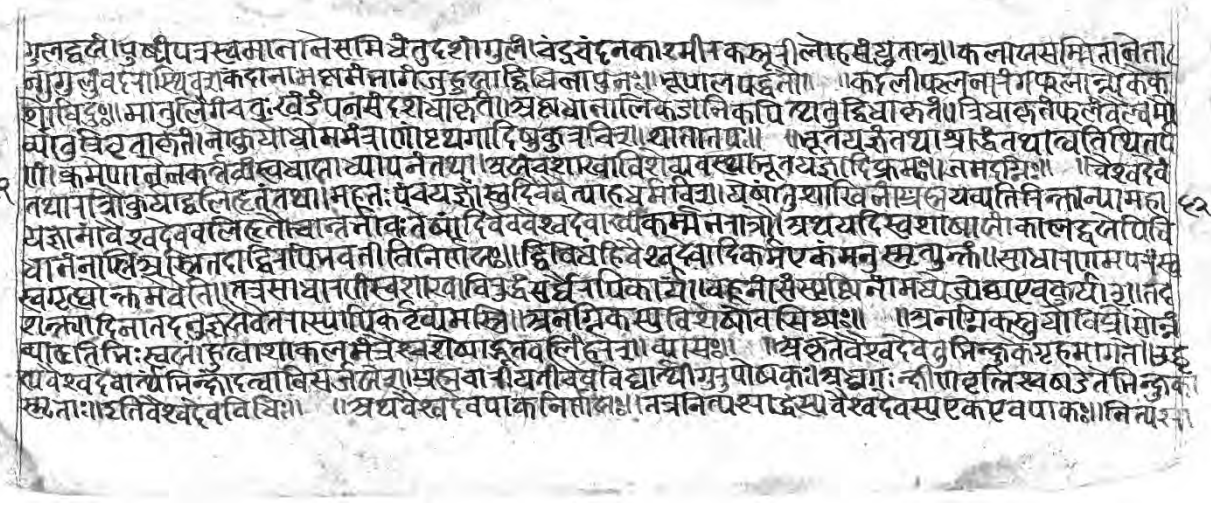
61v



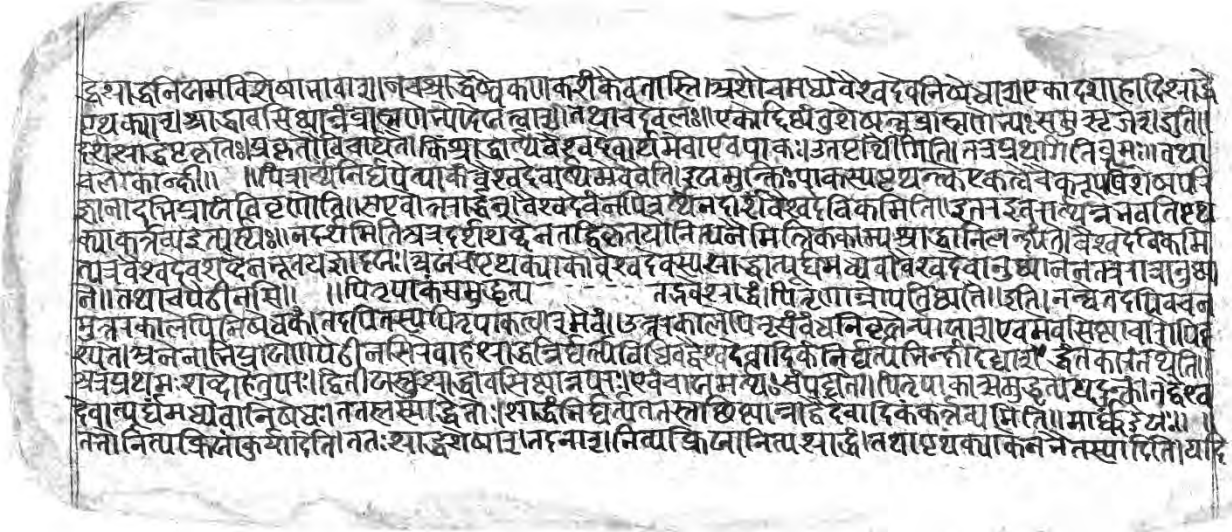
62r



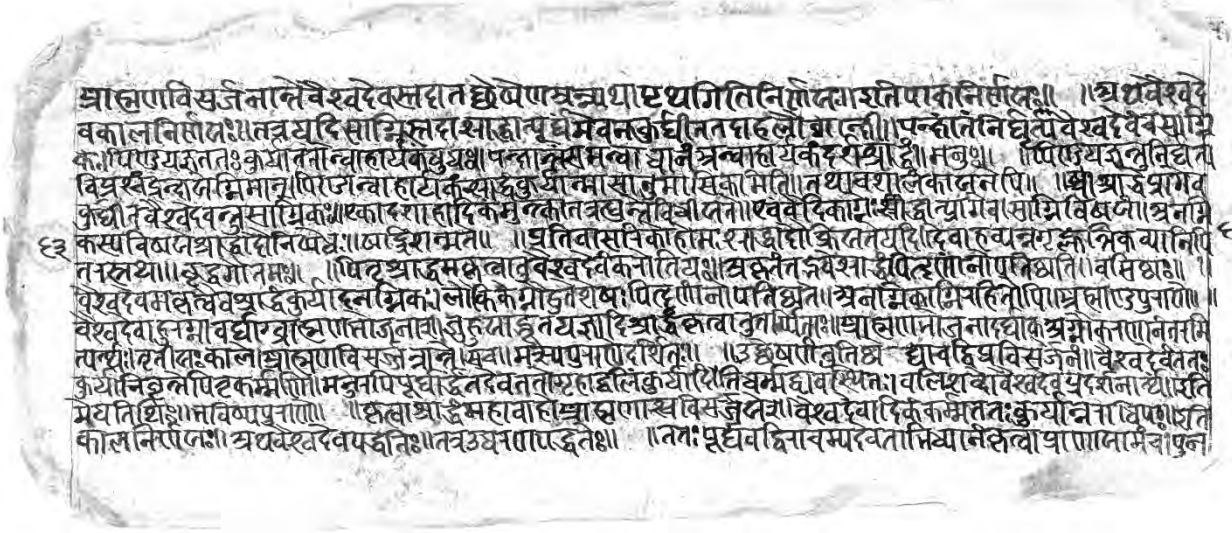
62v



63r



63v



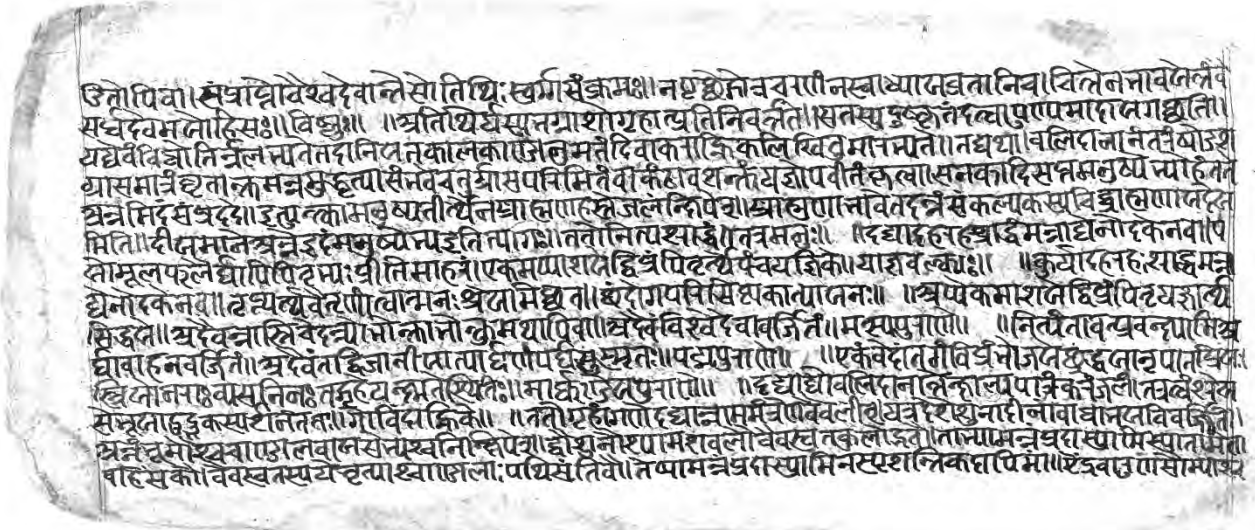
64r

64v

65r

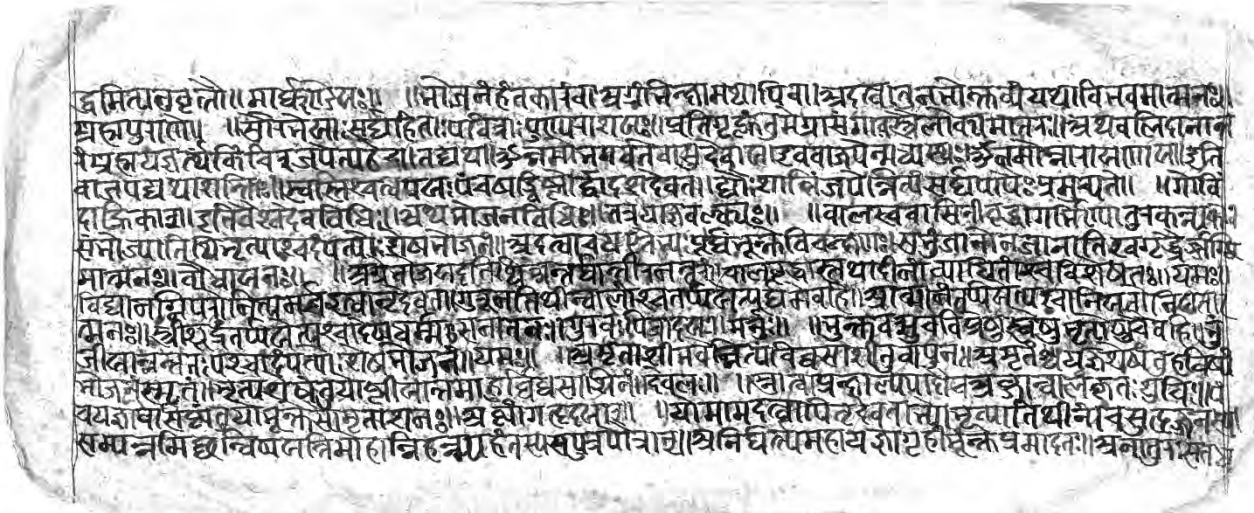
उत्तोपि वा। संध्यायां वैश्वदेवान्ते सोतिथिः स्वर्गसंक्रमः॥ नष्टेह्नि तु व्रतीन स्वाध्यायादवता निवा। वित्तेन नावमन्येत
सर्वदेवमयो हि सः॥ विष्णुः॥ ॥अतिथिर्यस्य भग्नाशो गृहात्प्रतिनिवर्त्तते। स तस्मै दुष्कृतं दत्वा पुण्यमादाय गच्छति॥
यद्येवं विप्रो निर्मलस्नातेतदा नित्यतकालकांडे जलनुमते दिवाकनाह्निकालिखितुमानन्यात्॥ न यथा। बलिदानानंतरं भोज्य
ग्रासमात्रं हुतान्नमन्नमुद्धृत्यासीनेव तु ग्रासपरिमितं वा कृत्वाऽपसव्यं यज्ञोपवीतं कृत्वा॥ सनकादिसहितमनुष्येभ्यो हन्त
अन्नमिदं संप्रददे॥ इत्युक्त्वा मनुष्यतीर्थेन प्रागग्रेषु हस्ते जलं निक्षिपेत्॥ आह्नुणानावितद्धन्नेस कल्पकस्य विज्ञानमणानन्द
मिति॥ दीनमानेनान्नं इदं मनुष्येभ्य इति त्यागः॥ ततो नित्यश्राद्धं॥ तत्र मनुः॥ ॥दद्यादहरहः श्राद्धमन्नाद्येनोदकेन वा॥ प
योमूलफलैर्वापि पितृभ्यः प्रीतिमाहरन्॥ एकमप्याशयेद्विप्रं पितृर्थे पंचयज्ञिके॥ याज्ञवल्क्यः॥ ॥कुर्यादहरहः श्राद्धमन्ना
द्येनोदकेन वा॥ ह्यन्यत्वे तपीत्वा मनः श्रद्धामिच्छता॥ छंदोगपरिशिष्टे कात्यायनः॥ ॥अप्येकमाशयेद्विप्रं पितृयज्ञार्थ
सिद्धये॥ अदैवं नास्ति चेदन्यो भोक्ता भोज्यमथापि वा॥ अप्येवं विश्वेदेवावर्जितं॥ मत्स्यपुराणे॥ ॥नित्यं तावत्प्रवक्ष्यामि अ
र्घावाहनवर्जितं॥ अदैवं तद्विजानीयात् [illegible] स्मृतः॥ पद्मपुराणे॥ ॥एकं वेदांतगं विप्रं भोजयेत्तद्धृदा नृपा निधिनः
ष्विप्रोनन्यश्च वासूतिनः तदूर्ध्वं नूनतस्थितः॥ मार्कंडेयपुराणे॥ ॥दद्याद्भौ बलिदानान्ते [illegible] पात्रे कृते जले तस्त्वं शेष
संस्कृतोद्धृत्य स्पृष्टान्नेततः॥ गोविंदाह्निके॥ ॥ततो गृहंगतो दद्यान्नामन्त्रेण बलीन्यत्र [illegible] नादीनावाचानदाविवर्जितं॥
अन्नं चमोरं श्ववाण्डालवायसेभ्यश्च निक्षिपेत्॥ श्वानौ श्यामशबलौ वैवस्वतकुलोद्भवौ॥ ताभ्यामन्नं प्रदास्यामि स्यातामे
ताव हिंसकौ॥ वैवस्वतस्य ये श्वानौ श्यामशबलौ पथि संस्थितौ॥ ताभ्यामन्नं प्रदास्यामि नस्य शान्तिकदापि मा॥ ऐन्द्रवारुणवायव्या

65v

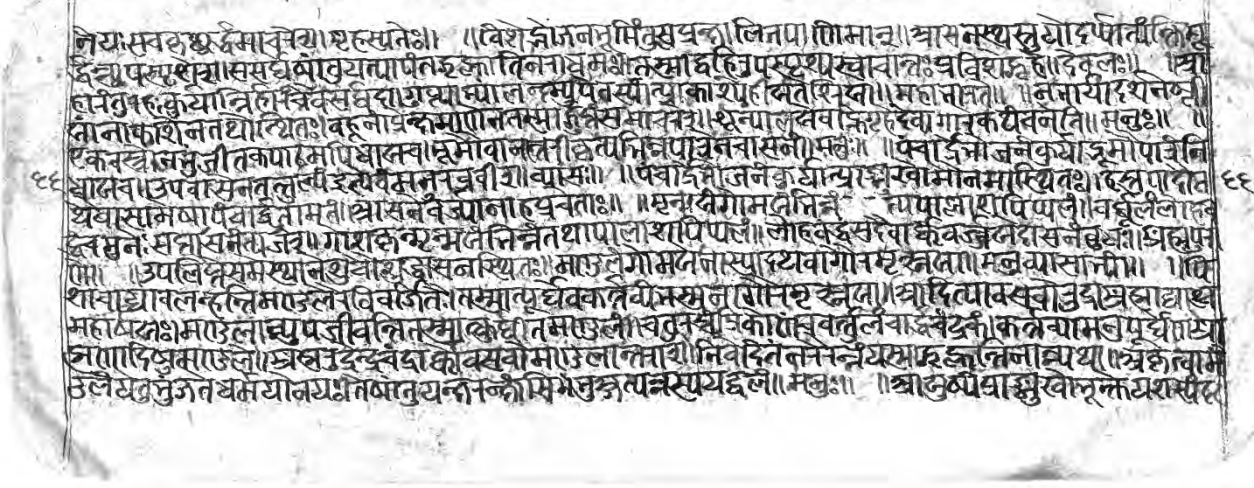


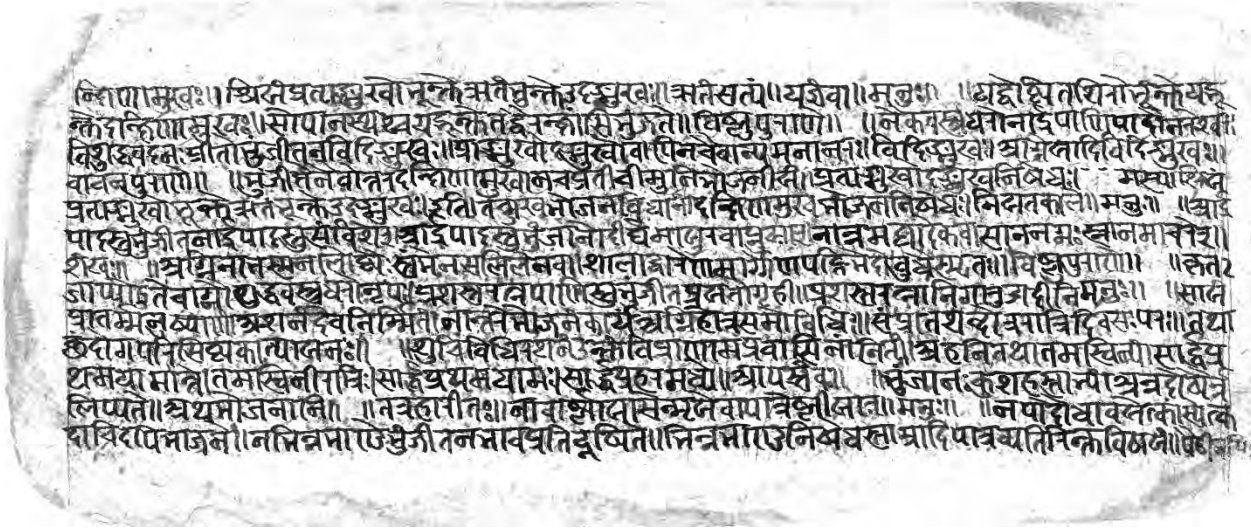
याम्या नैर्ऋत्यजास्तथा॥ वायसाः प्रतिगृह्णन्तु भूमौ पिंडं मयार्पितं॥ शुनां च पतितानां च श्वपचां पापरोगिणां॥
वायसानां कृमीणां च शनकैर्निक्षिपेद्भुवि॥ नित्यतकालकांडे॥ ॥देवा मनुष्याः पशवो वयांसि सिद्धाः सयक्षोरगदैत्य
संघाः॥ प्रेताः पिशाचास्तरवः समस्ता ये चान्नमिच्छन्ति मयात्र दत्तं॥ पिपीलिकाकीटपतंगकाद्याः बुभुक्षिताः कर्मनिबंध
बद्धाः॥ प्रयान्तु ते तृप्तिमिदं मयान्नं तेभ्यो विसृष्टं सुखिनो भवन्तु॥ येषां न माता न पिता न बंधुर्नैवान्नसिद्धिर्न तथा
न्नमस्ति॥ तत्तृप्तयेन्नं भुवि दत्तमेतत्तत्प्रयान्तु मुदिता भवन्तु॥ इत्युच्चार्य निवादद्यादन्नं श्रद्धासमन्वितः॥ भुवि भूतोपका
६५ रार्थं गृही सर्वाश्रयो यतः॥ श्वचाण्डालविहंगानां भुवि दद्यात्ततो बलिं॥ सातिमतस्तथाचूर्णी यावत्प्रतिक्षणं तत [illegible]॥ ततः ६५
पश्चादपूर्वोक्तविधिना पादौ प्रक्षाल्य द्विराचम्य सूर्यं नमस्कृत्य ततो गोदोहमात्रं वै कालं तिष्ठेद्गृहांगणे॥ ततो म
नुष्ययज्ञं वै यथाविधि समाचरेत्॥ बोधायनः॥ ॥स्वा अतिथिनाम्नेयं दद्यात्॥ मनुः॥ ॥कृत्वैतद्बलिकर्मैवमतिथिं पू
र्वमाशयेत्॥ भिक्षां च भिक्षवे दद्याद्विधिवद्ब्रह्मचारिणे॥ यत्पुण्यफलमाप्नोति गां दत्वा विधिवद्गुरोः॥ तत्पुण्यफलमाप्नो
ति भिक्षां दत्वा द्विजो गृही॥ भिक्षामप्युदपात्रं वा सत्कृत्य विधिपूर्वकं॥ वेदतत्त्वार्थविदुषे ब्राह्मणायोपपादयेत्॥ न
श्यन्ति हव्यकव्यानि नराणामविजानतां॥ भस्मभूतेषु विप्रेषु मोहाद्दत्तानि दातृभिः॥ विद्यातपः समृद्धेषु हुतं विप्र
मुखाग्निषु॥ निस्तारयति दुर्गाच्च महतश्चैव किल्बिषात्॥ यमः॥ ॥हस्तदत्तास्तु या भिक्षा सलिलं व्यंजनानि च॥ भुक्त्वा
त्वशुचितां याति दाता स्वर्गं न गच्छति॥ वसिष्ठः॥ ॥स्रोत्रियायातिथये दत्वा ब्राह्मणानि वा यतीनां पितृभ्यो दद्याद्वास्त्वा

66r



66v





67r

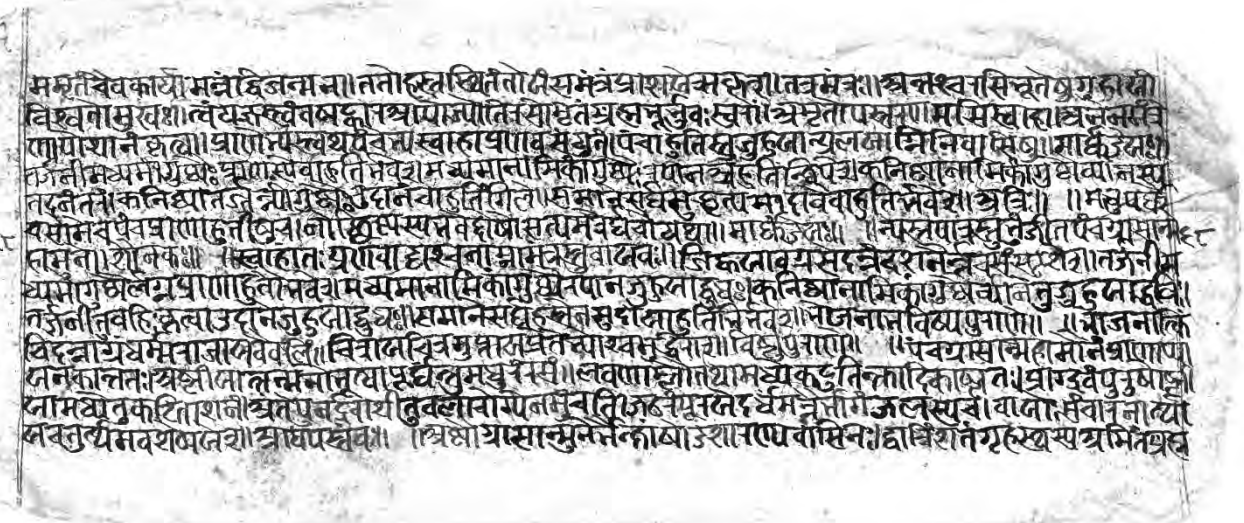
क्षिणाम्मुखः॥ श्रियं प्रत्यङ्मुखो भुङ्क्ते ऋतं भुङ्क्ते उदङ्मुखः॥ ऋतं सत्यं॥ यज्ञो वा॥ मनुः॥ ॥ यद्वेष्टितशिरो भुङ्क्ते यद्भु
ङ्क्ते दक्षिणामुखः॥ सोपानत्कश्च यद्भुङ्क्ते तद्वै रक्षांसि भुञ्जते॥ विष्णुपुराणे॥ ॥ नैकवस्त्रधरो नार्द्रपाणिपादो नरेश्वर॥
विशुद्धवदनः प्रीतो भुञ्जीत न विदिङ्मुखः॥ प्राङ्मुखोदङ्मुखो वापि न चैवान्यमना नरः॥ विदिङ्मुखः आग्नेय्यादिविदिङ्मुखः॥
वामनपुराणे॥ ॥ भुञ्जीत नैवात्र दक्षिणामुखो न च प्रतीच्यामभिभोजनीयं॥ प्रत्यङ्मुखोदङ्मुखनिषेधः॥ मत्स्यपुराणे
प्रत्यङ्मुखो दक्षिणतो उदङ्मुखः॥ इति॥ तत्सुखभोजनविषयं न दक्षिणामुखभोजननिषेधः निदानकाले॥ मनुः॥ ॥ आर्द्र
पादस्तु भुञ्जीत नार्द्रपादस्तु संविशेत्॥ आर्द्रपादस्तु भुञ्जानो दीर्घमायुरवाप्नुयात्॥ नान्नमद्यादेकवासा न नग्नः स्नानमाचरेत्॥
शरवः॥ ॥ अग्निनान्नमनालोच्य स्वमन्नं सलिलेन वा॥ शालाग्नौ नामार्गे पापभक्ष्यमदाश्च यद्युतं॥ विष्णुपुराणे॥ ॥ कृत
जाप्याहुते वाग्नौ शुद्धवस्त्रधरो नृप॥ प्रशस्तरत्नपाणिस्तु भुञ्जीत प्रयतो गृही॥ प्रशस्तरत्नानि गारुत्मतादीनि मनुः॥ ॥ सायं
प्रातर्मनुष्याणामशनं देवनिर्मितं॥ नान्तरा भोजनं कार्यमग्निहोत्रसमो विधिः॥ सायंप्रातःशब्दौ यथात्रिदिवसपरौ॥ तथा
छन्दोगपरिशिष्टे कात्यायनः॥ ॥ शुचिविविधियथान्नं विप्राणाम्मध्यवासिनां नित्यं॥ अहनि च तथा तमस्विन्यां सार्द्धप्र
थमयामान्तमस्विनी रात्रिः। सार्द्धप्रथमयामः सार्द्धप्रहरमध्यो॥ आपस्तम्बः॥ ॥ भुञ्जानः केशकीटादीन्यपास्यान्नं दोषैर्न
लिप्यते॥ अथ भोजनानि॥ ॥ न चाश्नीत॥ नानाश्चासादासनारूढे वाप्यभिशीर्णासने॥ मनुः॥ ॥ न पादौ धावयेत्कांस्ये
कदाचिदपि भाजने॥ न भिन्नभाण्डे भुञ्जीत न भावप्रतिदूषिते॥ भिन्नभाण्डे निषेधस्ताम्रादिपात्रव्यतिरिक्तविषयः॥ पं

67v

६७ ताम्ररजतसुवर्णशङ्खमुक्ताश्मस्फटिकानां भिन्नमभिन्नमिति॥ ताम्रपात्रं यतिविषयं॥ गृहस्थस्य निषिद्धत्वात्॥ न यमरुद्ध
मत्स्यः॥ ॥ ताम्रपात्रेण भुञ्जीत भिन्नकांस्यमलाविलो पालाशपद्मपत्रेषु गृही भुञ्जन्द्वैवचरेत्॥ पालाशो ब्रह्मचारी पालाशस्पति
स्य तु पद्मसानकानकः॥ एक एव तु यो भुङ्क्ते विमलकांस्यभाजने चत्वारि तस्य वर्द्धन्ते आयुः प्रज्ञा यशो बलं॥ वृद्धपराशरः
सावित्रीणां पयःकांस्यभुक्पात्रस्वधा सदा गृही॥ निर्मलावस्था उगमं मेधा मद्यजबुवा॥ पालाशपद्मपत्रेषु गृही भुङ्क्ते दैवतेश्च यतिर्
वसन्ब्रह्मचारी विन्यादत्र फलमश्नुते॥ कांस्यपात्रे तु भुञ्जीत भिन्नकांस्यमलाविलो॥ भजत्यदशनं नित्यं नवे तत्कुर्यात्सन्नीरे शापूजितं यस
न तिथौ वलिधारणं तत्र तिष्ठ भुञ्जीत तत्तु भुङ्क्ते समदल्लनाशनं दिवा॥ पद्मपुराणे॥ ॥ अश्नीत इक्ष्वाकुमाम्रपादात्रावजोलि कथं ६७
जलतः॥ अश्मादीनि नियमवान्तु भिन्ति भक्तार्थं विलम्बनाथ आविष्टः स्वदनाश्व हनिता सबजनाद्दनः॥ यो मीदधाति धाणादन्तभुजा
वा शास्त्रविद्विजः॥ प्राणायामसप्ताचारसमांसपूजनसंधाः॥ अर्चितः॥ ॥ आसनपादन्यासाप्यायान्तुभुक्तेऽश्नास्ता॥ धृतविप्र
मुखश्चवान्नमश्नाति तुल्यं गोमांसभक्षणं॥ मुखेन गवां दिव्यं दत्तात्तथा॥ नौ पाजनः॥ ॥ भोजनं हव्यं दद्यान्नमुपपाहरन्ति ग्रही॥
वा हिजा भुनक्ताय्याणीतं शुद्धाय मनस्मृतौ॥ हारीतः॥ ॥ भाजनार्थं बलिकर्म भोजनानि दैवतीर्थे न कुर्यात्॥ दक्षमनुः॥
न पिबन्नवद्भुञ्जीत द्विजः सव्यान्नपाणिना॥ नैकहस्तेन वा जले शूद्रपाणिवार्जितं पिबेत्॥ माधवः जलाः॥ ॥ मार्द्रप्रसारणं देहनुव
भवतीत्यन्नमशितः॥ अथ उपनपादि वाक्यानि॥ ॥ तत्र स्नानादिकं पूर्ववज्ञीत कर्मसमाप्तिं विधिवाद॥ शुचिवस्त्रद्वयं धृत्वा दिवासमा
शुनामिवदनानुलिप्तः शुक्लमाल्यधिकः शुभस्रग्वी प्रशस्तरत्नपाणिनि यस्य वारिपाणिः सदानिपाणिपाद्यस्वस्थ भोगवान् विधिवद्दत्वम्
कर्तव्यं तर्पणादि दैवतं यपदार्थं गृहस्थविशालं निर्मलं आपानदिति प्रशस्तपीठे प्राङ्मुखमुपविश्य दक्षिणवामवृत्तेनस्वसमण्डलेगोनमः॥

68r

68v



69r

श्री१०

नानिलः॥ पञ्चप्राणाहुतिः॥ ॥प्राणे तृप्ते तु तृप्येत चक्षुः सूर्यो नभस्तथा। व्याने तृप्ते तु तृप्येत श्रोत्रं चन्द्रो दिशस्तथा॥ अपाने
तृप्ते तृप्येत वह्निर्वायुर्यमस्तथा॥ समाने तृप्ते तृप्येत मनः पर्जन्य विद्युतः॥ उदाने तृप्ते तृप्येत वायुराकाश एव च॥ तृप्तेष्वे
तेषु तृप्तः स्याज्जङ्गमस्थावरात्मकं॥ प्राणाग्निहोत्रविधिश्रद्धा तावस्य संशुद्धिमान्॥ आदित्यपुराणे॥ ॥एकपङ्क्तिनुत्थाय
मश्रावद्दवमथान्नः तदशेषं विहाय च विप्रः सम्यगुपस्पृशेत्॥ वायवीये॥ ॥प्राणाग्निहोत्रमन्त्रैस्तु निरुद्धे भोजने तथा। गवेन
ग्निहोत्रमेतत्स्याद्व्यालालजपेदिति॥ पुलस्त्यः॥ ॥भोजनं तु न निःशेषं कुर्यात्प्राज्ञः कथंचन। अन्यत्र दधिमध्वाज्यपललक्षी
रमधुपः॥ भोजनादौ बलिं दद्यात्तदुद्धृत्य तु भोजनं॥ उच्छिष्टं न तु संस्पृश्य वसुमित्रो पतिष्यति॥ अत्रिः॥ ॥आसनं पादमा
ना पयायां भूमिकंवा श्रमीयुहीन तदद्यात् देव श्रीमानेनानकन्नथरा॥ हठशातालपः॥ ॥आसनारूढपादस्तु जङ्घाद्ध्वगाहतो
पिवा। मुखेनधमितं नूनं दिनमेकं न भोजन॥ याज्ञवल्क्यः॥ ॥आसनपादमारूढो यस्तु सादपरोद्यतः। मुखेनधमितं तु
के तुल्यं गोमांसमजनं बोधयेत्तिसः॥ ॥अङ्गुलिदत्तमन्नं च दिल्लापाणितलन्नवा। गोमुण्डाग्नसमत्तीला नवमनुमुखेनादु
ना॥ नैसं दीसस्थितपात्रेनाकाशन प्रतालान्वा॥ अक्षतवसव्योपि दत्वा भुञ्जते॥ असंदीलघुखट्टिका॥ हठपादत्रानः॥
कालेदलसात्मं तु विहितं स्त्रिग्धोष्णलघु तन्मना॥ अजुसमं तु नस्पानेनाति तु न विलम्बितो॥ सभीन्यसमं गात्मानं मनिंदन्न
युवै देवी॥ हृष्टामिथ्यः महाज्ञी दाधु विनेल्कुडनालत्तां॥ फले तु मोदकायूपवृतपूनकमोदको॥ अद्याज्ये गुरु स्निग्धेन
दुमस्या॥ मिश्री पुनः॥ अम्लपानी हिमवा॥ नियवगो वृमनो हितिम दधिमध्या मिबन्धोडको सीपि समदेसुनु॥ शाकमुकारि

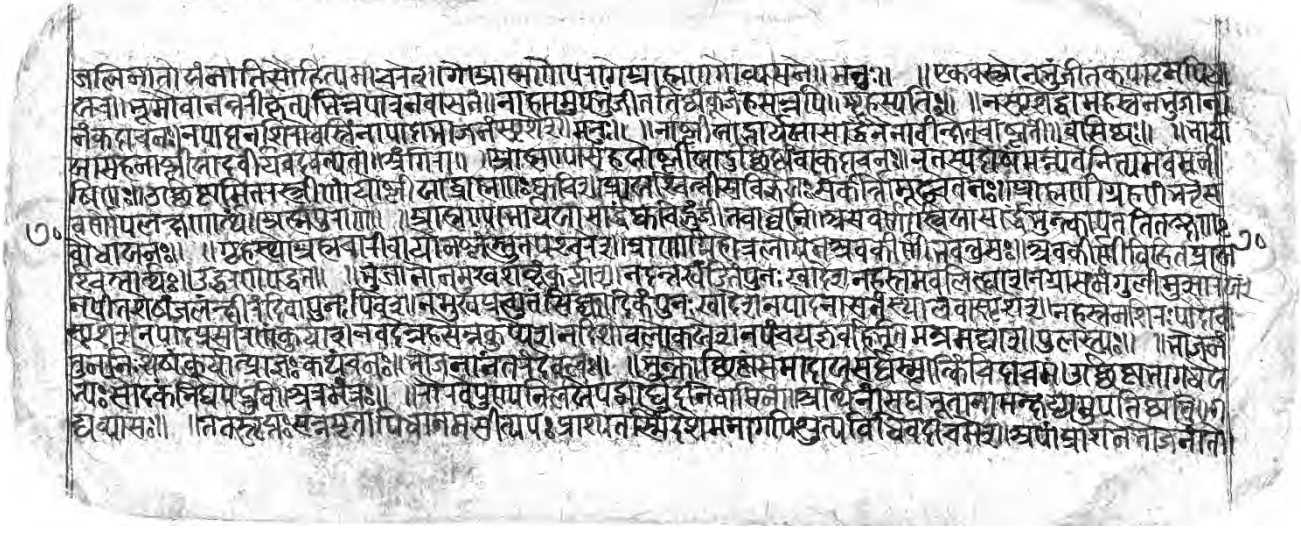
69v

तिलानां मस्तु तक्रान्नकाञ्जिकी खुनाक शानो पुष्पलं स्थूला नाखु मयूरको॥ शोभे मांसरसां मत्ये मांसे च्छलाय पाय
को॥ वयाश्यां शाल्यध्वलिख्वनात घकमाति॥ न्नी॥ वालैव द्वय पदः पथ्यं यथा॥ अन्नासोगणमना जुष्यमस्य वृंगपक्वे
तिनाजने॥ अपुष्पला कौ विद्रुर्दीत माक्षत्यानिवर्तेजु॥ निदनतकालाश॥ ॥यावद्ग्रासं यावत्सिनु शक्यनापजिहीमा॥
सवानपाली नाधान्नेनाचिमु वाली सथवा पादिजिह्वते॥ अन्नवपात्रे तीतणा प्राणाविकल्पश॥ यदि प्रथमे पात्रो वेद्यानुपत
पूर्वकैनाजलमपुपात्रे तु हवातताम वा अथ प्रथमसदवे तन्नाजन्ना अपश्रात्वन घअयाता मवेति॥ मनुः॥ ॥न नुजी
तोयन्ने सहुना तिसा दि॥ मानव नाति धाग नातिसाद्दनसादे ग्रातनाश्यतः॥ उच्यते सर्वे पिपणा का दा अतिप्रागवत्रम
नादिन सर्ये चतिसादी॥ सूर्ये भानेन समदा॥ ग्रातनाशिकः॥ ग्रातल्दनः सापिनने जीतो॥ पद्मपुराणे॥ ॥सव्यांगुलीनि
मही लान वयूपक्को धाविया कुर्यान्दी॥ यन्नमाणा नव पश्चात्तिव दीघा दवलः॥ ॥न भुञ्जीत नात्यन्तं स्याज्जलं
सनी॥ पवित्रं धमनाह धीव साप्ति नालघापस्यामत॥ नाश्री दास विवलजः॥ आपस्तम्बः॥ ॥नना विभुञ्जीत तथा प्रा
तद्गतनाभवहुञ्जीत ना॥ अप्रासीन इतिशष्कः॥ पासदप्रसा स्पापतीतानुः॥ घृत भूमौ नित्ति का अन्नपतासपादितानु
मो॥ अद्भुतपुराणे॥ ॥यस्तु पाणितलादन्नं यस्तु फूत्कारसंयुतं॥ प्रस्ताङ्गुलिनिर्यस्य तस्य मांसीयवद्वरौ॥ न जीर्णभा
जने कुर्यात्स्याबना तिवु वाके तः॥ हस्त्यश्वनयया लोकं प्रसादस्यान नन्दु दश॥ नाश्मशाला न तु गता दवलेनमता॥ दि
वा॥ शम्भाम्यानन्तु भुञ्जीतनपाणियज्ञवासने॥ नसव्यजानुनमयाकृ नान्ताट्रैकवननी॥ नादवासानाद्विशनानवा

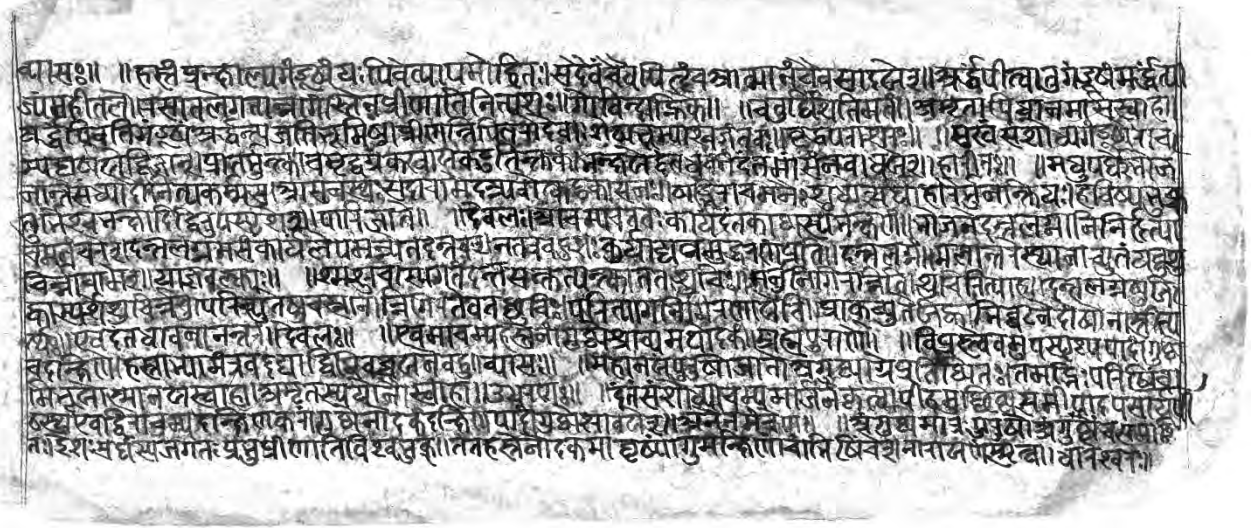
६९

70r

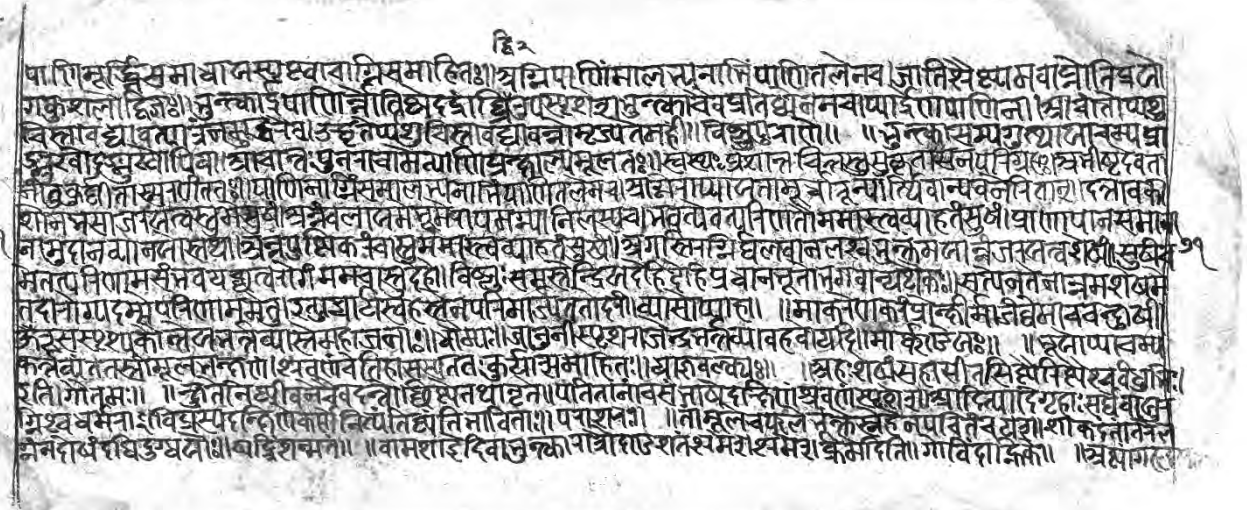
70v



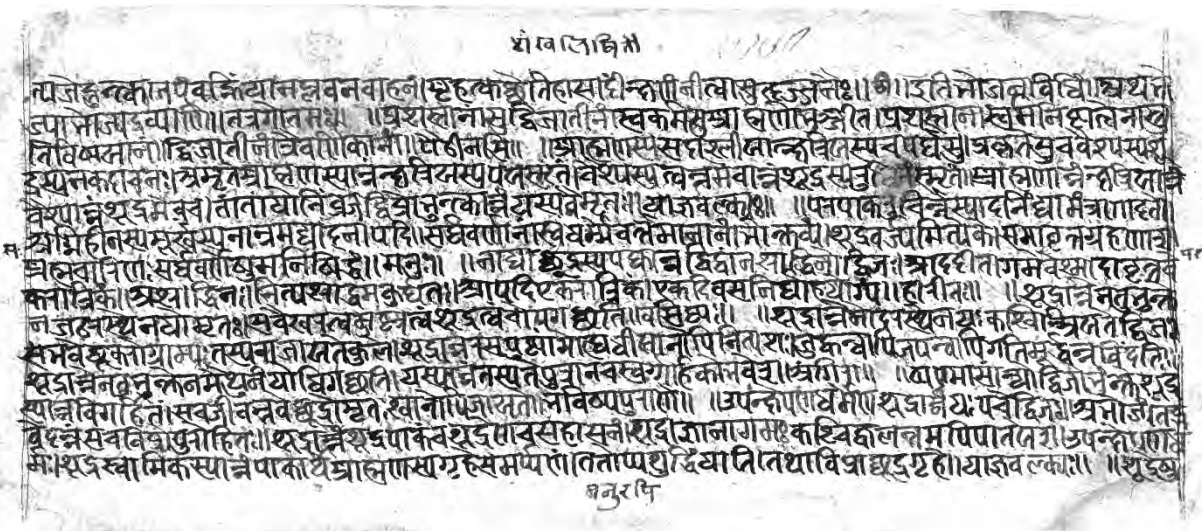
71r



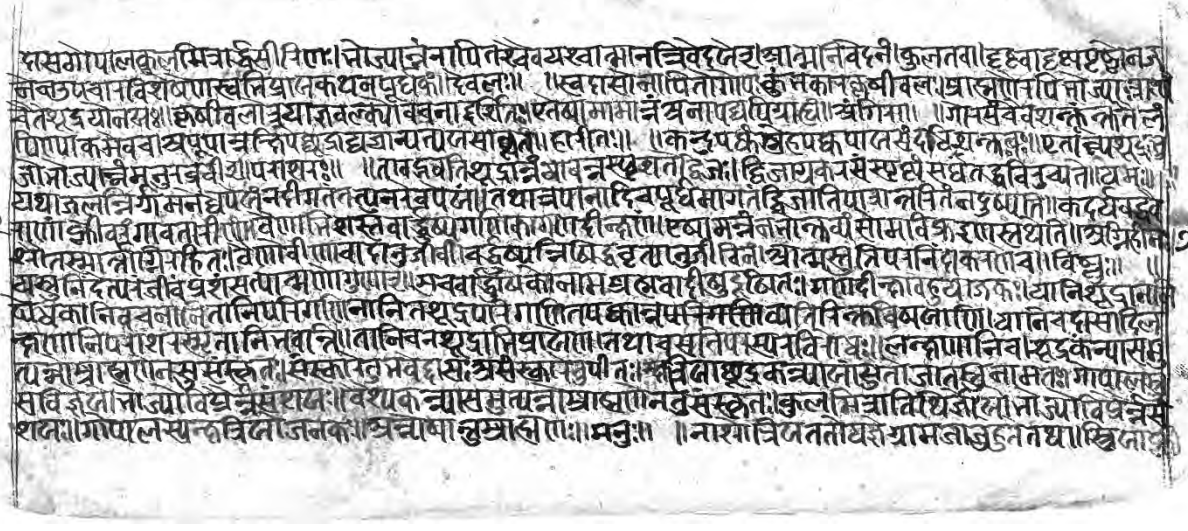
71v



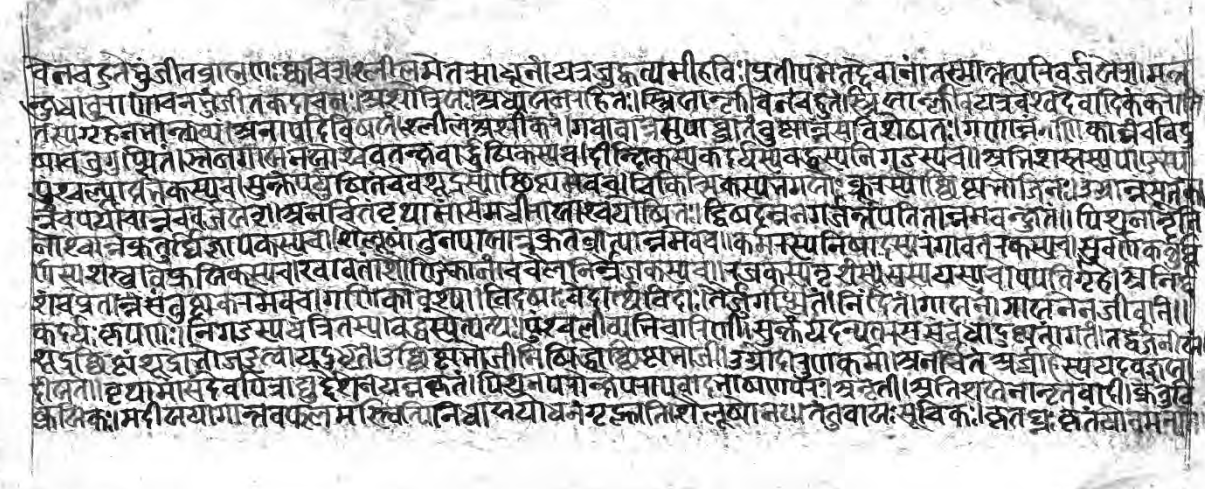
72r



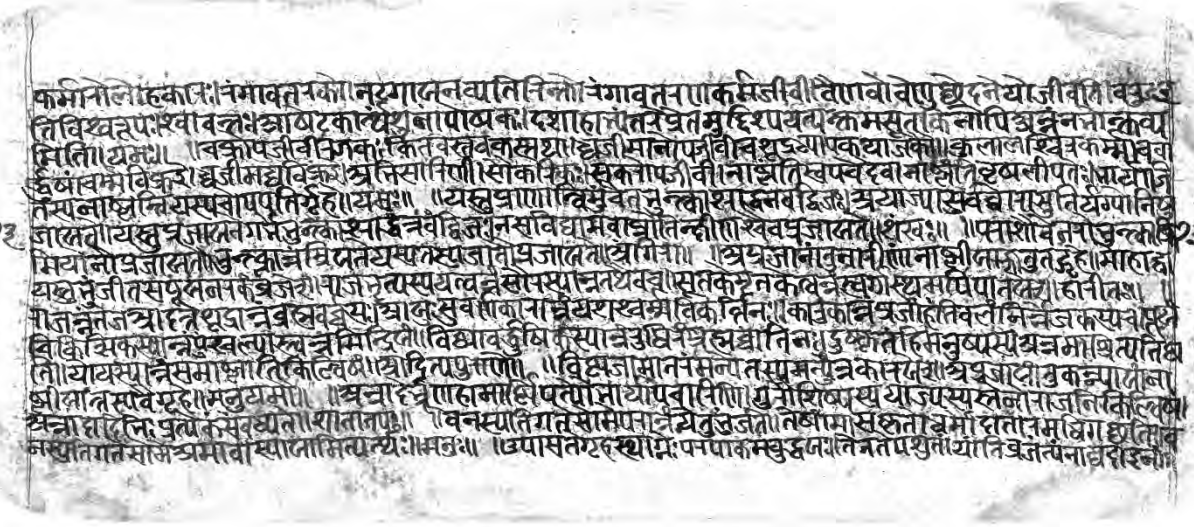
72v



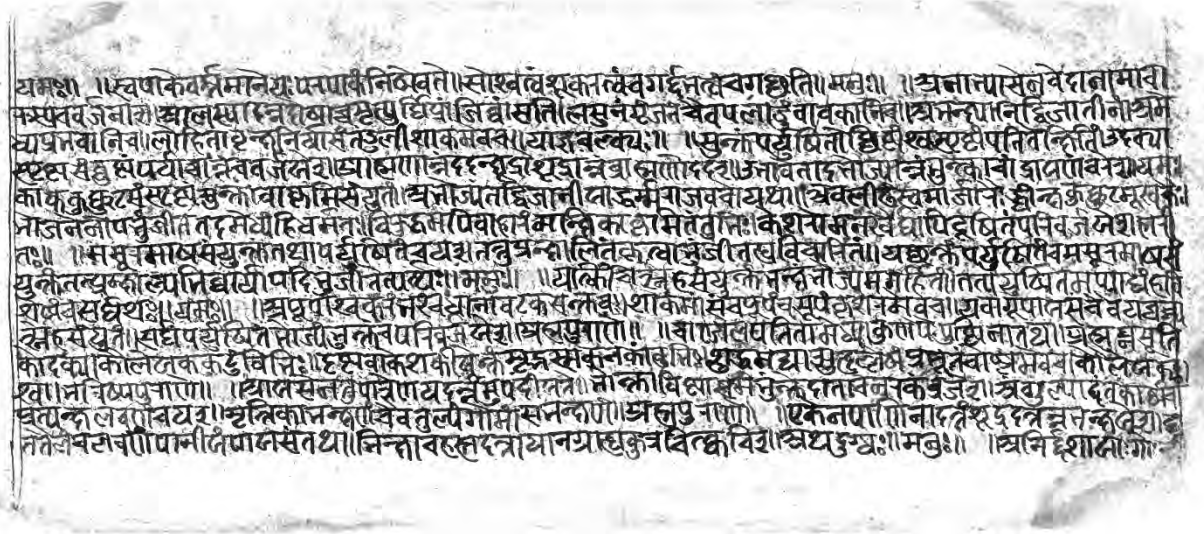
73r



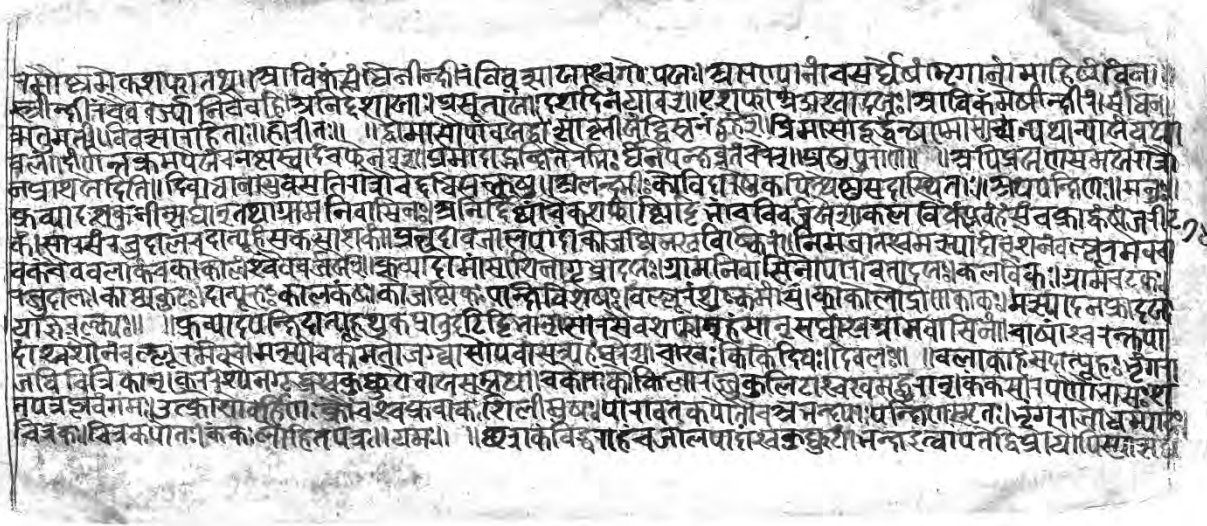
73v



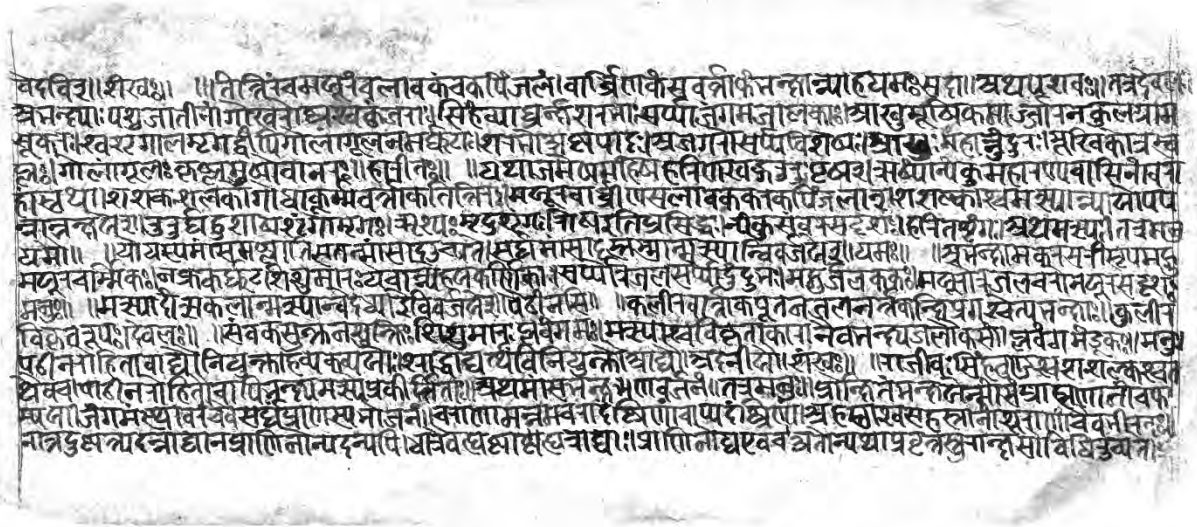
74r



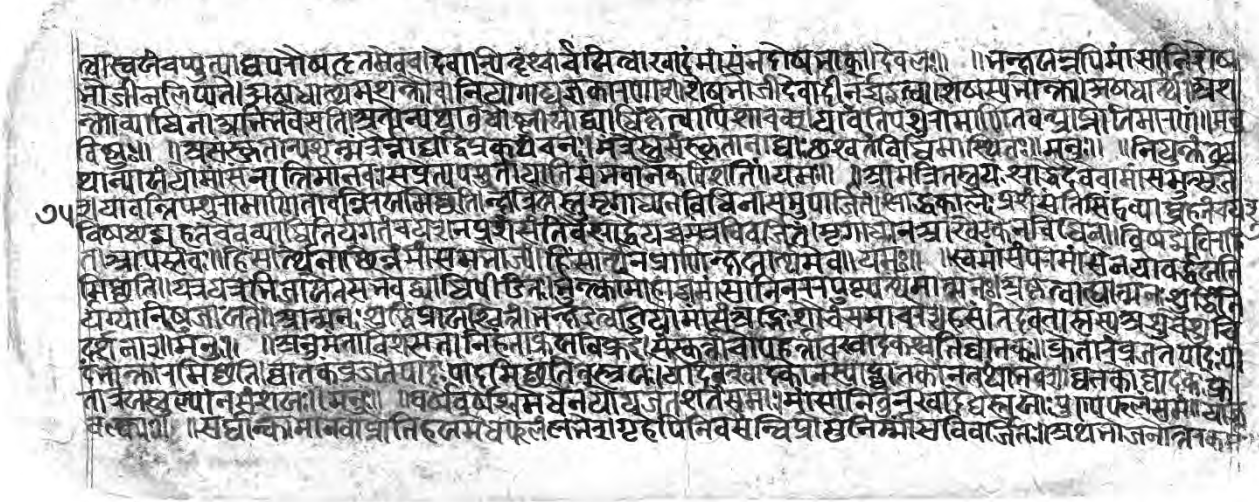
74v



75r

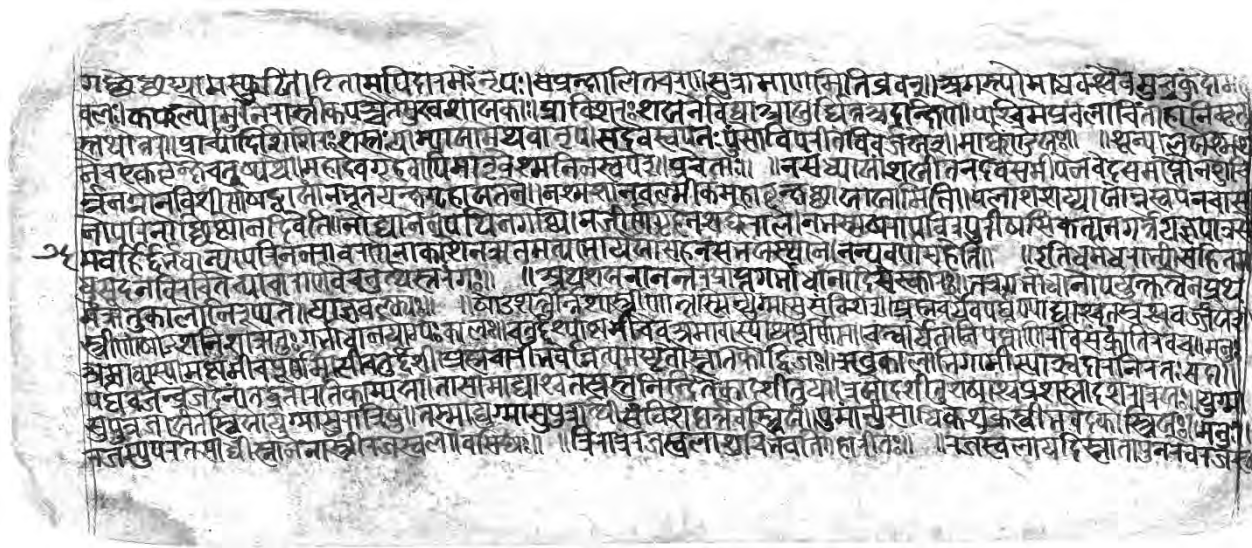


75v

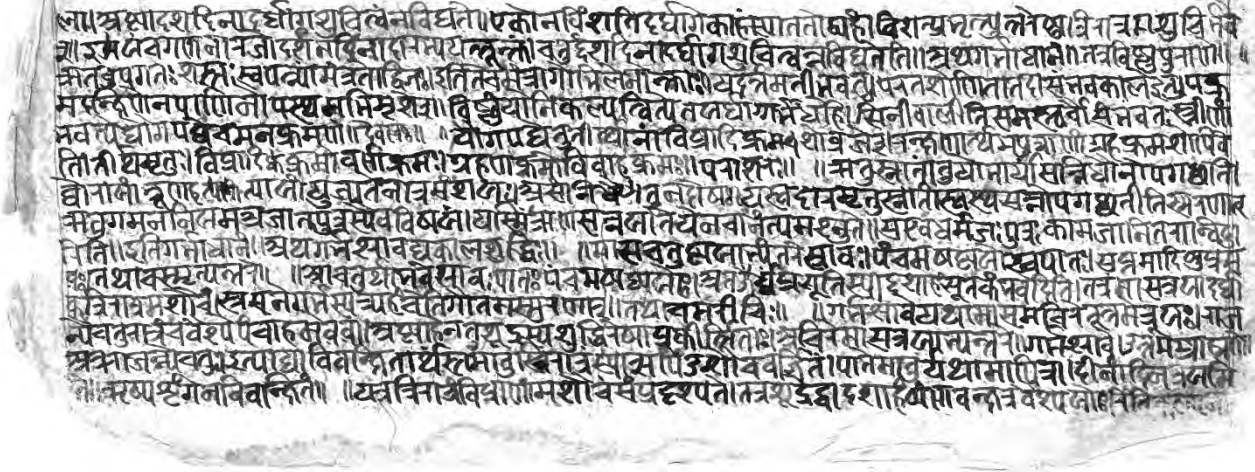


76r

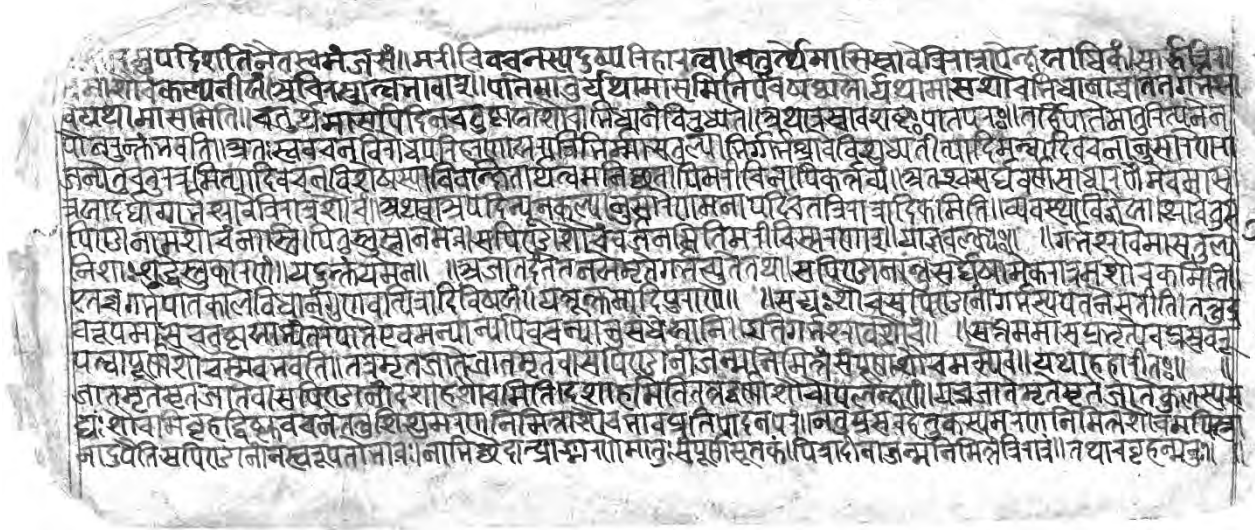
76v



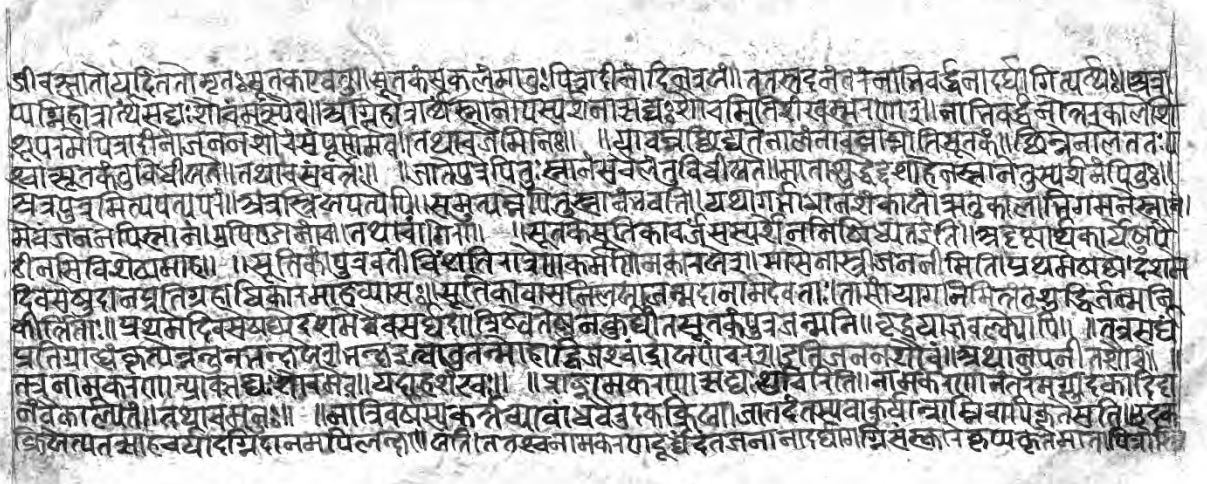
77r



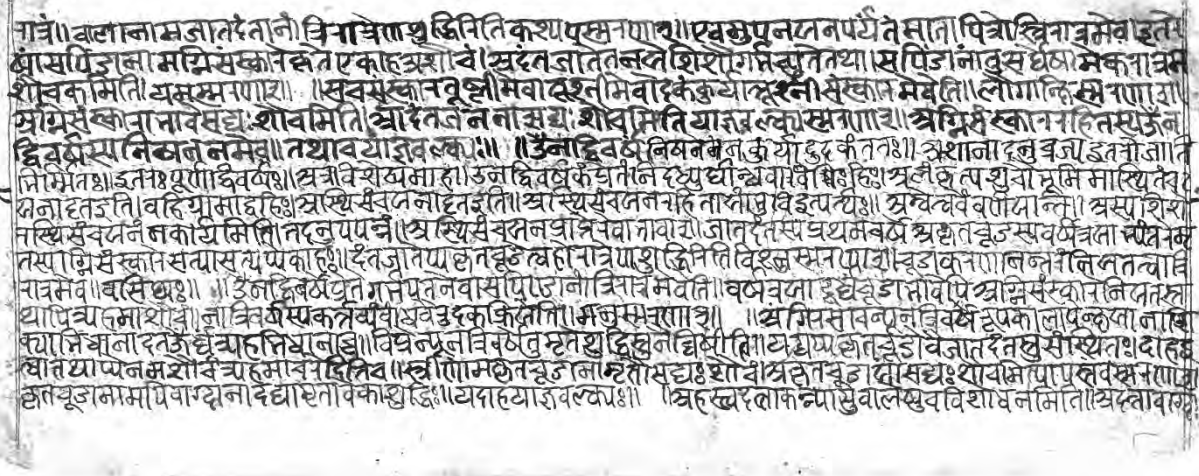
77v



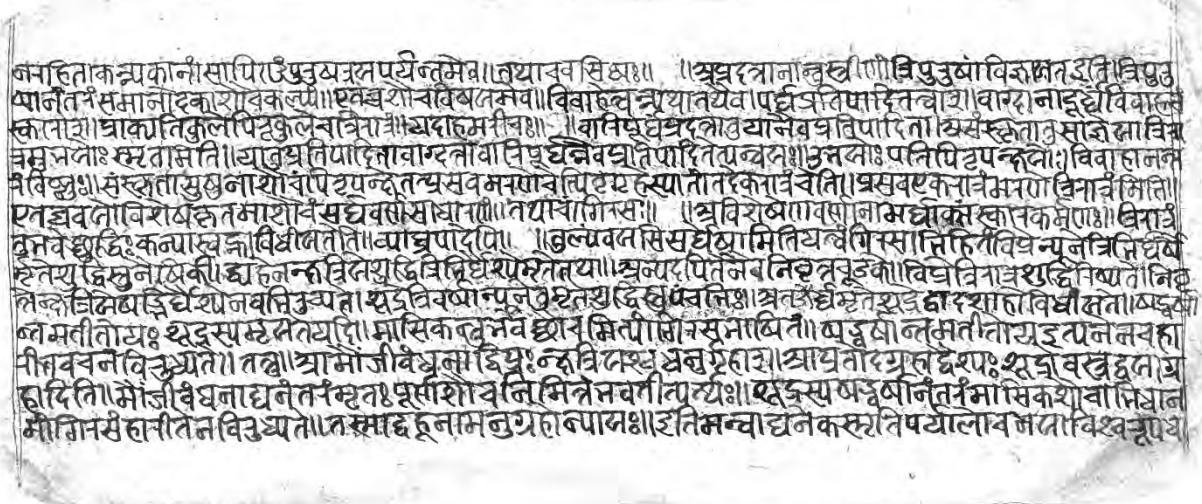
78r



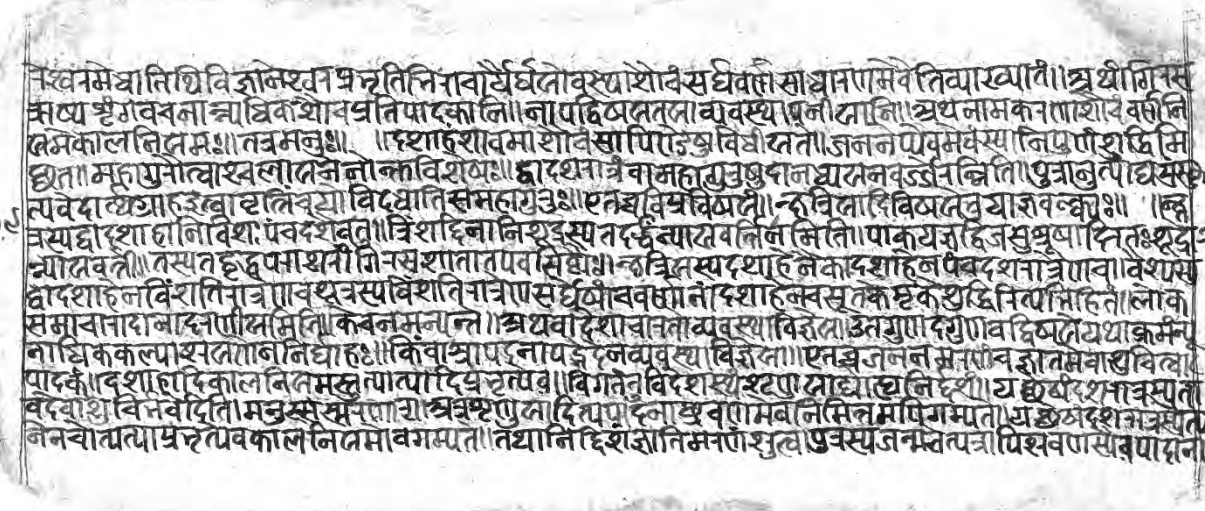
78v



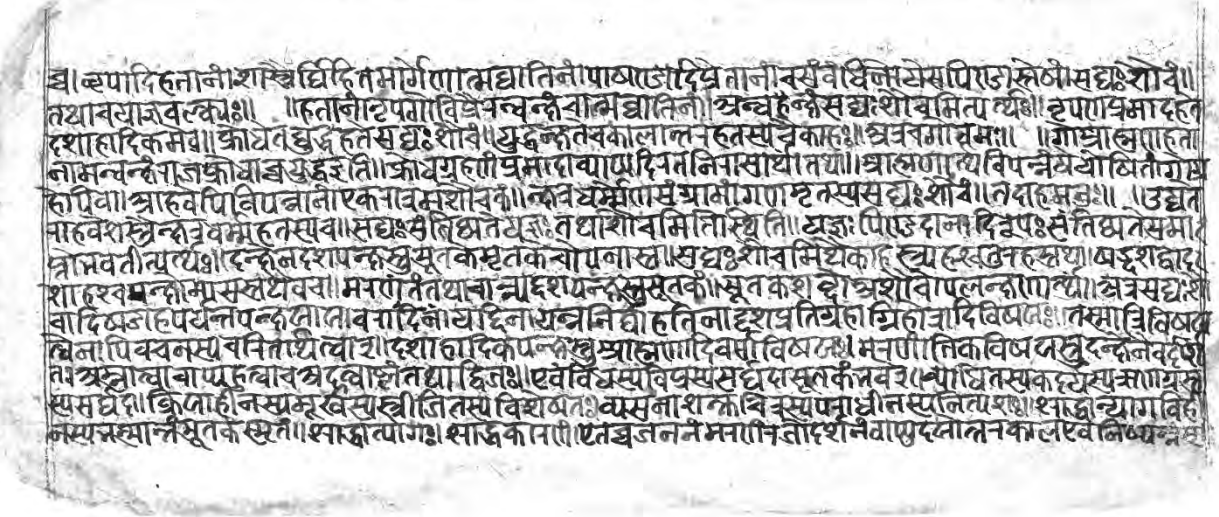
79r



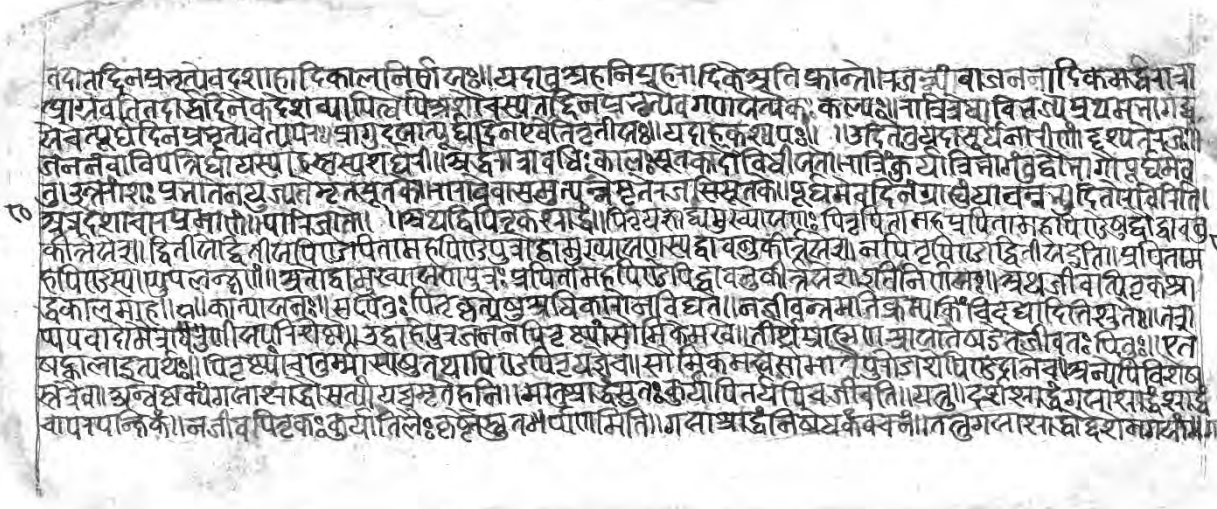
79v



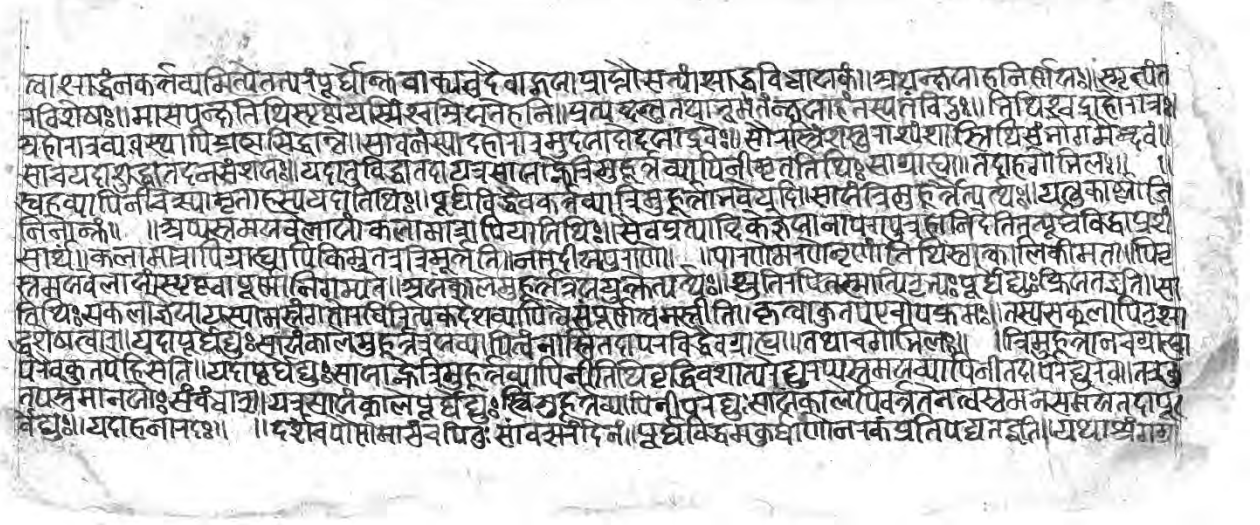
80r



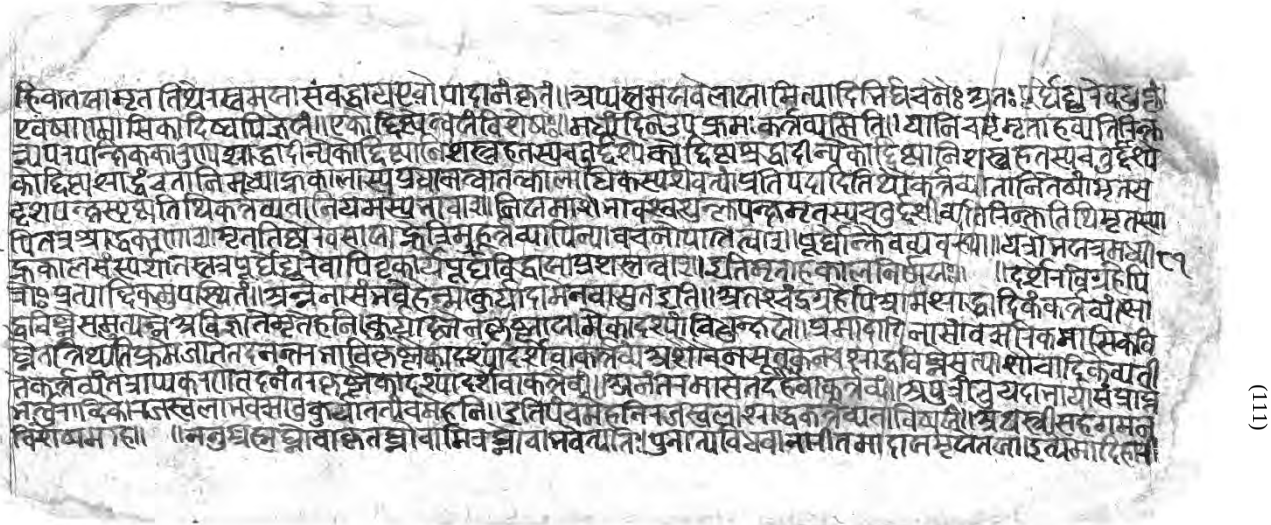
80v



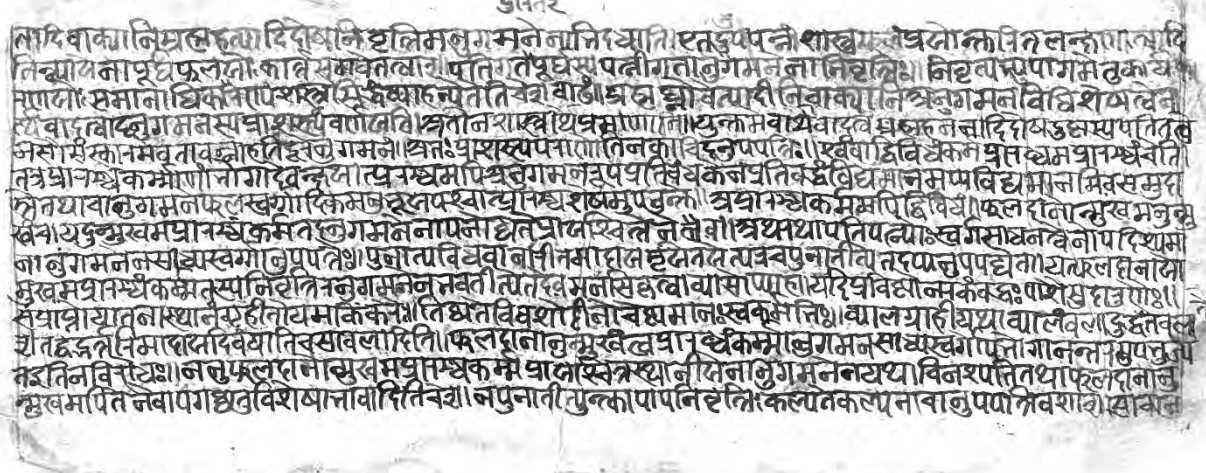
81r



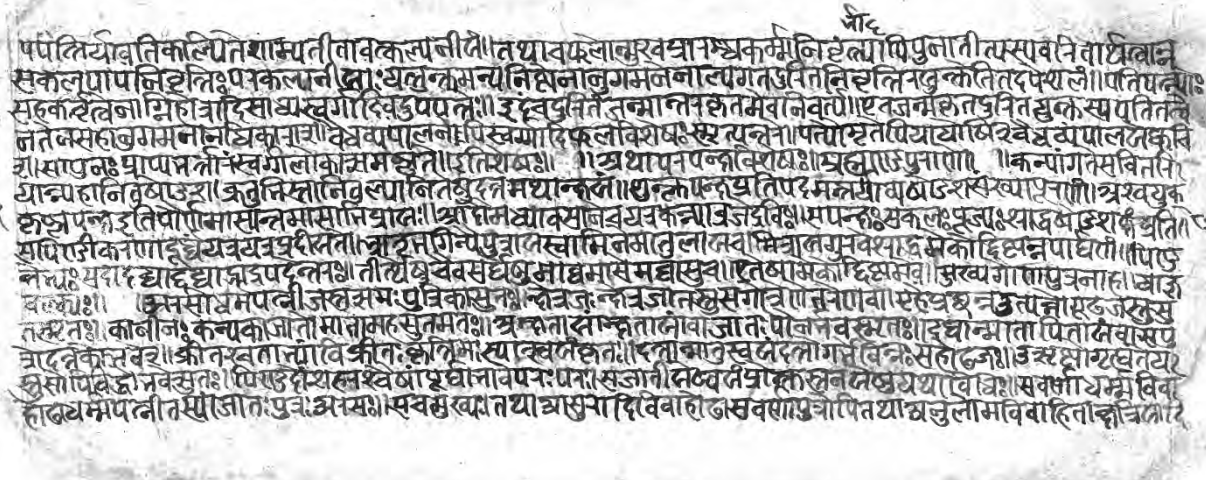
81v



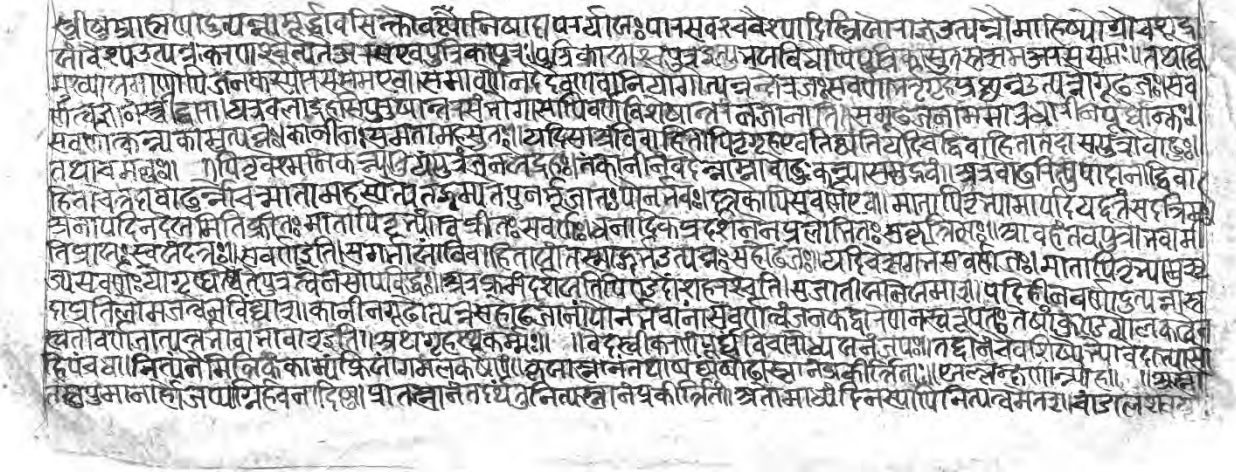
82r



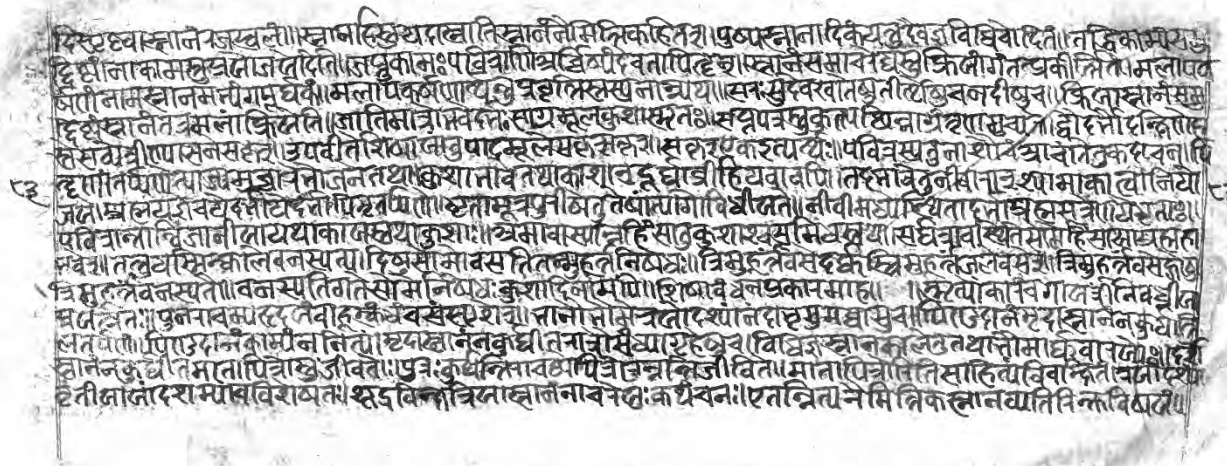
82v



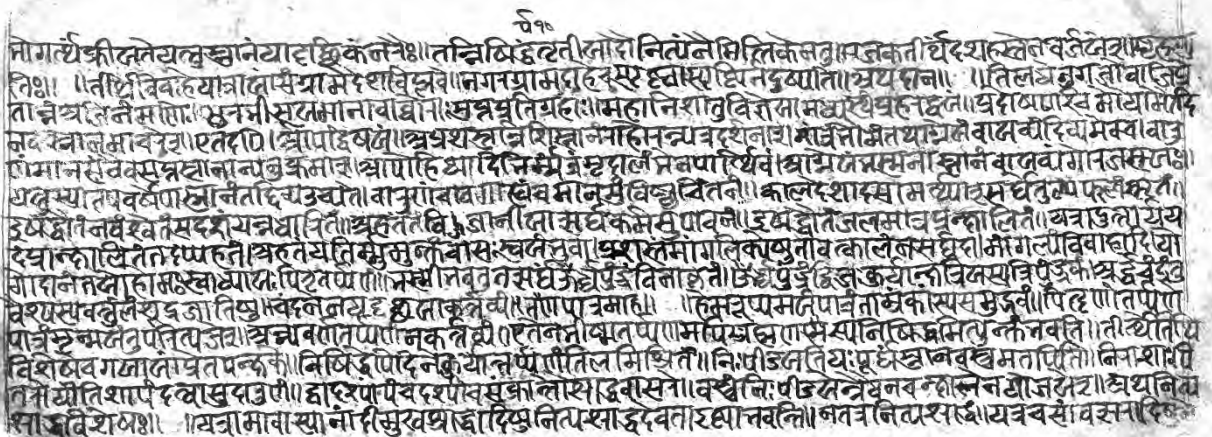
83r



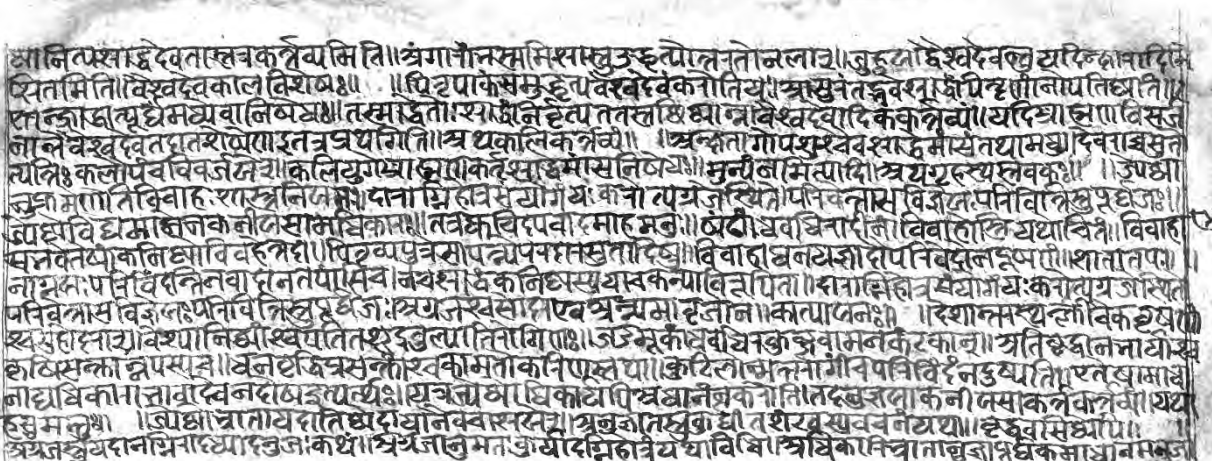
83v



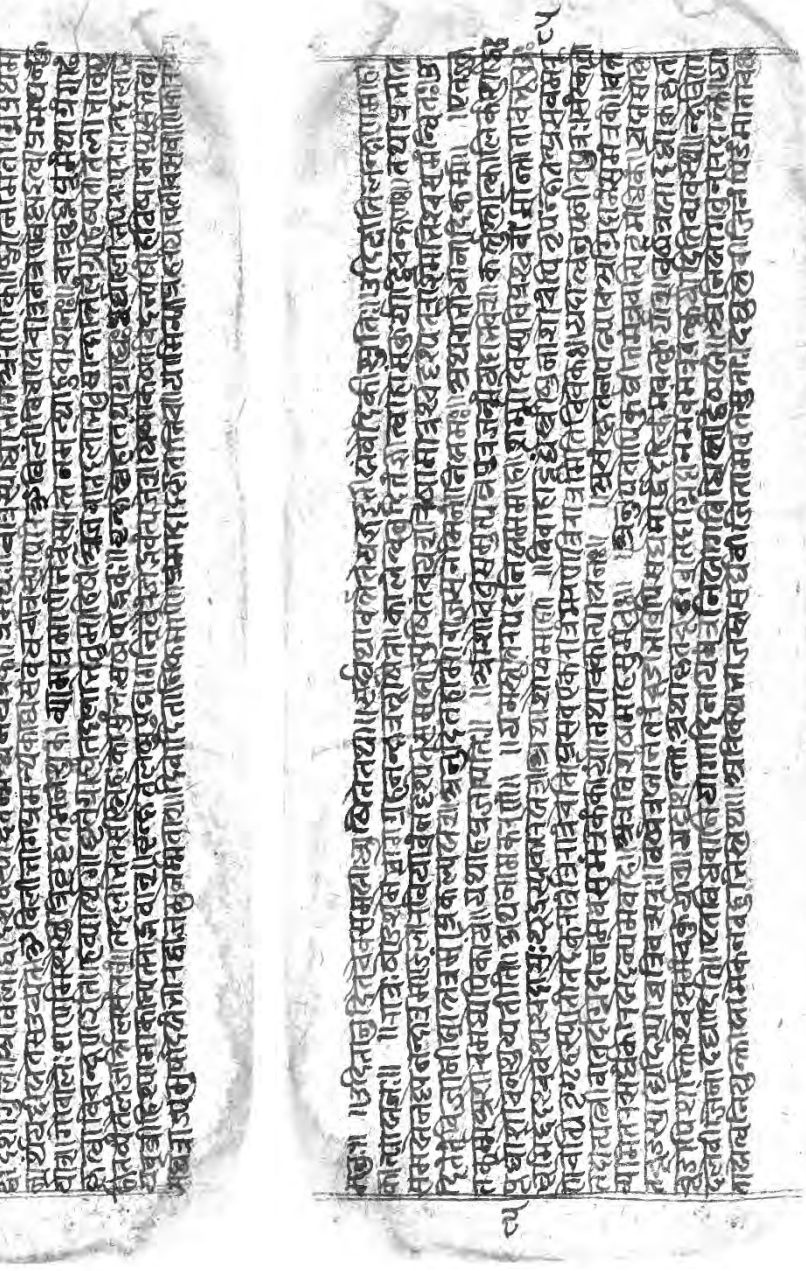
84r



84v

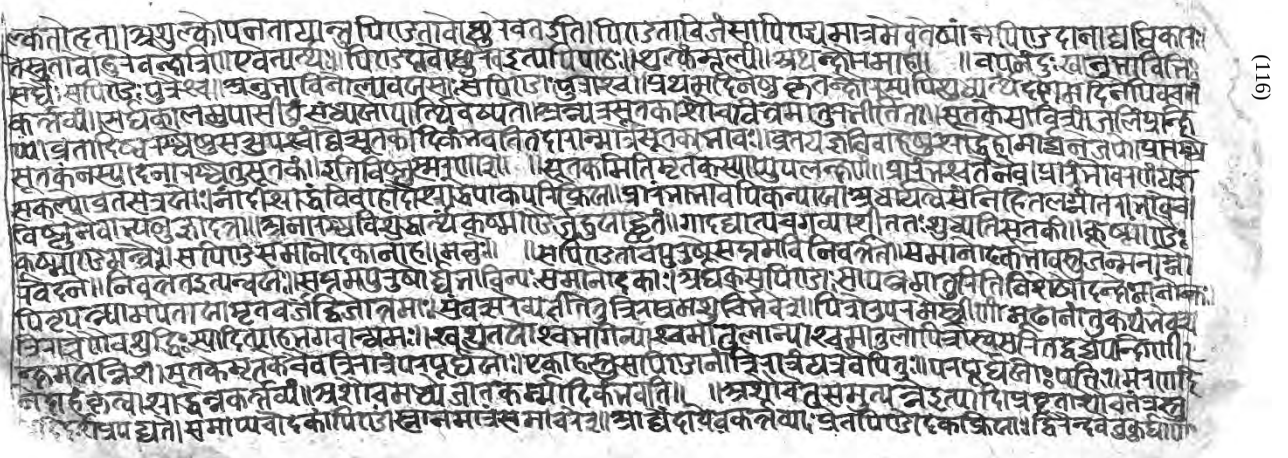


85r

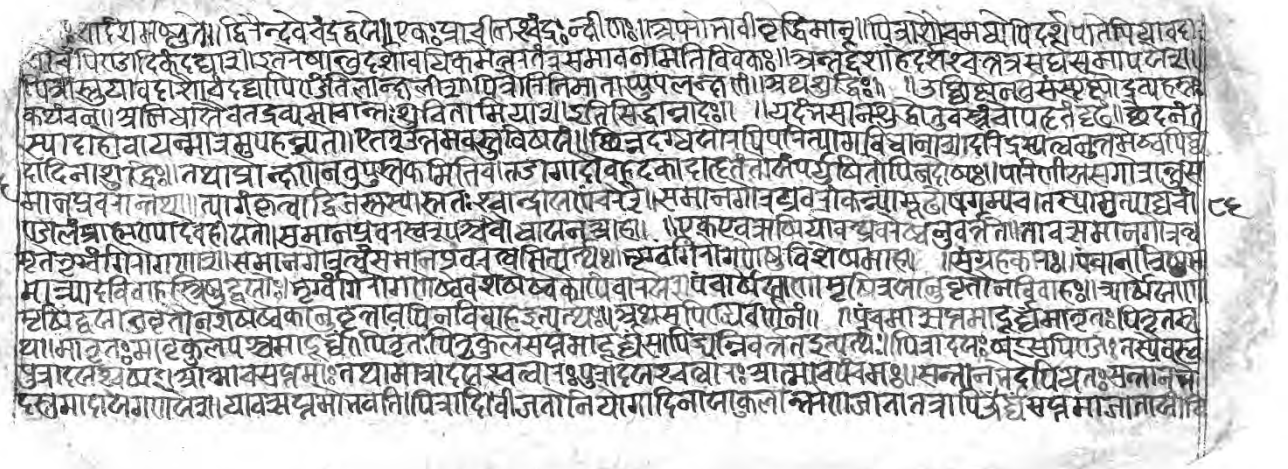


85v

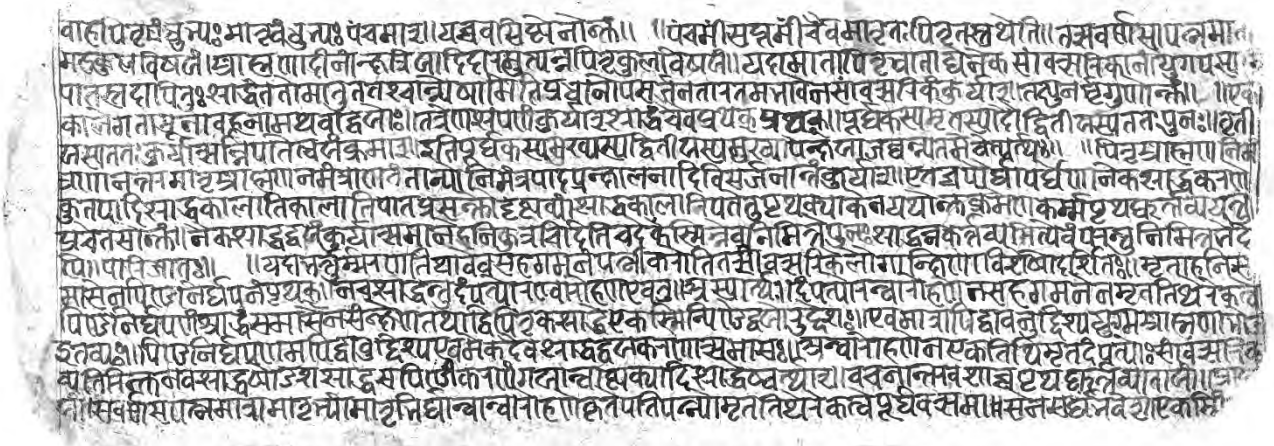
86r



86v



87r



87v